

2022年度（令和4年度）

シラバス

岐阜保健大学
看護学部

2022年度 看護学部 シラバス目次

授業コード	授業科目の名称	配当年次	単位	担当教員
111001	基礎ゼミナール	1年 前期 必修	1	専任教員
111002	情報科学	1年 後期 必修	1	高久道子
111003	基礎統計学	1年 前期 必修	1	國澤英雄、高久道子
111004	問題解決法	1年 後期 選択	1	西牟田祐美子
111005	哲学	1年 前期 選択	1	鷺見コト江
111006	英語Ⅰ	1年 前期 必修	1	西牟田祐美子、Mandziak
111006	英語Ⅰ	1年 前期 必修	1	高久道子
111007	英語Ⅱ	1年 後期 必修	1	西牟田祐美子、Mandziak
111007	英語Ⅱ	1年 後期 必修	1	高久道子
111008	英語Ⅲ	3年 前期 選択	1	西牟田祐美子、高久道子
111009	英語Ⅳ	4年 後期 選択	1	西牟田祐美子、高久道子
111010	日本語Ⅰ	1年 前期 必修	1	伊藤亜希子
111011	日本語Ⅱ	2年 前期 選択	1	伊藤亜希子
111012	手話	1年 後期 選択	1	亀井明子
111013	中国語Ⅰ	2年 前期 選択	1	干海
111014	中国語Ⅱ	2年 後期 選択	1	干海
111015	自己管理と社会規範	1年 前期 必修	2	石井英子、茅喜田恵子、船橋香緒里、野田みや子、太田美智男、稲葉政徳
111016	チームワークとリーダーシップ	4年 後期 選択	1	平岡 翠
111017	他者理解と信頼関係	4年 後期 選択	2	井上真人
111018	健康と運動	1年 後期 必修	1	青木成広
111019	地域活動と社会貢献	1年 後期 選択	2	市川季夫
111020	現代の倫理	1年 前期 必修	2	鷺見コト江
111021	心理と行動	1年 後期 選択	2	野田みや子、小野悟
111022	学習と行動	1年 前期 選択	2	稲葉政徳
111023	健康と生活	1年 前期 選択	2	稲葉政徳
111024	岐阜県の歴史と文化	1年 後期 選択	2	野田みや子、高久道子
111025	多文化と多様性の理解	1年 前期 必修	2	内藤直子、高久道子
111026	人体構造機能学Ⅰ	1年 前期 必修	2	永井博弼
111027	人体構造機能学Ⅱ	1年 後期 必修	2	小萱康徳
111028	人体構造機能学Ⅲ	2年 前期 必修	2	小萱康徳
111029	栄養代謝学	1年 前期 必修	1	森裕志
111030	人間の生殖と発達	1年 後期 選択	1	野田みや子
111031	人間の健康と社会・心理的適応	2年 前期 選択	1	太田美智男、石井英子、小野悟
111032	生体防御学	2年 前期 必修	1	森裕志、永井博弼
111033	栄養治療学	2年 前期 必修	1	森裕志
111034	医療薬理学	2年 後期 必修	1	永井博弼
111035	病理学	2年 前期 必修	1	川田憲司
111036	疾病治療論Ⅰ（成人A）	1年 後期 必修	2	河田美紀
111037	疾病治療論Ⅱ（成人B）	1年 後期 必修	2	河田美紀、河田好泰
111038	疾病治療論Ⅲ（精神・高齢者）	2年 前期 必修	1	井上真人、河田美紀
111039	疾病治療論Ⅳ（小児・母性）	2年 前期 必修	1	尾藤長雄、近藤直実
111040	公衆衛生学	2年 後期 必修	1	船橋香緒里
111041	疫学	2年 後期 必修	1	秋山直美

授業コード	授業科目の名称	配当年次	単位	担当教員
111042	保健統計学	1年 後期 必修	1	高久道子、國澤英雄
111043	社会保障論	2年 前期 必修	1	永井淑子
111044	看護と関係法規	2年 後期 必修	1	榎田恵子、就任予定者
111045	保健医療福祉行政論	1年 後期 必修	2	牧野悦子
111046	保健看護情報学	2年 前期 選択	1	永坂和子
111047	看護学概論	1年 前期 必修	2	山本澄子
111048	看護援助方法論Ⅰ	1年 前期 必修	1	山本澄子、岩瀬通江
111049	看護援助方法論Ⅱ	1年 後期 必修	1	山本澄子、岩瀬通江
111050	看護援助方法論Ⅲ	1年 後期 必修	1	山本澄子、岩瀬通江
111051	看護過程演習	2年 後期 必修	2	秋山直美、山本澄子
111052	フィジカルアセスメント	2年 前期 必修	1	山本澄子、秋山直美
111053	看護マネジメント	3年 前期 必修	1	秋山直美
111054	看護理論	1年 後期 必修	1	山本澄子、野田みや子、内藤直子
111055	看護倫理	1年 前期 必修	1	内藤直子、平岡翠、秋山直美
111056	基礎看護学実習Ⅰ	1年 前期 必修	1	山本澄子、岩瀬通江、秋山直美
111057	基礎看護学実習Ⅱ	2年 後期 必修	2	秋山直美、岩瀬通江、山本澄子
111058	地域・在宅看護学概論	2年 前期 必修	2	栃本千鶴、石井英子
111059	地域・在宅看護援助論Ⅰ	2年 後期 必修	1	栃本千鶴、榎田恵子、石井英子
111060	地域・在宅看護援助論Ⅱ	3年 前期 必修	1	栃本千鶴、榎田恵子
111061	地域包括ケア論	3年 前期 必修	1	石井英子、鈴木岸子
111062	地域・在宅看護学実習	3年 後期・4年 前期 必修	2	栃本千鶴、榎田恵子、石井英子
111063	岐阜県の地域医療	4年 後期 必修	1	石井英子、豊田雅孝
111064	成人看護学概論	2年 前期 必修	2	梶原志保子、永坂和子
111065	成人看護援助論Ⅰ（急性期）	2年 後期 必修	1	梶原志保子、吉崎純夫
111066	成人看護援助論Ⅱ（慢性期）	2年 後期 必修	1	永坂和子、就任予定者、榊原麻子
111067	成人看護援助論Ⅲ（急性期）	3年 前期 必修	1	梶原志保子、就任予定者
111068	成人看護援助論Ⅳ（慢性期）	3年 前期 必修	1	永坂和子、就任予定者、榊原麻子
111069	成人看護学実習Ⅰ（急性期）	3年 後期・4年 前期 必修	3	梶原志保子、吉崎純夫
111070	成人看護学実習Ⅱ（慢性期）	3年 後期・4年 前期 必修	2	永坂和子、吉崎純夫、榊原麻子
111071	成人看護学最新ケア論	3年 前期 選択	1	永坂和子、吉崎純夫
111072	老年看護学概論	2年 前期 必修	2	就任予定者2名
111073	老年看護援助論Ⅰ	2年 後期 必修	1	鈴木岸子、原田英子
111074	老年看護援助論Ⅱ	3年 前期 必修	1	鈴木岸子、原田英子
111075	老年看護学実習Ⅰ	3年 前期 必修	1	鈴木岸子、原田英子
111076	老年看護学実習Ⅱ	3年 後期・4年 前期 必修	2	鈴木岸子、原田英子
111077	認知症ケア論	3年 前期 選択	1	鈴木岸子
111078	小児看護学概論	2年 前期 必修	2	野田みや子、平岡翠
111079	小児看護援助論Ⅰ	2年 後期 必修	1	野田みや子、平岡翠
111080	小児看護援助論Ⅱ	3年 前期 必修	1	野田みや子、平岡翠
111081	小児看護学実習	3年 後期・4年 前期 必修	2	野田みや子、平岡翠
111082	母性看護学概論	2年 前期 必修	2	内藤直子
111083	母性看護援助論Ⅰ	2年 後期 必修	1	内藤直子、石田美知、近藤邦代
111084	母性看護援助論Ⅱ	3年 前期 必修	1	内藤直子、石田美知、近藤邦代、就任予定者

授業コード	授業科目の名称	配当年次	単位	担当教員
111085	母性看護学実習	3年 後期・4年 前期 必修	2	内藤直子、石田美知、近藤邦代、就任予定者
111086	妊娠出産子ども家族ネウボラ論	3年 前期 選択	1	内藤直子、石田美知
111087	精神看護学概論	2年 前期 必修	2	茅喜田恵子
111088	精神看護援助論Ⅰ	2年 後期 必修	1	茅喜田恵子、小野悟
111089	精神看護援助論Ⅱ	3年 前期 必修	1	茅喜田恵子、小野悟、白石洋二
111090	精神看護学実習	3年 後期・4年 前期 必修	2	茅喜田恵子、小野悟
111091	ストレスマネジメント論	3年 前期 選択	1	茅喜田恵子、井上真人
111092	災害看護論	4年 後期 必修	1	船橋香緒里、野田みや子
111093	災害看護援助論	4年 後期 選択	1	船橋香緒里、野田みや子
111094	地域医療論	4年 後期 選択	1	三浦昌子
111095	多職種連携活動論	3年 前期 選択	1	永坂和子、小萱康德
111096	統合実習	4年 前期 必修	4	看護教員全員
111097	癒やしとタッチケア	3年 前期 選択	1	内藤直子、野田みや子
111098	緩和ケア論	3年 前期 選択	1	永坂和子
111099	終末期看護論	4年 後期 選択	1	就任予定者
111100	感染看護論	3年 前期 選択	1	平岡 翠
111101	国際保健医療活動論	3年 前期 必修	1	高久道子
111102	看護の統合と実践	4年 後期 必修	2	平岡 翠、教員全員
111103	公衆衛生看護学概論	2年 前期 必修	1	船橋香緒里、石井英子
111104	健康教育指導論	3年 前期 選択	1	栃本千鶴、石井英子
111105	看護研究Ⅰ	3年 前期 必修	1	専任教員全員
111106	看護研究Ⅱ	4年 通年 必修	2	専任教員全員
	教育課程と指定規則との対比表			
	授業科目の概要			

講義科目				
科目区分	基本教育科目-思考力の養成			必要 な プ ロ マ ポ リ シ ー を 達 成 す る た め に
授業コード	111001			人間力
授業科目名	基礎ゼミナール			ケア・スピリット
配当学年/ 学期	1年 前期 必修	単位数	1	実践的理解
担当教員	専任教員			プロフェッショナリズム
				多職種連携

講義概要			
本科目は、本学での導入科目であり、大学における学修の基本的な技術や態度、学修方法を身につけることを目的とする。少人数クラスによる教員との直接対話を通じて学修意欲を啓発するとともに、学生同士の親睦と連帯意識を育み、大学生として必要な基礎的技能を修得する。医療・保健・看護のトピックスを用いたセミナー形式の授業で、文献検索、意見発表、意見交換、プレゼンテーション、レポート作成等を行い、大学で学ぶための必要なアカデミックスキルズを修得し、看護学に対する学びの意欲を高める。			
授業内容（到達目標を含む）			
1. 大学で学ぶ目的を理解し、大学生としての基本的な知識・技術や態度、学修方法を説明できる。 1) 大学生活・社会生活における基本的なマナーを説明できる 2) レポートの書き方を説明できる 3) プレゼンテーション等での資料作成に必要なPC操作ができる 2. 少人数の学生グループと教員との直接対話を通じて学習意欲を啓発すると共に、学生相互の親睦と連帯意識を高めることができる 3. 保健・医療・看護に関連するテーマを用いた少人数グループでの討論を通して、関心あるテーマへの理解を深める。 4. 自分の考えを人に伝える工夫ができ、文献検索やグループ討論を通して各自の考えとは異なる意見を受け止め、さらに自分の考えを深めることができる。 5. この科目での学びをレポートにまとめることができる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
1. この科目は本学での導入科目であり、主体的に学修する態度を身につけるためには積極的に参加する。 2. 保健・医療・看護に関連するテーマは、学生の希望を優先するが、人数のアンバランスが生じたときには各担当教員の指示に従う。 3. 演習成果発表のためのプレゼンテーション等の資料作成は、グループメンバーが協力して行う。なお、プレゼンテーション資料は大学祭の学術研究発表として展示予定である。 4. この単位を修得するためには、授業時間以外に30時間程度の学修が必要である。 5. グループ討論や、発表等に関するフィードバックはその都度講義時間内に行うことを原則とする。			
教材			
テキスト「知へのステップ 大学生からのスタディ・スキルズ」（第5版） 学習技術研修会編、くろしお出版、1,980円（税込） 参考図書「スタディスキルズ・トレーニング（改訂版）大学で学ぶための25のスキル」吉原恵子他、実教出版、1,320円（税込）			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	科目のオリエンテーション 自己紹介 スタディスキルとは何か（野田）	予習：第1章（pp3～14）を読み、大学生として何をどのように学修するのかを200字程度にまとめ、さらに2分程度の自己紹介文を作成する。 復習：配布した資料を見直し、講義時に課した課題を400字程度にまとめる。	可

第2回	大学生活、社会生活におけるマナー（野田）	予習：予習：第2章（pp17～28）を読み、講義の受講方法、教員とのアポイントの取り方、メールでの連絡方法、研究室訪問の基本的マナー等を200字程度にまとめる。 復習：配布した資料を見直し、講義時に課した課題を400字程度にまとめる。	可
第3回	関心のある保健・医療・看護に関連するテーマについて発表し、意見交換（野田・石井）	予習：第3章（pp29～41）を読み、興味・関心のあるテーマについて自己学習し、200字程度にまとめる。関心のあるテーマによってグループ編成し、4回目以降のゼミは基本的には各ゼミグループごとでの演習とする。 復習：意見交換で出された内容を踏まえて各自の関心のあるテーマに関する内容を充実させる。	可
第4回	図書館の利用方法 (各担当教員)	予習：第5章（pp57～75）：図書館の利用方法を読み、その内容を200字程度にまとめる。 復習：演習によって新たに学んだ内容を200字程度にまとめる。 学生の人数の関係から図書館グループと情報処理室グループの2つに分かれて進める（第4回目と第5回目は場所を交代して演習を行う）	
第5回	文献検索方法（情報処理室） (各担当教員)	予習：第6章（pp76～101）：文献検索方法を読み、その内容を200字程度にまとめる。 復習：演習によって新たに学んだ内容を200字程度にまとめる。	
第6回	担当教員単位のグループに分かれて、「選択した保健・医療・看護に関連するテーマ」について、ゼミナール形式でディスカッションを重ねる。毎回の進め方は、学生が主体となって各グループで学びたいテーマとその内容を決め、そのテーマについて深く探求していく。 1. 文献検索・文献の整理 2. 文献の整理・要約 3. ワードプロソフトの活用 4. レポートの作成（形式、記載内容、文献引用のルール他） 5. 表計算ソフトの活用 6. プレゼンテーションソフトの活用 7. カンファレンスの進め方 (各担当教員)	予習：レポート作成の基本について、自己学習した内容を200字程度にまとめる。 復習：演習によって新たに学んだ内容を200字程度にまとめる	
第7回		予習：Wordによる文書作成について自己学習した内容を200字程度にまとめる。 復習：演習によって新たに学んだ内容を200字程度にまとめる	
第8回		予習：Excelの使用方法と、Wordとの連携について自己学習した内容を200字程度にまとめる。 復習：演習によって新たに学んだ内容を200字程度にまとめる	
第9回		予習：プレゼンテーションの方法について自己学習した内容を200字程度にまとめる。 復習：演習によって新たに学んだ内容を200字程度にまとめる	
第10回		予習：Power Pointの活用方法について自己学習した内容を200字程度にまとめる。 復習：演習によって新たに学んだ内容を200字程度にまとめる	
第11回		予習：カンファレンスの進め方について自己学習した内容を200字程度にまとめる。 復習：演習によって新たに学んだ内容を200字程度にまとめる。	

第12回	各グループ別に学びの成果発表準備 (各担当教員)	予習：第11章「プレゼンテーションの基本スキル」を読み、プレゼンテーション資料作成を試みる。 復習：演習によって新たに学んだ内容を各自の担当発表資料に盛り込む。	
第13回	各グループ別学びの成果発表会 (1) (各担当教員)	予習：第12章「分かりやすいプレゼンテーションのために」を読み、プレゼンテーションの方法を工夫し、各グループの学びを発表する。発表内容は所定の様式に沿って評価（自己評価・他者評価）する。なお、配布資料を予め読み込む。発表会の司会、書記、タイムキーパー等は、発表以外のグループがその役割を担当する。 復習：各発表グループ発表の評価（長所・短所）をそれぞれ200字程度にまとめる。	
第14回	各グループ別学びの成果発表会 (2) (各担当教員)	同上	
第15回	各グループ別学びの成果発表会 (3) (各担当教員)	同上 この科目全体を通して、学んだことをA4用紙2枚程度にまとめたレポートを作成し、1週間後に提出する。また、作成したプレゼンテーション資料は、大学祭で学術研究として発表（展示）するため、所定の枚数を厳選して提出する。	
評価方法			
講義・演習への参加状況（文献検索、討論、まとめ、発表）：50%、課題レポート50%により評価する。			
オフィスアワー			

講義科目					デジタル ために 必要 な能力 を達成す			
科目区分	基本教育科目-思考力の養成					人間力	○	
授業コード	111002					ケア・スピリット	○	
授業科目名	情報科学					実践的理解		
配当学年/ 学期	1年	後期	必修	単位数		1	プロフェッショナリズム	
担当教員	高久道子					多職種連携		

講義概要			
汎用ソフトウェアの基本機能を利用し、ソフトウェア相互のデータ変換ができるように情報リテラシーを向上する。リスク管理や情報倫理を理解しつつインターネット環境でのデータ処理ができるようにする。講義と演習により、ワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの操作方法を習得し、汎用ソフトウェア間のデータの変換や移動、課題に即して必要となる情報を収集、整理、加工して結果を表現するための情報活用能力を身につける。PCを用いた情報通信技術（Information and Communication Technology: ICT）の修得を基本的な目的とする。			
授業内容（到達目標を含む）			
情報処理演習室でコンピューター(PC)の使い方を説明し、受講生は実際にPCを使用しながら文章作成ソフト(Word)による文書やレポートの作成、表計算ソフト（Excel）を用いた表計算やデータ集計、表やグラフの作成、プレゼンテーションソフト(Power Point)を使ったスライドの作成を演習する。保健統計や医学検査等のデータを活用して集計・グラフ作成に取り組み、各人がレポート課題を完成させることを目指す。 到達目標： 1)「読み、書き、計算」の道具としてPCを操作することができる。 2)情報通信ネットワークやマルチメディアを活用できる（メディアリテラシー能力）。 3)情報の収集、整理、選択を説明することができる（情報リテラシー能力）。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
この科目の単位習得には約60時間の授業時間以外の学習が必要である。講義ごとに課題を提示するので、講義期間中に課題を完成し、提出すること。2/3以上の出席がない場合は課題レポート提出の権利がなく、単位を取得することができない。20分以上の遅刻は欠席とみなす。			
教材			
参考図書：講義プリント、参考書は適宜紹介する			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	オリエンテーション：演習室の使い方、授業の進め方などの説明	本学での情報処理に関するガイダンスを行う。 演習室のPCやプリンター、インターネットの利用、メールの送信方法について学ぶ。 予習：学生便覧の施設の利用：情報科学演習室使用ルールについて熟読する。 復習：講義内容をまとめ、講義担当教員にメールを送信する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第2回	看護において保健医療情報を取り扱うことについて 情報倫理・情報リテラシーについて	予習：配布資料に目を通す。 復習：情報リテラシー、個人情報の保護について各200文字にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第3回	コンピューターとネットワークの基本機能と操作	PCのオペレーションシステム（OS）やインターネットの仕組み等、基本機能と操作を学ぶ。 復習：所持PCを使って講義資料の復習を行う。 予習時間：120分、復習時間：120分	

第4回	ワープロソフトの演習1	Wordの基本機能と操作を学ぶための演習を行う。 演習：日本語や英語で文字入力、図や表の作成・挿入等基本操作を用いる。予習・復習時間を使ってワード文書を作成し、課題を提出する。 各講義予習時間：120分、復習時間：120分	
第5回	ワープロソフトの演習2		
第6回	ワープロソフトの演習3		
第7回	プレゼンテーションソフトの演習1	Power Pointの基本機能と操作を学ぶための演習を行う。 演習：保健医療情報データをもとに、アニメーション機能や特殊効果などを用いて、予習・復習時間を使ってスライド(文章・表・グラフの挿入)を作成し、提出する。 各講義予習時間：120分、復習時間：120分	
第8回	プレゼンテーションソフトの演習2		
第9回	表計算ソフトの演習1	Excelの基本機能と操作を学習する。 演習：保健医療情報データをもとに、Excelで表・グラフの作成、関数計算、統計量計算・グラフについて、予習・復習時間を使って作成し、課題を提出する。 各講義予習時間：120分、復習時間：120分	
第10回	表計算ソフトの演習2		
第11回	表計算ソフトの演習3		
第12回	表計算ソフトの演習4		
第13回	表計算ソフトの演習5		
第14回	情報科学の演習1	最終課題。これまでで習得した技術・知識を応用し、保健医療データを用いた課題（Excel）とレポート（Word）について、予習・復習時間を使って作成し、課題を提出する。 各講義予習時間：120分、復習時間：120分	
第15回	情報科学の演習2		
評価方法			
Word、Power Point、Excelの各演習課題の提出40%、レポート提出60%により評価する。			
オフィスアワー			
木曜以外（研究日）以外の平日。昼休み対応可。 できれば事前にメールで連絡ください。連絡先 m-takaku@gifuuoken.ac.jp			

講義科目					データ ため に必 要な ポリ シー を達 成す		
科目区分	基本教育科目-思考力の養成					人間力	○
授業コード	111003					ケア・スピリット	
授業科目名	基礎統計学					実践的理解	
配当学年/ 学期	1年 前期 必修	単位数	1			プロフェッショナリズム	
担当教員	國澤英雄、高久道子					多職種連携	

講義概要			
統計は地域集団の特徴を把握し活用する学問である。授業では保健統計に焦点をあてて、保健・医療データをよりの確に処理する統計学の基礎を身につける。			
授業内容（到達目標を含む）			
保健医療データの統計処理を理解するために必要な基本統計学、保健・生物統計の基礎として記述統計、母集団からの標本抽出、母集団の推定、標本におけるグループの違いを推定する比較検定を学習する。 到達目標： 1) 統計学の基本的な考え方を説明できる。 2) 分析に対して適切な検定方法を判断することができる。 3) 分析結果の意味を考察できる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
この科目の単位を修得するにあたり、約60時間の授業時間外の学修（学習課題に示されている内容の予習・復習の学修）が必要であり、講義配布資料の内容を教科書と確認し、学習すること。2/3以上の出席がない場合は課題レポートの提出権利がなく、単位を取得することができない。また20分以上の遅刻は欠席とみなす。			
教材			
教科書：杉田 暉道「統計学入門」医学書院 2,400円+税			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	講義の内容、統計学を学ぶ意義、グラフの見方や作成における留意点	予習：第1章を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第2回	母集団と標本、標本集団を抽出する方法（サンプリング）	予習：第1章を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第3回	基本統計量：平均値、標準偏差、中央値、最頻値、変動係数、外れ値、四分位	予習：第1章を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第4回	データの分布：度数分布とヒストグラム、正規分布	予習：第1章を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第5回	統計学において扱う問題：推定と仮説検定	予習：第1章を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第6回	平均値 1) 母集団の推定 平均値、標準偏差から母集団を推定する統計方法	予習：第2章を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可

第7回	平均値 1) 母集団の推定 (演習) 健康診断で扱う医学検査に関するデータサンプルを用いて、基本統計量の算出、平均値、標準偏差から母集団を推定	予習：第2章を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第8回	平均値 2) 母平均と標本平均の比較検定	予習：第2章を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第9回	平均値 2) 母平均と標本平均の比較検定 (演習)	予習：第2章を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第10回	平均値 3) 二つの標本平均の比較検定「対応が無い場合」	予習：第2章を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第11回	平均値 3) 二つの標本平均の比較検定「対応がある場合」	予習：第2章を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第12回	平均値 3) 二つの標本平均の比較検定 (演習)	予習：第2章を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第13回	相関関係：相関図・相関関係の検定	予習：第4章を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第14回	百分率の比較検定：母集団の推定・カイ二乗検定	予習：第3章を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第15回	百分率の比較検定 (演習)	予習：第3章を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
評価方法			
復習用に配布した資料の提出30%、課題レポート提出70%により評価する。			
オフィスアワー			
木曜以外（研究日）以外の平日。昼休み対応可。 できれば事前にメールで連絡ください。連絡先 m-takaku@gifuuoken.ac.jp			

講義科目				る た め に 必 要 な 能 力 を 達 成 す		
科目区分	基本教育科目-思考力の養成				人間力	○
授業コード	111004				ケア・スピリット	
授業科目名	問題解決法				実践的理解	
配当学年/ 学期	1年 後期 選択	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	西牟田祐美子				多職種連携	

講義概要

現代社会はモデルのない時代であるといわれるが、そのような中であって、自らの課題をどのように設定するのか、具体的なあるべき姿はどのようにして描いていけるのかなどが課題となる。問題解決法とはこれからの人生設計・自己実現のために何を人生の目的とするのか、その目的のために具体的な目標を立てそれに向かって具体的な計画を立てていくためのポイントなどを取り扱う。

授業内容（到達目標を含む）

自己とは何か？自分とは何かという問いかけなしに自己実現、人生の目的は設定できない。この授業では古典的心理学者たちの自己の在り方、また自己実現を学修しながら、自分なりの目的を探す手がかりとする。また実際行っている中で遭遇する問題を自分なりに特定し、その対処法も思索させる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

積極的に授業に参加することが望まれる。この科目の単位を修得するにあたり、およそ15時間の授業時間外の学修（学修課題（予習・復習）に示されている内容の学修）が必要である。毎時間提出する振り返りシートや課題レポートのフィードバックはできるだけ講義時間内に行うが、個別に時間外に設定する事もある。
なお、本科目は予習及び復習時間として120分を設定している。

教材

暮らしの中のカウンセリング入門（北大路書房）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	自己とは何か	テキスト、プリントを基に自己とは何か自分なりに考察する。	可
第2回	フロイトの考える自我、自己	テキスト、プリントを基にフロイトの考える自己とは何か自分なりに理解する。	可
第3回	ユングの考える自己と自己実現	テキスト、プリントを基にユングの考える自己とは何か自分なりに理解する。	可
第4回	アドラーの考える自己と自己実現	テキスト、プリントを基にアドラーの考える自己とは何か自分なりに理解する。	可
第5回	マズローの考える自己実現	テキスト、プリントを基にマズローの考える自己とは何か自分なりに理解する。	可
第6回	行動療法の考える自己と問題解決	テキスト、プリントを基に行動療法の考える自己と問題解決を理解する。	可
第7回	まとめ、レポート	まとめ、レポート	可
第8回	認知行動療法の考える自己と問題解決	テキスト、プリントを基に認知行動療法の考える自己と問題解決を理解する。	可
第9回	ヒューマニスティックアプローチの考える自己と自己実現	テキスト、プリントを基にヒューマニスティックアプローチの自己と自己実現を理解する。	可
第10回	アサーティブネスと自己実現	テキスト、プリントを基にアサーティブネスと問題解決について自分なりに考察する。	可
第11回	コーピングと自己実現	テキスト、プリントを基にコーピングと問題解決について理解する。	可
第12回	ジェンダーと自己実現	テキスト、プリントを基にジェンダーと自己、自己実現について理解する。	可

第13回	カウンセリングと自己実現	テキスト、プリントを基に、カウンセリングと自己実現を理解する。	可
第14回	カウンセリングと問題解決	テキスト、プリントを基にカウンセリングと問題解決について理解する。	可
第15回	まとめ、テスト	まとめ、テスト	可
評価方法			
筆記テスト30%、授業への取り組み65%、レポート5%			
オフィスアワー			
基本月曜日から木曜日9：00－17：00（講義、昼休憩除く）			

講義科目				
科目区分	基本教育科目-思考力の養成			人間力 ○
授業コード	111005			ケア・スピリット ○
授業科目名	哲学			実践的理解
配当学年/ 学期	1年 前期 選択	単位数	1	プロフェッショナリズム
担当教員	鷲見コト江			多職種連携

講義概要			
西洋哲学、東洋哲学についての基本的な概念を学び、日常的なテーマを使った発表や議論を通じて、哲学を実践的に学ぶ。看護は実践の科学であると共に、看護の対象となる人との相互関係においては、哲学的な思考が有用となる場合もある。哲学と哲学的思考法を、演習形式を通じて身につけることを目的とする。			
授業内容（到達目標を含む）			
フランスの哲学者アンリ・ベルクソンは、「科学と哲学を結び付け、それを次第に発展させることで、存在そのものを、我々はその深みにおいてとらえることができる」と言い、科学と哲学は対立するのではなく、互いに認め合い協力することによって、真理に近づくことができると考えている。このベルクソンの考えに従って、現代の科学の発見も踏まえて、「命とは何か」「人間とは何か」を考えていきたい。なお、本科目は予習及び復習時間として120分を設定している。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
ノートを準備しておくこと。ノートや資料を読み返し、学習課題について自分でよく考えること。			
教材			
テキスト：指定しない。 参考図書：講義中に指示します。			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	哲学誕生	哲学とは	可
第2回	愛智学としての哲学	愛智学とは	可
第3回	哲学と方法	思考方法とは	可
第4回	科学と哲学	科学と哲学の違い	可
第5回	ベルクソンの存在論	存在とは	可
第6回	現代の宇宙論	宇宙とは	可
第7回	ベルクソンの生命論	生命とは	可
第8回	生命の進化と人類誕生	ホモ・サピエンスとは	可
第9回	ベルクソンの人間論	人間とは	可
第10回	心的存在者としての人間	心の構造	可
第11回	エリクソンの人間論	社会的人間とは	可
第12回	エリクソンの発達理論	心の発達とは	可
第13回	障害とは	障害者と健常者	
第14回	発達障害とは	発達障害について	
第15回	医学と看護	看護とは	可
評価方法			
授業の参加状況10%、学習課題40%、最終試験またはレポート50%により評価する。			
オフィスアワー			
講義後 10～15分間 非常勤講師控室			

講義科目				
科目区分	基本教育科目-表現力の養成			人間力 ○
授業コード	111006			ケア・スピリット
授業科目名	英語 I			実践的理解
配当学年/ 学期	1年 前期 必修	単位数	1	プロフェッショナリズム
担当教員	西牟田祐美子、Mandziak			多職種連携

講義概要			
グローバル社会に生きる現代人にとって、外国語は必須のコミュニケーションの手段である。今や国際語となっている英語については、「読む・書く・聴く・話す」の4技能について各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語 I」では、日常生活及び将来的に看護の現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用いる。医療英語 (Medical Term) をはじめとして、専門的な語彙力を高めることを目標とする。具体的には医療の専門用語の覚え方やそれを用いた会話や文献の読み方を学ぶ。			
授業内容 (到達目標を含む)			
英文を読みその文化を深く理解するとともに、英語で自分の意見、感想を発表する技能を養う。 現場ですぐに使える英語力、コミュニケーション力を養う。 英文を読みその文化を深く理解するとともに、英語で自分の意見、感想を発表する技能を養う。 現場ですぐに使える英語力、コミュニケーション力を養う。			
留意事項 (履修条件・授業時間外の学修)			
積極的に授業に参加することが望まれる。なお、この科目の単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修(学修課題(予習・復習)に示されている内容の学修)が必要である。講義時のプレゼン、確認テスト、課題レポートのフィードバックはできるだけ講義時間内に行うが、個別に時間外に設定する事もある。			
教材			
テキスト「英語で学ぶプライマリーケア」 (講談社)			
授業計画及び学習課題 (予習・復習)			
回	内容	学習課題 (予習・復習)	遠隔授業
第1回	オリエンテーション、自己紹介	自己紹介、他己紹介の英語	可
第2回	Emergency and Vital signs	救急とバイタルサインの英語	可
第3回	Emergency and Vital signs	前回の復習と応用問題	可
第4回	At the Radiology	レントゲンと診断に関する英語	可
第5回	At the Radiology	前回の復習と応用問題	可
第6回	X-ray and bones	骨に関する英語	可
第7回	X-ray and bones	前回の復習と応用問題	可
第8回	Preparation for an operation	体の部位が英語で言える	可
第9回	Preparation for an operation	前回の復習と応用問題	可
第10回	operation	臓器が英語で言える	可
第11回	operation	前回の復習と応用問題	可
第12回	Post-operative care	術後と入院中のケアに関する英語	可

第13回	Post-operative care	前回の復習と応用問題	可
第14回	Taking medicine	投薬に関する英語	可
第15回	Taking medicine	前回の復習と応用問題	可
評価方法			
筆記テスト40%、課題20%、授業態度40%			
オフィスアワー			
月曜日から木曜日9：00－17：00（講義、昼休憩除く）			

講義科目				
科目区分	基本教育科目-表現力の養成			人間力 ○
授業コード	111006			ケア・スピリット
授業科目名	英語 I			実践的理解
配当学年/ 学期	1年 前期 必修	単位数	1	プロフェッショナリズム
担当教員	高久道子			多職種連携

講義概要			
グローバル社会に生きる現代人にとって、外国語は必須のコミュニケーションの手段である。今や国際語となっている英語については、「読む・書く・聴く・話す」の4技能について各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語 I」では、日常生活及び将来的に看護の現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用いる。医療英語 (Medical Term) をはじめとして、専門的な語彙力を高めることを目標とする。具体的には医療の専門用語の覚え方やそれを用いた会話や文献の読み方を学ぶ。			
授業内容 (到達目標を含む)			
英文を読みその文化を深く理解するとともに、英語で自分の意見、感想を発表する技能を養う。 現場ですぐに使える英語力、コミュニケーション力を養う。 英文を読みその文化を深く理解するとともに、英語で自分の意見、感想を発表する技能を養う。 現場ですぐに使える英語力、コミュニケーション力を養う。			
留意事項 (履修条件・授業時間外の学修)			
積極的に授業に参加することが望まれる。なお、この科目の単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修(学修課題(予習・復習)に示されている内容の学修)が必要である。講義時のプレゼン、確認テスト、課題レポートのフィードバックはできるだけ講義時間内に行うが、個別に時間外に設定する事もある。			
教材			
テキスト「英語で学ぶプライマリーケア」(講談社)			
授業計画及び学習課題 (予習・復習)			
回	内容	学習課題 (予習・復習)	遠隔授業
第1回	オリエンテーション、自己紹介	自己紹介、他己紹介の英語	不可
第2回	Emergency and Vital signs	救急とバイタルサインの英語	不可
第3回	Emergency and Vital signs	前回の復習と応用問題	不可
第4回	At the Radiology	レントゲンと診断に関する英語	不可
第5回	At the Radiology	前回の復習と応用問題	不可
第6回	X-ray and bones	骨に関する英語	不可
第7回	X-ray and bones	前回の復習と応用問題	不可
第8回	Preparation for an operation	体の部位が英語で言える	不可
第9回	Preparation for an operation	前回の復習と応用問題	不可
第10回	operation	臓器が英語で言える	不可
第11回	operation	前回の復習と応用問題	不可

第12回	Post-operative care	術後と入院中のケアに関する英語	不可
第13回	Post-operative care	前回の復習と応用問題	不可
第14回	Taking medicine	投薬に関する英語	不可
第15回	Taking medicine	前回の復習と応用問題	不可
評価方法			
筆記テスト40%、課題20%、授業態度40%			
オフィスアワー			
月曜日から金曜日9：00－17：00（講義とその前後は対応できません）			

講義科目					デザイン のための プログラム に必要な 能力を 達成す		
科目区分	基本教育科目-表現力の養成					人間力	○
授業コード	111007					ケア・スピリット	
授業科目名	英語Ⅱ					実践的理解	
配当学年/ 学期	1年 後期 必修		単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	西牟田祐美子、Mandziak					多職種連携	

講義概要			
グローバル社会に生きる現代人にとって、外国語は必須のコミュニケーションの手段である。今や国際語となっている英語については、「読む・書く・聴く・話す」の4技能について各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語Ⅰ」に引き続き、日常生活及び将来的に看護の現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用いる。医療英語（Medical Term）をはじめとして、専門的な語彙力を高めることを目標とする。具体的には医療の専門用語の覚え方やそれを用いた会話や文献の読み方を学ぶ。			
授業内容（到達目標を含む）			
英文を読みその文化を深く理解するとともに、英語で自分の意見、感想を発表する技能を養う。現場ですぐに使える英語力、コミュニケーション力を養う。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
積極的に授業に参加することが望まれる。なお、この科目の単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修(学修課題(予習・復習)に示されている内容の学修)が必要である。講義時のプレゼン、確認テスト、課題レポートのフィードバックはできるだけ講義時間内に行うが、個別に時間外に設定する事もある。			
教材			
テキスト「英語で学ぶプライマリーケア」（講談社）			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	Nutrition and allergies	栄養とアレルギーに関する英語	可
第2回	Nutrition and allergies	前回の復習と応用問題	可
第3回	Maternity Outpatient	妊産婦外来の英語	可
第4回	Maternity Outpatient	前回の復習と応用問題	可
第5回	Pediatric out patients	小児科外来での英語	可
第6回	Pediatric out patients	前回の復習と応用問題	可
第7回	Out of hospital	退院の英語	可
第8回	Out of hospital	前回の復習と応用問題	可
第9回	Palliative care	緩和ケアの英語	可
第10回	Palliative care	前回の復習と応用問題	可
第11回	Visitor	面会、海外の病院	可
第12回	Visitor	前回の復習と応用問題	可
第13回	Making Suggestions and experiences	経験と提案の英語	可
第14回	Making Suggestions and experiences	前回の復習と応用問題	可
第15回	Future plans	まとめ、テスト	可
評価方法			
筆記テスト40%、課題20%、授業態度40%			
オフィスアワー			
基本月曜日から木曜日9：00－17：00（講義、昼休憩除く）			

講義科目					デジタル のために プロマ に必要 な能力 を達成 する	人間力	○	
科目区分	基本教育科目-表現力の養成					ケア・スピリット		
授業コード	111007					実践的理解		
授業科目名	英語Ⅱ					プロフェッショナリズム		
配当学年/ 学期	1年	後期	必修	単位数		1	多職種連携	
担当教員	高久道子							

講義概要			
グローバル社会に生きる現代人にとって、外国語は必須のコミュニケーションの手段である。今や国際語となっている英語については、「読む・書く・聴く・話す」の4技能について各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語Ⅰ」に引き続き、日常生活及び将来的に看護の現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用いる。医療英語（Medical Term）をはじめとして、専門的な語彙力を高めることを目標とする。具体的には医療の専門用語の覚え方やそれを用いた会話や文献の読み方を学ぶ。			
授業内容（到達目標を含む）			
英文を読みその文化を深く理解するとともに、英語で自分の意見、感想を発表する技能を養う。現場ですぐに使える英語力、コミュニケーション力を養う。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
積極的に授業に参加することが望まれる。なお、この科目の単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修(学修課題(予習・復習)に示されている内容の学修)が必要である。講義時のプレゼン、確認テスト、課題レポートのフィードバックはできるだけ講義時間内に行うが、個別に時間外に設定する事もある。			
教材			
テキスト「英語で学ぶプライマリーケア」（講談社）			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	Nutrition and allergies	栄養とアレルギーに関する英語	不可
第2回	Nutrition and allergies	前回の復習と応用問題	不可
第3回	Maternity Outpatient	妊産婦外来の英語	不可
第4回	Maternity Outpatient	前回の復習と応用問題	不可
第5回	Pediatric out patients	小児科外来での英語	不可
第6回	Pediatric out patients	前回の復習と応用問題	不可
第7回	Out of hospital	退院の英語	不可
第8回	Out of hospital	前回の復習と応用問題	不可
第9回	Palliative care	緩和ケアの英語	不可
第10回	Palliative care	前回の復習と応用問題	不可
第11回	Visitor	面会、海外の病院	不可
第12回	Visitor	前回の復習と応用問題	不可
第13回	Making Suggestions and experiences	経験と提案の英語	不可
第14回	Making Suggestions and experiences	前回の復習と応用問題	不可
第15回	Future plans	まとめ、テスト	不可
評価方法			
筆記テスト40%、課題20%、授業態度40%			
オフィスアワー			
月曜日から金曜日9：00－17：00（講義とその前後は対応できません）			

講義科目					る デ イ た め に 必 要 な 能 力 を 達 成 す	人間力	○
科目区分	基本教育科目-表現力の養成					ケア・スピリット	
授業コード	111008					実践的理解	
授業科目名	英語Ⅲ					プロフェッショナリズム	
配当学年/ 学期	3年 前期 選択		単位数	1		多職種連携	
担当教員	西牟田祐美子、高久道子						

講義概要

グローバルな現代社会において事実上の国際語となっている英語のコミュニケーション能力を養う。「読む・書く・聴く・話す」の4技能について、各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語Ⅲ」では、将来的に看護の現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用いる。専門性の高い語彙や臨床ベッドサイドの英会話など、看護職に関連する高度な語彙力、コミュニケーション能力を向上させる。それまで学んだ英語の知識をもとに会話し、医療に関する課題について意見交換ができることを目指す。

授業内容（到達目標を含む）

到達目標
 1) 医療系の英語とともに、実践的な英語力（リスニング、読解）を身につける。
 2) TOEIC450点以上（英検2級）を目指す。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

事前の文法テストで80点以上、または、履修前のTOEIC試験で350点以上（または英検で準2級以上）あることが望ましい。授業以外でも各自で自主的に学修することを目指す。この科目の単位習得には約60時間の授業時間以外の学修（学習課題、予習・復習に示されている内容の学修）が必要であり、シラバスを熟読して学習を進めること。2/3以上の出席がない場合は、単位を取得することができない。20分以上の遅刻は欠席とみなす。

教材

テキスト「やさしいメディカル英語」（高木久代 編著）講談社、2090円（税込み）
 TOEICの演習については、講義で適宜資料を配布する。

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	Cells and DNA, TOEIC preparation (西牟田)	予習: テキストの「細胞とDNA」について熟読する。 復習: 講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間: 120分、復習時間: 120分	可
第2回	Blood, TOEIC preparation (西牟田)	予習: テキストの「血液」について熟読する。 復習: 講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間: 120分、復習時間: 120分	可
第3回	The Cardiovascular System, TOEIC preparation (西牟田)	予習: テキストの「心臓血管系」について熟読する。 復習: 講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間: 120分、復習時間: 120分	可
第4回	The Respiratory System, TOEIC preparation (西牟田)	予習: テキストの「呼吸器系」について熟読する。 復習: 講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間: 120分、復習時間: 120分	可
第5回	The Digestive System, TOEIC preparation (西牟田)	予習: テキストの「消化器系」について熟読する。 復習: 講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間: 120分、復習時間: 120分	可
第6回	The Urinary System, TOEIC preparation (西牟田)	予習: テキストの「泌尿器系」について熟読する。 復習: 講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間: 120分、復習時間: 120分	可
第7回	The Immune System, TOEIC preparation (西牟田)	予習: テキストの「免疫系」について熟読する。 復習: 講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間: 120分、復習時間: 120分	可

第8回	TOEIC preparation (高久)	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:120分	可
第9回	TOEIC preparation (高久)	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:121分	可
第10回	TOEIC preparation (高久)	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:122分	可
第11回	TOEIC preparation (高久)	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:123分	可
第12回	TOEIC preparation (高久)	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:124分	可
第13回	TOEIC preparation (高久)	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:125分	可
第14回	TOEIC preparation (高久)	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:126分	可
第15回	TOEIC preparation (高久)	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:127分	可
評価方法			
筆記テスト45%、課題25%、授業態度30%より評価する。			
オフィスアワー			
西傘田祐美子:基本月曜日から木曜日9:00-17:00(講義、昼休憩除く) 連絡先:y-nishimuta@gifuhoken.ac.jp 高久道子:木曜以外の9:00-17:00、昼休み対応可。 連絡先:m-takaku@gifuhoken.ac.jp			

講義科目				る た め に 必 要 な 能 力	デ イ ブ ロ マ ポ リ シー を 達 成 す	人間力	○
科目区分	基本教育科目-表現力の養成					ケア・スピリット	
授業コード	111009					実践的理解	
授業科目名	英語Ⅳ					プロフェッショナリズム	
配当学年/ 学期	4 年 後期 選択	単位数	1			多職種連携	
担当教員	西牟田祐美子【実務該当教員】、高久道子【実務該当教員】						

講義概要

グローバルな現代社会において事実上の国際語となっている英語のコミュニケーション能力を養う。「読む・書く・聴く・話す」の4技能について、各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語Ⅳ」では、保健医療や看護関係の英文の文献や記事を教材とし、それらの基本的な知識と基礎的な読解力を育む。専門性の高い英語文献に触れることで、将来の看護の研究にも役立てる。

授業内容（到達目標を含む）

到達目標
 1) 医療系の英語とともに、実践的な英語力（リスニング、読解）を身につける。
 2) TOEIC550点以上（英検準1級）を目指す。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

事前の文法テストで80点以上、または、履修前のTOEIC試験で400点以上あることが望ましい。授業以外でも各自で自主的に学修することを目指す。この科目の単位習得には約60時間の授業時間以外の学修（学習課題、予習・復習に示されている内容の学修）が必要であり、シラバスを熟読して学習を進めること。2/3以上の出席がない場合は、単位を取得することができない。20分以上の遅刻は欠席とみなす。

教材

TOEICの演習については、講義で適宜資料を配布する。

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	TOEIC preparation（西牟田）	予習: 配布資料を行う 復習: 講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間: 120分、復習時間: 121分	
第2回	TOEIC preparation（西牟田）	予習: 配布資料を行う 復習: 講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間: 120分、復習時間: 122分	
第3回	TOEIC preparation（西牟田）	予習: 配布資料を行う 復習: 講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間: 120分、復習時間: 123分	
第4回	TOEIC preparation（西牟田）	予習: 配布資料を行う 復習: 講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間: 120分、復習時間: 124分	
第5回	TOEIC preparation（西牟田）	予習: 配布資料を行う 復習: 講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間: 120分、復習時間: 125分	
第6回	TOEIC preparation（西牟田）	予習: 配布資料を行う 復習: 講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間: 120分、復習時間: 126分	
第7回	TOEIC preparation（西牟田）	予習: 配布資料を行う 復習: 講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間: 120分、復習時間: 127分	

第8回	TOEIC preparation (高久)	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:121分	
第9回	TOEIC preparation (高久)	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:122分	
第10回	TOEIC preparation (高久)	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:123分	
第11回	TOEIC preparation (高久)	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:124分	
第12回	TOEIC preparation (高久)	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:125分	
第13回	TOEIC preparation (高久)	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:126分	
第14回	TOEIC preparation (高久)	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:127分	
第15回	TOEIC preparation (高久)	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:127分	
評価方法			
筆記テスト45%、課題25%、授業態度30%より評価する。 S (100～90点):学習目標をほぼ完全に達成している。 A (89～80点):学習目標を相応に達成している。 B (79～70点):学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある。 C (69～60点):学習目標の最低限は満たしている。 D (60点未満):Cのレベルに達していない。			
オフィスアワー			
西牟田祐美子:基本月曜日から木曜日9:00～17:00(講義、昼休憩除く) 連絡先:y-nishimuta@gifuoken.ac.jp 高久道子:木曜以外の9:00-17:00、昼休み対応可。 連絡先:m-takaku@gifuoken.ac.jp			

講義科目					デジタルメディアプログラマーに必要な能力を達成する	人間力	○
科目区分	基本教育科目-表現力の養成					ケア・スピリット	
授業コード	111010					実践的理解	
授業科目名	日本語 I					プロフェッショナリズム	
配当学年/ 学期	1年 前期 必修	単位数	1			多職種連携	
担当教員	伊藤亜希子						

講義概要			
日頃は無意識に使っている日本語であるが、果たして正しい日本語を使って話していたのか、また、文書を作成していたのかを振り返り、正しい日本語の使い方について学ぶことがこの科目の目的である。その一連のプロセスを通して日本語を客観的に分析することができることを目指す。国際人になるためには、まず求められることは母国語である日本語を正しく話し、正しい文書を作成し、発表することができることである。その全過程を通して、正しい日本語の使い方ができることを目指す。			
授業内容（到達目標を含む）			
日本語の発音、語彙、文法、文字、歴史の分野から日本語の特徴を概説し、日本語について理解を深める。普段使っている自分の言葉について意識を高め、看護学生としての必要なコミュニケーション能力の基礎を身につける。さまざまなテーマの分析を通して運用力を高める。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
この科目の単位修得には約30時間の授業時間以外の学修（学習課題：予習・復習に示されている内容の学修）が必要である。4回の小レポートの課題がある。			
教材			
テキストなし 参考図書「日本語概説」岩波書店			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	日本語概説、授業内容の説明	配布資料を読み直す、自分自身の使う日本語について振り返る、小レポート（2時間）	可
第2回	日本語の発声と発音 1 発声のしくみ	配布資料を読み直す（1時間）	可
第3回	日本語の発声と発音 2 I P A	配布資料を読み直す（1時間）	可
第4回	日本語の語彙と表現 1 語彙のしくみ	配布資料を読み直す、自分の使う語彙について振り返る（2時間）	可
第5回	日本語の語彙と表現 2 語彙の運用	配布資料を読み直す、人を傷つける言葉、自分の言葉遣いについて考える（2時間）	可
第6回	日本語の語彙と表現 3 敬語と意識	配布資料を読み直す、普段の敬語の使い方について振り返る（2時間）	可
第7回	日本語の語彙と表現 4 非言語による表現	配布資料を読み直す、小レポート（3時間）	可
第8回	日本語の語彙と表現 5 まとめ	配布資料を読み直す（1時間）	可
第9回	日本語の文法 1 品詞と組み立て	配布資料を読み直す、高校までに学習した品詞、活用について振り返る（2時間）	可
第10回	日本語の文法 2 配慮と丁寧さ	配布資料を読み直す、これまでに書いたLINE、メールについて振り返る、小レポート（3時間）	可
第11回	日本語の文字 1 表記上の決まり事	配布資料を読み直す、自分の普段の文章、これまでの自分の文章の書き方について振り返る（2時間）	可

第12回	日本語の文字 2 表記上の決まり事	配布資料を読み直す (1時間)	可
第13回	日本語の歴史的受容 音声と文字の歴史	配布資料を読み直す、日本語表記の多様さを歴史的に振り返る (2時間)	可
第14回	日本語の歴史的受容 日本語の変化	配布資料を読み直す、若者言葉、LINEで使う言葉、ネット用語などについて自分の使用を振り返る、小レポート (3時間)	可
第15回	日本語の発音、語彙、文法、文字、歴史についてのまとめ	配布資料を読み直す (3時間)	可
評価方法			
授業の参加状況20%、小レポート20%、最終試験60%により評価する。 S (100～90点)：日本語の仕組みを理解したうえで、言葉を観察・分析し、適切に運用することができる。また多彩な表現が使え、歴史的背景を理解している。 A (89～80点)：日本語の仕組みを理解したうえで、自分の言葉を観察・分析し、適切に運用することができる。 B (79～70点)：日本語の構造を理解し、日本語の発音、語彙、文字のしくみを理解したうえで、自分の言葉を客観的に観察・分析することができる。 C (69～60点)：日本語の構造を理解し、日本語の発音、語彙、文字のしくみを理解している。 D (60点未満)：Cのレベルに達していない。			
オフィスアワー			
講義後に対応する。			

講義科目					ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	○	
科目区分	基本教育科目-表現力の養成					ケア・スピリット		
授業コード	111011					実践的理解		
授業科目名	日本語Ⅱ					プロフェッショナリズム		
配当学年/ 学期	2年	前期	選択	単位数		1	多職種連携	
担当教員	伊藤亜希子							

講義概要			
コミュニケーション力の基礎として、自己の考えを論理的に明確に、相手に表現する能力が求められているが、それらの能力の育成のために、問題意識を持つこと、自分の意見を持ち、情報を選択し、整理する能力を高め、論理的にもの考えることが求められている。さらに、相手（他者）の立場に立って考えることができるためにはどのようにすることが必要なのか、幅の広いものの考え方、見方をするようにして、他者の発言を注意深く聞くようになり、ひいては協調性を養うことができることを目指す。			
授業内容（到達目標を含む）			
前半では主に、読解力、表現力を身につけるために縮約・要約文を作成、要点を抑えてメモを取るなどの練習を行う。後半では論理的な文章を書くための小論文作成を行う。文章を書くための基本事項、感想文と小論文の違い、意見を論理的に書くための方法など、適宜解説をする。さまざまな文章を書くことを通して、看護学生として必要な日本語運用力を身につける。また、学生同士で書いたものを読み合い、評価できるようになる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
この科目の単位修得には約30時間の授業時間以外の学修（学習課題：予習・復習に示されている内容の学修）が必要である。授業内に作成したものは毎回提出し、翌週の授業内でフィードバックする。			
教材			
テキスト 特になし 参考図書 特になし			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	授業内容の説明	配布資料を読み直す（1時間）	可
第2回	文章の書き方1 語彙と表記	配布資料を読み直す、適切な表記、言葉遣いについて考える（2時間）	可
第3回	文章の書き方2 文法と文体	配布資料を読み直す、分かりにくい文章について考える（2時間）	可
第4回	要点をおさえる、メモを取る	配布資料を読み直す（1時間）	可
第5回	縮約・要約とは 縮約・要約文作成1	配布資料を読み直す（1時間）	可
第6回	縮約・要約文作成2	配布資料を読み直す（1時間）	可
第7回	縮約・要約文作成3	配布資料を読み直す（1時間）	可
第8回	縮約・要約文発表	配布資料を読み直す（2時間）	可
第9回	感想文とは 感想文作成	配布資料を読み直す（1時間）	可
第10回	言葉を説明する	配布資料を読み直す、国語辞典の記述を読む（2時間）	可
第11回	小論文を書くための表現	配布資料を読み直す、次回テーマの内容について考える（2時間）	可

第12回	小論文 1	次回テーマの内容について調べる・構想を考える (2時間)	可
第13回	小論文 2	次回テーマの内容について調べる・構想を考える (2時間)	可
第14回	小論文 3	次回テーマの内容について調べる・構想を考える (2時間)	可
第15回	小論文発表	配布資料を読み直す、レポートの内容について調べる・考える (3時間)	可
評価方法			
提出物50%、期末レポート30%、授業態度20%により評価する。 S (100～90点)：表記上、文法上の間違いのない文章が書け、自分のことばで縮約・要約文をまとめ、独自の視点による説得的論理的な小論文が書ける。なおかつ、他人の発表、意見をきちんと聞いたり読んだりすることができ、評価することができる。 A (89～80点)：表記上、文法上の間違いのない文章が書け、自分のことばで縮約・要約文をまとめ、論理的な小論文が書ける。なおかつ、他人の発表、意見をきちんと聞いたり読んだりすることができ、評価することが出来る。 B (79～70点)：表記上、文法上の間違いのない文章が書け、小論文と感想文の違いをよく理解し、自分のことばで縮約・要約文をまとめ、自分の意見を小論文に述べることができる。なおかつ、他人の発表、意見をきちんと聞いたり読んだり、評価することができる。 C (69～60点)：原稿用紙の使い方、漢字や仮名遣い、文法的に間違いのない表現ができ、最低限の縮約・要約文、小論文を作成することができる。他人の発表、意見をきちんと聞いたり読んだりすることができる。 D (60点未満)：Cのレベルに達していない。			
オフィスアワー			
講義後に対応する。			

講義科目					る デ イ ブ に 必 要 な 能 力 シ ー を 達 成 す		
科目区分	基本教育科目-表現力の養成					人間力	
授業コード	111012					ケア・スピリット	○
授業科目名	手話					実践的理解	
配当学年/ 学期	1年 後期 選択		単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	亀井明子					多職種連携	

講義概要			
「コミュニケーション」は、情報の伝達、連絡、通信の意味だけでなく、意思の疎通、心の通い合いという側面もあり、互いに理解し合うことでもある。コミュニケーションの障害を持った人との意思の疎通のためにどのようにしたらよいのかを、本科目では手話を通して考える。すなわち、コミュニケーション行動の機能は、たんに情報の伝達にとどまらず、情動的な共感、さらには相手の行動の制御をも幅広く含んでいることを意識することが求められている。コミュニケーションの成立のために、何が必要であるのかを手話を通じて理解を深める。			
授業内容（到達目標を含む）			
手話及び聴覚障害に関する講義			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
テキストの指定箇所を読んでから講義を受けること。本科目は予習及び復習時間として120分を設定している。			
教材			
テキスト 「聴覚・言語障害者とコミュニケーション 新訂版」中央法規出版（2010/3/1）一番ヶ瀬康子 参考図書 「はじめての手話」生活書院 改訂新版（2014/8/18）木村晴美			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	聴覚障害者の基礎知識／自己紹介（挨拶）	「聞こえない」ということについて考える	
第2回	コミュニケーションと言語1／自己紹介（名前）	挨拶と名前の手話を学ぶ	
第3回	コミュニケーションと言語2／自己紹介（年齢・誕生日）	あなたがコミュニケーションの喜びを感じるのはどんな時？	
第4回	聴覚障害者のコミュニケーション手段／自己紹介（指文字・数字）	指文字・数字の手話を学ぶ	
第5回	ろう者の生活／自己紹介（家族）	聞こえない人が生活上不便を感じることにについて考える	
第6回	手話通訳について／自己紹介（地名・住所）	家族・地名・住所の手話を学ぶ	
第7回	ろう者と会話しよう	ろう者への質問を考える	
第8回	手話と日本語／仕事	手話と日本語の違いについて考える	
第9回	高齢聴覚障害者／1日の生活	自分の1日の生活を手話で表現してみる	
第10回	中途失聴・難聴者／趣味・スポーツ	趣味やスポーツについて手話で表現してみる	
第11回	盲ろう者／旅行	高齢聴覚障害者、難聴者、盲ろう者について学ぶ	
第12回	聴覚障害者と医療／病院・医療	医療場面で聴覚障害者が不便を感じるのはどんなことか考える	
第13回	学んだ手話を表現してみよう	自己紹介の手話表現を練習する	
第14回	学んだ手話を表現してみよう	自己紹介の手話表現を練習する	
第15回	災害時の聴覚障害者について学ぼう	災害に関する手話表現を学ぶと共に必要なサポートについて考える	
評価方法			

授業の参加状況10%、手話実技30%、最終試験60%により評価する。
オフィスアワー
講義後に対応する。

講義科目				
科目区分	基本教育科目-表現力の養成			人間力 ○
授業コード	111013			ケア・スピリット
授業科目名	中国語 I			実践的理解
配当学年/ 学期	2年 前期 選択	単位数	1	プロフェッショナリズム
担当教員	干海			多職種連携

講義概要			
中国語の基礎について学修する。中国語で読む、書く、話すなどの総合コミュニケーションの能力の養成を目標とする。まず発音記号であるピンインを学び、その後、中国語の表現の仕組みを理解し、簡単な日常会話ができるようにする。中国語の基礎として、音節の構造、声調練習、母音、子音から始め、しっかり発音を練習する。挨拶や自己紹介から始め、簡単な会話ができるように、多くの会話練習ができるような講義を目指す。			
授業内容（到達目標を含む）			
中国語の表現の特徴を日本語及び英語のそれと比較しながら解説するとともに、表現のパターンを提示して、医療の現場で役立つ表現が習得できるように享受する。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
この科目の単位修得には、約30時間の授業時間以外の学習が必要である。			
教材			
テキスト プリント配布 参考図書 随時紹介する。			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	中国語概論	中国語の特性を概説する	可
第2回	中国語の表現	正書法の決りを説明する	可
第3回	中国語の音声①	中国語のメロディーを詳説する	可
第4回	中国語の音声②	単母音、そり舌音と複母音を詳説する	可
第5回	中国語の音声③	鼻母音、子音と声調変化を詳説する	可
第6回	中国語の語順	語順の3原則を詳説する	可
第7回	中国語の表現の骨組	日本語との共通点及び相違点を提示する	可
第8回	中国語の表現の構造	基本単語（1）を説明する	可
第9回	中国語の表現①	命題とモダリティについて詳説する	可
第10回	中国語の表現②	あいさつ言葉について説明する	可
第11回	中国語の表現③	人称代名詞と名詞述語文を詳説する	可
第12回	中国語の表現④	指示代名詞と形容詞述語文を詳説する	可
第13回	中国語の表現⑤	疑問詞疑問文と省略疑問文を詳説する	可
第14回	中国語の表現⑥	副詞、助動詞と連動文を詳説する	可
第15回	中国語の表現⑦	動詞述語文、「有」、「的」を詳説する	可
評価方法			
授業態度30%、筆記試験70%により評価する。			
オフィスアワー			

講義後に対応する。

講義科目					る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す	人間力	○
科目区分	基本教育科目-表現力の養成					ケア・スピリット	
授業コード	111014					実践的理解	
授業科目名	中国語Ⅱ					プロフェッショナリズム	
配当学年/ 学期	2年 後期 選択	単位数	1			多職種連携	
担当教員	干海						

講義概要			
「中国語Ⅰ」の続編として、「中国語Ⅰ」で学んだ発音、会話、読み書きについて、より発展的に学修する。コミュニケーション能力養成では、中国を旅行する場合の会話、来日中国人観光客との会話について練習する。また、来日中国人観光客が、病気等で日本の医療機関に受診する際の会話についても学ぶ。語学の学修と同時に、中国語の基盤となっている中国の社会や文化についても理解を深める。			
授業内容（到達目標を含む）			
中国語の表現の特徴を日本語及び英語のそれと比較しながら解説するとともに、表現のパターンを提示して、医療の現場で役立つ表現が習得できるように享受する。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
この科目の単位修得には、約30時間の授業時間以外の学習が必要である。			
教材			
テキスト プリント配布 参考図書 随時紹介する。			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	中国語の表現⑧	基本単語（2）と簡単な会話文①	可
第2回	中国語の表現⑨	基本単語（3）と簡単な会話文②	可
第3回	中国語の表現⑩	基本単語（4）と簡単な会話文③	可
第4回	中国語の表現⑪	基本単語（5）と初診時の会話文	可
第5回	中国語の表現⑫	基本単語（6）と健康診断時の例文	可
第6回	中国語の表現⑬	基本単語（7）と臨床用の例文①	可
第7回	中国語の表現⑭	基本単語（8）と臨床用の例文②	可
第8回	中国語の表現⑮	基本単語（9）と臨床会話文①	可
第9回	中国語の表現⑯	基本単語（10）と臨床会話文②	可
第10回	中国語の表現⑰	基本単語（11）と臨床会話文③	可
第11回	中国語の表現⑱	基本単語（12）と臨床会話文④	可
第12回	中国語の表現⑲	基本単語（13）と臨床会話文⑤	可
第13回	中国語の表現⑳	基本単語（14）と臨床会話文⑥	可
第14回	中国語の表現㉑	基本単語（15）と臨床会話文⑦	可
第15回	中国語の表現㉒	まとめ	可
評価方法			
授業態度30%、筆記試験70%により評価する。			
オフィスアワー			

講義後に対応する。

講義科目					ディ プロ マ ポ リ シ ー を 達 成 す た め に 必 要 な 能 力	人間力	○
科目区分	基本教育科目-人間力の養成					ケア・スピリット	
授業コード	111015					実践的理解	
授業科目名	自己管理と社会規範					プロフェッショナリズム	○
配当学年/ 学期	1年 前期 必修		単位数	2		多職種連携	
担当教員	石井英子【実務該当教員】、茅喜田恵子、船橋香緒里、野田みや子、太田美智男、稲葉政徳						

講義概要			
日々の生活全般で、様々な場面における善悪や正誤を判断する基準としての社会規範やモラルの成り立ち、機能について理解し、人間社会のルールやモラルに従って行動するために必要な自己管理方法について学習する。また、自分が置かれている立場において、人々との共存に必要な社会規範の理解を深めるとともに、具体的な自己管理のあり方を考える。			
授業内容（到達目標を含む）			
1. 大学生における自身を見極めることができる。 2. 社会人・職業人としての将来像を描き個性を伸展させることができる。 3. キャリアデザインの手法を学習し、キャリアデザインマップ等の作成を通じて理解を深めることができる 4. より豊かに、より高度に、一貫性をもって創造的に自分を完成させる生き方の出来るスキルを磨くことを目標とする。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
看護学の学習行動能力の向上には、本科目は重要である。履修学生は、本科目の基礎知識を理解するよう予習と復習が大切である。この科目の単位修得には約30時間の授業時間以外の学修（学習課題；予習・復習に示された内容の学修）が必要である。			
教材			
適時提示			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	キャリアデザインの必要性和その手法（石井）	予習：自身のキャリアを振り返る（20分） 復習：自身の社会的・職業的な自立に必要な能力や態度について振り返るための300文字にまとめる。	可
第2回	自己理解・自己管理能力の開発Ⅰ（看護職としての事例から自己管理を理解する）（石井）	予習：初等・中等教育を通じた自分自身のふりかえりを通じて、今までの目標や夢、考え方や大切にしてきたことなどを再考する。 復習：高校までの将来目標を再考し5項目の記述をする。（20分）	可
第3回	自己理解・自己管理能力の開発Ⅱ（看護の職業人としての倫理感）（石井）	予習：看護綱領を確認する。（15分） 復習：看護職の綱領の中から目指すべき倫理観を3つ選択し、その必要性の課題を記述し課題を提出する（30分）	可
第4回	看護師の免許からの自己管理とその責任（茅喜田）	看護師の職業意識について調べる	可

第5回	保健師の免許からの自己管理と責任（船橋）	保健師の職業意識について調べる	可
第6回	助産師の免許からの自己管理と責任（野田）	助産師の職業意識について調べる	可
第7回	医師から期待する看護職への期待される自己管理（太田）	医師からの期待について調べる	可
第8回	自己管理していく力を養う（稲葉）	なぜ自己管理することが必要なのかを学ぶ。テキスト第1章：p1－18	可
第9回	自己なりに必要な書き行動と自己調整について（稲葉）	書き行動の方法と自己調整について学ぶ。テキスト第2章：p21－41	可
第10回	理解方略の相互交流について（稲葉）	学習における理解方略について学ぶ。テキスト第3章P43－58	可
第11回	自己モニタリングスキルについて（稲葉）	自己モニタリングとは何かについて学ぶ。テキスト第5章P89－107	可
第12回	自己効力感と自己調整について（稲葉）	自己効力感の基礎と自己調整について学ぶ。テキスト第7章 p 137－160	可
第13回	自己管理と社会規範についてのグループ討議（石井・船橋）	グループによる課題の抽出	可
第14回	自己管理と社会規範についてのグループ討議（石井・船橋）	グループによる課題の抽出	可
第15回	総括	キャリアデザインの全体的まとめを行う。	可
評価方法			
各担当教員の課題レポート（野村40%、中谷40%、石井20%）を総合して評価する			
オフィスアワー			
石井：事前にアポイントメントを取ってください。 連絡先 e-mail h-ishii@gifuhoken.ac.jp□			

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	基本教育科目-人間力の養成				人間力	○
授業コード	111016				ケア・スピリット	
授業科目名	チームワークとリーダーシップ				実践的理解	
配当学年/ 学期	4年 後期 選択	単位数	1		プロフェッショナルリズム	○
担当教員	平岡 翠【実務該当教員】				多職種連携	

講義概要			
人はさまざまなチームの中で仕事をしており、最大限に効果的・効率的にチームが機能していくためには、チームワークとリーダーシップの問題を避けて通ることはできず、将来の看護の職務においても重要な概念である。チームの中で各メンバーはどうふるまうか、リーダーの行動が全体にどう影響するかなど、チームワークとリーダーシップの各機能を学修し、各個人の資質や持ち味を活かすアプローチになるのかを事例を交えて講義する。 人はさまざまなチームの中で仕事をしており、最大限に効果的・効率的にチームが機能していくためには、チームワークとリーダーシップの問題を避けて通ることはできず、将来の看護の職務においても重要な概念である。チームの中で各メンバーはどうふるまうか、リーダーの行動が全体にどう影響するかなど、チームワークとリーダーシップの各機能を学修し、各個人の資質や持ち味を活かすアプローチになるのかを事例を交えて講義する。			
授業内容（到達目標を含む）			
チームの中で各メンバーはどうふるまうか、リーダーの行動が全体にどう影響するかなど、チームワークとリーダーシップの各機能を学修し、各個人の資質や持ち味を活かすアプローチについて理解することができる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
基礎知識を理解するには各回の授業テーマに合わせた課題に対して自己学習を行う。授業内容の理解を促進するためには、自己学習をしてから、授業に臨むこと。毎回授業でミニッツノートを渡すので、授業に関する意見や質問があればそこに記入すること。ミニッツノートの内容は、授業時間内に解説する。2/3以上の出席がない場合は、定期試験を受けることができず、単位を取得することができない。			
教材			
テキスト：「チーム・ビルディング」堀公俊、加藤彰、加留部貴行、日本経済新聞出版社、2016、価格2,200円 「ナースンググラフィカ看護の統合と実践①看護管理」吉田千文、志田京子他編、メディカ出版、2018、価格3,080円 参考図書：授業で適宜紹介する			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	オリエンテーション：チームとは何か、チームに求められること、メンバーシップについて	予習：指定された教科書に目を通す 復習：配布資料を読み返す 予習時間30分、復習時間60分	可
第2回	効果的にチームを作るために必要な基本的な事項について	予習：指定された教科書に目を通す 復習：配布資料を読み返す 予習時間30分、復習時間60分	可
第3回	チーム医療について：4つの要素、役割分担における看護の専門性	予習：指定された教科書に目を通す 復習：配布資料を読み返す 予習時間30分、復習時間60分	可
第4回	演習①：現在の医療における「チーム医療」にとって重要な要素及びそのための行動についてグループ討議を行い、グループでの考えをまとめる	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート①を記述する 予習時間30分、復習時間60分	不可
第5回	組織とリーダーシップ、リーダーシップ論について	予習：指定された教科書に目を通す 復習：配布資料を読み返す 予習時間30分、復習時間60分	可

第6回	マネジメントとリーダーシップについて	予習：指定された教科書に目を通す 復習：配布資料を読み返す 予習時間30分、復習時間60分	可
第7回	演習②：非常時のリーダーシップについてグループ討議を行い、グループでの考えをまとめる	予習：指定された教科書に目を通す 復習：配布資料を読み返す 予習時間30分、復習時間60分	不可
第8回	演習①、演習②の発表と意見交換 まとめ	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート②を記述する 予習時間30分、復習時間60分	可
評価方法			
課題レポート30%、期末試験70%により評価する			
オフィスアワー			
平岡翠　：授業後30分　連絡先s-hiraoka@gifuhoken.ac.jp　※これ以外は事前にアポイントを取ってください。□			

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	基本教育科目-人間力の養成				人間力	○
授業コード	111017				ケア・スピリット	
授業科目名	他者理解と信頼関係				実践的理解	
配当学年/ 学期	4年 後期 選択	単位数	2		プロフェッショナリズム	○
担当教員	井上真人				多職種連携	

講義概要						
人との信頼関係を構築するには自己理解と共に他者理解が必要となる。自己理解には自分自身を客観的に評価して、その自分を受け入れると共に、他者を知りたいという姿勢を持ち、自分とは違う考え方や見方をする他者という存在を認めること、世の中にはさまざまな価値観や性格、そして生き方もさまざまであることを認識し、それらを受け入れることが大切であること、他者理解を深める具体的な方法を学修する。						
授業内容（到達目標を含む）						
（井上真人／15回） - 保健医療福祉の支援を必要とする当事者とその家族に対して全人的に対応、合理的配慮ができる。 →当事者・家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握できる。 - 被援助者、および、他の援助者との関係形成の必要性と方法を理解する。 →対象者との関係構築の必要性について述べるができる。 →自己のコミュニケーションや対人関係の傾向を知ることができる。 →被援助者、および、他の援助者とのコミュニケーションスキルを身につけることができる。 - 医療チームの構成員としての役割を理解し、保健医療福祉の幅広い職種からなる他のメンバーと協調、信頼関係を構築することができる。 →関係機関や諸団体の担当者とコミュニケーションがとれる。						
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
他者配慮と信頼関係のプロセスについて具体的に理解するため、教科書及び授業で紹介する資料などで自己学習を行う。						
教材						
テキスト：保健・医療・福祉教育にいかす簡易型認知行動療法実践マニュアル。大野裕・田中克俊（著／監修），きずな出版，2017年 参考図書：マインドフルネスを医学的にゼロから解説する本 医療者のための臨床応用入門。佐渡充洋・藤澤大介（編著），日本医事新報社，2018 （その他、適宜紹介する）						
授業計画及び学習課題（予習・復習）						
回	内容	学習課題（予習・復習）				遠隔授業
第1回	対話，協働的パートナーシップ ：What is important for you? (Wify) 対話からの健康教育・ヘルスプロモーション 看護過程における協働的パートナーシップ	予習：既習の看護過程における、健康教育・ヘルスプロモーションをふり返る。 復習：対話と協働的パートナーシップを通して他者配慮と信頼関係構築のプロセスを理解する。				可
第2回	看護過程に活かす他者配慮と信頼関係 ：メンタルヘルス・ファースト・エイド	メンタルヘルス・ファースト・エイドの実践例を通して、他者配慮と信頼関係の構築のプロセスを理解する。				可
第3回	ペプロウ：人間関係の看護論、ウィーデンバック、オーランド等に学ぶプロセス・レコードによるリフレクション（省察）	人間関係の看護論，プロセス・レコードを通して他者配慮と信頼関係構築のプロセスを理解する。				可
第4回	カリスタ・ロイ：適応看護論より ・自己概念様式，相互依存様式，役割機能様式	適応看護論のアセスメントを通して，他者配慮と信頼関係構築のプロセスを理解する。				可
第5回	対人関係療法より，対人関係のアセスメント	対人関係療法の技法を通して，他者配慮と信頼関係構築のプロセスを理解する。				可

第6回	自己理解と他者理解 ：認知療法・認知行動療法：行動活性化	認知療法・認知行動療法の行動活性化の技法を通して自己理解と他者理解のプロセスを理解する。	可
第7回	自己理解と他者理解 ：認知療法・認知行動療法：認知再構成法	認知療法・認知行動療法の認知再構成法を通して自己理解と他者理解のプロセスを理解する。	可
第8回	自己理解と他者理解 ：認知療法・認知行動療法：問題解決スキル	認知療法・認知行動療法の問題解決のスキルを通して自己理解と他者理解のプロセスを理解する。	可
第9回	他者配慮と信頼関係 ：認知療法・認知行動療法：アサーション	アサーションのスキルを通して、他者配慮と信頼関係構築のプロセスを理解する	可
第10回	コミュニケーション技法：相手の話を聴く難しさ、どのような印象を与えるのかを体験。	コミュニケーション技法を通して、他者配慮と信頼関係構築のプロセスを理解する	可
第11回	コミュニケーション技法：関係を構築し、相手の感情をキャッチして言葉にして伝える体験	コミュニケーション技法を通して、他者配慮と信頼関係構築のプロセスを理解する	可
第12回	コミュニケーション技法：傾聴のトレーニングを体験	コミュニケーション技法を通して、他者配慮と信頼関係構築のプロセスを理解する	可
第13回	心理的柔軟性：マインドフルネス、アクセプタンス&コミットメント（ACT）	心理的柔軟性：マインドフルネス, ACTを通して他者配慮と信頼関係構築のプロセスを理解する	可
第14回	心理的柔軟性：マインドフルネス, コンパッション, セルフコンパッション	心理的柔軟性:マインドフルネス, コンパッションを通し他者配慮と信頼関係構築のプロセスを理解する	可
第15回	医療現場の人間関係 ：バーンアウト, ワークエンゲイジメント	医療チームの構成員として、他者配慮と信頼関係構築のプロセスを理解する	可
試験（50%）、受講課題に関する提出物（50%）により評価する。□			
オフィスアワー			
授業前後に、質問を受け付けます。			

講義科目				
科目区分	基本教育科目-人間力の養成			人間力 ○
授業コード	111018			ケア・スピリット
授業科目名	健康と運動			実践的理解 ○
配当学年/ 学期	1年 後期 必修	単位数	1	プロフェッショナリズム
担当教員	青木成広			多職種連携

講義概要			
スポーツ医・科学と健康について学習する。生涯に亘って健康の保持増進を図るためには、スポーツ等を実践することが必要であり、そのための基礎知識を学習する。			
授業内容（到達目標を含む）			
1. スポーツ医・科学と健康について理解する。 2. スポーツの実践及びトレーニングのための基礎知識を習得し、健康の保持増進を図る。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
1. 運動の実践では運動のできる服装と体育館シューズ・運動靴の着用してください。 2. 眼鏡やアクセサリ類の着用は避けてください。 3. 怪我や病気などで運動の実践に支障がある場合は申し出てください。			
教材			
指定しない			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	ガイダンス	本講義の目的・意義及び授業展開について グループ決め・課題決め・予定プログラム	
第2回	グループワーク	課題遂行	
第3回	グループワーク	課題遂行	
第4回	グループ発表	課題発表	
第5回	実践運動スポーツの集約・方法・計画	実践運動スポーツプログラム	
第6回	実践運動スポーツの実施	運動スポーツ種目 レクリエーション	
第7回	実践運動スポーツの実施	運動スポーツ種目 レクリエーション	
第8回	実践運動スポーツの実施	運動スポーツ種目 レクリエーション	
第9回	実践運動スポーツの実施 障害者スポーツ実践	運動スポーツ種目 レクリエーション障害者スポーツ種目	
第10回	実践運動スポーツの実施 障害者スポーツ実践	運動スポーツ種目 レクリエーション障害者スポーツ種目	
第11回	実践運動スポーツの実施 障害者スポーツ実践	運動スポーツ種目 レクリエーション障害者スポーツ種目	

第12回	実践運動スポーツの実施	運動スポーツ種目 レクリエーション	
第13回	実践運動スポーツの実施	運動スポーツ種目 レクリエーション	
第14回	実践運動スポーツの実施	運動スポーツ種目 レクリエーション	
第15回	実践運動スポーツの実施	運動スポーツ種目 レクリエーション	
評価方法			
出席・授業態度100%			
オフィスアワー			
月曜～木曜日 8:45～17:35 5号館 講義に対応する。			

講義科目					る デ イ プ ロ マ ポ リ シ ー を 達 成 す た め に 必 要 な 能 力		
科目区分	基本教育科目-人間力の養成					人間力	○
授業コード	111019					ケア・スピリット	○
授業科目名	地域活動と社会貢献					実践的理解	
配当学年/ 学期	1年 後期 選択		単位数	2		プロフェッショナルizm	
担当教員	市川季夫					多職種連携	

講義概要			
社会貢献は、その活動が他者に強制されたものではなく、自発的・自主的な活動であること、中でも地域活動としての社会貢献活動は、その活動自体が公共的、社会的であり、自己実現欲求の充足等が活動の意義や要素と考えられる。社会貢献活動を通じて、住民の様々な意向やニーズを直接的に把握し、社会的な課題として顕在化させ、社会に反映させていく役割が期待されており、質の高い看護活動を更に深化させることにもつながることを理解する。			
授業内容（到達目標を含む）			
変動する社会のなかで、さまざまな地域活動の実際を通して、生命と健康を守る仕事の大切さを学ぶ。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
新聞などのニュースを通して社会問題に関心を持つ。なお、本科目は予習及び復習時間として120分を設定している。			
教材			
テキスト 特定のテキストは使いません。新聞記事などを教材とします。 参考図書			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	オリエンテーション、地域活動と社会貢献	看護師・保健師との関わりから	
第2回	戦後日本の地域・人口の変動	人口・産業の地域間格差を学ぶ	
第3回	災害地における地域活動	地震、台風、洪水など	
第4回	阪神・淡路大震災の教訓から学ぶ	ゲスト講師：畑 吉節末教授	
第5回	災害時における看護師の活動について学ぶ	その時看護師はどのような活動を行ったか	
第6回	岐阜県における災害を知る	岐阜県における過去の災害を調べる（G）	
第7回	岐阜県における災害に備えて	その時、看護師はどのように活動するか（G）	
第8回	災害地域で看護活動に取り組む①	地域で活動母体をつくる（G）	
第9回	災害地域で看護活動に取り組む②	看護ニーズを把握する（G）	
第10回	災害地域で看護活動に取り組む③	組織を運営する力を学ぶ（G）	
第11回	災害地域で看護活動に取り組む④	活動の内容をまとめる（G）	
第12回	グループ発表①	1グループ20分	
第13回	グループ発表②	1グループ20分	
第14回	グループ発表③	1グループ20分	
第15回	総括	講師からのまとめ。	
評価方法			

授業の参加状況10%、グループ運営 20%、レポート 70%により評価する。
オフィスアワー

講義科目					ディ プ ロ マ ポ リ シ ー を 達 成 す た め に 必 要 な 能 力		
科目区分	基本教育科目-人間の理解					人間力	○
授業コード	111020					77・スピリット	○
授業科目名	現代の倫理					実践的理解	
配当学年/ 学期	1年 前期 必修		単位数	2		プロフェッショナリズム	
担当教員	鷲見コト江					多職種連携	

講義概要

現代社会における様々な倫理の問題について、具体的なテーマを使って考察し理解を深める。現代社会のジレンマや難問に直面したとき、どのように考えるのがよいのか、その示唆を与えてくれる考え方を学修し、看護の対象となる人の理解につなげることが科目の目的である。

授業内容（到達目標を含む）

倫理学あるいは道徳哲学は、特に価値と規範の基礎付けにかかわる哲学の一部であり、古代ギリシアから始まる哲学の先人たちが、「人間はいかに生きるべきか、人生はいかにあるべきか」という問いに答えようとした学問である。価値すなわち善悪、規範すなわち義務と禁止の意味を考えながら、現代の問題に自分なりの答えを出す方法を学びます。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

ノートを準備しておくこと。ノートや資料を読み返し、学習課題についてよく考えること。なお、本科目は予習及び復習時間として120分を設定している。

教材

テキスト 指定しない。
参考図書 講義中に指示します。

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	倫理と道徳	倫理とは	
第2回	論理的判断	価値判断の方法	可
第3回	現代の倫理的課題	SDGsと感染症	可
第4回	ホセ・ムヒカの倫理観	発展と幸福	
第5回	アリストテレスの倫理学	善と幸福	可
第6回	デカルトの道徳論	学問と道徳	可
第7回	スピノザの倫理学 I	人間とは	可
第8回	スピノザの倫理学 II	徳とは	可
第9回	カントの道徳論 I	義務と欲望	可
第10回	カントの道徳論 II	道徳と幸福	可
第11回	生命と倫理	医療倫理とは	可
第12回	認知症と人権	アルツハイマー型認知症とは	
第13回	ユマニチュードの倫理観	看護と人権	

第14回	育児と人権	虐待とは	
第15回	人体と健康	人体とは	
評価方法			
授業の参加状況10%、学習課題 40%、最終試験またはレポート50%により評価する。			
オフィスアワー			
講義後 15分間 非常勤講師控室			

講義科目					ディ ブ ロ マ ポ リ シ ー を 達 成 す る た め に 必 要 な 能 力	人間力	○	
科目区分	基本教育科目-人間の理解					ケア・スピリット		
授業コード	111021					実践的理解		
授業科目名	心理と行動					プロフェッショナルリズム		
配当学年/ 学期	1年	後期	選択	単位数		2	多職種連携	
担当教員	野田みや子、小野悟							

講義概要			
心理学は、人の心や行動のメカニズムを研究する学問であり、また行動科学はその心理学の手法を応用して、現代社会における人の行動を広く研究する学問である。この科目では、社会の中で人がとる行動のメカニズムや対人関係、集団心理などの社会的行動などを心理的側面から分析し、人間の理解を深めることが目的である。			
授業内容（到達目標を含む）			
社会生活に活用できる心理学の基本概念を学び、現場の事象を心理学的にとらえ、人の理解や対応に活かす力を身につける。鍵概念は、「発達」「動機づけ」「学習」「知的能力」「社会性」「不適応」「障害」等である。他にも、評価や集団等の重要な概念も学ぶ。これらは単なる知識だけではなく、自分自身の振り返り、将来の職場での自分のあり方のイメージ作り等、自分の内面の豊かさに結び付く。必要に応じて視聴覚教材を取り入れて進めていく。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
授業中に発表を求めます。分からないことがあれば積極的に質問すること。確認テストはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。			
教材			
テキスト 特に指定しない（授業ごとに、必要な資料を配布する） 参考図書「生涯人間発達論」（第3版）服部祥子著、医学書院、2020年、2,310円（税込） 「系統看護学講座-基礎分野-、心理学」（第6版）山村豊著、医学書院、2017年、2,530円（税込）			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	オリエンテーション 対人援助職が心理学を学ぶ意義 心理学の概念と歴史 (小野)	予習：指定参考図書に目を通す 復習：心理学を学ぶ意義についてまとめる 予習時間：30分、復習時間60分	可
第2回	学習の定義とその仕組み 行動の特性と行動分析学の基本的理解 (小野)	予習：指定参考図書に目を通す 復習：学習の定義と仕組みについてまとめる 予習時間：30分、復習時間60分	可
第3回	オペラント条件付けの4つの基本パターン 行動随伴性の理解、随伴性ダイアグラムを用いた行動分析の実践 (小野)	予習：指定参考図書に目を通す 復習：随伴性ダイアグラムを用いた行動分析を行う 予習時間：30分、復習時間60分	可
第4回	記憶の理解 記憶の定義、記憶のプロセスと分類 記憶の特徴と忘却、記憶の重要性 (小野)	予習：指定参考図書に目を通す 復習：記憶の分類、プロセスについてまとめる 予習時間：30分、復習時間60分	可
第5回	動機づけ：理論と実際 (野田)	予習：指定された参考図書に目を通す 復習：2つの動機づけ理論について、理解する ※授業開始時 5minutes test 予習時間：30分、復習時間60分	可
第6回	パーソナリティの心理学的定義 パーソナリティの理論 パーソナリティの病理、心理検査 (小野)	予習：指定された参考図書に目を通す 復習：パーソナリティ理論についてまとめる 予習時間：30分、復習時間60分	可

第7回	外界を理解する心の働き：知覚 外界を知覚するプロセス 感覚、知覚の特徴①視覚②聴覚 (小野)	予習：指定された参考図書に目を通す 復習：知覚の特徴についてまとめる 予習時間：30分、復習時間60分	可
第8回	思考・言語・知能 思考と問題解決、言語とコミュニケーション、知能検査と知的障害 (小野)	予習：指定された参考図書に目を通す 復習：思考と言語の特徴についてまとめる 予習時間：30分、復習時間60分	可
第9回	感情の諸相 感情の定義とその要素 感情のメカニズム (小野)	予習：指定された参考図書に目を通す 復習：感情と言語の特徴についてまとめる 予習時間：30分、復習時間60分	可
第10回	適応①不登校 (野田)	予習：指定された参考図書に目を通す 復習：不登校の問題について、理解する ※授業開始時 5minutes test 予習時間：30分、復習時間60分	可
第11回	適応②いじめ (野田)	予習：指定された参考図書に目を通す 復習：いじめのメカニズムと防止方法を、理解する ※授業開始時 5minutes test 予習時間：30分、復習時間60分	可
第12回	発達障害①：発達障害とは、事例 (野田)	予習：指定された参考図書に目を通す 復習：発達障害の諸相について、理解する ※授業開始時 5minutes test 予習時間：30分、復習時間60分	可
第13回	発達障害②：発達障害への援助 (野田)	予習：指定された参考図書に目を通す 復習：発達障害のアセスメントと、支援方法について、理解する ※授業開始時 5minutes test 予習時間：30分、復習時間60分	可
第14回	社会と集団 組織・集団の構造と機能 社会現象と集団心理 (小野)	予習：指定された参考図書に目を通す 復習：集団心理の特徴についてまとめる 予習時間：30分、復習時間60分	可
第15回	医療・看護と心理 患者の心理、医療・看護職の心理特性 まとめ (小野)	予習：指定された参考図書に目を通す 復習：患者心理の特徴についてまとめる 予習時間：30分、復習時間60分	可
評価方法			
授業態度10%、レポート10%、最終試験80%により評価する。			
オフィスアワー			
野田：月曜・水曜・木曜・金曜の16:10分から17:00まで、研究室（2） 事前にアポイントメントを取ってください。連絡先 e-mail m-noda@gifuhoken.ac.jp 小野：月曜・火曜・水曜・金曜の12:30分から17:00まで 事前にアポイントメントを取ってください。連絡先 e-mail s-ono@gifuhoken.ac.jp			

講義科目						ディ ブ ロ マ ポ リ シ ー を 達 成 す る た め に 必 要 な 能 力	人間力	○
科目区分	基本教育科目-人間の理解						ケア・スピリット	
授業コード	111022						実践的理解	
授業科目名	学習と行動						プロフェッショナリズム	
配当学年/ 学期	1年 前期 選択			単位数	2		多職種連携	
担当教員	稲葉政徳							

講義概要			
人の行動は実に多種多様であり、行動を引き起こす動機や欲求は周囲の環境が大きく影響する。とくに問題行動については患者など対象者の尊厳を維持しつつ望ましい行動へと変容していくスキルが必要となる。本講義では、応用行動分析学の観点から多様な学習と行動のプロセスを学び、人間理解へとつなげていくことを目的とする。			
授業内容（到達目標を含む）			
応用行動分析学をベースとして、人の行動を観察し、分析する思考を養う。また、レポート作成を通して各々が学びを総括していく。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
講義時に指定する。なお、本科目は予習及び復習時間として120分を設定している。			
教材			
テキスト「リハビリテーション効果を最大限に引き出すコツ」山崎 裕司，山本 淳一 三輪書店 第3版 参考書「リハビリテーションのための脳・神経科学入門」、森岡周、協同医書出版、2016年 3,024円			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	行動と行動分析学の基礎	人の行動とは何か？行動を分析することとは	
第2回	学習とは、行動とは何か	人が行動しながら学習していくことについて	
第3回	応用行動分析学の基礎	応用行動分析学とは何か	
第4回	行動への働きかけ	行動分析における3項関係とは何か？	
第5回	好子と嫌子	人の行動を左右する好子、嫌子とは？	
第6回	刺激的制御、行動への働きかけ	いかに望ましい行動には働きかけるか？	
第7回	発達障害児の問題行動①行動定着と原因分析	場面にそぐわない行動の原因とは？	
第8回	発達障害児の問題行動②日常生活場面	問題行動を分析し、適切な対応を検討する	
第9回	強化子ほか	人の行動を強化する因子とは	
第10回	セルフ・マネジメント行動ほか	本人に自らの行動を意識させるということ	
第11回	日常生活活動の練習場面での行動分析	リハビリ練習に伴う問題を観察し、分析していく	
第12回	日常生活動作練習への介入	リハビリ練習で本人にやる気が出ないのは？	

第13回	動作学習の行動分析学的考察	障害や受傷後の動作練習をどう考え介入するか	
第14回	認知症患者への応用	認知症患者への応用行動分析学的アプローチ	
第15回	認知症事例から学ぶ	認知症患者の問題行動をいかに分析するか	
評価方法			
授業の参加状況10%、最終レポート作成90%により評価する。			
オフィスアワー			
火曜日から金曜日の16時20分から 講義時に指定する。			

講義科目					る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す			
科目区分	基本教育科目-人間の理解					人間力	○	
授業コード	111023					ケア・スピリット		
授業科目名	健康と生活					実践的理解		
配当学年/ 学期	1年	前期	選択	単位数		2	プロフェッショナルリズム	
担当教員	稲葉政徳					多職種連携		

講義概要			
健康と生活との関係について学修する。基本的な生活習慣としては、食生活、睡眠、嗜好、社会参加などがあげられるが、様々な生活習慣と健康の関係について学修する。これらの生活習慣は健康に直接大きく関連しているのみでなく、特に食生活を例にとると、楽しさといった生活の質にも大きく関係する要素である。また、高齢者では生きがいなども密接な関係があることが明らかになっている。			
授業内容（到達目標を含む）			
地域、社会、家庭において「健康」をどうとらえるか。毎回の講義は、知識だけでなく考える力を養う機会としていく。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
講義時に指定する。なお、本科目は予習及び復習時間として120分を設定している。			
教材			
テキスト：「テキスト健康科学」改訂第2版 竹内康浩、田中豊(監修)、南江堂、2,860円(税込) 参考図書：健診・健康管理専門職のための新セミナー生活習慣病 第2版 日本医事新報社（税込3,456円）			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	現代の健康問題概観	新聞などで健康問題、医療福祉についての話題を閲覧しておくこと	
第2回	心の健康と不健康	現代人とストレスについて考えてみましょう	
第3回	薬物依存	人はなぜ違法薬物に手を染めるのか	
第4回	栄養・健康に関する社会的諸問題	栄養過多と栄養不足について考えてみましょう	
第5回	生活習慣病と身体運動について①	肥満の発症メカニズムとその予防、改善方法	
第6回	生活習慣病と身体運動について②	糖尿病の発症メカニズムと予防方法	
第7回	生活習慣病と身体運動について③	高血圧、動脈硬化の発症メカニズムと改善方法	
第8回	生活習慣病と身体運動について④	脂質異常症の発症メカニズムと改善方法	
第9回	加齢と健康の科学①	サルコペニア、栄養摂取	
第10回	加齢と健康の科学②	ロコモティブシンドローム、フレイルの予防	
第11回	健康増進のための運動の科学①	筋力トレーニング	
第12回	健康増進のための運動の科学②	持久性トレーニング	

第13回	社会と健康	社会は人の健康を重んじているのだろうか？	
第14回	情報技術の革新と健康	デジタル社会が人に与える健康面の問題とは？	
第15回	交通・輸送の革新と健康	自動車という存在の功罪について学びましょう	
評価方法			
授業の参加状況10%、、最終レポート作成90%により評価する。			
オフィスアワー			
火曜日から金曜日の16時20分から 講義に指定する。			

講義科目					る た め に 必 要 な 能 力 を 達 成 す		
科目区分	基本教育科目-人間の理解					人間力	○
授業コード	111024					知・スピリット	
授業科目名	岐阜県の歴史と文化					実践的理解	
配当学年/ 学期	1年 後期 選択		単位数	2		プロフェッショナリズム	
担当教員	野田みや子【実務該当教員】、高久道子【実務該当教員】					多職種連携	

講義概要			
学外のフィールド調査を通じて、岐阜県の郷土の歴史、祭りや受け継がれる伝統、自然環境や生活を理解することで、岐阜県の歴史と文化について学び、地域の特性、長所や課題についても理解する。授業ではアクティブラーニングの手法を重視し、学生自身による調査、研究、発表により授業を進める。			
授業内容（到達目標を含む）			
グループごとに岐阜県内の市・町のフィールド調査（地域診断）を行うことで、その市・町の統計や社会的資源、歴史、文化、自然環境、生活習慣を調べ、岐阜県で暮らす人々の暮らし、または課題について学ぶ。 到達目標： 1) 地域診断についての手法を学び、理解する。 2) 地域診断で選んだ市・町を訪問・観察・考察し、他の人に説明することができる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
講義内で、グループで地域診断する市・町を訪問する日を設けている。この科目の単位修得には約60時間の授業時間以外の学修（学習課題、予習・復習に示されている内容の学修）が必要であり、シラバスを熟読して学習を進めること。講義内容についての考察を講義時間内に行う。2/3以上の出席がない場合は課題レポート提出の権利がなく、単位を取得することができない。20分以上の遅刻は欠席とみなす。			
教材			
教科書は特に指定しない。随時講義資料を配布する。 参考図書：岐阜県ホームページ、岐阜県の概要、 https://www.pref.gifu.lg.jp/page/109.html			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	オリエンテーション	予習：地域診断（配布資料）を熟読する。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第2回	岐阜県の歴史と文化を調べる： 地域診断の手法	予習：地域診断（配布資料）を熟読する。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第3回	地域診断の確認、地区視診の手法、グループ分け、地域診断場所決め	予習：地域診断を行う場所について調べる。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	不可
第4回	各グループの地域診断の準備	予習：地域診断を行う場所について調べる。 復習：講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	不可
第5回	岐阜県内の地域診断①	予習：地域診断を行う場所について調べる。 復習：訪問先の状況や質的データをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	不可
第6回	岐阜県内の地域診断②	予習：地域診断を行う場所について調べる。 復習：訪問先の状況や質的データをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	不可
第7回	岐阜県内の地域診断③	予習：地域診断を行う場所について調べる。 復習：訪問先の状況や質的データをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	不可
第8回	岐阜県内の地域診断④	予習：地域診断を行う場所について調べる。 復習：訪問先の状況や質的データをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	不可

第9回	岐阜県内の地域診断⑤	予習：地域診断を行う場所について調べる。 復習：訪問先の状況や質的データをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	不可
第10回	岐阜県内の地域診断⑥	予習：地域診断を行う場所について調べる。 復習：訪問先の状況や質的データをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	不可
第11回	地域診断のまとめ①	予習：グループ発表データをまとめる。 復習：グループ発表データをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	不可
第12回	地域診断のまとめ②	予習：グループ発表データをまとめる。 復習：グループ発表データをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	不可
第13回	地域診断のまとめ③	予習：グループ発表データをまとめる。 復習：グループ発表データをまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	不可
第14回	地域診断の結果グループ発表①	予習：グループ発表データから課題レポートを作成する。 復習：他グループの発表内容をまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	不可
第15回	地域診断の結果グループ発表②、講評と総括	予習：課題レポート作成の準備を行う。 復習：他グループの発表内容をまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	不可
評価方法			
グループ発表30%、課題レポート70%より評価する。			
オフィスアワー			
事前にメールでアポイントを取ってください。 野田みや子：月、水、木、金の16:00～17:00 連絡先 m-noda@gifuhoken.ac.jp 高久道子：木曜以外の平日、昼休み対応可。 連絡先 m-takaku@gifuhoken.ac.jp			

講義科目					る デ た め プ ロ マ ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	基本教育科目-人間の理解					人間力	○
授業コード	111025					ケア・スピリット	○
授業科目名	多文化と多様性の理解					実践的理解	
配当学年/ 学期	1年 前期 必修	単位数	2			プロフェッショナリズム	
担当教員	内藤直子【実務該当教員】、高久道子【実務該当教員】					多職種連携	

講義概要

医療の場では、国籍や人種、文化、宗教、生活習慣、ジェンダー、セクシュアリティ等、個々の患者の多様性を看護職者として理解し、信頼関係を構築して看護ケアを実践することが求められる。この科目では、異文化理解や異文化コミュニケーションに関連する文献等を通じて異なる文化を理解し、多文化社会に触れる機会を持ち、実際に看護の現場で起こる課題に対応できる知識や非言語コミュニケーションスキル等を学修し、多様な文化背景を持つ人を受け入れる人間力を養う。

授業内容（到達目標を含む）

多文化と多様性、異文化コミュニケーションに関する文献を読み解く。
履修学生は、講義で実施されるグループワークやディスカッションに対して積極的に参加する。
履修学生は、想像力・考察力を高めるためにレポート課題を提出する。
到達目標：
1. 「多文化と多様性の理解」について説明できる。
2. 異なる文化を尊重しようとする寛容性を獲得すると同時に、自己のもつ文化とアイデンティティを認識する。
3. 異なる文化・宗教・言語等を有する人々に対する看護の在り方「異文化看護」理論の基礎的知識を獲得する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

国際社会の今日、在日外国人の医療アクセスも増加し、多文化を理解した看護実践を行うために、本科目は重要である。履修学生は、この科目の単位修得には約60時間の授業時間以外の学修（学習課題：予習・復習に示されている内容の学修）が必要であり、シラバスを熟読して学習を進めること。講義内容についての考察を講義時間内に行う。2/3以上の出席がない場合は課題レポート提出の権利がなく、単位を取得することができない。20分以上の遅刻は欠席とみなす。

教材

教科書1：「知って考えて実践する 国際看護」、近藤麻里、医学書院（1,800円+税）
教科書の2は割愛

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	オリエンテーション、講義「多文化と多様性の理解」のイントロダクション	予習：教科書1：第1章2を熟読する。 復習：ハラル認証と食品、製品について300字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第2回	日本で暮らす外国籍の人々の背景1：「東・中央アジア地域」	予習：教科書1：第1章5を熟読する。 復習：アルマアタ宣言、プライマリヘルスケアについて各200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第3回	日本で暮らす外国籍の人々の背景2：「東南アジア地域」	予習：教科書1：第2章1を熟読する。 復習：講義内容について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第4回	日本で暮らす外国籍の人々の背景3：「中南米地域」	予習：教科書1：第2章3を熟読する。 復習：難民の定義と難民支援を行う国際機関について各300字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可

第5回	日本で暮らす外国籍の人々の背景4： 「北米、ヨーロッパ、オセアニア地域」	予習：教科書1：第1章1を熟読する。 復習：講義内容について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第6回	日本で暮らす外国籍の人々の背景5： 「中東、アフリカ地域」	予習：教科書1：第2章6を熟読する。 復習：講義内容について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第7回	自己とアイデンティティ	予習：教科書1：第2章5を熟読する。 復習：講義内容について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第8回	ステレオタイプとスティグマ	予習：教科書1：第2章4を熟読する。 復習：講義内容について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第9回	ジェンダー、セクシュアルマイノリティ (LGBTQ)	予習：教科書1：第2章2を熟読する。 復習：講義内容について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第10回	1. 母子保健の国際化、現状と看護課題、 2. 世界の出産の文化的多様性とリプロダク ティブ	予習：国際化社会で異文化看護の現状を考える。 復習：世界の出産文化を200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第11回	異文化看護の視点：専門看護の実践から	予習：教科書1：第3章を熟読する。 復習：講義内容について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第12回	日本で暮らす外国籍住民の理解：グループワー ク1	予習：教科書1：第4章1を熟読する。 復習：グループワークで選定した国について、文 化、生活習慣、価値観、保健医療に関する考え 方の情報収集を行う。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第13回	日本で暮らす外国籍住民の理解：グループワー ク2	予習：教科書1：第4章2を熟読する。 復習：グループワークで選定した国について、文 化、生活習慣、価値観、保健医療に関する考え 方の情報収集からまとめを行う。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第14回	日本で暮らす外国籍住民の理解：グループ発表	予習：グループ発表準備を行う。 復習：他のグループ発表で得られた理解について 300字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第15回	日本で暮らす外国籍住民の理解：グループ発表 2、講評と総括	予習：グループ発表・課題レポート準備を行う。 復習：他のグループ発表で得られた理解について 300字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
評価方法			
復習課題の提出20%、課題レポート60%、グループワーク20%より評価する。 S (100～90点)：「多文化と多様性」について説明し、異文化に対する寛容性を獲得し、異文化看護の実践力を獲得する。 A (89～80点)：「多文化と多様性」について説明し、異文化に対する寛容性を獲得し、異文化看護の知識を得る。 B (79～70点)：「多文化と多様性」について説明し、異文化に対する寛容性を獲得する。 C (69～60点)：「多文化と多様性」について説明できる。 D (60点未満)：Cのレベルに達していない。			
オフィスアワー			
内藤直子：n-naitoh@gifuuoken.ac.jp 高久道子：木曜以外の平日、昼休み対応可。連絡先 m-takaku@gifuuoken.ac.jp			

講義科目					る デ イ ブ ロ マ ポ リ ン ー を 達 成 す た め に 必 要 な 能 力	人間力	○
科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解					ゲ・スピリット	○
授業コード	111026					実践的理解	
授業科目名	人体構造機能学Ⅰ					プロフェッショナリズム	
配当学年/ 学期	1年 前期 必修		単位数	2		多職種連携	
担当教員	永井博弐						

講義概要				
人体のしくみを各器官のはたらき・生理学的機能と関係付けて学修し、機能形態学から生命現象の基本を理解する。前半は多細胞生物の成り立ちを細胞レベルで理解するために細胞の構造と機能、細胞の増殖・分化、老化についての細胞生物学を学び、後半は人体の構成と機能（骨格、関節、筋肉、感覚、脳・神経系、内分泌、循環、血液、呼吸）について生理解剖学の基礎を理解する。				
授業内容（到達目標を含む）				
人体の構造と機能を細胞・組織・器官・器官系の順に学び、体の基本構造と生命活動の基本を理解して説明できるようにする。特に、第一段階として、細胞の構造と機能を理解することにより、生命現象の本質を述べることができることと、次いで、各器官の基本的な機能を理解したのち、器官間での相互作用について、説明できる。化学伝達物質および神経での電気的な変化を介する機構については詳しく説明できることを目的とする。				
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）				
生理学を理解するためには基礎となる生物学の理解が必須である。従って、生物学と生理学での基本的な用語をまず理解する。そのためには少なくとも各講義の前に1時間、教科書および教材資料を予習をして用語を正しく理解しておく。さらに、各講義のあと、プリントで單元ごとの復習をするので、それを完全に理解するまで、教科書および参考書で調べて理解すること（1時間）。わからないことがあればそのままにしないで、必ず質問をして理解をしておくこと。				
教材				
新体系 看護学全書 人体の構造と機能1 解剖生理学 坂井建雄・岡田隆夫著				
授業計画及び学習課題（予習・復習）				
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業	
第1回	生理学概論	生理学とは、細胞・組織・器官・器官系	可	
第2回	細胞生理学	細胞の構造と機能、細胞小器官、代謝、分裂	可	
第3回	細胞、組織、ホメオスタシス	上皮・結合・神経・筋組織、ホメオスタシス	可	
第4回	神経生理学	神経細胞・中枢神経系	可	
第5回	神経生理学	中枢神経系・末梢神経系	可	
第6回	運動神経と筋	筋肉の種類、筋収縮、運動	可	
第7回	感覚神経と感覚	特殊感覚、体性感覚、内臓感覚、感覚受容器	可	
第8回	心・循環器系	心臓、血管、循環	可	
第9回	血液系	血液、血漿、血球、免疫	可	
第10回	呼吸器系	呼吸器、呼吸筋、呼吸測定、呼吸調節	可	
第11回	消化器系	消化器、消化、吸収、排泄、運動	可	

第12回	泌尿器系	泌尿器、尿生成、体液バランス、排尿	可
第13回	内分泌系	内分泌器官、ホルモンの種類と生理作用	可
第14回	神経・内分泌・免疫	生体防御、ホメオスタシス、炎症、再生	可
第15回	生殖・発生・老化	生殖・発生・老化	可
評価方法			
定期試験 80%、提出物・レポート 20%			
オフィスアワー			
月曜日から水曜日の午後（13時から17時まで）			

講義科目					る デ イ プ ロ マ ポ リ ン ー を 達 成 す た め に 必 要 な 能 力		
科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解					人間力	
授業コード	111027					ケア・スピリット	
授業科目名	人体構造機能学Ⅱ					実践的理解	○
配当学年/ 学期	1年 後期 必修		単位数	2		プロフェッショナリズム	
担当教員	小萱康徳					多職種連携	

講義概要			
人体の基本的な解剖学的構造の学修は、その機能、疾病および病態の理解の礎となる。本科目では肉眼解剖学的及び組織学的に人体を構成する各器官系（骨格系、筋系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系）の構造と機能を学修する。全身の運動器系（骨格系、筋系）と神経系の関わりを理解する。循環器系では血管系とリンパ管系の関係、体循環と肺循環、血管（動静脈、毛細血管）の構造を理解する。各内分泌器官の組織構造と分泌ホルモンの働きを理解する。腎臓が有する機能の多様性を学修する。生殖器の構造の性差および相同性について、その発生過程を通して学修する。			
授業内容（到達目標を含む）			
授業ではパワーポイント資料と板書を基軸とするが、人体を構成する各器官の解剖学的及び組織学的視覚素材を学生と共有し（ポータルサイト等）、必要に応じて授業の補助教材とする。授業内容に関連した国家試験問題を中心とした練習問題を、各授業ごとに提示するので、授業後これら練習問題を解くことで授業理解度を確認し必ずすべての問題が正解できるようにする。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
2/3以上の出席がない場合は定期試験の受験資格を失う。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。各授業ごとに練習問題をポータルサイトにアップするので、問題を解いて授業理解度を確認する。すべての問題の正答が分かり、さらに誤答肢が何故間違いなのかも調べその結果を課題レポートとして提出する。なお、本科目は予習及び復習時間として120分を設定している			
教材			
テキスト：解剖生理学 人体の構造と機能 ① 坂井建雄・岡田隆夫著（医学書院）			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	人体の構造の概要	人体の形状（体幹と体肢の各部位の名称）及び方向と位置を示す用語について説明できる。人体内部の腔所（頭蓋腔、脊柱管、胸腔、腹腔、骨盤腔）を説明できる。	
第2回	全身の骨と関節	人体の骨格（頭部、体幹、上肢、上肢帯、下肢および下肢帯の骨）の構成並びに各骨間の関節について説明できる。	
第3回	骨格筋の構造と働き	骨格筋の構造（形状による分類、起始と停止）、上肢の屈筋と伸筋、下肢の屈筋と伸筋、背部と胸腹部の筋、腸腰筋、殿筋（筋肉注射）を説明できる。	
第4回	呼吸器系	上気道（鼻腔、咽頭、喉頭）と下気道（気管、気管支、肺胞）を説明できる。喉頭の声門を開閉する筋を説明できる。	
第5回	消化器系	消化管の基本構造と各部位での粘膜上皮の形態的特徴を説明できる。口腔、食道、胃、十二指腸。空腸、回腸、大腸の構造と機能を説明できる。付属消化腺（唾液腺、膵臓、肝臓）の組織構造とその働きを説明できる。	

第6回	血管系とリンパ管系、心臓	血管系とリンパ管系の関係、心臓の内部構造と出入りする血管、冠状動静脈、心膜を説明できる。動脈と静脈の血管壁の構造の違いを説明できる。	
第7回	全身の動脈系と静脈系	体循環の動脈（上行大動脈、大動脈弓、胸大動脈及び腹大動脈）の主な枝を説明できる。体循環の主な静脈（上・下大静脈、上・下肢の静脈、肝門脈、奇静脈）を説明できる。	
第8回	泌尿器系の組織構造と機能	腎臓、尿管、膀胱、尿道の組織構造を説明できる。腎臓の機能の多様性をその組織構造に基づいて説明できる。	
第9回	ヒトの初期発生の概要	受精、着床、胚盤胞、二層性胚盤、三層性胚盤（外胚葉、内胚葉、中胚葉）、体節、神経管、神経堤細胞に由来する組織等の発生過程を説明できる。	
第10回	生殖器系の発生と性差	男性生殖器と女性生殖器の構造の違いと相同性を説明できる。生殖器系の発生を通して、生殖器の分化と発達過程を説明できる。	
第11回	内分泌器官の組織構造と分泌ホルモン（1）	各内分泌器官（下垂体、甲状腺、上皮小体）の組織構造と分泌ホルモンの働きを説明できる。内分泌と外分泌の違いを説明できる。	
第12回	内分泌器官の組織構造と分泌ホルモン（2）	各内分泌器官（副腎、膵臓、性腺）の組織構造と分泌ホルモンの働きを説明できる。	
第13回	視覚器、聴覚・平衡覚器の組織構造と機能	眼球の組織構造（強膜、角膜、虹彩、毛様体、水晶体、硝子体、網膜、色素上皮、脈絡膜）、蝸牛および半規管の組織構造を説明できる。	
第14回	中枢神経（脳と脊髄）	大脳、間脳、中脳、橋、延髄、小脳、脊髄そして髄膜の位置と構造を説明できる。大脳皮質機能局在、大脳基底核、大脳辺縁系の構造と働きを説明できる。	
第15回	末梢神経（脳神経、脊髄神経、自律神経）	脳神経12対の線維構成と支配領域を説明できる。各脊髄神経（頸神経、胸神経、腰神経、仙骨神経、尾骨神経）の支配領域と伝導路を説明できる。副交感神経（脳仙系）と交感神経の各起始核（節前ニューロンの細胞体）と関連神経節（節後ニューロンの細胞体）並びに各神経の走行経過を説明できる。	
評価方法			
定期試験80%、課題レポート20%により評価する。□			
オフィスアワー			
毎週火曜日16:20～18:00まで			

講義科目					る デ イ プ ロ マ ポ リ ン ー を 達 成 す た め に 必 要 な 能 力		
科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解					人間力	
授業コード	111028					ケア・スピリット	
授業科目名	人体構造機能学Ⅲ					実践的理解	○
配当学年/ 学期	2年 前期 必修		単位数	2		プロフェッショナリズム	
担当教員	小萱康徳					多職種連携	

講義概要			
人体の各機能とその制御機構について学修する。生物が生存のために常に身体の内環境を一定に保ち、生体の各臓器、各部分がどのように機能しているのか、またその機能を制御統合している機構について、感覚器、神経系の形態的特徴とともに理解する。人体の発生、基礎代謝と体温調節、内環境（電解質、酸塩基平衡）、生体内情報伝達（神経系、ホルモン、各種伝達物質等）、中枢神経の構造と機能、脳の統合機能について学修する。また感覚器、自律神経の構造と機能及びそれらの相互作用についても理解を深める。			
授業内容（到達目標を含む）			
1学年で学んだ人体の解剖学的生理学的構成を基礎に、生体が様々な外的及び内的環境の変化に対応して内環境を一定に保って生存を維持する機構について、パワーポイント資料と板書を基軸として授業する。授業で使用する解剖学的及び組織学的視覚素材や関連した練習問題を前もってポータルサイト等に提示するので、予習と復習に活用する。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
2/3以上の出席がない場合は定期試験の受験資格を失う。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。各授業ごとに練習問題をポータルサイトにアップするので、問題を解いて授業理解度を確認する。すべての問題の正答が分かり、さらに誤答肢が何故間違いなのかも調べその結果を課題レポートとして提出する。なお、本科目は予習及び復習時間として120分を設定している			
教材			
テキスト：解剖生理学 人体の構造と機能 ① 坂井建雄・岡田隆夫著（医学書院）			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	ホメオスタシス（恒常性）とは	生体の恒常性維持機構の概略を説明できる。	
第2回	人体の発生とホルモン	下垂体性腺刺激ホルモンと卵胞の成熟、排卵、黄体ホルモン、受精から着床とhCG分泌、胎盤完成過程を説明できる	
第3回	上皮組織の発生過程及び形態的特徴と恒常性	外胚葉性、内胚葉性、中胚葉性上皮組織の発生過程を理解し、上皮の形態的特徴と恒常性維持に果たす役割を説明出来る。	
第4回	内分泌系（1）	各内分泌器官と分泌ホルモンを説明できる。負のフィードバック機構と正のフィードバック機構を説明できる。	
第5回	内分泌系（2）	血中Ca ²⁺ 濃度調節におけるカルシトニンとパロホルモンの機能を説明できる。血糖値の調節機構（高血糖時と低血糖時）における関連ホルモン、神経系、肝臓、筋細胞及び脂肪細胞の関わりについて説明できる。	
第6回	ストレス反応と視床下部・下垂体・副腎皮質系及び視床下部・交感神経・副腎髄質系	ストレス反応と視床下部-下垂体-副腎皮質系（HPA軸）及び視床下部-交感神経-副腎髄質系（SAM軸）の関係を説明できる。副腎髄質の発生由来と交感神経系との関係を説明できる。	

第7回	血圧調節機構	血圧上昇及び下降に関わる要因（心拍出量、末梢血管抵抗、循環血液量、血液の粘着度、大動脈の弾力）と神経性調節及び体液性調節機構を説明できる。	
第8回	泌尿器系(1) 腎臓の機能の多様性と恒常性	腎臓の尿生成、代謝産物排泄、酸塩基平衡調節、レニン分泌、エリスロポエチン、ビタミンD3の活性化作用について腎臓の組織構造に基づいて説明できる。	
第9回	泌尿器系(2) 酸塩基平衡と浸透圧調節	腎臓による体液の組成を一定に保つ機能を、腎臓の組織構造に基づいて説明できる。代謝性及び呼吸性アシドーシスとアルカローシスを説明できる。	
第10回	リンパ系と免疫系	血管系とリンパ管系との関係を理解し、免疫細胞の循環路とリンパ組織での免疫反応について説明できる。	
第11回	感覚器系と恒常性	平衡聴覚器の組織構造を理解し、身体的位置及び運動の感知と反射的平衡維持機構を説明できる。視覚器に関連した対光反射、角膜反射、輻輳反射を説明できる。	
第12回	自律神経系と恒常性	自律神経の走行経過と節前ニューロン、節後ニューロン及び自律神経節について説明できる。各器官に対する交感神経と副交感神経の働きを説明できる。	
第13回	中枢神経系(1) 大脳皮質の一次野と連合野	大脳皮質機能局在を説明できる。一次野と連合野（前頭連合野、頭頂連合野、側頭連合野）の連携と機能障害による高次脳機能障害を説明できる。	
第14回	中枢神経系(2) 間脳と脳幹における生命維持機構	間脳-視床下部（体温調節中枢、摂食調節中枢、飲水調節中枢、下垂体機能調節）と脳幹-延髄（呼吸中枢、心臓血管中枢、嚥下中枢、嘔吐中枢、唾液分泌中枢）の生命維持機構に果たす役割を説明できる。	
第15回	中枢神経と体性神経	中枢神経（脳と脊髄）内における体性神経（感覚神経と運動神経）の伝導路を、求心性伝導路と遠心性伝導路に分け、様々な刺激に対する反射的な反応を迅速に行う過程を説明できる。	
評価方法			
定期試験80%、課題レポート20%により評価する。			
オフィスアワー			
毎週木曜日16:20～18:00まで			

講義科目					る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解					人間力	
授業コード	111029					ケア・スピリット	
授業科目名	栄養代謝学					実践的理解	○
配当学年/ 学期	1年 前期 必修	単位数	1			プロフェッショナリズム	
担当教員	森裕志					多職種連携	

講義概要			
栄養とは生物がその生命を維持するために外界から必要な物質を取り込んで利用する働きであり、取り込んだ物質を利用するために分解したり、取り込んだ物質を材料に、生命が必要とする物質を合成したりする働きを代謝と呼ぶ。本講義では、ヒトの生存に必要な三大栄養素を中心に、どのような構造の物質か、生体内におけるその役割、どのように消化・吸収されるか、細胞内でどのように代謝されるか、疾病との関わり等、主として生化学的な観点から学ぶ。さらに、2年生で受講する栄養治療学における疾病・治療と栄養の関わりを理解するための基礎的知識を得る。			
授業内容（到達目標を含む）			
2年生で受講する栄養治療学における疾病・治療と栄養の関わりを理解するための基礎的知識を得る。 1. 生命の基本構造である細胞の成り立ちと細胞が生きていくための仕組み、それを支える栄養素を説明できる。 2. 炭水化物・糖質の種類と性質を理解し、その消化・吸収と栄養素としての役割を説明できる。 3. 脂質・脂肪酸の種類と性質を理解し、その消化・吸収と栄養素としての役割を説明できる。 4. タンパク質・アミノ酸の種類と性質を理解し、その消化・吸収と栄養素としての役割を説明できる。 5. 呼吸とエネルギー産生の過程を説明できる。 6. 酵素の種類、性質、触媒としての働きを説明できる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
講義時に指定する。			
教材			
テキスト：人体の構造と機能2「栄養生化学」 第5版 編集：脊山洋右ら メヂカルフレンド社 2,700円（税別） 参考図書：栄養学の基本が分かる辞典 監修：川島由起子 西東社 1,750円（税別）			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	人体の細胞の構造、人体の器官、臓器、消化と吸収、同化作用と異化作用の概要を学び、栄養との関連を理解する。 （序章および第一章）	予習90分：細胞の基本的な構造と細胞内小器官を調べる。 復習90分：同化作用と以下作用の違いを説明する。ミトコンドリアの働きを説明する。	可
第2回	栄養と健康の関連を理解する。 食品の種類と分類、それらに含まれる栄養素と栄養価を理解する。 栄養素と栄養価、主要食品の栄養学的特徴を学ぶ。（第二章）	予習90分：教科書の第2章を読む。 復習90分：栄養素の種類を説明する。栄養価とは何かを説明する。必須アミノ酸を説明する。	可
第3回	糖質の栄養生化学 糖質と炭水化物の違いを知る。 糖質の消化吸收、代謝を理解する。 糖代謝の調節に係わるホルモンを学ぶ。 （第三章）	予習90分：教科書の第3章を読む。ATPの化学構造の概要を調べる。 復習90分：生命活動におけるATPの役割を説明する。グルコース、でんぷん、セルロース、グリコーゲンの化学的構造の特徴を述べる。糖代謝、解糖系と糖新生を説明する。	可

第4回	脂質の栄養生化学 脂質の種類を理解する。 生体における脂質の役割、分類と構造の概略を理解する。 脂質の消化吸収、代謝を理解する。 (第四章)	予習90分：教科書の第4章を読む。 復習90分：脂質の定義、脂質と脂肪酸の化学的特徴を説明する。飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸の違いを説明する。必須脂肪酸を説明する。脂質の消化・吸収について説明する。生体におけるコレステロールの役割を述べる。	可
第5回	タンパク質の栄養生化学 アミノ酸、タンパク質の基本構造を知る。生体におけるタンパク質の役割を理解する。タンパク質の消化・吸収、代謝を理解する。必須アミノ酸を学ぶ。 (第五章)	予習90分：教科書の第5章を読む。 復習90分：アミノ酸の基本構造と性質を説明する。タンパク質の消化と吸収を説明する。必須アミノ酸について説明する。	可
第6回	エネルギーの生化学 ATP産生を中心としたエネルギー産生のメカニズムを理解する。糖質、脂質、タンパク質代謝の相互関係を理解する。 (第六章)	予習90分：教科書の第6章を読む。 復習90分：糖質、脂質、タンパク質の代謝における相互関係を説明する。アミノ酸から糖が新生される過程と生理的意義を説明する。基礎代謝量の概要を説明する。	可
第7回	酵素の栄養生化学 酵素の働きと反応の特性を理解する。酵素反応の促進因子、阻害物質について理解する。補酵素の働きを理解する。 (第七章)	予習90分：教科書の第7章を読む。 復習90分：生体内における酵素の機能、酵素反応の特徴を説明する。基質と酵素の関係を説明する。酵素反応を促進、抑制する機序を説明する。補酵素の役割を説明する。	可
第8回	ビタミン・ミネラルの生化学 生体におけるビタミン・ミネラルの役割を理解する。ビタミン・ミネラルの過剰症・欠乏症を知る。 (第八章)	予習90分：教科書の第7章を読む。 復習90分：ビタミンの定義を述べる。水溶性ビタミンと脂溶性ビタミンの違いを説明する。各ビタミンの主な生理的役割を説明する。過剰症と欠乏症を述べる。	可
評価方法			
期末試験（80％）、小テストおよび課題レポート（20％）により評価する。			
オフィスアワー			
水、木、金曜日の午後13：00～17：00 事前にアポイントメントを取ってください。 連絡先 e-mail h-mori@gifuhoken.ac.jp			

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解				人間力	
授業コード	111030				ケア・スピリット	
授業科目名	人間の生殖と発達				実践的理解	○
配当学年/ 学期	1年 後期 選択	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	野田みや子【実務該当教員】				多職種連携	

講義概要

女性のみならず男性の身体と心の特徴もふまえながら、人間にとって健やかな「性と生殖（セクシャリティ）」について、理解を深めていく。また、女性および母性の健康に影響を与える文化および社会的環境についても理解し、現代社会における問題や課題について、グローバルな視野で考えることをめざす。ライフサイクルの各期で生じる可能性のある健康上の問題について理解を深め、専門職者と協働した健康の保持増進のためのヘルスプロモーションについて学ぶ。

授業内容（到達目標を含む）

到達目標

1. 種の存続としての生殖器の構造と機能について説明できる。
2. 周産期における身体的・心理社会的特性について説明できる。
3. 小児各期における身体的成長・発達、認知・発達の特徴を説明できる。
4. 老年期の心身の変化の特徴について説明できる。
5. ライフサイクルにおける生殖と発達について説明できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

授業中に発表を求めます。分からないことがあれば積極的に質問すること。確認テストはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

教材

テキスト 特に指定しない（授業ごとに資料を配布する）
参考図書

- ・森恵美他著、「系統看護学講座 母性看護学概論」、医学書院、2020、2640円(税込)
- ・坂井建雄他著、「系統看護学講座 人体の構造と機能① 解剖生理学」、医学書院、2020、4180円(税込)
- ・奈良間美保他著、「系統看護学講座 小児看護学概論」、医学書院、2020、3190円(税込)
- ・北川公子他著、「系統看護学講座 老年看護学」、医学書院、2020、2970円(税込)
- ・服部祥子著、「生涯人間発達論」、医学書院、2020、2500円(税込)

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	オリエンテーション 生殖を中心にみたライフサイクルの特徴	予習：指定された参考図書に目を通す 復習：配布資料を読み返し、まとめる ※授業開始時 5minutes test 予習時間：30分、復習時間60分	可
第2回	男性の生殖器の構造と機能・女性の生殖器の構造と機能	予習：指定された参考図書に目を通す 復習：課題レポート①を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間：30分、復習時間60分	可
第3回	妊娠期・分娩期・産褥期の身体的特性と心理・社会的特性	予習：指定された参考図書に目を通す 復習：配布資料を読み返し、まとめる ※授業開始時 5minutes test 予習時間：30分、復習時間60分	可
第4回	性と生殖の発達に影響する要因（家族・地域・生物学的環境・社会文化的環境）と、生殖の過程における今日的課題	予習：指定された参考図書に目を通す 復習：課題レポート①を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間：30分、復習時間60分	可

第5回	小児の人体構造学並びに生理学的特徴と発達評価の諸方法	予習：指定された参考図書に目を通す 復習：配布資料を読み返し、まとめる ※授業開始時 5minutes test 予習時間：30分、復習時間60分	可
第6回	・胎児期～乳児期における心身の成長発達（愛着、親子の絆の確立）	予習：指定された参考図書に目を通す 復習：課題レポート②を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間：30分、復習時間60分	可
第7回	・幼児期～学童期における心身の成長発達（発達理論、遊びや友人関係の発達、学習、道徳性）	予習：指定された参考図書に目を通す 復習：課題レポート②を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間：30分、復習時間60分	可
第8回	・思春期における心身の成長発達（第二性徴の発現、アイデンティティの模索、性役割、恋愛）	予習：指定された参考図書に目を通す 復習：課題レポート①②まとめる ※授業開始時 5minutes test 予習時間：30分、復習時間60分	可
評価方法			
授業態度10%、レポート10%、最終試験80%により評価する。			
オフィスアワー			
月・水・木・金曜の16：10分～17:00、（事前にメールでアポイントを取ってください：m-noda@gifuuoken.ac.jp）			

講義科目					る デ イ タ め に ブ ロ マ ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解					人間力	
授業コード	111031					ケア・スピリット	
授業科目名	人間の健康と社会・心理的適応					実践的理解	○
配当学年/ 学期	2年 前期 選択		単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	太田美智男、石井英子【実務該当教員】、 小野悟【実務該当教員】					多職種連携	

講義概要			
健康という切り口から人間や社会について理解を深めるとともに、社会や環境が人間の健康にどのように関わっているかについて理解に努める。また、人間の健康を維持・増進するために社会や環境がどうあるべきかについても理解する。さらに、日本が取り組んでいる健康政策の変遷から、今後、我が国が取り組むべき健康に対する課題について学修する。			
授業内容（到達目標を含む）			
1. 看護を必要とする者に対する全人的な理解や尊厳の保持、看護実践の基盤となる教養、総合的な判断力及び人間力を涵養できる 2. 社会における人間としての尊厳の保持と自立した生活を支える必要性について理解できる 3. 人間が主体的に社会との共生する自己の生活を営もうとすることが自立であることとらえることができる			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
教材に基づき自己学習を行う。本科目では予習や復習を前提としているため、自己学習をしてから講義に臨むこと。また各自の理解度を確認するためのミニレポートを適宜実施する。			
教材			
テキスト「基礎から学ぶ健康管理概論」（第5版）尾島俊之編、南江堂、2020年、2,640円（税込）			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	社会と健康、健康の概念、健康の定義の健康管理、健康の社会的決定要因、健康格差（小野）	予習：テキストP1～12に目を通しておく 復習：自分自身の健康の及び健康管理についてまとめる 予習時間：15分、復習時間：30分	可
第2回	生活習慣の現状と対策 健康の生物・心理・社会モデル 生活習慣と社会的行動：喫煙・飲酒・食行動（小野）	予習：テキストP85～105に目を通しておく 復習：食生活、身体活動の現状と課題をまとめる 予習時間：15分、復習時間：30分	可
第3回	学校における健康管理 児童生徒の問題行動とその対処方法 健康心理学について（小野）	予習：テキストP185～195に目を通しておく 復習：学校における健康管理についてまとめる 予習時間：15分、復習時間：30分	可
第4回	働く人の健康管理 労働と健康、職場における健康管理 職業と健康障害、事例を用いた展開	予習：テキストP197～210に目を通しておく 復習：職場における健康管理、労働災害についてまとめる 予習時間：15分、復習時間：30分	可
第5回	高齢者を取り巻く社会と心身の健康 健康への予防的アプローチ、健康と文化 健康心理学の応用とその可能性（小野）	予習：テキストP161～172に目を通しておく 復習：高齢者保健における課題についてまとめる 予習時間：15分、復習時間：30分	可

第6回	我が国の現状での健康政策の変遷（感染症主にコロナウイルスの現状から）（石井）	予習：コロナウイルス感染状況をネットから調べる 復習：居住地におけるコロナ対策の課題についてまとめる 予習時間：15分、復習時間：30分	可
第7回	日本における健康政策（結核対策の状況）（石井）	予習：結核発症状況をネットから調べる 復習：岐阜県と日本との比較についてまとめる 予習時間：15分、復習時間：30分	可
第8回	心身の健康の維持増進の具体策の提案とまとめ 関心のある健康障害についてグループでテーマを決め、まとめて発表を行う （石井・小野）	予習：心身の健康の維持増進について調べる 復習：取り組んだ内容から、①社会や環境が人間の健康にどのように関わっているか、②人間の健康を維持・増進するために社会や環境がどうあるべきかについて資料を用いてまとめる 予習時間：15分、復習時間：30分	
評価方法			
授業態度10%、レポート20%、最終試験70%により評価する。			
オフィスアワー			
石井：事前にアポイントメントを取ってください。 小野：月曜・火曜・水曜・金曜の12:30分から17:00まで 事前にアポイントメントを取ってください。		連絡先 e-mail h-ishii@gifuhoken.ac.jp 連絡先 e-mail s-ono@gifuhoken.ac.jp	

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解				人間力	
授業コード	111032				ケア・スピリット	
授業科目名	生体防御学				実践的理解	○
配当学年/ 学期	2年 前期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	森裕志、永井博式				多職種連携	

講義概要			
免疫系による生体防御機構について学修する。免疫系は身体を外界の異物から守り、生体の恒常性を保つために必須な機能である。様々な感染症やアレルギー疾患、癌の問題など、現代の医学、医療において免疫系が関わる様々な問題は少なくない。本講義では、免疫学と関連の深い感染症の基礎及び臨床について学び、次いで、免疫系の仕組みを中心に広範な生体防御機構について体系的に学ぶ。			
授業内容（到達目標を含む）			
免疫は、微生物感染に対する生体防御機構として生命の進化とともに発達してきた。本授業では、まず、病原微生物の種類と感染の形態について学び、ついで免疫による生体防御機構について学ぶ。 1. 病原微生物の種類とそれらの相違点を説明できる。 2. 細菌の分類と主な細菌の病原因子と疾患の関係を説明できる。 3. ウイルスの増殖形態を理解し、病原性を説明できる。 4. 主なウイルスの感染症を説明できる。 5. 生体防御と免疫学概論が説明できる 6. 自然免疫と獲得免疫について、その意義、細胞、機能分子による防御機構及び応用面を説明できる 7. アレルギー疾患と自己免疫疾患の発症機序についての基礎と臨床および診断治療法を説明できる 8. 免疫学の臨床応用として診断法およびワクチンなどの治療への応用について説明できる			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
授業の復習として、各章の終わりにある国家試験過去問題および演習問題をその都度学習しておくこと。			
教材			
テキスト 看護学テキスト「微生物学・感染症学」 編集：中野隆史 南江堂 2,800円（税別） 参考図書 成人看護学⑨「感染症／アレルギー・免疫／膠原病」編集：内藤俊夫、伊藤道子 メジカルフレンド 3,900円（税別）			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	微生物の種類と特徴（第1章） 原核生物と真核生物の細胞の違いを知る。 ウイルスの特徴と大きさを知る。 細菌の形態・構造と機能（第2章） グラム陰性菌とグラム陽性菌、細菌細胞壁の構造、環境と増殖の関係、細菌の毒力と病原性、常在細菌叢について学ぶ。（森）	予習90分：動物細胞の構造、細胞内小器官について調べる。第1・2章を読む。 復習90分：原核生物、真核生物、ウイルスの増殖について説明する。グラム染色性と細菌細胞壁の構造の関係を説明する。細菌の病原性と病原因子の関係を説明する。感染防御における常在細菌叢の役割を説明する。	可
第2回	主な細菌（第3章） 細菌の命名法、細菌の分類を理解する。感染症を起こす主な細菌：グラム陽性菌、グラム陰性菌、グラム陰性好気性・通性嫌気性桿菌、グラム陽性桿菌、抗酸菌、嫌気性菌、らせん菌、リケッチア、クラミジアについて学ぶ。（森）	予習90分：好気性細菌と嫌気性細菌の生育環境の違いを調べる。 復習90分：主な病原性細菌の起こす疾患と病原因子を説明する。MRSAの薬剤耐性を説明する。細胞内寄生性細菌について説明する。	可

第3回	ウイルスの性質（第4章） ウイルスの形態・構造、増殖、遺伝・変異、 病原性、発がんについて学ぶ。 主なウイルス（第5章） DNAウイルスに属するウイルスの種類とその感 染症を学ぶ。 （森）	予習90分：教科書第4章ウイルス総論および第5 章のDNAウイルスの項を読む。 復習90分：エンベロープを持つウイルスと持たな いウイルスの増殖様式の違いを説明する。ヘルペ ス、アデノ、パピローマ、ポリオーマのそれぞ れのウイルス科に属するウイルスの特徴とその感 染症を説明する。	可
第4回	主なウイルス（第5章） RNAウイルスに属するウイルスの種類とその感 染症を学ぶ。 肝炎ウイルスの分類と感染の経路、感染症と しての特徴を学ぶ。 （森）	予習90分：教科書第5章のRNAウイルスの項を読 む。 復習90分：ピコルナ（ポリオ、ライノ）、オルト ミクソ（インフルエンザ）、パラミクソ（麻疹、 ムンプス）、コロナ、トガ（風疹）、カリシ（ノ ロ）、レトロ（HIV）を中心としたウイルス科の ウイルスの特徴とその感染症を説明する。A、B、 C、D、E型肝炎ウイルスの感染経路、感染症の特 徴を説明する。	可
第5回	生体防御機構 ヒトが持つ生体防御機構の概略と、免疫につ いての基本的な仕組みについて説明できるよ うに学ぶ。特に自然免疫と獲得免疫の2種類の 免疫の特徴とワクチンなどの免疫反応の応用 について理解する。 （永井）	予習90分：教科書第8章「1. 免疫の基本的な仕 組み」と「人体構造機能学」の教科書「解剖生理 学、第9章B 生体防御機構」をよく読んで、免 疫学の用語について慣れておく。 復習90分：生体防御の総論と免疫学の全体につ いて説明できるまで復習する	可
第6回	自然免疫系および獲得免疫系の詳細を関与す る細胞及び因子を中心に説明できるように学 ぶ。（永井）	予習90分：教科書の第8章「2. 自然免疫系」と 「3. 獲得免疫系」をよく読んで、両者の違い、 実際の臨床での応用面を知っておく。 復習90分：自然免疫系および獲得免疫系の詳細を 関与する細胞及び因子を中心に説明できる。加 えてガンが発症、老化における免疫機能につ いて説明できるまで復習する	可
第7回	免疫異常疾患とアレルギー疾患および自己免 疫疾患について、免疫の異常による疾患の発 症とその種類及びアレルギー疾患と自己免疫 疾患の種類と検査と治療法について説明が できるように学ぶ。特に急性期及び慢性期の治 療について説明できる。 （永井）	予習90分：教科書の第8章「4 アレルギー」と「5 自己免疫疾患」をまず読み、その後「人体構造機 能学」の教科書「解剖生理学第9章B 生体防 御機構 5 免疫の異常」をよく読んで、アレル ギー・自己免疫疾患の概略を知っておく 復習90分：免疫の異常による疾患の発症とその種 類及びアレルギー疾患の4型と検査および治療 法について説明できるまで復習する。	可
第8回	ワクチンおよび血清療法など免疫学の生体防 御における臨床的な応用面の基礎について説 明できるように学ぶ。 （永井）	予習90分：教科書の第8章「6 ワクチンと血清 療法」と「人体構造機能学」の教科書「解剖生理 学第9章B 生体防御機構 第3章C 血液」をよく 読んで、免疫の生体防御における役割を知って おく 復習90分：免疫学を応用した検査および治療 法について説明できるまで復習する。	可
評価方法			
期末試験（80％）、小テストおよび課題レポート（20％）により評価する。			
オフィスアワー			
森裕志：水、木、金曜日の午後13：00～17：00 事前にアポイントメントを取ってください。 連絡先 e-mail h-mori@gifuuoken.ac.jp 永井博式：月、火、水曜日の午後13：00～17：00 事前にアポイントメントを取ってください。 連絡先 e-mail h-nagai@gifuuoken.ac.jp			

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解				人間力	
授業コード	111033				ケア・スピリット	
授業科目名	栄養治療学				実践的理解	○
配当学年/ 学期	2年 前期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	森裕志				多職種連携	

講義概要			
食べ物に含まれる栄養素の働き、消化と吸収、生体内での代謝など、栄養学の基礎について学修するとともに、健康な生活を送るための生活習慣病予防やライフステージ別の栄養管理について学ぶ。また、病院における栄養管理の概要や、代表的な疾患別の食事療法、についても理解を深める。			
授業内容（到達目標を含む）			
1. 日本人の食事摂取基準を説明でき、表を利用して各栄養素の摂取量が適切か調べることができる。 2. 各年齢層別の栄養管理、妊娠時の栄養管理、生活習慣病にならないための栄養管理、疾患時に注意すべき食事の制限や病院における栄養管理の概要、代表的な疾患別の食事療法について理解を深める。 3. 栄養状態の評価方法と対応、栄養指導、栄養素の働き、消化吸收について学び、それらの発展として、疾患別の栄養管理や食事指導、経管栄養について説明できる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
各回の授業終了ごとに教科書に付属する整理ノート各章の確認問題に解答しておくこと			
教材			
テキスト わかりやすい栄養学（第5版） 編集：中村美智子・長谷川恭子 ノーヴェルヒロカワ 2,200円（税別） 参考図書 栄養生化学（第5版） 編集：脊山洋右、島野仁、松島照彦 メジカルフレンド 2,700円（税別）			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	健康と栄養 食生活の評価、栄養状態の評価、看護と栄養について理解を深める。 （第一章）	予習90分：教科書の第1章を読む。 復習90分：各自の1日の食事内容を食事記入表（教科書p5）に記入する。肥満度の測定法、判定基準を説明する。栄養評価のための血液検査を説明する。	可
第2回	日常生活と栄養 基礎代謝量、摂取基準、活動と必要エネルギー量の計算について理解する。 （第二章）	予習90分：教科書の第2章を読む。 復習90分：前回の授業の各自の食事記入表を用い、日本人の食事摂取基準2020版を使って各自の食事摂取量の過不足を判定する。メッツ表を理解する。	可
第3回	栄養指導・保健指導 栄養指導方法と病院食、保健指導方法の概略を理解する。 （第三章）	予習90分：教科書の第3章を読む。 復習90分：栄養サポートチームについて説明する。栄養指導の実施のポイントを説明する。SOAPの記入について説明する。病院食について説明する。	可
第4回	食物と栄養 食品に含まれる栄養素とその働き・役割を理解する。食物の摂取と吸収・排泄について理解する。 （第四章）	予習90分：教科書の第4章を読む。3大栄養素、ビタミン、ミネラルの生理的役割を調べる。 復習90分：各種の食品の栄養素について説明する。各栄養素の消化・吸収を説明する。	可

第5回	ライフステージと健康教育 各ライフステージにおける健康と食生活の変化について理解を深める。 (第五章)	予習90分：教科書の第5章を読む。 復習90分：妊娠期・授乳期、乳幼児期、学童期、成人期、老年期に必要な食事について説明する。	可
第6回	疾患別の栄養指導 栄養代謝疾患・循環器疾患の病態と栄養療法について理解する。 (第六章)	予習90分：教科書の第1章を読む。 復習90分：糖尿病、高血圧、脂質異常症、虚血性心疾患、脳卒中、COPDの病態と食事指導のポイントを説明する。	可
第7回	疾患別の栄養指導 肝疾患、腎疾患、消化器系疾患の病態と栄養療法について理解する。 (第六章)	予習90分：教科書の第1章を読む。 復習90分：肝炎・肝硬変、膵炎・胆石症、慢性腎臓病、潰瘍性大腸炎・クローン病の病態と食事指導のポイントを説明する。	可
第8回	疾患別の栄養指導 経管栄養・静脈栄養・在宅栄養について理解する。 (第七章・第八章)	予習90分：教科書の第7・8章を読む。 復習90分：胃切除の周術期、摂食・嚥下障害、褥瘡における食事指導のポイントを説明する。経管栄養と中心静脈栄養について説明する。	可
評価方法			
期末試験（80％）、小テストおよび課題レポート（20％）により評価する。			
オフィスアワー			
水、木、金曜日の午後13：00～17：00 事前にアポイントメントを取ってください。 連絡先 e-mail h-mori@gifuhoken.ac.jp			

講義科目					ディ ブ ロ マ ポ リ シ ー を 達 成 す た め に 必 要 な 能 力			
科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解					人間力	○	
授業コード	111034					ケア・スピリット	○	
授業科目名	医療薬理学					実践的理解		
配当学年/ 学期	2年 後期 必修			単位数		1	プロフェッショナリズム	
担当教員	永井博之					多職種連携		

講義概要			
薬理学および薬物治療学の基礎と臨床応用の知識について講義する。薬物は各種臓器別に使用される医薬品の薬理作用とその機序について学ぶ。疾患治療に使用される薬物の基本作用と機序を理解し、臨床で使用されている薬物について中枢神経、心臓血管系、消化器、抗感染症、抗悪性腫瘍、薬物中毒などの各論につなげる。また代表的医薬品についてその機能を理解する。病態との関連について臨床現場で役立つよう、臨床薬理に重点を置き講義する。			
授業内容（到達目標を含む）			
疾病の治療には薬物療法が必須である。しかし、薬物は適正使用をしないと患者に重篤な副作用を引き起こすことがある。各種疾患に応じた、薬物治療において、投与前の準備から、投与後の経過観察まで一連のプロセスについての詳細を知り、薬物による副作用など患者にとって不利益とならない投薬について理解して、説明できることを目的とする。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
理解できないことは随時質問すること。さらに予習として、教科書および教材資料よくを読んでおく（約1時間）。復習として問題プリントを教科書および参考書などを調べて完全にしておくこと（約1時間）。			
教材			
臨床薬理学（ナーシング・グラフィカ；メディカ出版）、プリント			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題	遠隔授業
第1回	医薬品総論 1	医薬品とは、関連法規、薬理作用の発現	可
第2回	医薬品総論 2	体内動態、副作用、与薬	可
第3回	生活習慣病治療薬 1	生活習慣病、心循環器系疾患	可
第4回	生活習慣病治療薬 2	代謝系疾患、その他の生活習慣病	可
第5回	ガンおよびガン性疼痛治療薬	薬物治療可能なガンの治療、疼痛治療	可
第6回	脳・中枢神経系疾患の治療薬 1	中枢神経系化学伝達物質と疾患及び治療薬	可
第7回	脳・中枢神経系疾患の治療薬 2	てんかん、パーキンソン病、認知症	可
第8回	感染症の治療薬 1	感染と感染症、化学療法薬と抗生剤	可
第9回	感染症の治療薬 2	感染症治療薬の適正使用	可
第10回	救急・救命に使用する治療薬	緊急時の薬物治療	可
第11回	アレルギー免疫不全疾患の治療薬	アレルギー疾患及び自己免疫疾患の治療薬	可
第12回	消化器・代謝・内分泌系疾患治療薬	消化器・代謝・内分泌系疾患治療薬の使用法	可
評価方法			
定期試験 80%、提出物・レポート 20%			
オフィスアワー			
月曜日から水曜日の午後			

講義科目					る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す			
科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解					人間力		
授業コード	111035					ゲ・スピリット		
授業科目名	病理学					実践的理解	○	
配当学年/ 学期	2年	前期	必修	単位数		1	プロフェッショナリズム	
担当教員	川田憲司					多職種連携		

講義概要			
さまざまな疾病の原因を科学的に理解し、疾病の機序を学びその結果として人体にどのような影響が現れるか、特に組織の構造や機能に現れる変化について学ぶ。授業では、病理学の概要、細胞、炎症、免疫とアレルギー、感染症、循環障害、代謝異常、内分泌臓器の分泌ホルモンと機能、新生児の病理と先天異常、血液と骨髄、肺、消化管、肝臓、膵臓、腎・泌尿器の病理について体系的に学修する。			
授業内容（到達目標を含む）			
講義内容は形態的变化から疾病を把握することが必要であることから、病変のスライド投影を加えてより理解度を高められるようにする。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
全授業時間数のうち2／3以上の出席を必須条件とし、加えて小テストを実施する。なお、本科目は予習及び復習時間として120分を設定している。			
教材			
テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病のなりたちと回復の促進[1] 発行者 医学書院 参考図書 カラーで学べる病理学 Nouvelle Hirokawa			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	病理学の役割・意義・学び方 病因／細胞の損傷	病理学の学習意義を考えてまとめよう。病因を分類し、どのようなものがあるかをまとめよう。	可
第2回	細胞の適応現象・細胞の死および変性の種類	刺激の程度(強さ・作用時間)の違いによる細胞反応のパターンをまとめよう。	可
第3回	組織の修復と創傷治癒 循環障害① 浮腫・充血・うっ血・出血	肉芽組織と瘢痕組織についてまとめよう。循環器系を復習しておこう。充血とうっ血の違いとそれぞれの原因についてまとめよう。	可
第4回	循環障害② 血栓症・塞栓症・虚血・梗塞	血栓症・塞栓症の違いと梗塞との関係を考えよう。	可
第5回	循環障害③ 側副循環・ショック・高血圧の病変・DIC	肝硬変による側副循環の病変を整理しよう。高血圧と心・血管病変およびDICをまとめよう。	可
第6回	炎症 ①分類・経過・浸潤細胞・炎症メディエーター	炎症の症状および炎症巣を形成する細胞の種類とそれらの働きをまとめよう。	可
第7回	炎症 ②各型 免疫と免疫不全	炎症の各型と炎症巣の白血球との関係を整理しよう。免疫に関与する細胞種と働きについてまとめよう。	可
第8回	アレルギーと自己免疫疾患・膠原病 移植と再生医療	アレルギーの機序と疾患例をまとめよう。自己免疫疾患の特徴と代表的疾患を列挙しよう。臓器移植と骨髄移植の相違についてまとめよう。	可
第9回	主な病原体と感染症	病原体を分類し、それぞれの代表的疾患の病変像の特徴を捉えよう。	可

第10回	代謝異常 ①脂質代謝異常・タンパク質代謝異常	動脈硬化症と続発症および危険因子をまとめよう。	可
第11回	代謝異常 ②糖尿病・糖原病・痛風・黄疸・結石	糖尿病および高尿酸血症のそれぞれについてまとめよう。ビリビン代謝と黄疸の分類についてまとめよう。結石症を列挙しよう。	可
第12回	老化と個体死 先天異常 ①分類・奇形の原因・発生機構 胎児障害因子	加齢と各臓器の変化および死の徴候をまとめよう。体表的な奇形とその発生要因についてまとめよう。	可
第13回	先天異常 ②遺伝子異常・診断と治療	先天異常の診断法についてまとめよう。	可
第14回	腫瘍 ①分類・機能性腫瘍・前がん病変・境界病変	腫瘍の分類と増殖の様式および腫瘍組織の形態異常の特徴をまとめよう。	可
第15回	腫瘍 ②悪性腫瘍の広がりと影響・進行度 腫瘍の発生病理・発生因子・腫瘍マーカー	転移の3経路と代表的な例をあげよう。癌遺伝子と癌抑制遺伝子および腫瘍マーカーの代表例をあげよう。発生頻度の高い小児がんをあげよう。死亡率の高い順に男女それぞれにつき3つをあげよう。	可
評価方法			
定期試験と提出物の結果を総合して評価する。			
オフィスアワー			
講義時に指定する。			

講義科目				ディ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解				人間力	
授業コード	111036				ケア・スキル	
授業科目名	疾病治療論Ⅰ（成人A）				実践的理解	○
配当学年/ 学期	1年 後期 必修	単位数	2		プロフェッショナリズム	
担当教員	河田美紀				多職種連携	

講義概要			
看護学を学ぶ上で必要な疾患・治療についての基礎的知識を修得することを目的とする。生体・臓器の形態や機能についての知識を深めながら、成人期の代表的な疾病と症状の関係について学修し、症状に関連した検査項目の重要性やデータの読み方、評価法、疾患に対する代表的な治療法について理解し、主要な疾患について症状、成因、検査、治療法の知識を修得する。本科目では、呼吸器、循環器、血液、内分泌、栄養代謝系、腎泌尿器の病態を理解し、適切な対応について理解する。			
授業内容（到達目標を含む）			
疾患をもつ患者への看護を展開するために、臓器別に代表的な疾患について、原因、発症機序、疫学、検査、診断、治療、予後の特徴について理解する。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
予習や復習を前提としているため、自己学習をしてから授業に臨むこと。			
教材			
テキスト ナーシンググラフィカ 健康の回復と看護⑦ 疾病と治療 参考図書 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	呼吸器疾患（呼吸器感染症）	予習：呼吸器系の解剖生理の確認と教科書の肺炎、肺結核を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第2回	呼吸器疾患（気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患）	予習：呼吸器系の解剖生理の確認と教科書の気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第3回	呼吸器疾患（肺癌、気胸）	予習：呼吸器系の解剖生理の確認と教科書の肺癌、気胸を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第4回	循環器疾患（虚血性心疾患）	予習：循環器系の解剖生理の確認と教科書の虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第5回	循環器疾患（心不全、不整脈）	予習：循環器系の解剖生理の確認と教科書の心不全熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可

第6回	循環器疾患（弁膜症・心筋症）	予習：循環器系の解剖生理の確認と教科書の弁膜症、心筋症を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第7回	循環器疾患（大動脈疾患・先天性心疾患）	予習：循環器系の解剖生理の確認と教科書の大動脈解離、ファロー四徴症、心房中隔欠損症を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第8回	血液疾患（出血性疾患・貧血疾患）	予習：造血器系の解剖生理の確認と教科書の血友病、播種性血管内凝固症候群を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第9回	血液疾患（造血器腫瘍）	予習：造血器系の解剖生理の確認と教科書の白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第10回	内分泌疾患（下垂体・甲状腺疾患）	予習：下垂体・甲状腺の解剖生理の確認と教科書のバセドウ病、橋本病を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第11回	内分泌疾患（副腎疾患）	予習：副甲状腺・副腎の解剖生理の確認と教科書のクッシング症候群、アルドステロン症、アジソン病を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第12回	代謝性疾患	予習：糖・脂質代謝の解剖生理の確認と教科書の糖尿病を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第13回	自己免疫疾患・免疫不全	予習：免疫機能の解剖生理の確認と教科書の関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、AIDSを熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第14回	腎疾患（腎不全、腎炎、ネフローゼ症候群）	予習：腎臓の解剖生理の確認と教科書の腎不全、腎炎、ネフローゼ症候群を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第15回	腎・泌尿器疾患（尿路疾患・前立腺疾患）	予習：泌尿器系の解剖生理の確認と教科書の前立腺肥大、尿管結石、腫瘍疾患を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
評価方法			
定期試験成績（100%）			
オフィスアワー			
毎週月・火・木曜日16：10～17：10 事前にアポイントメントを取ってください。 miki7yas@gmail.com			

講義科目					る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解					人間力	
授業コード	111037					ケア・スピリット	
授業科目名	疾病治療論Ⅱ（成人B）					実践的理解	○
配当学年/ 学期	1年 後期 必修		単位数	2		プロフェッショナリズム	
担当教員	河田美紀、河田好泰					多職種連携	

講義概要			
看護学を学ぶ上で必要な疾患・治療についての基礎的知識を修得することを目的とする。生体・臓器の形態や機能についての知識を深めながら、成人期の代表的な疾病と症状の関係について学修し、症状と関連した検査項目の重要性やデータの読み方、評価法、疾患に対する代表的な治療法について理解し、主要な疾患について症状、成因、検査、治療法の知識を修得する。本科目では、成人期にみられる消化器・肝胆膵の代表的な疾患に加え、脳神経疾患、乳腺疾患、皮膚疾患、整形外科疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、口腔外科疾患の病態を理解する。 （オムニバス方式 全15回） （1 河田美紀/12回） 消化器・肝胆膵疾患、脳神経疾患、乳腺疾患、皮膚疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、口腔外科疾患における代表的な疾患の病因、症状、検査、治療について （45 河田好泰/3回） 運動器疾患（整形外科疾患）における特徴的症候や主な疾患（外傷、脊椎疾患、骨粗鬆症など）の病因、症状、検査、治療と関連した検査項目の重要性やデータの読み方、評価法について			
授業内容（到達目標を含む）			
疾患をもつ患者への看護を展開するために、臓器別に代表的な疾患について、原因、発症機序、疫学、検査、診断、治療、予後の特徴について理解する。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
予習や復習を前提としているため、自己学習をしてから授業に臨むこと。			
教材			
テキスト ナーシンググラフィカ 健康の回復と看護⑦ 疾病と治療 参考図書 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	運動器疾患運動器疾患（骨粗しょう症）	予習：骨代謝の解剖生理の確認と教科書の骨粗鬆症、フォルクマン拘縮、廃用症候群を熟読する。 復習：ノートにまとめ整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第2回	運動器疾患（外傷）	予習：骨の解剖を確認と教科書の大腿骨・腰椎骨折、骨折・捻挫・脱臼を熟読する。 復習：ノートにまとめ整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第3回	運動器疾患（脊椎疾患）	予習：脊椎・脊髄の解剖生理の確認と教科書の椎間板ヘルニア、脊椎損傷、脊柱管狭窄症、側弯を熟読する。 復習：ノートにまとめ整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可

第4回	消化器疾患（食道・胃疾患）	予習：食道・胃の解剖生理の確認と教科書の食道癌、胃炎、潰瘍、胃癌を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第5回	消化器疾患（小腸・大腸疾患）	予習：小腸・大腸の解剖生理の確認と教科書の虫垂炎、イレウス、炎症性腸疾患、大腸癌を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第6回	肝胆膵疾患（ウイルス肝炎）	予習：肝臓の解剖生理の確認と教科書のウイルス性肝炎、肝硬変、肝臓癌を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第7回	肝胆膵疾患（胆嚢・膵臓疾患）	予習：胆のう、膵臓の解剖生理の確認と教科書の胆石症、急性膵炎、膵臓癌を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第8回	脳神経疾患（脳血管障害①）	予習：脳血管系の解剖生理の確認と教科書の脳出血、クモ膜下出血を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第9回	脳神経疾患（脳血管障害②）	予習：脳血管系の解剖生理の確認と教科書の脳梗塞を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第10回	脳神経疾患（腫瘍・てんかん）	予習：脳神経の解剖生理の確認と教科書の脳腫瘍、てんかんを熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第11回	脳神経疾患（感染症、変性疾患）	予習：脳神経の解剖生理の確認と教科書の髄膜炎、パーキンソン病、重症筋無力症を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第12回	乳腺疾患	予習：乳腺組織の解剖生理の確認と教科書の乳癌を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第13回	皮膚疾患 感染症	予習：皮膚組織の解剖生理の確認と教科書の水痘・帯状疱疹、麻疹、風疹を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第14回	耳鼻咽喉疾患 口腔外科疾患	予習：耳・鼻・咽頭・喉頭・口腔の解剖生理の確認と教科書の中耳炎、副鼻腔炎、メニエール病を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可

第15回	眼疾患	予習：眼組織の解剖生理の確認と教科書の白内障、緑内障、網膜剥離を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
評価方法			
定期試験（100％）			
オフィスアワー			
毎週月・火・木曜日16：10～17：10 事前にアポイントメントを取ってください。 miki7yas@gmail.com			

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す	人間力	
科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解				ケア・スピリット	
授業コード	111038				実践的理解	○
授業科目名	疾病治療論Ⅲ（精神・高齢者）				プロフェッショナリズム	
配当学年/ 学期	2年 前期 必修	単位数	1		多職種連携	
担当教員	井上真人、河田美紀【実務該当教員】					

講義概要			
看護学を学ぶ上で必要な疾患・治療についての基礎的知識を修得することを目的とする。本科目では、前半は代表的な精神疾患の病因、症状、検査、治療について、後半は高齢者に特有な疾患の病因、症状、検査、治療について学ぶ。			
授業内容（到達目標を含む）			
（45井上真人／8回） 精神疾患に関する知識を学習することにより、保健医療福祉の各側面に配慮しつつ、QOL（Quality of Life）を考慮に入れた総合的な管理計画（リハビリテーション、社会参加、在宅医療、介護を含む）に資する精神看護の課題について理解する。 （1 河田美紀／7回） 老年医学に加齢による心身の変化の特徴的的症状や疾患（認知症を代表とする神経疾患、誤嚥性肺炎を代表とする呼吸器疾患、高血圧を代表とする循環器疾患、逆流性食道炎を代表とする消化器疾患等）の病因、症状、検査、治療を理解する。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
講義時に指定する。なお、本科目は予習及び復習時間として120分を設定している。			
教材			
精神 テキスト 岩崎弥生/渡邊博幸(編)：新体系看護学全書 精神看護学②精神障害を持つ人の看護 第5版. メディカルフレンド社, 2019 参考図書 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学の基礎 精神看護学① 第5版. 医学書院, 2017 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 第3版. 医学書院, 2016 高齢者 テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾病論 医学書院 2018 参考図書 新体系看護学全書 老年看護学 健康障害を持つ高齢者の看護 第4版 メディカルフレンド社 2016			
Z			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	総論：精神疾患の分類，精神科リハビリテーション…リカバリー（回復）を支えるための援助方法 ICD10；F2：統合失調症及び関連疾患の診断	予習：既習の精神医学的問題に関する看護過程をふり返る。 復習：リカバリー（回復）のプロセスにおいて、看護職が担う役割と看護目標を理解する。	可
第2回	ICD10；F2：統合失調症及び関連疾患の治療	統合失調症の診断・治療に関する看護過程において、看護職が担う役割と看護目標を理解する。	可
第3回	ICD10；F3：気分（感情）障害：うつ病の診断・治療	気分（感情）障害：うつ病の診断・治療に関する看護過程において、看護職が担う役割と看護目標を理解する。	可
第4回	ICD10；F3：気分（感情）障害：双極性感情障害の診断・治療	気分（感情）障害：双極性感情障害の診断・治療に関する看護過程において、看護職が担う役割と看護目標を理解する。	可
第5回	ICD10；F4：神経症性障害の診断と治療	神経症性障害の診断・治療に関する看護過程において、看護職が担う役割と看護目標を理解する。	可
第6回	ICD10；F4：ストレス関連障害，F5：生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群の診断と治療	ストレス関連障害，生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群の診断・治療に関する看護過程において、看護職が担う役割と看護目標を理解する。	可

第7回	ICD10;F7:知的障害, F8:心理的発達の障害, F9:小児期・青年期に通常発症する行動及び情緒の障害の診断と治療	知的障害, 心理的発達の障害, 小児期・青年期に通常発症する行動及び情緒の障害の診断と治療に関する援助過程において, 看護職が担う役割と看護目標を理解する。	可
第8回	ICD10;F0: 器質性精神障害の診断と治療, F1: 精神作用物質等による精神及び行動の障害, F6: 成人のパーソナリティ及び行動の障害の診断と治療	器質性精神障害, 精神作用物質等による精神及び行動の障害, 成人のパーソナリティ及び行動の障害の診断と治療に関する援助過程において, 看護職が担う役割と看護目標を理解する。	可
第9回	認知・知覚・呼吸循環機能の老化	予習: 脳神経・呼吸循環器の解剖生理学の確認。 復習: 配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間: 120分 復習時間: 120分	可
第10回	消化・代謝・排泄・免疫機能の老化	予習: 消化・代謝・腎・免疫機能の解剖生理学の確認。 復習: 配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間: 120分 復習時間: 120分	可
第11回	老年症候群	予習: 意識障害、脱水状態の理解。 復習: 配布資料を見直しノートに整理し理解する。 予習時間: 120分 復習時間: 120分	可
第12回	高齢者のフィジカルアセスメント (診察方法・検査)	予習: 老化にともなう生理学的変化の確認。 復習: 配布資料を見直しノートに整理し理解する。 予習時間: 120分 復習時間: 120分	可
第13回	高齢者の疾患の特徴 (神経疾患)	予習: 教科書のパーキンソン病、認知症を熟読する。 復習: 配布資料を見直しノートに整理し理解する。 予習時間: 120分 復習時間: 120分	可
第14回	高齢者の疾患の特徴 (循環器・呼吸器疾患)	予習: 教科書の高血圧、動脈硬化病変、肺炎を熟読する。 復習: 配布資料を見直しノートに整理し理解する。 予習時間: 120分 復習時間: 120分	可
第15回	高齢者の疾患の特徴 (消化器疾患)	予習: 教科書の逆流性食道炎、虚血性腸炎を熟読する。 復習: 配布資料を見直しノートに整理し理解する。 予習時間: 120分 復習時間: 120分	可
評価方法			
試験 (50%) , 受講課題に関する提出物 (50%) により評価する。			
オフィスアワー			
授業前後に質問を受付ます。 毎週月曜日16:10~17:10 事前にアポイントメントを取ってください。miki7yas@gmail.com			

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解				人間力	
授業コード	111039				ケア・スピリット	
授業科目名	疾病治療論Ⅳ（小児・母性）				実践的理解	○
配当学年/ 学期	2年 前期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	尾藤長雄、近藤直実				多職種連携	

講義概要			
（概要）看護学を学ぶ上で必要な疾患・治療についての基礎的知識を修得することを目的とする。本科目では、前半は周産期の異常と婦人科疾患について、その病因、症状、検査、治療について学ぶ。後半は小児期の疾患、障害の特徴について理解し、小児期の循環器系、呼吸器系、消化器系、染色体異常等の代表的な疾患と治療の概要について学ぶ。 （オムニバス方式 全15回） （尾藤長雄9回） 周産期の異常と婦人科疾患及びその病因、症状、検査、治療 （近藤直実／6回） 小児の疾患と障害及びその病因、症状、検査、治療			
7			
母性：周産期の異常と婦人科疾患およびその原因、症状、検査、治療			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
国試過去問をしっかりと解いておく。なお、本科目は予習及び復習時間として120分を設定している。			
教材			
第1回～第9回（尾藤担当分） テキスト 女性生殖器（松岡浩他 医学書院 2,530円） 母性看護各論（森恵美他 医学書院 3,300円） サブノート 女性生殖器講義サブノート、母性看護講義サブノート 第10回～第15回（近藤担当分） テキスト（小児） 以下のテキストは小児看護学の一部と同じ ナーシンググラフィカ 小児看護学 （3）小児の疾患と看護 第2版 中村編 メディカ出版 3,520円			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	医療の動向と看護 女性生殖器の構造と機能（尾藤）	女性生殖器サブノートを読み返す	可
第2回	診察・検査と治療・処置（尾藤）	女性生殖器サブノートを読み返す	可
第3回	疾患の理解（尾藤）	女性生殖器サブノートを読み返す	可
第4回	疾患の理解（尾藤）	女性生殖器サブノートを読み返す	可
第5回	出生前診断 遺伝学（尾藤）	母性看護講義サブノートを読み返す	可
第6回	妊娠の異常と看護（尾藤）	母性看護講義サブノートを読み返す	可
第7回	妊娠の異常と看護（尾藤）	母性看護講義サブノートを読み返す	可
第8回	分娩の異常と看護（尾藤）	母性看護講義サブノートを読み返す	可
第9回	分娩の異常と看護（尾藤）	母性看護講義サブノートを読み返す	可
第10回	小児の成長と発達（近藤）	小児の成長と発達につき修得する。	可

第11回	新生児と疾患(近藤)	新生児と疾患につき修得する。	可
第12回	遺伝性疾患、染色体異常、代謝、内分泌疾患(近藤)	出生前小児科学、代謝、内分泌疾患につき修得する。	可
第13回	免疫、アレルギー疾患、膠原病、感染症(近藤)	免疫、アレルギー疾患、感染症につき修得する。	可
第14回	循環器疾患、腎泌尿器疾患(近藤)	循環器疾患、腎泌尿器疾患につき修得する。	可
第15回	消化器疾患、血液腫瘍疾患、神経、筋、精神疾患(近藤)	消化器疾患、血液腫瘍疾患、神経、筋、精神疾患につき修得する。につき修得する。	可
評価方法			
母性：最終試験80%、小テスト20%により評価する。 小児：期末試験（80%）および小テスト（20%）により評価する。			
オフィスアワー			
講義時に指定する。			

講義科目					す デ イ た プ ロ マ に ボ リ な シ ー 力 を 達 成	人間力	
科目区分	専門教育関連科目-社会と環境の理解					ケア・スピリット	
授業コード	111040					実践的理解	○
授業科目名	公衆衛生学					プロフェッショナリズム	
配当学年/ 学期	2年 後期 必修	単位数	1			多職種連携	○
担当教員	船橋香緒里【実務該当教員】						

講義概要			
公衆衛生の概念と歴史について学び、併せてプライマリ・ヘルスケア、ヘルスプロモーションの理念を踏まえて、集団を対象とした健康の保持、増進、疾病予防の全体像について理解を深める。公衆衛生の健康指標、保健医療福祉制度について理解し、地域、学校及び産業の場における公衆衛生と保健所の業務、食品衛生管理や労働衛生管理など、様々な公衆衛生活動と看護師・保健師の役割について学ぶ。			
授業内容（到達目標を含む）			
1. 公衆衛生は、生活の質を向上させるための集団を対象とした健康の保持、増進、疾病予防を担う分野であり、法律、行政、社会環境、実務的な公衆衛生の仕組みと疾病との関連を知る。 2. 食中毒を含む病原微生物による感染を防止する方法を理解する。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
配布資料した資料と講義の内容を教科書・参考書を使用してノートに整理し、復習しておくこと（想定復習時間は 60 分程度）。			
教材			
テキスト 公衆衛生看護学・JP インターメディカル（前期で使用したもの） 参考図書：「国民衛生の動向」（最新版）厚生統計協会			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	公衆衛生とは 公衆衛生の定義を知り、健康と公衆衛生による疾病予防の概念を理解する。 （第一章）	予習90分：前期の公衆衛生看護学1回目の講義資料を見直すこと 復習90分：公衆衛生の目的を説明する。憲法第25条の内容を説明する。WHOの活動を説明する。1次、2次、3次予防を説明する。	可
第2回	健康と環境・疫学的方法、健康の指標： ヒトの健康に影響する要因を理解する。病因を究明し防止対策をする方法としての疫学手法を学ぶ。健康の指標としての人口動態調査（国勢調査）、人口動態調査を学ぶ（第二章）	予習90分：教科書の第2・3章を読む。保健統計学（1年）の授業を復習する。 復習90分：疫学の目的を説明する。集団を対象とした統計値の意義を説明する。人口動態統計と人口動態統計から求められる統計値について説明する。	可
第3回	感染症とその予防 主な感染症を起こす病原体について学ぶ。 予防接種について理解する。 （第四章）	予習90分：教科書の第4章を読む。 復習90分：感染症を起こす主要な病原体とその感染経路を説明する。その予防法を説明する。	可
第4回	食品保健と栄養：食中毒 食中毒の概要を学び、食中毒を起こす病原因子およびその法律的・行政的防止策を理解する。 （第四章）	予習90分：教科書の第5章を読む。 復習90分：食中毒の原因について述べ、その予防方法を説明する。	可
第5回	生活環境の保全 健康に及ぼす環境の影響を理解し、環境汚染等に関する問題点と講じられている対策を学ぶ。 （第一章）	予習90分：教科書の第4章を読む。 復習90分：大気、水汚染物質をあげ、説明する。公害を起こす原因について説明する。ゴミの処理方法について説明する。過去に起きた公害を説明する。	可

第6回	医療・介護の保険制度・地域保健活動・母子保健 それぞれの制度の目的と制度を理解する。 (第四章)	予習90分：教科書の第七～九章を読む。 復習90分：医療・介護の保険制度を説明する。地域保健活動の内容を説明する。母子保健の制度を説明する。	可
第7回	学校保健、生活習慣病、難病対策、健康教育、精神保健福祉 それぞれの制度の目的と内容を理解する。 (第六章)	予習90分：教科書の第十～十四章を読む。 復習90分：学校保健の制度を説明する。生活習慣が種々の疾病に係わることを説明し、対策をまとめる。難病対策の基本理念、医療対策と福祉サービスについて説明する。健康教育の必要性を説明する。ストレス社会と精神疾患の関係を説明し、精神障害者の人権尊重を理解し、精神保健福祉政策についてまとめる。	可
第8回	産業保険 産業保健の目的を学び、仕組みを理解する。 職業病とその対策を理解する。 (第六章)	予習90分：教科書の第十五章を読む。 復習90分：労働に伴う疾患について説明する。労働の種類と身体的障害の関係について説明する。職業病の予防策について説明する。	可
評価方法			
授業態度10%、レポート（課題）10%、最終試験80%により評価する。			
オフィスアワー			
船橋：連絡先 e-mail k-funahashi@gifuuoken.ac.jp			

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育関連科目-社会と環境の理解				人間力	
授業コード	111041				ア・スピリット	
授業科目名	疫学				実践的理解	○
配当学年/ 学期	2年 後期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	秋山直美【実務該当教員】				多職種連携	

講義概要			
疫学の基礎的な方法論を修得し、健康関連事象を科学的に観察する能力を養うために、1)疫学概念、歴史、2)集団の健康状態を把握する方法や指標の計算、3)疫学的研究方法、4)疾患の予防とスクリーニング、5)感染症の疫学を学修する。初学生にとっては難解な言葉も多いが、具体例を示し、学生の身近な事柄、地域、国際状況と照らし合わせながら、身近な問題を疫学的な視点で研究する基礎を養う。			
授業内容（到達目標を含む）			
・疫学で用いられる有病率、罹患率、疫学研究の方法として患者-対照研究、コホート研究について、オッズ比、相対危険度、寄与危険度などを学修する。早期検査・診断に必要なスクリーニングについて、事例をもとに講義する。 ・感染症の疫学、流行とその調査について、パンデミックについて事例を示しつつ講義する。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
事前に講義内容を確認し、講義で配布された資料はテキストで確認し、学習すること。 この科目の単位修得には約30 時間の授業時間以外の学修（学習課題：予習・復習に示されている内容の学修）が必要である。			
教材			
テキスト 日本疫学会監修 はじめて学ぶやさしい疫学―疫学への招待―、南江堂 第3版 第3刷			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	疫学の始まり	予習：教科書1、2章 復習：講義内に課題を提示	可
第2回	疫学研究とその方法	予習：教科書3章 復習：講義内に課題を提示	可
第3回	疫学研究に用いられる方法	予習：教科書4、5章 復習：講義内に課題を提示	可
第4回	疫学研究に用いられる方法	予習：教科書6～10章 復習：講義内に課題を提示	可
第5回	症例(患者)・対照研究	予習：教科書6～10章 復習：講義内に課題を提示	可
第6回	スクリーニング	予習：教科書11章 復習：講義内に課題を提示	可
第7回	感染症疫学総論	予習：教科書18、19章 復習：講義内に課題を提示	可
第8回	感染症のアウトブレイクとその調査法	予習：教科書、他 復習：講義内に課題を提示	可
評価方法			
課題レポート40%、期末試験60%			
オフィスアワー			
講義時に指定する。連絡先 e-mail n-akiyama@gifuuoken.ac.jp			

講義科目					る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す			
科目区分	専門教育関連科目-社会と環境の理解					人間力		
授業コード	111042					ケア・スピリット		
授業科目名	保健統計学					実践的理解		
配当学年/ 学期	1年	後期	必修	単位数		1	プロフェッショナリズム	○
担当教員	高久道子、國澤英雄					多職種連携		

講義概要			
国民の健康、生活衛生の動向を把握するために国レベルの統計データの解説や関連する健康指標について学修する。 「国民衛生の動向」を用いて、わが国の人口動態、国民生活基礎調査、患者調査などの主要統計、疾病構造の変化、生活習慣病の罹患状態を示す統計等について系統的に学修し、国民の生活と健康の特徴を理解する。			
授業内容（到達目標を含む）			
「国民衛生の動向」を用いて、わが国の人口動態、人口動態、国民健康調査などの主要統計、疾病構造の変化、生活習慣病の罹患状態を示す統計をもとにデータの観察の視点について講義する。健康に関連した指標を理解し、人口動態統計が示す人口構成、人口動態統計が示す出生や死亡に関連した統計、国民生活基礎調査、患者調査から国民の生活と健康の特徴を把握する。 到達目標： 1) 保健統計データで用いられる各指標の意味を理解し、他の人に説明できる。 2) 保健統計データから現代社会の現状や課題を把握することができる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
この科目の単位修得には約30時間の授業時間以外の学修（学習課題；予習・復習に示されている内容の学修）が必要であり、シラバスを熟読して学習を進めること。2/3以上の出席がない場合は最終試験の受験権利がなく、単位を取得することができない。20分以上の遅刻は欠席とみなす。			
教材			
教科書：厚生労働統計協会「厚生統計協会 国民衛生の動向・厚生指標」最新号、2,695円（税込） 参考図書：福富和夫・橋本修二「保健統計・疫学」南山堂、2,640円（税込）			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	講義の目標と内容について 人口動態統計：国勢調査・日本の人口・世界の人口	予習：教科書 第2編第1章を熟読する。 復習：国勢調査について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第2回	人口動態統計：出生の動向と死亡の動向	予習：教科書 第2編第2章を熟読する。 復習：日本の出生と死亡の動向について300字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第3回	人口動態統計：死亡の動向（粗死亡率・年齢調整死亡率）	予習：教科書 第2編第2章を熟読する。 復習：粗死亡率と年齢調整死亡率について各200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第4回	人口動態統計：主要死因とその動向	予習：教科書 第2編第2章を熟読する。 復習：日本の男女の主要死因について300字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第5回	人口動態統計：妊娠・出産関連と乳児死亡	予習：教科書 第2編第2章を熟読する。 復習：妊娠婦死亡、周産期死亡、乳児死亡について各200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第6回	人口動態統計：平均余命・平均寿命・死因分析	予習：教科書 第2編第3章を熟読する。 復習：平均余命、平均寿命について各200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可

第7回	健康状態と受療状況：国民生活基礎調査・患者調査	予習：教科書 第2編第4章を熟読する。 復習：国民生活基礎調査、患者調査について各200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第8回	生活習慣と健康 飲酒・喫煙・栄養・食生活・運動等	予習：教科書 第2編第1章を熟読する。 復習：飲酒、喫煙、栄養について各200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
評価方法			
復習課題の提出20%、最終試験80%により評価する。 S (100～90点)：保健統計に関する指標を十分に理解し、これらの統計指標から人々の健康状態を把握できる。 A (89～80点)：保健統計に関する指標を理解し、これらの統計指標から人々の健康状態を把握できる。 B (79～70点)：保健統計に関する指標や統計指標から人々の健康状態を把握することの基本的な理解がある。 C (69～60点)：保健統計に関する指標や統計指標から人々の健康状態を把握することへの基本的な理解がある。 D (60点未満)：Cのレベルに達していない。			
オフィスアワー			
木曜以外（研究日）以外の平日。昼休み対応可。 できれば事前にメールで連絡ください。連絡先 m-takaku@gifuuoken.ac.jp			

講義科目						る デ イ プ ロ マ ポ リ シ ー を 達 成 す の た め に 必 要 な 能 力		
科目区分	専門教育関連科目-社会と環境の理解						人間力	
授業コード	111043						ケア・スピリット	
授業科目名	社会保障論						実践的理解	○
配当学年/ 学期	2年 前期 必修			単位数	1		プロフェッショナルリズム	
担当教員	永井淑子						多職種連携	

講義概要			
社会保障は「生活の基本的必要の不充足による困難」を解決する方法として制度化されたものであり、具体的には医療保険、年金保険、介護保険といった社会保険制度、生活保護制度、社会福祉制度がある。本講義では、社会保障の基本的考え方、わが国における社会保障制度の歴史、現行の社会保障制度の現状およびその課題、社会保障に関する法律と制度、社会保障における行政の役割と財政上の問題等、社会保障制度の基本的知識を学修する。			
授業内容（到達目標を含む）			
到達目標 1. 日本の社会保障についての基本的知識を身につける。 2. 日本の社会保障制度の現状と課題を理解する。 3. 海外の社会保障制度についての基本的知識を身につけ、日本の制度と比較ができる。 4. 医療従事者としての視点を意識しながら社会保障の課題について考えることができる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
この科目の単位修得には約30時間の授業時間以外の学修（学習課題：予習・復習に示されている内容の学修）が必要であり、シラバスを熟読して学習を進めること。			
教材			
教科書：「国民衛生の動向・厚生指標」、厚生労働統計協会、2,450円+税（1年次後期に購入済） 参考図書1：「新・社会福祉士養成講座 12社会保障（第5版）」、社会福祉士養成講座編集委員会編集、中央法規 参考図書2：「平成30年版厚生労働白書」ダウンロードURL：https://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	オリエンテーション、社会保障制度とは	予習：教科書 第1編第1章を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第2回	医療制度と年金制度	予習：教科書 第4編を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第3回	社会保険制度	予習：平成30年度版厚生労働白書を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第4回	医療保険制度	予習：教科書 第4編第2章を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第5回	高齢者医療	予習：平成30年度版厚生労働白書を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第6回	介護保険制度	予習：教科書 第4編を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可

第7回	年金制度	予習：教科書 第8編を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第8回	労働保険、まとめ	予習：教科書 第8編(第1章)を熟読する。 復習：講義で配布した資料を解き、提出する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
評価方法			
復習の課題提出20%、最終試験80%により評価する。			
オフィスアワー			
木曜以外（研究日）以外の平日。昼休み対応可。 できれば事前にメールで連絡ください。連絡先 m-takaku@gifuuoken.ac.jp			

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す	人間力	○
科目区分	専門教育関連科目-社会と環境の理解				ケア・スピリット	
授業コード	111044				実践的理解	
授業科目名	看護と関係法規				プロフェッショナリズム	
配当学年/ 学期	2年 後期 必修	単位数	1		多職種連携	○
担当教員	煤田恵子【実務該当教員】、就任予定者					

講義概要

看護職者はその職務上、多くの法規に関連しており、保健・医療・福祉に関連した法規と制度についての基礎知識の修得が欠かせない。この科目の目的は、他者と自己の尊重を基本に据えて、法規を活用することにより、人々の人権を守ると共に看護活動の質を高め、看護の対象者のQOLの向上に寄与することである。また、看護は社会や医療の変化に伴い、現実に沿うように法的整備がなされていくことを視野に入れて、看護の対象者の権利を守り、適切な看護サービスを適用するために法制度の基本的な考え方を身につけ、看護職者として知っておくべき法律や制度に関する理解を深める。また、看護職の資格や業務が法でどのように定められているのか、看護職として適切に職務を遂行するための法的根拠や判断基準について、具体的な事例等を用いて看護職者の法的責任への理解を深める。さらに、人々の健康維持を図るためのサービス提供機関とそこに従事する職種の役割・機能に関する基本的な規程について、法律を通して理解するとともに、法制度と実際の乖離や問題点について自分なりに考察ができるようになることをめざす。

授業内容（到達目標を含む）

1. 看護職の基本法規について説明できる
2. 看護職として働くために関係する法規の概要を知り、説明できる
看護職の基盤となる法規、医療法・医師法及びその他の医療に関する法規、福祉関係法規、保健衛生法規、予防衛生法規、薬事関係法規、その他の関係法規
3. 看護職として職務を遂行するための根拠や判断基準について説明できる

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

1. この科目では、各法律や制度を学びながら、特に「インフォームドコンセント」や「倫理」について意識して学修する。
2. 他の科目で学ぶ法や制度に関する部分をピックアップして学修することになるため、関連領域と連携・内容を確認しながら学びを深める。
3. 授業前に教科書の該当ページを予習するとともに、参考文献やインターネットなどで該当する条文を自主的に読んで講義に参加すること。
4. この単位を修得するためには、授業時間以外に30時間程度の学修が必要である。
5. グループ討論や、発表等に関するフィードバックはその都度講義時間内に行うことを原則とする。

教材

テキスト ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障④ 看護をめぐる方と制度、平林勝政・小西知世・和泉澤千恵編、メディカ出版、3,080円(税込)、ISBN:978-4-8404-6514-4、
参考図書 国民衛生の動向 2020/2021（第67巻第9号）厚生労働統計協会 2,695円（税込）
国民福祉と介護の動向 2020/2021（第67巻第10号）厚生労働統計協会 2,400円（税込）
系統看護学講座 健康支援と社会保障制度[4]看護関係法令 森山幹夫著 医学書院 2,640円（税込）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	保健医療福祉と法の関わり方 (チーム医療と法の構造、医療提供の理念、医療安全)	予習：教科書P27～48を読み、関心のある内容についてインターネット等で最終の情報を収集し、200字程度にまとめる。 復習：配布資料を見直し、講義で学んだことを200字程度にまとめる。	可
第2回	看護をめぐる法 (保健師助産師看護師法、免許、業務、医師法他)	予習：教科書P49～155を読み、関心のある内容について要点を200字程度にまとめる。 復習：配布資料を見直し、講義で学んだことを200字程度にまとめる。	可

第3回	医療機関における看護の保障と関係法規 (看護業務「療養上の世話」「診療の補助」 に関連する過去の事故事例に学ぶ)	予習：過去に起きた看護に関連する事故事例をインターネット等で情報収集し、200字程度にまとめる。 復習：配布資料を見直し、講義で学んだことを200字程度にまとめる。	可
第4回	看護活動と地域・在宅領域での人を守る法	予習：教科書P170～191を読み、あなたが住んでいる市町村での取り組みについて情報収集師、その内容を200字程度にまとめる。 復習：配布資料を見直し、講義で学んだことを200字程度にまとめる。	可
第5回	人を支えるシステムに関する法律 (健康保険法、介護保険法、精神保健福祉法、虐待防止法等)	予習：教科書P192～257を読み、疑問点を200字程度にまとめる。 復習：配布資料を見直し、講義で学んだことを200字程度にまとめる。	可
第6回	政策に関わる基本法等の関連法令 (個人情報保護に関する法、社会的弱者政策に関する法律、女性政策に関する法律等)	予習：教科書P258～311を読み、疑問点を200字程度にまとめる。 復習：配布資料を見直し、講義で学んだことを200字程度にまとめる。	可
第7回	インフォームドコンセントと看護過誤 (医療過誤)	予習：教科書P314～330を読み、生命の尊重と個人の尊厳の保持について自分の考えを200字程度にまとめる。 復習：配布資料を見直し、講義で学んだことを200字程度にまとめる。	可
第8回	法と生命倫理	予習：教科書P331～345を読み、インターネット等で国内外の倫理指針等に関して情報収集し、その内容を200字程度にまとめる。 復習：配布資料を見直し、講義で学んだことを400字程度にまとめる。	可
評価方法			
定期試験60%、小テスト20%、レポート20%により評価する。			
オフィスアワー			
榎田恵子：毎週 曜日 可能な限り事前にアポイントメントしてください。 連絡先 e-mail k-umeda@gifuhoken.ac.jp			

講義科目					る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す			
科目区分	専門教育関連科目-社会と環境の理解					人間力		
授業コード	111045					ケア・スピリット	○	
授業科目名	保健医療福祉行政論					実践的理解		
配当学年/ 学期	1年	後期	必修	単位数		2	プロフェッショナリズム	
担当教員	牧野悦子					多職種連携	○	

講義概要

日本における社会保障・社会福祉の歴史および制度、それぞれの制度が果たしている役割について学修する。また、保健・医療・福祉行政の理念と法制度、社会資源について学修する。さらに、住民の基本的な権利「健康」をサポートするために、公衆衛生やヘルスプロモーションなどによる地域づくりとそれを行なうしくみについて理解を深める。特に近年進められている社会保障制度改革から、地域包括ケア、地域医療構想など保健・医療・福祉行政分野の喫緊の課題についても詳しく学ぶ。

授業内容（到達目標を含む）

看護職として必要な保健・医療・福祉の制度について学び、厚生行政のシステムを理解する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

日頃から身近な地域や国内で起こっている保健医療福祉の動向に関心を持って講義に積極的に臨むこと。毎回の授業後には関連する法律も含めて復習をしておく。この科目の単位を取得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修が必要である。

教材

テキスト ①系統看護学講座 健康支援と社会保障
「看護関係法令」最新版 医学書院ISBN978-4-260-03449-4 2,400円
参考図書 ②国民衛生の動向 最新版

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	第1章 法の概念 P2～18	法の構造を説明できる。医療法を理解できる。チーム医療の枠組みを概観できる。地域医療構想を概観する。	
第2回	第2章 看護法 第3章 医事法 P20～117	保健師助産師看護師法を理解し役割を説明できる。その他医療や福祉の専門職を理解できる。（予習）第2章をよく読み授業に臨む。	
第3回	第4章 保健衛生法 P120～P159	公の責任で実施される地域保健の構造を理解し説明できる。自分・最近の母子健康手帳を見て、法と政策を具体的に知る。（予習）第4章Aをよく読み授業に臨む。	
第4回	第5章 薬務法 P162～P178	薬務法の概略を理解できる。（予習）第5章をよく読み授業に臨む。	
第5回	第6章 環境衛生法 P182～187	環境衛生法の概略を理解できる。（予習）第6章読み授業に臨む。	
第6回	第7章 社会保険法 P191～P210	社会福祉法の概略について理解できる。自分の加入保険を知り、応用を深める。（予習）第7章をよく読み授業に臨む。	

第7回	第8章 福祉法 P213～P232	福祉法の枠組みを概観できる。（予習）第8章をよく読み授業に臨む。	
第8回	第9章 労働法と社会的基盤整備P234 ～P251	労働法の概略を理解できる。（予習）第9章をよく読み授業に臨む。	
第9回	第10章 環境法 P255～P267 看護関係法規 P269～P337	老人福祉法や高齢者に係る法等を概観できる。成年後見制度を理解できる。（予習）第10章をよく読み授業に臨む。	
第10回	グループワークに向けての説明・レポートについて	事例と法律の関係を考えテーマを選定する。	
第11回	グループワーク	法律・制度を学習し、事例を通し多職種との係りの概略を理解できる。	
第12回		発表に向けてグループ・個人の意見を共有でいる。	
第13回	発表	保健医療福祉行政論で学んだ領域やそれに係るデータから自分たちの生活と結びつく事例を考え、その事例を基にした法律や制度、その活用をまとめ発表することができる。	
第14回			
第15回	母子保健法・介護保険法・地域包括ケアシステム等	看護師と関係の深い法・地域療養の仕組みの概要を理解できる	
* テーマの順序は一部変更する可能性がある			
評価方法			
課題レポート発表20%、最終試験80%により評価する。 S (100～90点) : 保健医療福祉行政論で学んだ知識に基づき、対象者の特性に応じた社会資源の活用及びチームケアと多職種の連携を考えることができる。 A (89～80点) : 保健医療福祉行政論で学んだ知識に基づき、対象者の特性に応じた社会資源の活用及びチームケアと多職種の連携を解釈できる。 B (79～70点) : 保健医療福祉行政論で学んだ知識に基づき、社会資源の活用及びチームケアと多職種の連携を考えることができる。 C (69～60点) : 保健医療福祉行政論の基本的な概念と、用語などに関する基本的事項について理解している。 D (60点未満) : Cのレベルに達していない。			
オフィスアワー			

講義科目					る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す	人間力	○
科目区分	専門教育関連科目-社会と環境の理解					ケア・スピリット	
授業コード	111046					実践的理解	
授業科目名	保健看護情報学					プロフェッショナルリズム	
配当学年/ 学期	2年 前期 選択	単位数	1			多職種連携	
担当教員	永坂和子【実務該当教員】						

講義概要

医療における情報科学の発達により、看護職者には情報通信技術(ICT)の活用能力が求められている。インターネットを活用した地域医療連携システム、電子カルテなどのICTの仕組み、データの収集と情報処理、個人情報を取り扱う上での倫理と法律、個人情報の管理と漏えい防止について学習する。看護職者の取り扱う医療情報について、患者の疾病管理や看護ケアを構ずるうえでの重要性を理解し、看護実践に活かす能力を養う。

授業内容（到達目標を含む）

1. 看護職者が患者・家族中心のケア実践するために取り扱う保健医療に関する情報通信技術（CIT）の仕組みが理解できる。
2. エビデンスに基づくデータ収集、利点とリスク、情報倫理、法律、医療安全等の視点が理解できる。
3. 医療および施設、在宅ケアにおける電子カルテの仕組みや多職種による情報共有が理解できる。
4. 地域における医療介護情報や連携の媒体を理解し、実際の情報収集ができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

臨床場面や看護学実習においては、電子カルテやコミュニケーション等を通じて、患者・家族の情報収集が必須となる。予習(テキストを読む、地域医療情報等)と講義内容(資料)を復習することで、事前の地域医療の情報収集を行うことで円滑な領域実習の情報収集に結び付く。

教材

テキスト 中山和弘他：系統看護学講座、別巻、看護情報学、医学書院
 参考図書 太田勝正、前田樹海：エッセンシャル、看護情報学、医歯薬出版
 太田勝正、猫田泰敏：Nursing Informatics看護情報学、医学書院

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	情報とは：情報の特性、情報とコミュニケーション、医療における情報、看護における情報と活用 □	予習：テキスト第1・第3章P4～P21、P40～P61を読み、200字程度でまとめる。 復習：各200字程度にまとめる。 予習時間：60分、復習時間：60分	可
第2回	医療情報システム：臨床に必要な看護データ、看護用語の標準化や看護の質指標、情報に翻弄される患者・市民、意思決定支援、チーム医療における情報、電子カルテについてグループワーク	予習：テキスト第4章P64～P86を読み、200字程度でまとめる。 復習：各200字程度にまとめる。 予習時間：60分、復習時間：60分	
第3回	医療における情報システム：入院患者ケアシステム：医療記録における法令上の記載、医療情報システム導入の実際、看護過程による情報処理、看護記録の構成要素	予習：テキスト第5章P90～P127を読み、200字程度でまとめる。 復習：各200字程度にまとめる。 予習時間：60分、復習時間：60分	可
第4回	電子カルテによる記録：カンファレンス等の多職種連携と記録、診療録記録の開示とガイドライン、病院情報システムと記録の仕方、クリニカルパス、DPC(診断群分類)、医療過誤防止システム、入院患者化システム、看護管理・業務支援システム	予習：配布資料を読み、各200字程度でまとめる。 復習：各200字程度にまとめる。 予習時間：60分、復習時間：60分	可

第5回	情報倫理と医療倫理とは：情報倫理、医療倫理、看護倫理、患者に権利と自己決定への支援、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン、診療情報の開示、レセプト開示、医療訴訟	予習：テキスト6章～7章P132～P158を読み、200字程度でまとめる。 復習：各200字程度にまとめる。 予習時間：60分、復習時間：60分	可
第6回	個人情報とは：医療従事者・看護学生としての義務、看護学生における患者情報の取り扱い、看護学生が起こしやすい実習中の情報トラブル、研究における個人情報保護	予習：テキスト第8章P160～P174を読み、200字程度でまとめる。 復習：各200字程度にまとめる。 予習時間：60分、復習時間：60分	可
第7回	調査とは：調査の目的、調査の準備・設計、倫理的配慮、実際の地域医療・介護に関する情報収集、発表	予習：テキスト第11章P224～P225を読み、200字程度でまとめる。 自分が住んでいる医療圏内の病院、病床区分、診療科、施設等の数や偏在を調査してくる。 復習：各200字程度にまとめる。 予習時間：60分、復習時間：60分	
第8回	自分が住む地域医療福祉等の情報収集と発表：演習の中で情報共有する。	予習：自分が住んでいる地域の医療福祉に関する情報連携媒体、電子連絡帳等を調べ、レポート用紙1枚まとめる。 復習：各200字程度にまとめる。 予習時間：60分、復習時間：60分	
評価方法			
最終試験(60%)、小テスト(20%)、課題レポート(20%)			
オフィスアワー			
永坂和子：月～木曜日(9:00～17:00) 事前にアポイントを取って下さい。連絡先 e-mail k-nagasaka@gifuuoken.ac.jp			

講義科目					る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の基本					人間力	
授業コード	111047					ケア・スピリット	○
授業科目名	看護学概論					実践的理解	○
配当学年/ 学期	1年 前期 必修	単位数	2			プロフェッショナリズム	○
担当教員	山本澄子【実務該当教員】					多職種連携	○

講義概要

これから学ぶ看護学全ての導入科目である。「看護とは・看護の対象者とは・看護師とは・専門職とは・看護ケアとは」何かを学ぶとともに、看護の目的や看護教育制度から看護学生に何が求められているかを理解して、専門科目の学修や臨地実習に取り組むことができるようにする。また、人間の生命・尊厳・生活に関わる権利を尊重するための倫理観を養う。さらに、看護の歴史的発展を踏まえて看護の代表的な理論や看護モデルを学び、自己の看護観の形成に役立てる。

授業内容（到達目標を含む）

看護とは何か、看護に必要な知識を身につけ、個人・家族・集団・地域について幅広く理解し、根拠に基づいた看護実践の必要性を教授する。
到達目標 ①看護の本質を論じることができる。②健康の捉え方を述べることができる。③主体的に学ぶ姿勢を獲得できる。④看護の対象、看護の場、看護の機能と役割を述べるができる。⑤保健・医療・福祉提供システムと看護、チーム医療の重要性を関連づけることができる。⑥看護専門職としての課題と、これからの展望を論じることができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

1. シラバス内容から講義予定部分のテキスト部分を2時間程度学習し、講義により理解を深め、授業後はテキスト、配布資料から見直しを2時間程度行ない次の授業に備える。
2. 20分以上の遅刻は遅刻は欠席とみなす。

教材

テキスト ナーシング・グラフィカ基礎看護学①看護学概論、志自岐康子他編、メディカ出版、3,080円（税込）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	授業の概要・授業の進め方、看護とは、看護の本質と責務	予習： 看護の本質と責務について調べる。 復習：「看護のイメージ」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第2回	看護の定義、看護の理論家たち	予習： 看護の定義について調べる。 復習：「看護とは」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第3回	対象の理解：統合体としての人間、個人・家族・コミュニティ・地域社会	予習： 看護の対象の理解について調べる。 復習：「統合体としての人間とは」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第4回	対象の理解：健康障害をもつ対象の理解、ストレスと適応、人間の暮らし	予習： 看護の対象の理解について調べる。 復習：「統合体としての人間とは」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第5回	健康の捉え方：健康の定義、障がいの定義、社会状況の変遷と健康観の変化	予習： 健康の捉え方について調べる。 復習：「健康とは」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可

第6回	看護の歴史的変遷：原始～古代～中世～近世の看護	予習： 看護の歴史的変遷、事前配布資料について調べる。 復習：「第6回・第7回の授業内容から印象に残ったこと」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第7回	看護の歴史的変遷：アメリカ・ヨーロッパの看護	予習： 看護の歴史的変遷について調べる。 復習：「第6回・第7回の授業内容から印象に残ったこと」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第8回	看護の歴史的変遷：日本の看護	予習： 看護の歴史的変遷について調べる。 復習：「日本の看護の歴史で印象に残った内容」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第9回	看護の機能と役割：看護の目標・看護の活動	予習： 看護の機能と役割、看護目標、看護活動について調べる。 復習：「看護活動と医療チームの中での看護職の役割」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第10回	看護の機能と役割：看護の機能・役割、医療チームの中の役割	予習： 看護の機能と役割、看護目標、看護活動について調べる。 復習：「看護活動と医療チームの中での看護職の役割」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第11回	看護倫理とは：倫理学と看護学、価値とQOL、看護関係用語	予習： 看護における倫理について調べる。 復習：「看護倫理がなぜ必要か」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第12回	看護における法的側面：看護実践と医療安全、医療の質保証と医療過誤	予習： 看護における法的側面について調べる。 復習：「医療安全と医療過誤」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第13回	職業としての看護：看護の専門分化、看護職養成制度	予習： 事前配布資料を熟読する。 復習： 「日本の看護教育制度で思うところ」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第14回	日本の看護教育の歴史的変遷、看護教育とキャリア開発	予習： 事前配布資料を熟読する。 復習： 「日本の看護教育制度で思うところ」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第15回	看護の継続性、保健・医療・福祉サービスと看護活動、看護の課題と展望	予習： 保健・医療・福祉システムについて調べる。 復習：「保健・医療・福祉と看護職の役割」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
評価方法			
定期試験80%、課題レポート20%により評価する。			
オフィスアワー			
研究室在室時は可能な限り対応しますので、他者が在室中でもとにかくノックしてください。			
連絡先：e-mail sumi-yamamoto@gifuuoken.ac.jp			

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す	人間力	
科目区分	専門教育科目 -看護の基本				ケア・スピリット	
授業コード	111048				実践的理解	○
授業科目名	看護援助方法論Ⅰ				プロフェッショナリズム	○
配当学年/ 学期	1年 前期 必修	単位数	1		多職種連携	○
担当教員	山本澄子【実務該当教員】、岩瀬通江					

講義概要			
看護活動の場において、様々な健康段階・発達段階にある人々への看護の基盤となる。生活行動の援助としての看護技術について学修し修得する。具体的には、有害なものに対する防御を支援するケア、身体機能を支援するケア、身体機能を支援するケア、ヘルスケアシステムの有効な利用を支援するケア、心理機能を支援しライフスタイルの変容を促進するケアを実践するための基本的な看護介入の技術の方法を修得する。			
授業内容（到達目標を含む）			
コミュニケーション技法（基本的かかわり技法）、感染防御（スタンダードプリコーション、ガウン・手袋の着脱法）、ベッドメイキング（リネン類のたたみ方、オープンベッド・クローズドベッドの作製法）を教授する。到達目標 ①基本的かかわり技法を通して、援助的対人関係について論じることができる。 ②感染予防の意義と手指消毒の必要性を述べることができる。 ③オープンベッドとクローズドベッドの基本に基づいたベッドを作製することができる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
1. シラバス内容から講義予定部分のテキスト部分を2時間程度学習し、講義により理解を深め、授業後はテキスト、配布資料から見直しを2時間程度行ない次の授業に備える。 以上の遅刻は遅刻は欠席とみなす。			
教材			
テキスト 1. ナーシンググラフィカ基礎看護学③基礎看護技術、志自岐康子他編、メディカ出版、3,960円（税込） 2. 看護技術 講義・演習ノート上巻、山口瑞穂子編著、サイオ出版、3,960円（税込） 3. 看護技術 講義・演習ノート下巻、山口瑞穂子編著、サイオ出版、3,960円（税込）			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	授業の概要・授業の進め方、看護援助方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの構成と内容の関連性、看護技術援助の意義と必要性、生活行動援助技術と診療に伴う援助技術は、コミュニケーション技術（講義）	予習： 保健・医療・福祉における生活行動援助技術の意義について調べる。 復習： 「生活行動援助技術の意義と必要性」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第2回	コミュニケーション技術（基本的かかわり技法）、プロセスレコードとは（講義・演習）	予習： コミュニケーションについて調べる。 復習： 「対人関係とコミュニケーション」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第3回	場面設定による基本的かかわり技法（ロールプレイ）、プロセスレコード作成（演習）	予習： 患者に対する基本的かかわり技法とプロセスレコードについて調べる。 復習： 「プロセスレコード作成の意義」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第4回	患者と家族への支援、カウンセリング	予習： カウンセリングとはについて調べる。 復習： 「看護に必要なカウンセリング技法」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	

第5回	環境調整技術、病床環境とは、環境アセスメント、患者（対象者）の生活の場の必要条件（講義）	予習： 環境アセスメントについて調べる。 復習：「患者の病床環境について思うこと」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第6回	環境を整える技術、テリトリーと個人空間、病院・病棟の構造と設備（講義）	予習： 病院・病棟の役割と病床環境とテリトリーについて調べる。 復習：「患者の病床環境について思うこと」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第7回	感染防御技術、感染防御に必要な基礎知識、感染症に関する法律（講義）	予習： 感染症に関する法律を調べる。 復習：「感染症成立要因」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第8回	感染防御アセスメント、実習室の使用法（講義・演習）	予習： 感染防御アセスメントについて調べる。 復習：「感染症成立要因」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第9回	衛生的な手洗いの方法、スタンダードプリコーション、ディスポーザブルエプロン・手袋の着脱法（演習）	予習： スタンダードプリコーション、手洗いの意義について調べる。 復習：「感染症成立要因」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第10回	衛生的な手洗いの方法、スタンダードプリコーション、ディスポーザブルエプロン・手袋の着脱法（演習）	予習： スタンダードプリコーション、手洗いの意義について調べる。 復習：「感染症成立要因」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第11回	リネン類・タオル類・寝衣のたたみ方、三角コーナー・四角コーナー・横シーツの作製法（演習）	予習： リネン類・タオル類のたたみ方と日常生活との関連性、ベッドの角のシーツの作製法の意義について調べる。 復習：「ベッド作製時の三角コーナーと四角コーナーの違い、足元のタックをつくる意味」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第12回	ベッドメイキング（オープンベッド・クローズドベッド）（演習）	予習： ベッドメイキング作製法の意味について調べる。 復習：「ベッドメイキングとボデイメカニクスの関係、足元のタックをつくる意味」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第13回	ベッドメイキング（オープンベッド・クローズドベッド）（演習）	予習： ベッドメイキング作製法の意味について調べる。 復習：「ベッド作製時の三角コーナーと四角コーナーの違い、シーツのしわの身体への影響」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第14回	ベッドメイキング（オープンベッド・クローズドベッド）、エプロン・手袋の着脱法（演習）	予習： ベッドメイキング作製法の意味について調べる。 復習：「ベッド作製時の三角コーナーと四角コーナーの違い、シーツのしわの身体への影響」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	

第15回	ベッドメイキング（オープンベッド・クローズドベッド）、エプロン・手袋の着脱法（演習）	予習： オープンベッド・クローズドベッドと 病床環境との関係について調べる。 復習： 「患者にとっての安楽なベッドについての 自身の考え」について200字程度にま とめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
評価方法			
定期試験50%、技術到達状況30%、課題レポート20%で評価する。技術到達状況（技術チェック）は別日に設ける。			
オフィスアワー			
研究室在室時は可能な限り対応しますので、他者が在室中でもとにかくノックしてください。			
山本連絡先：e-mail sumi-yamamoto@gifuhoken.ac.jp			
岩瀬連絡先：e-mail m-iwase@gifuhoken.ac.jp			

講義科目						
科目区分	専門教育科目 -看護の基本			る デ イ プ に 必 マ 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す	人間力	
授業コード	111049				ケア・スピリット	
授業科目名	看護援助方法論Ⅱ				実践的理解	○
配当学年/ 学期	1年 後期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	山本澄子【実務該当教員】、岩瀬通江				多職種連携	○

講義概要

看護援助方法論Ⅰで学んだエビデンスに基づいた看護介入の方法の知識を活用し、看護活動の場において様々な健康段階・発達段階にある人々への看護の基盤となる生活行動の援助としての看護技術について学内の実習室にて演習を行なう。具体的には衛生手洗い、擦式アルコール手指消毒、感染性廃棄物取扱い、防御用装具、ベッドメイキング、基本的体位・良好な体位、体位変換、車椅子への移乗・移送、ストレッチャーへの移乗・移送、療養上の環境調整、臥床患者のリネン交換、寝衣交換、摂食介助および口腔ケア、清拭、部分浴、洗髪、排泄ケアの技術を修得する。

授業内容（到達目標を含む）

活動・休息援助技術、食事・排泄援助技術、清潔援助技術について教授する。
到達目標 ①科学的根拠に基づいた看護技術を説明することができる。 ②原理・原則に基づいた看護基本技術を実施することができる。 ③対象者の安全・安楽を踏まえた看護援助を述べるすることができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

1. シラバス内容から講義予定部分のテキスト部分を2時間程度学習し、講義により理解を深め、授業後はテキスト、配布資料から見直しを2時間程度行ない次の授業に備える。
2. 20分以上の遅刻は遅刻は欠席とみなす。

教材

テキスト 1. ナーシンググラフィカ基礎看護学③基礎看護技術、志自岐康子他編、メディカ出版、3,960円（税込）
2. 看護技術 講義・演習ノート上巻、山口瑞穂子編著、サイオ出版、3,960円（税込） 3. 看護技術 講義・演習ノート下巻、山口瑞穂子編著、サイオ出版、3,960円（税込）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	授業の概要・授業の進め方、体位の安定性、人間工学とボディメカニクス（講義）	予習： 人間工学について調べる。 復習：「看護業務と人間工学の関係」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第2回	活動・休息援助技術：体位変換の原理・法則、移乗と移送の意義と必要性、休息と睡眠への援助（講義）	予習： 活動・休息援助技術について調べる。 復習：「活動と休息の意義と関係」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第3回	体位変換法：4つの原理・法則（演習）	予習： 体位変換法について調べる。 復習：「体位変換4つの原理・法則の図示化」についてA4版2枚程度（縦置き横書き）にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第4回	体位変換法：4つの原理・法則法則（演習）	予習： 体位変換法について調べる。 復習：「体位変換4つの原理・法則の図示化」についてA4版2枚程度（縦置き横書き）にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第5回	移乗と移送法：車椅子・ストレッチャー・杖歩行（演習）	予習： 患者の移乗と移送について調べる。 復習：「患者の移乗・移送時の注意事項（留意事項）」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	

第6回	移乗と移送法：車椅子・ストレッチャー・杖歩行（演習）	予習： 患者の移乗と移送について調べる。 復習：「患者の移乗・移送時の注意事項（留意事項）」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第7回	食事援助技術：栄養と食事、食欲と空腹感、栄養状態の評価、消化と吸収、非経口的栄養法（講義）	予習： 栄養とは何か、栄養状態の評価について調べる。 復習：「摂取物の消化と吸収」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第8回	排泄援助技術：排泄の意義、排泄の生理、排尿・排便の異常（講義）	予習： 排泄の意義、排泄の生理について調べる。 復習：「摂取物の排泄の生理」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第9回	食事の介助と体位・口腔ケア、排泄介助法（演習）	予習： 食事介助時の留意事項、口腔ケア・排泄介助の留意事項について調べる。 復習：「口腔ケアの意義とブラッシング法」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第10回	食事の介助と体位・口腔ケア、排泄介助法（演習）	予習： 食事介助時の留意事項、口腔ケア・排泄介助の留意事項について調べる。 復習：「口腔ケアの意義とブラッシング法」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第11回	清潔援助技術：身体清潔の意義と必要性、皮膚の生理作用、清潔法の種類（講義）	予習： 皮膚の生理作用について調べる。 復習：「皮膚の生理作用と身体清潔の意義」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第12回	清潔援助技術：部分清拭、寝衣交換、足浴（演習）	予習： 皮膚の生理作用について調べる。 復習：「皮膚の生理作用と身体清潔の意義」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第13回	清潔援助技術：部分清拭、寝衣交換、足浴（演習）	予習： 各種身体清潔方法について調べる。 復習：「入浴法と清拭法の相違、足浴の効果」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第14回	清潔援助技術：洗髪（演習）	予習： 洗髪の意義、洗髪法について調べる。 復習：「ケリーパッドによる洗髪での対象者と留意事項」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第15回	清潔援助技術：洗髪（演習）	予習： 洗髪の意義、洗髪法について調べる。 復習：「ケリーパッドによる洗髪での対象者と留意事項」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
評価方法			
定期試験50%、技術到達状況30%、課題レポート20%で評価する。技術到達状況（技術チェック）は別日に設ける。			
オフィスアワー			
研究室在室時は可能な限り対応しますので、他者が在室中でもとにかくノックしてください。			
山本連絡先：e-mail sumi-yamamoto@gifuhoken.ac.jp			
岩瀬連絡先：e-mail m-iwase@gifuhoken.ac.jp			

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の基本				人間力	
授業コード	111050				ケア・スピリット	
授業科目名	看護援助方法論Ⅲ				実践的理解	○
配当学年/ 学期	1年 後期 必修	単位数	1		プロフェッショナルリズム	○
担当教員	山本澄子【実務該当教員】、岩瀬通江				多職種連携	○

講義概要			
看護活動の場において、様々な健康段階・発達段階にある人々の診療援助にかかわる看護技術とそのエビデンスについて演習を通じて学修する。具体的には、生命の兆候を観察する技術、感染予防技術、検査に伴う看護技術、与薬の技術、創傷管理技術等を通じて、リスク管理、身体機能調節を支援するケア、ヘルスケアシステム、恒常性調節を支援するケアを実践するための基本的な看護介入の方法を修得する。			
授業内容（到達目標を含む）			
医師の指示のもとで行なう診療に伴う援助技術を中心とした内容である。感染防御技術、安楽を促す援助技術、与薬と看護、呼吸を整えるための看護、排泄援助技術について教授する。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
1. シラバス内容から講義予定部分のテキスト部分を2時間程度学習し、講義により理解を深め、授業後はテキスト、配布資料から見直しを2時間程度行ない次の授業に備える。 2. 20分以上の遅刻は遅刻は欠席とみなす。			
教材			
テキスト 1. ナーシンググラフィカ基礎看護学③基礎看護技術、志自岐康子他編、メディカ出版、3,960円（税込） 2. 看護技術 講義・演習ノート上巻、山口瑞穂子編著、サイオ出版、3,960円（税込） 3. 看護技術 講義・演習ノート下巻、山口瑞穂子編著、サイオ出版、3,960円（税込）			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	授業の概要・授業の進め方、診療における看護師の役割、診療（診察・検査）に伴う看護、滅菌物の取扱い・無菌操作について（講義）	予習：診療における看護師の役割について調べる。 復習：「診療（診察・検査）における看護師の役割」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第2回	創傷保護管理、安楽を促す援助（講義）	予習：創傷保護管理、褥瘡について調べる。 復習：「創傷保護管理と看護師の役割」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第3回	与薬と看護：薬物療法の基礎知識、薬物療法と看護師の役割（講義）	予習：薬物療法の基礎知識について調べる。 復習：「薬物療法における看護師の役割」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第4回	与薬と看護：注射法の基礎知識、注射法の種類と適応、輸血について（講義）	予習：薬物療法の基礎知識について調べる。 復習：「薬物療法における看護師の役割」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第5回	呼吸を整えるための看護：酸素吸入法、吸引法（講義・演習）	予習：酸素吸入、吸引について調べる。 復習：「人間にとって酸素吸入や吸引実施がなぜ必要なのか」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	

第6回	排泄援助技術：導尿法、浣腸法（講義）	予習：導尿法とは、浣腸法とはについて調べる。 復習：「人間にとっての導尿することの意義、浣腸することの意義」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第7回	ガウンテクニック（清潔区域と汚染区域）、滅菌物の取扱い、滅菌手袋の着脱法、創傷処置（演習）	予習：清潔区域と汚染区域におけるガウンテクニック手技の必要性について調べる。 復習：「消毒と滅菌について」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第8回	ガウンテクニック（清潔区域と汚染区域）、滅菌物の取扱い、滅菌手袋の着脱法、創傷処置（演習）	予習：清潔区域と汚染区域におけるガウンテクニック手技の必要性について調べる。 復習：「消毒と滅菌について」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第9回	温電法、冷電法（演習）	予習：温電法と冷電法について調べる。 復習：「温電法と冷電法の効用と禁忌」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第10回	包帯法、三角巾、腹帯（演習）	予習：包帯法、三角巾について調べる。 復習：「包帯法の種類と適用部位、三角巾使用の意義」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第11回	与薬の技術：注射針・シリンジ・真空採血管の取扱い、注射液の吸い上げ（演習）	予習：与薬法の種類と使用法について調べる。 復習：「与薬法の種類とその効用」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第12回	与薬の技術：アンプルカット、採血法（演習）	予習：与薬法の種類と使用法について調べる。 復習：「与薬技術の注意点」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第13回	与薬の技術：皮下注射法、筋肉内注射法、静脈内注射法（演習）	予習：与薬法の種類と使用法について調べる。 復習：「注射法の種類と看護師の観察」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第14回	排泄を促す援助技術：導尿法、浣腸法 与薬の技術：採血法、注射法（演習）	予習：医師の指示のもと行なう導尿法、浣腸法について調べる。 復習：「導尿法実施の注意事項、浣腸法実施の注意事項」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第15回	排泄を促す援助技術：導尿法、浣腸法 与薬の技術：採血法、注射法（演習）	予習：医師の指示のもと行なう導尿法、浣腸法について調べる。 復習：「導尿法実施の注意事項、浣腸法実施の注意事項」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
評価方法			
定期試験50%、技術到達状況30%、課題レポート20%で評価する。技術到達状況（技術チェック）は別日に設ける。			
オフィスアワー			
研究室在室時は可能な限り対応しますので、他者が在室中でもとにかくノックしてください。 山本連絡先：e-mail sumi-yamamoto@gifuu.ac.jp 岩瀬連絡先：e-mail m-iwase@gifuu.ac.jp			

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の基本				人間力	
授業コード	111051				ケア・スピリット	○
授業科目名	看護過程演習				実践的理解	○
配当学年/ 学期	2年 後期 必修	単位数	2		プロフェッショナリズム	
担当教員	秋山直美、山本澄子【実務該当教員】				多職種連携	

講義概要

看護過程について理解し、実践に活用するための方法を学ぶ。看護過程に必要な知識と技術を活用し、正しい看護診断が導ける判断力を養成するため模擬患者を使用した授業を行なう。看護の対象に有効な看護介入と成果を選択し、実践可能な計画を立案し、看護の対象とのかかわりで得た情報を客観的に言語化した記録として伝達できる能力を身につける。さらに、対象により異なる理論を用いて看護過程を展開する能力を修得する。

授業内容（到達目標を含む）

看護過程とは何か。看護の対象である人間の健康にかかわる問題を明らかにし、その問題を解決していく過程を事例を通して理解していく。

- 到達目標 ①看護過程の意義と目標を説明できる。
 ②看護過程の一連の流れを実施できる。
 ③健康にかかわる情報の収集・分析・整理をしてアセスメントができる。
 ④その人に合った看護問題を明確にし、看護援助法を見い出すことができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

1. シラバス内容から講義予定部分のテキスト部分を1時間程度学習し、講義により理解を深め、授業後はテキスト、配布資料から見直しを1時間程度行ない次の授業に備える。2. 20分以上の遅刻は遅刻は欠席とみなす。3. 事例展開演習であり、学生個々が事例に対する看護過程の展開を行なうものである。

教材

テキスト 1. 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践、秋葉公子他著、ヌーヴェルヒロカワ、2,200円（税込）
 2. ナーシンググラフィカ基礎看護学③基礎看護技術、志自岐康子他編、メディカ出版、3,960円（税込）3. 看護技術 講義・演習ノート上巻、山口瑞穂子編著、サイオ出版、3,960円（税込）
 参考図書 実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド、任和子編著、照林社、2,860円（税込）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	授業の概要・授業の進め方、看護過程とは、看護過程の位置づけ	予習： 看護過程とは何かについて調べる。 復習： 課題「看護過程とは」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第2回	看護の本質と看護過程の関係性、看護過程と看護診断	予習： 看護の本質と看護過程の関連性とは何かについて調べる。 復習： 課題「看護論と看護過程の関連性、看護を記録する必要性」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第3回	看護過程の構成：情報収集、アセスメント、看護診断、計画立案、実施、評価	予習： 看護過程の構成について調べる。 復習： 課題「看護過程の構成立ての必要性」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第4回	看護過程の展開法について、記録用紙の記載法について	予習： 看護過程の展開について調べる。 復習： 課題「看護過程の構成立ての必要性」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	

第5回	事例の紹介	予習： 看護過程の展開について調べる。 復習： 課題「事例の看護過程展開による看護の必要性」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第6回	看護過程の展開法：事例の読み取り、情報収集の整理	予習： 看護過程の展開について調べる。 復習： 課題「事例の看護過程展開による看護の必要性」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第7回	看護過程の展開法：事例の読み取り、情報収集の整理	予習： 看護過程の展開について調べる。 復習： 課題「事例の看護過程展開による看護の必要性」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第8回	事例の基本的欲求の充足に関するアセスメント	予習： 看護過程の実際について調べる。 復習： 課題「人間の基本的欲求の未充足からくる心身の変化」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第9回	事例の基本的欲求の充足に関するアセスメント	予習： 看護過程の実際について調べる。 復習： 課題「人間の基本的欲求の未充足からくる心身の変化」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第10回	体温表の記載方、事例の全体像	予習： 看護過程の実際について調べる。 復習： 課題「患者の全体像を図式化する意味」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第11回	事例の全体像	予習： 看護過程の実際について調べる。 復習： 課題「患者の全体像を図式化する意味」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第12回	アセスメント、全体像の修正・追加	予習： 看護過程の実際について調べる。 復習： 課題「患者の全体像を図式化する意味」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第13回	看護診断、看護計画立案	予習： 看護過程の実際について調べる。 復習： 課題「患者の看護問題の明確化（看護診断）と看護計画立案の必要性」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第14回	看護診断、看護計画立案、看護援助法	予習： 看護過程の実際について調べる。 復習： 課題「患者の看護問題の明確化（看護診断）と看護計画立案の必要性」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第15回	事例に対する看護過程の一連の流れの確認	予習： 看護過程の実際について調べる。 復習： 課題「患者の看護問題の明確化（看護診断）と看護計画立案の必要性」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
評価方法			
定期試験50%、看護過程の展開作成30%、レポート20%により評価する。			
オフィスアワー			
講義時に指定する。 山本連絡先：e-mail sumi-yamamoto@gifuuoken.ac.jp 秋山連絡先：e-mail n-akiyama@gifuuoken.ac.jp			

講義科目				
科目区分	専門教育科目 -看護の基本			人間力
授業コード	111052			ケア・スピリット ○
授業科目名	フィジカルアセスメント			実践的理解 ○
配当学年/学期	2年 前期 必修	単位数	1	プロフェッショナリズム
担当教員	山本澄子【実務該当教員】、秋山直美【実務該当教員】			多職種連携

講義概要

看護の対象の健康状態や病状、看護援助に関する情報を系統的に収集し、アセスメントする技術を身につける。看護におけるフィジカルアセスメントの位置づけ、頭部から爪先までの身体を系統的に診察する技術とそのアセスメントについて解説する。演習では、頭頸部、眼・耳・鼻・口、胸部（肺・胸郭/乳房・リンパ系/心臓・血管系）、腹部、直腸・肛門・外性器・鼠径部、四肢（筋・骨格筋系/末梢血管系、神経系）の系統別に診察を行ない、その結果のアセスメントを行なう。

授業内容（到達目標を含む）

フィジカルアセスメントとは何か。看護の対象である人間の健康にかかわる身体状態のアセスメント（評価・査定）技術について教授する。
 到達目標 ①フィジカルアセスメントの必要性を説明できる。
 ②フィジカルアセスメントに共通する技術を実施できる。
 ③バイタルサイン測定技術が正確にできる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

1. シラバス内容から講義予定部分のテキスト部分を2時間程度学習し、講義により理解を深め、授業後はテキスト、配布資料から見直しを2時間程度行ない次の授業に備える。2. 20分以上の遅刻は遅刻は欠席とみなす。

教材

テキスト ナーシング・グラフィカ基礎看護学②ヘルスアセスメント、松尾ミヨ子他編、メディカ出版、3,520円（税込）
 参考図書 看護のためのフィジカルアセスメント、守田美奈子監修、インターメディカ、4,290円
 はじめてのフィジカルアセスメント、横山美樹著、メヂカルフレンド社、3,080円

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	授業の概要・授業の進め方、ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーション、観察する意味	予習：ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーションとは何かについて調べる。 復習：課題「ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーションとは」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第2回	フィジカルアセスメントの共通技術：問診、視診、聴診、触診	予習：問診・視診・聴診・触診について調べる。 復習：課題「診察技術における看護師の役割」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第3回	系統別アセスメント：頭部、顔面、頸部	予習：頭部、顔面、頸部のアセスメントについて調べる。 復習：課題「頭部、顔面、頸部のアセスメントのポイント」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	

第4回	系統別アセスメント：眼、耳、鼻、口腔、咽頭	予習： 眼、耳、鼻、口腔、咽頭のアセスメントについて調べる。 復習： 課題「眼、耳、鼻、口腔、咽頭のアセスメントのポイント」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第5回	系統別アセスメント：胸部・肺、心臓・血管系	予習： 胸部・肺、心臓・血管系のアセスメントについて調べる。 復習： 課題「胸部・肺、心臓・血管系のアセスメントのポイント」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第6回	系統別アセスメント：乳房、腹部、生殖器、肛門	予習： 乳房、腹部、生殖器、肛門のアセスメントについて調べる。 復習： 課題「胸部・肺、心臓・血管系のアセスメントのポイント」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第7回	系統別アセスメント：筋・骨格系、脳・神経系	予習： 筋・骨格系、脳・神経系のアセスメントについて調べる。 復習： 課題「筋・骨格系、脳・神経系のアセスメントのポイント」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第8回	バイタルサインとは、意識状態のアセスメント：意識とは、意識状態を観察する意義	予習： 意識状態のアセスメントについて調べる。 復習： 課題「意識状態のアセスメントのポイント」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第9回	4項目のバイタルサイン測定の意義：体温・呼吸・脈拍・血圧	予習： バイタルサインとは何かについて調べる。 復習： 課題「バイタルサインの観察・測定・評価」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第10回	バイタルサイン測定：T・P・R・BP	予習： 体温のアセスメントについて調べる。 復習： 課題「体温維持のメカニズム」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第11回	バイタルサイン測定：T・P・R・BP	予習： 脈拍のアセスメントについて調べる。 復習： 課題「循環系とは何か」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第12回	バイタルサイン測定：T・P・R・BP	予習： 呼吸のアセスメントについて調べる。 復習： 課題「呼吸のメカニズム」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第13回	バイタルサイン測定：T・P・R・BP	予習： 血圧のアセスメントについて調べる。 復習： 課題「血圧測定時の留意事項」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	

第14回	バイタルサイン測定の確認	予習： バイタルサインとは何かについて調べる。 復習： 課題「バイタルサイン測定項目の測定法の留意事項」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第15回	バイタルサイン測定の確認	予習： バイタルサインとは何かについて調べる。 復習： 課題「バイタルサイン測定項目の測定法の留意事項」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
評価方法			
定期試験60%、技術到達度（技術チェック）30%、レポート10%			
オフィスアワー			
講義時に指定する。 山本連絡先：e-mail sumi-yamamoto@gifuoken.ac.jp 秋山連絡先：e-mail n-akiyama@gifuoken.ac.jp			

講義科目					る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開					人間力	
授業コード	111053					ケア・スピリット	
授業科目名	看護マネジメント					実践的理解	○
配当学年/ 学期	3年 前期 必修	単位数	1			プロフェッショナルリズム	
担当教員	秋山直美【実務該当教員】					多職種連携	○

講義概要				
看護マネジメントの概念と機能、看護部門のマネジメント、医療・看護の質、看護政策などについて学び、看護マネジメントの必要性和重要性を理解する。具体的には、病院経営、看護政策、看護部門マネジメント、看護人材マネジメント、看護目標管理、医療・看護の質保証等について理解を深める。医療提供体制の中で、看護管理者の果たす役割と今日的課題についても考察する。				
授業内容（到達目標を含む）				
1. 看護者が組織の一員としての自覚を持ち、質の高い看護を提供するために必要となる「仕組み」について説明できる。 2. 医療安全に必要な看護職としての責任や役割、組織の取組みを学び、事故防止システムを説明できる。 3. 国際協力の仕組みと看護活動の展開を述べるができる。				
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）				
・医療安全・国際看護活動に関する社会の動きについて関心を向けてほしい。 問題意識を持って能動的に学ぶ姿勢を期待する。				
教材				
手島恵 看護管理学 南江堂 2018 第2版、第5刷				
授業計画及び学習課題（予習・復習）				
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業	
第1回	看護管理を学ぶとは	予習：教科書Ⅰ章 復習：講義内に課題を提示	可	
第2回	看護組織と管理	予習：教科書Ⅰ章 復習：講義内に課題を提示	可	
第3回	看護管理のスキル	予習：教科書第Ⅱ章 復習：講義内に課題を提示	可	
第4回	安全管理（医療事故とヒューマンエラー／医療事故発生メカニズム、医療事故事例によるディスカッション）	予習：教科書第Ⅱ章 復習：講義内に課題を提示	可	
第5回	安全管理（医療安全への取り組み、危険予知の理論と実際 KYT）	予習：教科書第Ⅱ章 復習：講義内に課題を提示	可	
第6回	看護サービス管理の周辺	予習：教科書Ⅲ章 復習：講義内に課題を提示	可	
第7回	看護管理と倫理	予習：教科書Ⅲ章 復習：講義内に課題を提示	可	

第8回	看護管理の展望	予習：教科書Ⅳ章 復習：講義内に課題を提示	可
評価方法			
定期試験70%、課題レポート30%			
オフィスアワー			
授業後に対応 秋山直美：事前にアポイントを取って下さい。連絡先 e-mail n-akiyama@gifuhoken.ac.jp			

講義科目				ディプロマポリシーを達成するために必要な能力		
科目区分	専門教育科目－看護の基本				人間力	
授業コード	111054				ケア・スピリット	○
授業科目名	看護理論				実践的理解	○
配当学年/ 学期	1年 後期 必修	単位数	1		プロフェッショナルリズム	○
担当教員	山本澄子【実務該当教員】、野田みや子【実務該当教員】、内藤直子【実務該当教員】				多職種連携	○

講義概要

看護理論家たちが「看護とは何か」を問い、探究し、その結果を著した看護の本質論である看護理論に接する。看護理論の発達、理論の発達過程、年代に沿って主たる理論家とその理論概要を紹介する。看護実践に必要な主な看護理論を取り上げ、その理論について考察する。成人看護学、母性看護学、小児看護学、老年看護学のそれぞれの領域における看護理論について学び、将来の看護実践につなげる。

授業内容（到達目標を含む）

看護の先行研究とクリティック、看護理論との関連性について探求する。看護理論は看護実践の裏づけとなる考え方の枠組みを示すものであり、人間・環境・健康・看護の基礎概念を理解することにより、科学的思考を基盤とした看護実践基礎能力が身につくよう教授する。この科目はオムニバス形式で進める。

到達目標 ①先行研究論文に対するクリティックの必要性を論じることができる。
②先人の看護理論を学習し、それぞれの特性について述べることができる。
③看護学に共通する基本的概念と看護理論の関連性について論じることができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

1. シラバス内容から講義予定部分のテキスト部分を1時間程度学習し、講義により理解を深め、授業後はテキスト、配布資料から見直しを1時間程度行ない次の授業に備える。
2. 20分以上の遅刻は遅刻は欠席とみなす。

教材

テキスト 1. ナーシング・グラフィカ基礎看護学①基礎看護学、志自岐康子他編、メディカ出版、3,080円（税込）
2. ロイとゴードンで母性小児看護過程―臨床推論につながるアセスメント力UP、内藤直子他、ふくろう出版、2022、3000円+税

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	授業の概要・授業の進め方、看護学と看護理論、理論の定義、看護活動と看護理論家（山本）	予習： 理論の定義について調べる。 復習： 課題「理論とは」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第2回	看護実践における倫理的概念と倫理的行動の規律、理論の看護実践活用に活かす意義（山本）	予習： 看護者の倫理綱領について調べる。 復習： 課題「看護師の倫理綱領と倫理的行動の規律に対する自身の考え」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第3回	看護理論の分類と特徴、看護理論と看護過程、クリテイクの意義（山本）	予習： 理論と看護過程について調べる。 復習： 課題「看護理論と看護過程の関係性」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第4回	フローレンス・ナイチンゲールとヴァージニア・ヘンダーソン（山本）	予習： フローレンス・ナイチンゲールとヴァージニア・ヘンダーソンについて調べる。 復習： 課題「上記2者についてのあなたの感想」を200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可

第5回	看護理論の発展過程、看護のメタパラダイム、看護理論の範囲、看護理論の動向 (内藤)	看護の広範囲理論と中範囲理論、臨床看護理論、カルガリ家族看護理論、ロイの適応モデル等に関心を持ち講義に参加。 予習60分、復習60分	
第6回	新しい看護理論と日本の看護理論家、臨床推論から看護判断、母性看護で応用の理論、 (内藤)	臨床推論から看護判断へのつながりを考える。看護モデルや相互作用、システム論、ケア理論を予習する。 予習60分、復習60分	
第7回	小児看護に活用できる理論： ①H. E. Peplau『対人関係理論』 ②D. E. Orem『セルフケア不足看護理論』 (野田)	予習：指定された資料に目を通す 復習：課題レポートを記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間30分、復習時間60分	可
第8回	老年看護に活用できる理論・アプローチ (健康の概念、ライフストーリー、レジリエンス) (野田)	予習：家族や友人・知人（高齢者）に健康とはどのようなことをいうのか事前にインタビューし、その内容を200字程度にまとめて講義に参加する。 復習：講義中に提示した課題レポートを提出する。	可
評価方法			
定期試験（レポート含む）			
オフィスアワー			
山本：研究室在室時は可能な限り対応しますので、他者が在室中でもとにかくノックしてください。 連絡先：e-mail sumi-yamamoto@gifuhoken.ac.jp 内藤：火,水,木,金の16:10分から17:00、研究室迄、メールも可：n-naitoh@gifuhoken.ac.jp 野田：月曜・水曜・木曜・金曜の16:10から17:00まで、研究室(事前のアポイント必要：m-noda@gifuhoken.ac.jp)			

講義科目				ディ バイ ブ ロ マ ポ リ シー を 達 成 す る た め に 必 要 な 能 力	人間力	○
科目区分	専門教育科目 -看護の基本				ケア・スピリット	
授業コード	111055				実践的理解	○
授業科目名	看護倫理				プロフェッショナリズム	○
配当学年/ 学期	1年 前期 必修	単位数	1		多職種連携	
担当教員	内藤直子【実務該当教員】、平岡翠【実務該当教員】、 秋山直美					

講義概要				
看護を实践するうえで看護倫理は基盤となることを理解し、基礎的な知識としての倫理の原理原則や看護者の倫理綱領、臨床倫理の諸問題、看護上の倫理概念（アドボカシー、責務と責任、ケアリング）などについて、事例を用いながら学ぶ。後半では、感受性を高めるためのセッション、最後に倫理の問題を解決するための方法を学び、事例を展開させながら、検討、発表会を行う。学生は、本科目の過程で自身の倫理的価値を省察する。				
授業内容（到達目標を含む）				
看護倫理学では、看護職に必要な倫理に関する基礎的知識を理解し、倫理的課題を考察することによって、倫理的感受性、倫理観を高めることを目指している。実際には、学生は、患者の権利を護ることに焦点をあてた事例検討を行い、倫理的感受性を養うと共に倫理観を培う。学習の到達目標として以下を目指す。 1. 倫理の意義、看護者の倫理的責任（人の尊厳と患者の権利、看護者の倫理綱領）について説明できる 2. 倫理の原理原則や看護者の倫理綱領について説明できる 3. 対象の意思決定を支える看護職の倫理的意思決定について説明できる 4. 臨床倫理の諸問題について指摘できる				
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）				
看護実践では、看護倫理は重要であり、基礎知識を理解するには各回の授業テーマに合わせた課題に対して自己学習を行う。授業内容の理解を促進するためには、自己学習をしてから、授業に臨むこと。毎回授業でミニッツノートを渡すので、授業に関する意見や質問があればそこに記入すること。ミニッツノートの内容は、授業時間内に解説する。				
教材				
テキスト「系統看護学講座別巻看護倫理」第2版第5版宮坂道夫、石原逸子他、価格1,944円 参考文献授業で適宜紹介する				
授業計画及び学習課題（予習・復習）				
回	内容	学習課題（予習・復習）		遠隔授業
第1回	看護倫理を学ぶことの意義、なぜ学ぶのか、倫理学の基本的な考え方、生命倫理について、生命倫理の理論、看護職の責務（序章・1章・2章）（平岡）	予習：看護学概論で学習する「看護とは」について考え、講義を受ける 復習：P2～40を読み、倫理・生命倫理とはなにかについてまとめる		可
第2回	看護倫理とはなにか、看護実践上の倫理的概念、専門職に求められる倫理、専門職の倫理綱領等（6章・7章）（秋山）	予習：P96～135を読んでおく 復習：看護職の倫理綱領を熟読し、看護師の責務についてまとめる		可
第3回	看護実践における倫理的問題の特徴、倫理の実践へのアプローチ（Jonsenの臨床4分割法、サラ・フライの倫理的分析）（8章） ＜事例分析＞Jonsenの臨床4分割法を用いて、事例によるグループ討議（8章）（秋山）	予習：P138～162を読んでおく 復習：P142の事例についてJonsenの臨床4分割法を用いて分析する		可
第4回	倫理的問題へのアプローチ（ナラティブアプローチ、レストによる4要素分析質問票） ＜事例分析＞検討シートに基づき事例を分析し、各グループで討議する（秋山）	予習：P138～162を読んでおく 復習：P142の事例についてナラティブアプローチ/レストによる4要素分析質問票を用いて分析する		可

第5回	性と生殖の生命倫理、生殖に対する医療的介入の課題（3章）、死について、死と医療、死と生命倫理（4章） ※課題を提示（平岡）	予習：P42～72を読んでおく 復習：P58ゼミナール「復習と課題」の①②についてまとめる	可
第6回	先端医療①移植医療・再生医療・遺伝子医療の歴史と現状②医療資源と保険制度（5章） ※課題を提示（平岡）	予習：P74～92、P147～150を読んでき 復習：提示した課題をまとめる	可
第7回	トンプソンの意思決定モデルについて10ステップで分析（グループ）（内藤）	予習：P147～150のトンプソンの意思決定モデルについて読んでき 復習：トンプソンの意思決定モデルの分析方法を事後学習	
第8回	看護職と研究倫理、研究における倫理的問題、倫理的配慮の要点（9章）（秋山）	予習：P164～180を読んでき 復習：「看護研究における倫理指針」（日本看護協会）を読んで要点をまとめる	可
評価方法			
課題レポート30%、期末試験70%により評価する			
オフィスアワー			
内藤直子：連絡先 n-naito@gifuuoken.ac.jp ※事前にアポイントを取ってください。 平岡翠：連絡先 s-hiraoka@gifuuoken.ac.jp ※事前にアポイントを取ってください。 秋山直美：連絡先 n-akiyama@gifuuoken.ac.jp ※事前にアポイントを取ってください。			

実習科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の基本				人間力	
授業コード	111056				ケア・スピリット	
授業科目名	基礎看護学実習 I				実践的理解	○
配当学年/ 学期	1年 前期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	山本澄子、岩瀬通江、秋山直美				多職種連携	○

講義概要（実習目的）

入院生活を送る患者とのかかわりの実際を見学し、保健・医療分野における看護職者の役割と機能を学び、今後の学修への動機づけとすることをねらいとしている。同時に看護専門職者に求められる基本的な態度を修得する。

授業内容（実習目標）

この実習での学びは、今後積み重ねていく看護学の基盤としての側面をもつものである。看護学を学ぶ者としての自覚と看護者の倫理綱領に則った責任ある行動の自覚を促すものである。
到達目標 ①医療分野における看護職者の機能と役割を説明できる。
②看護者の倫理綱領に則って、他者を重んじた態度・行動ができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

1. 実習に臨む姿勢として、大学からの指示事項に背く場合は実習を許可しない。
（例：大学既定のユニフォームを着用しない。髪色、装飾品、靴下の色等教員の注意を無視する 等）
2. 看護を学ぶ者として倫理的な実習態度で実習に臨む。
3. 実習は原則欠席しない。出席回数が満たない者は、その単位を修得することはできない。

教材

適宜提示する

授業計画及び学習課題（予習・復習）

1 実習場所

病棟実習： 朝日大学病院、名古屋大学病院、愛知医科大学病院、大垣徳洲会病院、西美濃厚生病院、
岐阜北厚生病院、揖斐厚生病院、東濃厚生病院、可児とうのう病院

2 対象学年

岐阜保健大学看護学部看護学科1学年次生（前期）80名

3 実習期間および実習時間

実習期間：2022年（令和4年）8月〇日（月）～8月〇日（金）＜40名＞

2022年（令和4年）8月〇日（月）～8月〇日（金）＜40名＞

実習時間： 9：00～16：00

4 実習メンバー

1病棟につき基本4名の学生配置

5 実習スケジュール

火曜日～木曜日に病棟実習

詳細は「2022年度基礎看護学実習 I 実習要項」参照のこと

評価方法
実習記録・実習内容80%、事前課題学習20%により評価する。
オフィスアワー
研究室在室時は可能な限り対応しますので、他者が在室中でもとにかくノックしてください。 山本連絡先：e-mail sumi-yamamoto@gifuhoken.ac.jp 岩瀬連絡先：e-mail m-iwase@gifuhoken.ac.jp 秋山連絡先：e-mail n-akiyama@gifuhoken.ac.jp

実習科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の基本				人間力	
授業コード	111057				ケア・スピリット	○
授業科目名	基礎看護学実習Ⅱ				実践的理解	○
配当学年/ 学期	2年 後期 必修	単位数	2		プロフェッショナリズム	
担当教員	秋山直美、岩瀬通江、山本澄子				多職種連携	

講義概要（実習目的）

医療機関において健康障害により入院生活を送っている患者を受け持ち、看護過程を展開する基礎的な能力を修得する。看護に必要な情報を適切にアセスメントし、看護上の問題を明確化し、それを言動化する能力、また看護計画を立案し実践できる能力を身につける。これらの看護過程を通して、看護職として必要な態度を修得する。

授業内容（実習目標）

入院生活を送る患者を受け持ち、患者のニーズに沿った看護を提供できるように、看護過程の展開の基礎を身につけることができるように、また看護過程の展開から必要な看護援助法を考え導き出せるよう教授する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

1. 実習に臨む姿勢として、大学からの指示事項に背く場合は実習を許可しない。
（例：大学既定のユニフォームを着用しない。髪色、装飾品、靴下の色等教員の注意を無視する 等）
2. 看護を学ぶ者として倫理的な実習態度で実習に臨む。
3. 実習は原則欠席しない。出席回数が満たない者は、その単位を修得することはできない。

教材

授業計画及び学習課題（予習・復習）

1 実習場所

病棟実習： 大垣徳洲会病院、西美濃厚生病院、岐北厚生病院、揖斐厚生病院、可児とうのう病院、
一宮西病院、津島市民病院、増子記念病院、岐阜清流病院

岐阜清流病院

岐阜保健大学看護学部看護学科2学年次生（後期）80名

3 実習期間および実習時間

実習期間： 予定について、2年次に掲示する

実習時間： 9：00～16：00

4 実習メンバー

1病棟につき基本4名の学生配置

5 実習スケジュール

火曜日～木曜日に病棟実習

詳細は「2021年度基礎看護学実習Ⅱ実習要項」参照のこと

評価方法
実習記録・実習内容70%、事前課題学習10%、ケース発表20%により評価する。
オフィスアワー
研究室在室時は可能な限り対応しますので、他者が在室中でもとにかくノックしてください。 山本連絡先：e-mail sumi-yamamoto@gifuhoken.ac.jp 岩瀬連絡先：e-mail m-iwase@gifuhoken.ac.jp 秋山連絡先：e-mail n-akiyama@gifuhoken.ac.jp

講義科目					る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開					人間力	
授業コード	111058					ケア・スピリット	○
授業科目名	地域・在宅看護学概論					実践的理解	○
配当学年/ 学期	2年 前期 必修		単位数	2		プロフェッショナルリズム	
担当教員	栃本千鶴【実務該当教員】、石井英子【実務該当教員】					多職種連携	○

講義概要			
全ての看護学領域および諸関連専門科目で学んだ知識を基盤として、在宅療養者が、望む住まいでその人らしく健やかに療養生活が送れるよう、地域医療・ケアシステムの中で個別的看護を行うための基礎的能力を養う。在宅看護ケアの基盤となる保健・医療・福祉制度について理解し、在宅看護の対象の疾患、療養状況、療養環境を踏まえた在宅ケアのありかたについて考察する。在宅のケアシステムにおける多職種の連携や、地域の社会資源やネットワークについても理解を深める			
授業内容（到達目標を含む）			
地域社会で療養生活を続ける人々とその家族が「望む生活」を実現できるように、在宅看護に関わる看護師が支援するために必要な様々な基礎的知識や理念に関して広く学び、在宅看護に関する考え方を深める。学習の到達目標として以下を目指す。 1. 在宅看護の基本理念や在宅看護の対象者の特性を説明できる。 2. 在宅看護を支える制度やしくみを説明できる。 3. 在宅看護における支援の基本（ケアマネジメント、家族支援、リスクマネジメント）について説明できる。 4. 対象に応じた在宅看護について説明できる。 5. 日本における在宅ケア・在宅看護の今後の課題について説明できる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
履修にあたり、社会的背景・看護・医学・法制度に関する基礎的な知識・用語の理解が予備知識として求められる。1年後期までのGPA1.5以上が望ましい。また、学習課題（予習・復習）に示されている時間外の学習を毎回4時間が必要である。課題（試験やレポート）に対するフィードバックはその都度講義内に行う。			
教材			
テキスト 河野あゆみ編『在宅看護論』、メヂカルフレンド社、2019、3,080円（税込み） 参考図書 厚生労働統計協会編『国民衛生の動向2021/2022』、2,695円（税込み）			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	在宅ケアを必要とする背景・在宅看護の目的と位置づけ・在宅看護の機能と提供機関・在宅看護の基本理念（栃本）	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	可
第2回	看護の対象と対象を理解するためのモデル 在宅看護における倫理的問題（栃本）	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	可
第3回	看護の原点・日本における在宅看護の始まり 日本における在宅ケア・在宅看護の発展他（栃本）	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	可
第4回	看護を支える制度としての 医療保険制度・介護保険制度（栃本）	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	可
第5回	看護を支える制度としての障害者支援に関する制度・高齢者虐待防止に関する制度（栃本）	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	可

第6回	看護の制度と機能：訪問看護の目的、機能、特徴・訪問看護ステーション他 (栃本)	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	可
第7回	地域包括ケアシステム：地域包括ケアシステムの必要性と目的・地域包括ケアシステムづくり他 (栃本)	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	可
第8回	ケアマネジメント：在宅ケアにおける社会資源・継続看護・退院支援・介護保険におけるケアマネジメント他 (栃本)	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	可
第9回	在宅看護における家族支援：家族の定義、機能、発達段階・家族のアセスメント他 (栃本)	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	可
第10回	在宅看護過程の展開：在宅看護過程の定義、目的、特徴他 リスクマネジメント：概念、防止対策他 (栃本)	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	可
第11回	在宅看護とエンド・オブ・ライフケア：エンド・オブ・ライフケアの目的・意義、定義、対象者他 (栃本)	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	可
第12回	在宅看護と難病ケア：難病の理解・難病療養者を支える在宅ケアシステム他 (栃本)	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	可
第13回	在宅看護とリハビリテーション：リハビリテーション期にある療養者・家族への看護他 (栃本)	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	可
第14回	在宅看護と重症心身障害児ケア：重症心身障害児ういお支える在宅ケアシステム他 (栃本)	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	可
第15回	在宅看護と介護予防：介護予防のための在宅ケアシステム他 (石井・栃本)	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	可
評価方法			
期末試験（60％）、小テスト（20％）、レポート（20％）により評価する。			
オフィスアワー			
栃本千鶴：毎週月曜日 16：10～17：10 事前にアポイントメントを取ってください。 連絡先 e-mail c-tochimoto@gifuuoken.ac.jp 石井英子：事前にアポイントメントを取ってください。 連絡先 e-mail h-ishii@gifuuoken.ac.jp			

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開				人間力	
授業コード	111059				ケア・スピリット	○
授業科目名	地域・在宅看護援助論Ⅰ				実践的理解	○
配当学年/ 学期	2年 後期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	栃本千鶴【実務該当教員】、楳田恵子【実務該当教員】、石井英子				多職種連携	○

講義概要			
在宅看護の対象である在宅療養者・要介護者とその家族への理解を深めるとともに、在宅看護で必要とされる基本的な生活援助技術について講義・演習を通して修得する。在宅看護で必要とされる基本的な能力として、在宅看護の展開能力、在宅における面接技術と観察技術、訪問看護の実際、訪問看護制度、在宅における面接技術、在宅におけるアセスメント能力を修得する。			
授業内容（到達目標を含む）			
本科目の中で主に在宅看護の特性をふまえた看護過程、健康障害の種類や程度別看護過程、在宅療養者の心理・社会的課題別看護過程に必要な知識と技術を講義と演習方式で学習する。学習の到達目標として以下を目指す。 1. 在宅看護過程の基本的な考え方を説明できる。 2. 各健康障害の在宅医療に必要な医学的知識と在宅看護過程を説明できる。 3. 各健康障害の心理・社会的課題と在宅看護過程を説明できる。 4. 情報整理シート・関連図を作成し、その療養者の看護目標や看護計画の立案ができる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
履修にあたり、在宅看護学概論、公衆衛生看護学概論を十分に復習しておく。また在宅の対象は他領域の看護についての総合的な学びが求められるため、2年前期までのGPA1.5以上が望ましい。また、学習課題（予習・復習）に示される時間外の学習を毎回1時間が必要である。課題（試験やレポート）に対するフィードバックはその都度講義内で行う。			
教材			
テキスト 河野あゆみ編『在宅看護過程』、医学書院、2018、4,0180円（税込み） 参考図書 河野あゆみ編『在宅看護論』、メヂカルフレンド社、3,080円（税込み） 2019 厚生労働統計協会編『国民衛生動向2021/2022』、2,695円（税込み）			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	在宅看護の特徴、在宅看護の考え方、用語の整理（栃本）	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	可
第2回	在宅看護過程の基本：在宅看護過程の目的、特徴、概要（栃本）	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	可
第3回	在宅看護過程のアセスメント：情報整理、関連図、課題の提示（栃本）	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	可
第4回	在宅看護過程の看護課題の明確化、看護計画（栃本）	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	可
第5回	在宅看護過程の実施、評価（栃本）	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	可
第6回	慢性疾患：がん慢性期、慢性閉塞性肺疾患、慢性腎不全、慢性心不全（楳田）	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	可

第7回	慢性疾患： 糖尿病、脳梗塞、頸髄損傷、統合失調症、重症心身障害児 (楳田)	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	可
第8回	難病：パーキンソン病、筋委縮性側索硬化症、多発性硬化症、筋ジストロフィ (楳田)	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	可
第9回	老年症候群： フレイル、骨折、関節拘縮、認知症、尿失禁、摂食・嚥下障害、生活不活発病 (楳田)	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	可
第10回	エンドオブライフケア： 老衰、神経難病、がん、小児がん (楳田)	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	可
第11回	1つの健康障害者の関連図の作成 (楳田)	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	可
第12回	1つの健康障害者の長期目標と看護計画の作成 (楳田)	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	可
第13回	環境における家族の介護疲れ、療育困難、家族による高齢者虐待 (石井)	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	
第14回	環境における生活困窮、社会的孤立、劣悪な住環境 (石井)	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	
第15回	理解・意向における意欲低下、自己放任、意思決定不全、服薬管理不全 (石井、楳田、栃本)	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	
評価方法			
期末試験50%、小テスト10%、レポート40%により評価する。			
オフィスアワー			
栃本千鶴：月曜日16：10～17：10 事前にアポイントメントを取って下さい。連絡先：e-mail c-tochimoto@gifuuoken.ac.jp 楳田恵子：事前にアポイントメントを取って下さい。連絡先：e-mail k-umeda@gifuuoken.ac.jp 石井英子：事前にアポイントメントを取って下さい。連絡先：e-mail h-ishii@gifuuoken.ac.jp			

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す	人間力	
科目区分	専門教育科目 -看護の展開				ケア・スピリット	
授業コード	111060				実践的理解	○
授業科目名	地域・在宅看護援助論Ⅱ				プロフェッショナリズム	○
配当学年/ 学期	3年 前期 必修	単位数	1		多職種連携	○
担当教員	梶本千鶴【実務該当教員】、楳田恵子【実務該当教員】					

講義概要

対象別の在宅看護の実践に基づき、在宅看護に必要な知識・技術について講義・演習を通して学修し、必要なケアプランと援助を見極める判断能力を養う。在宅看護における紙上事例を展開し、在宅療養者とその家族に対する看護につなげる思考過程と必要な援助方法について考察する。さまざまな障害のある人とその家族の看護の紙上事例に対する看護過程を展開し、実践的な援助能力を身につける。

授業内容（到達目標を含む）

在宅療養者の日常生活援助、家族支援、在宅療養者の各障害に伴う援助、在宅療養者が生活する地域社会フィールドワークの技術をグループ演習・ディスカッションを通して学習する。学習の到達目標として以下を目指す。

1. 在宅療養者の日常生活の援助が実施できる。
2. 在宅療養者の治療・処置に伴う援助技術が実施できる。
3. 在宅訪問時の技術（面接、コミュニケーション、マナー）が実施できる。
4. 療養者の地域社会について説明できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

履修にあたり、在宅看護学概論、在宅看護学援助論Ⅱ、論公衆衛生看護学概論を十分に復習しておく。また在宅の対象は他領域の看護についての総合的な学びが求められるため、2年後期までのGPA1.5以上が望ましい。また、学習課題（予習・復習）に示される時間外の学習を毎回1時間が必要である。課題（試験やレポート）に対するフィードバックはその都度講義内で行う。原則授業は同日に2コマ続けて行う。

教材

テキスト 臺有桂編『在宅療養を支える技術』、メディカ出版、2018、3,080円（税込み）
 参考図書 河野あゆみ編『在宅看護過程』、医学書院、2018、4,0180円（税込み）
 河野あゆみ編『在宅看護論』、メヂカルフレンド社、2019、3,080円（税込み）
 厚生労働統計協会編『国民衛生の動向2021/2022』、2,695円（税込み）

授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	食の援助：食のアセスメント、援助の実際（摂食・嚥下訓練含む）（楳田）	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	
第2回	食の援助：在宅経管栄養法、在宅中心静脈栄養法（楳田）	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	
第3回	移動の援助：移動のアセスメント、援助の実際（福祉用具の活用を含む）（楳田）	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	
第4回	排泄の援助：排泄のアセスメント、排泄障害のアセスメント（楳田）	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	
第5回	排泄の援助：膀胱留置カテーテル、摘便・ストーマ（楳田）	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	

第6回	褥瘡ケア (楳田)	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	
第7回	呼吸の援助：呼吸のアセスメント、気管カニューレ、在宅酸素療法 (楳田)	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	
第8回	呼吸の援助：在宅人工呼吸療法 (楳田)	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	
第9回	その他の医療的援助：内服薬管理、自己注射 (楳田)	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	
第10回	訪問看護技術：訪問マナーの実際、コミュニケーション (栃本、楳田)	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	
第11回	訪問時の技術：訪問時に必要な観察事項 (栃本、楳田)	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	
第12回	訪問時の技術：ロールプレイング (栃本、楳田)	予習：グループで役割を決めシナリオを作成し、練習してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	
第13回	在宅療養者の地域環境のアセスメントの実際 (栃本、楳田)	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す地域の調査シートにまとめる。	
第14回	在宅療養者の活用できる社会資源のアセスメントの実際 (社会福祉協議会松岡、栃本、楳田)	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す地域の調査シートにまとめる。	
第15回	実習に向けての療養者・家族が望む在宅療養支援活動の実際 (栃本、楳田)	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：ノートや配布資料を見直し、講義内で課す小レポートをまとめる。	
評価方法			
期末試験50%、成果発表20%、レポート30%により評価する。			
オフィスアワー			
栃本千鶴：月曜日16：10～17：10 事前にアポイントメントを取って下さい。連絡先：e-mail c-tochimoto@gifuuoken.ac.jp 楳田恵子：事前にアポイントメントを取って下さい。連絡先：e-mail k-umeda@gifuuoken.ac.jp			

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開				人間力	
授業コード	111061				ケア・スピリット	
授業科目名	地域包括ケア論				実践的理解	○
配当学年/ 学期	3年 前期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	石井英子【実務該当教員】、鈴木岸子【実務該当教員】				多職種連携	○

講義概要

高齢者が、住み慣れた地域で介護や医療、生活支援サポート及びサービスを受けられるよう市区町村が中心となり、住まい、医療、介護、生活支援・介護予防を包括的に整備していく「地域包括ケアシステム」を中心に、地域包括ケアの理論と政策について学び、在宅看護、高齢者看護の側面から、看護職として必要とされる基本的な知識と能力を身につける。地域包括ケアの中における看護職者の役割と機能について、理解を深める。

授業内容（到達目標を含む）

【目的】 システム理論、ケアシステム論などについて概説し、在宅療養者やその家族が住み慣れた地域で介護や医療サービスを受給されるための地域ケアシステムを必要とする健康問題への考察できる。
事例等を通して、ケアシステムの現状と課題、住民とのネットワークや共同活動の重要性、資源開発等の手法について学び、看護職の役割について考察を深める。

【目標】 1. 地域ケアシステムを必要とする健康問題について理解する。
2. 実践例等を基に地域ケアシステムの構築に必要な手法を学び、ケアシステムにおける看護職の役割を理解する。
3. 様々な問題領域の事例を基に、地域におけるケアシステムの現状と課題、看護職の役割について考察を深める。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

様々な健康課題を抱える対象が、住み慣れた地域での健康生活を営むことができるようなケアシステムについての専門能力を発揮できるか考えながら学んでいきましょう。

教材

これまでの教科書及び授業開始時及び講義進行に合わせて適宜紹介する。

授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	地域ケアシステムの目的と意義（石井）	介護保険制度の仕組みとサービスの資料作成	○
第2回	地域包括ケアシステムと在宅医療・介護連携（鈴木）	居住地の地域包括ケアシステムの実態を調べる	○
第3回	地域包括ケアと在宅医療・看護（鈴木）	岐阜県と愛知県との地域包括ケアの実際の資料の収集	○
第4回	地域におけるケアシステム構築の手法 演習（援助者への地域ケアシステム構築の手法；事例を基にグループワークおよび全体討議）／ レポート作成（鈴木）	地域包括ケアシステムと多職種連携 事例学習	○

第5回	地域におけるケアシステム構築の手法 演習（高齢者への地域ケアシステム構築の手法；事例を基にグループワークおよび全体討議） / レポート作成（石井）	地域包括ケアシステムと多職種連携 事例学習	○
第6回	演習（脳梗塞のある高齢者への地域ケアシステム構築の手法；事例を基にグループワークおよび全体討議） / レポート作成（鈴木）	地域包括ケアシステムと多職種連携 事例学習	○
第7回	演習（ALS患者への地域ケアシステム構築の手法；事例を基にグループワークおよび全体討議） / レポート作成（石井）	地域包括ケアシステムと多職種連携 事例学習	○
第8回	「まとめ」（石井）	課題レポート「地域におけるケアシステムの現状と課題」	○
評価方法			
課題レポート（70%）、出席状況により、理論と現状との統合能力、思考方法や創造性等の評価を行う。			
オフィスアワー			

実習科目						る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開						人間力	
授業コード	111062						ケア・スピリット	
授業科目名	地域・在宅看護学実習						実践的理解	○
配当学年/ 学期	3年 後期・4年 前期 必修			単位数	2		プロフェッショナリズム	○
担当教員	栃本千鶴、楳田恵子、石井英子						多職種連携	○

講義概要（実習目的）

本臨地実習では、地域で生活している在宅療養者・要介護者・その可能性のある者とその家族への理解を深め、在宅療養者の療養生活の継続を支援するために必要な看護の知識と技術、在宅看護過程の展開について実践的に学ぶ。地域の保健・医療・福祉サービス機関と連携しながら、対象に応じた看護を実践するための能力と態度を養う。訪問看護ステーションや地域包括支援センターでの実習を通じて、在宅療養者と家族の理解、対象特性に応じた援助方法、地域ケアシステムにおける保健・医療・福祉領域の社会資源の理解、関係機関・職種の連携協働の実践方法を修得する。

授業内容（実習目標）

1. 地域で疾患や障害を持って生活している療養者とその家族について説明できる。
2. 地域で疾患や障害を持って生活している療養者とその家族への個別看護計画を立案できる。
3. 訪問看護ステーションの機能と役割を説明できる。
4. 在宅療養支援における社会資源の活用の実際と連携の必要性を説明できる。
5. 在宅療養者の生活する地域の課題について述べるができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

在宅看護学概論、在宅看護学援助論Ⅰ・Ⅱを中心に、小児～老年の各期、及び看取りにおけるそれぞれの特徴や日常生活に関する援助技術、医療処置に関する援助技術など、あらゆる場面で求められる援助に関する知識や技術に関して復習をしておくことが必要になります。また、在宅療養者及びその家族を支える社会支援、社会資源、社会保障制度について既習の内容を整理しておくことが必要です。

教材

厚生労働統計協会編『国民衛生の動向2022/2023』、2,695円（税込み）
 参考図書 臺有桂編『在宅療養を支える技術』、メディカ出版、2018、3,080円（税込み）
 河野あゆみ編『在宅看護過程』、医学書院、2018、4,0180円（税込み）
 河野あゆみ編『在宅看護論』、メヂカルフレンド社、2019、3,080円（税込み）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

1. 実習場所
 - 1) 訪問看護ステーション（サービス付き高齢者施設、介護保険支援事業者、医療機関含む）
 - 2) 岐阜市鶉校区地域サロン（地域包括支援センター、岐阜市社会福祉協議会含む）
2. 対象学生
岐阜保健大学3年次生（後期）および4学年次生（前期）
3. 実習期間および実習時間
実習時間：原則8:30～16:30（実習時間は実習施設により若干異なる）
学内は原則9:00～16:00
4. 実習メンバー
各訪問看護ステーションにつき2名
地域サロンは少人数
5. 実習スケジュール
原則として第1週と第2週の月曜日は地域サロンとフィールドワーク、各週の火曜日から木曜日は訪問看護ステーション、第1週の金曜日は中間発表、第2週の金曜日は最終発表を行う。
その他、詳細は『2021年度実習要項』を参照のこと

評価方法

実習記録（50%）、実習レポート（30%）成果発表（20%）により評価する。

オフィスアワー

栃本千鶴：月曜日16：10～17：10
 事前にアポイントメントを取って下さい。連絡先：e-mail c-tochimoto@gifuhoken.ac.jp
 楳田恵子：事前にアポイントメントを取って下さい。連絡先：e-mail k-umeda@gifuhoken.ac.jp
 石井英子：事前にアポイントメントを取って下さい。連絡先：e-mail h-ishii@gifuhoken.ac.jp

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開				人間力	
授業コード	111063				ケア・スピリット	
授業科目名	岐阜県の地域医療				実践的理解	
配当学年/ 学期	4年 後期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	石井英子【実務該当教員】、豊田雅孝				多職種連携	○

講義概要			
(概要) 岐阜県は、岐阜、西濃、中濃、東濃、飛騨の5地域に区分され、都市部から山間部に至る多様な地域が、広大な県域に含まれている。岐阜県の地域医療について、その特色と現状を、医療、保健、住民の健康、高齢者福祉、介護等の観点から、将来の保健医療構想も含めて包括的に学修する。岐阜県における地域包括ケアシステム、岐阜県保健医療計画等の行政施策についても学び、その保健医療の地域特性について深く理解する。本講義を通じ、岐阜県の地域の特性を実践的に理解し、医療専門職に求められるその活用方法を考察し、卒業後に地域に貢献する看護職として必要な知識を身につける。			
授業内容（到達目標を含む）			
1. 岐阜県の地域医療について、地域の医療と保健、住民の健康の観点から实际的に学ぶ。 2. 岐阜県の地域医療について、高齢者福祉や介護の観点から实际的に学ぶ。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
卒業後に地域に貢献する看護職として必要な知識を身につけるための情報の収集に努める。			
教材			
適宜配布する			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	地域医療構想の概要（石井）	地域医療構想の位置づけを岐阜県のネットからの収集	○
第2回	各圏域の方向性（石井）	岐阜圏域の5圏域について調べる	○
第3回	岐阜県の地域医療について（石井）	岐阜県内の保健医療に関する情報収集を分析する	○
第4回	岐阜県の地域歯科医療の現状（豊田）	岐阜県の歯科医療の状況をネットから収集しておく	○
第5回	岐阜県の福祉サービスの現状課題（豊田）	岐阜県の福祉サービスを調べる	○
第6回	岐阜県の児童福祉の現状課題（豊田）	児童福祉施設について調べる	○
第7回	将来あるべき医療提供体制を実現するための施策の内容（5つの柱）（石井）	病床の機能分化・連携の推進の状況、これから勤務する病院との比較	○
第8回	まとめ（石井）	課題レポートの提出	○
評価方法			
課題レポート			
オフィスアワー			
h-ishii@gifuuoken.ac.jpへ連絡			

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す	人間力	
科目区分	専門教育科目 -看護の展開				ケア・スピリット	○
授業コード	111064				実践的理解	○
授業科目名	成人看護学概論				プロフェッショナルリズム	
配当学年/ 学期	2年 前期 必修	単位数	2		多職種連携	
担当教員	梶原志保子【実務該当教員】、永坂和子【実務該当教員】					

講義概要			
成人各期の発達段階を解説し、成人各期の身体的特徴、心理・社会的特徴、家族・社会的役割を学修する。日本の成人保健の動向を解説し、成人各期に関連する急性期疾患とヘルスプロモーションを理解する。急性期にある患者とその家族の身体的および心理的特徴を基礎理論（生体侵襲理論、危機理論等）を用いて修得する。急性期にある患者の看護援助に必要な概念（権利擁護など）および日本の救急医療の歴史・体制および救急患者の特徴を理解する。また、慢性的な病気を持つ患者とその家族の身体的および心理的特徴を理解し、看護援助に必要な概念や理論（ヘルスプロモーション、アンドラゴジーモデル、自己効力理論、変化のステージモデル等）について学修する。また、慢性的な病気を持つ人々の発達課題や健康問題の特徴を踏まえた看護について理解し、その意義や方法について考察する。さらに、成人期にある患者や家族を取り巻く医療システムと看護について理解する。			
授業内容（到達目標を含む）			
1. 成人の定義を理解し、特徴を概観できる。 2. 成人各期の成長発達、家族・社会における役割、各期の健康問題、発達段階における死を理解できる。 3. 成人の身体機能および生活、健康観の視点に関するアセスメント方法を理解できる。 4. 成人が学習する意義、学習方法、学習スタイル方法を理解できる。 5. 生活習慣と健康障害の関連を理解し、生活習慣の変容する際の葛藤を理解できる。 6. セクシュアリティ・ジェンダー・更年期の健康障害を理解し、障害予防・治療について理解できる。 7. 病の軌跡を知ることが、病気をもった成人の理解と看護に有効であることを理解できる。 8. オレムのセルフケア理論、ストレス・コーピング理論、危機理論、適応理論、自己効力理論、ヘルスプロモーションを理解し、看護に有効であることを理解できる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
急性期、慢性期看護の基盤となる科目である。主要な各理論を深めるためには、事前にテキストを読んでくことや講義資料に提示した授業内容を復習する。			
教材			
テキスト：ナーシング・グラフィカ, 成人看護①成人看護学概論, メディカ出版, 2021. 参考図書：成人看護学, 成人看護学概論, 第2版, NOUVELLE HIROKAWA、ナーシング・グラフィカ, 成人看護学③セルフマネジメント, メディカ出版, 2019.			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	成人看護学を学ぶことの意義：成人の定義、成人であることの自覚、成人看護学分野で用いられている成人の特徴 成長発達の特徴：成長発達、成人の役割、各期の健康問題、成人と死、個人の成長発達のアセスメントガイド	予習：テキストP11～P50を読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。 予習時間：60分、復習時間：60分	可
第2回	身体機能の特徴と看護：安定性と変化、身体機能の理解に基づく看護、変化を分析する視点、変化に着目した看護、個人の身体機能を理解する方法	予習：テキストP52～P79読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。 予習時間：60分、復習時間：60分	可
第3回	成人の生活を理解する視点と方法：生活とは、成人の生活の理解 健康観の多様性と看護：健康観、健康観に影響を及ぼす要因、健康観を理解する方法、保健行動と健康観	予習：テキストP82～P114読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。 予習時間：60分、復習時間：60分	可

第4回	学習の特徴と看護：成人の学びの特徴、成人教育学の概念（アンドラゴジーモデル）、学びの目標、健康状態と学習方法の関係、効果的な学習方法を計画するために必要なアセスメントガイド	予習：テキストP116～P151を読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。 予習時間：60分、復習時間：60分	可
第5回	生活習慣に関連する健康障害：生活習慣に関連する健康課題、生活習慣は正 ワーク・ライフ・バランスと健康障害：健康障害の関連、職業と健康障害、生活ストレスと健康障害、身体活動と健康障害	予習：テキストP138～P185を読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。 予習時間：60分、復習時間：60分	可
第6回	セクシュアリティとジェンダーに関連する健康障害：健康に関連する概念、性的健康の指標および実態、性に関連する健康障害の予防及び対応、事例で考えるDVとジェンダー 更年期に見られる健康障害：更年期障害とは、原因、症状、予防と治療	予習：テキストP188～P214を読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。 予習時間：60分、復習時間：60分	可
第7回	病の軌跡：慢性の病と人間、考え方、看護への適用、事例で考える	予習：テキストP216～P228を読み、各200字程度でまとめる。事例を読んでまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。 予習時間：60分、復習時間：60分	可
第8回	セルフケア：セルフケアとは、オレムの看護理論（セルフケア不足理論）、セルフケアと成人看護、事例で考える	予習：テキストP230～P240を読み、各200字程度でまとめる。事例を読んでまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。 予習時間：60分、復習時間：60分	可
第9回	ストレス：ストレスとは、コーピング、ストレスマネジメント、事例で考える	予習：テキストP242～P254を読み、各200字程度でまとめる。事例を読んでまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。 予習時間：60分、復習時間：60分	可
第10回	危機：危機とは、危機の特徴、危機介入、事例で考えるフランクモデル	予習：テキストP256～9264を読み、各200字程度でまとめる。事例を読んでまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。 予習時間：60分、復習時間：60分	可
第11回	適応：適応とは、ロイ適応看護モデル、事例で考えるロイ適応看護モデル	予習：テキストP266～P276を読み、各200字程度でまとめる。事例を読んでまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。 予習時間：60分、復習時間：61分	可
第12回	自己効力：自己効力とは、事例で過が得る自己効力理論	予習：テキストP278～P285を読み、各200字程度でまとめる。事例を読んでまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。 予習時間：60分、復習時間：62分	可
第13回	ヘルスプロモーション：ヘルスプロモーションとは、事例で考える	予習：テキストP288～P293を読み、各200字程度でまとめる。事例を読んでまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。 予習時間：60分、復習時間：60分	可
第14回	成人期における急性期看護のまとめ	予習：今まで学んだ危機理論・ストレス理論・コーピング理論を整理し、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート 各200字で記述する。 予習時間：60分、復習時間：60分	
第15回	成人期における慢性期看護のまとめ	予習：今まで学んだ危機理論・ストレス理論・コーピング理論を整理し、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート 各200字で記述する。 予習時間：60分、復習時間：60分	
評価方法			
定期試験70%、指導媒体10%、レポート20%により評価する。			
オフィスアワー			
永坂和子：月～木曜日（9:00～17:00）事前にアポイントを取って下さい。e-mail k-nagasaka@gifuuoken.ac.jp 梶原志保子：e-mail s-kajiwara@gifuuoken.ac.jp講義時に指定する。			

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な 能 力 を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開				人間力	
授業コード	111065				ケア・スピリット	○
授業科目名	成人看護援助論Ⅰ（急性期）				実践的理解	○
配当学年/ 学期	2年 後期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	梶原志保子【実務該当教員】、吉崎純夫【実務該当教員】				多職種連携	○

講義概要			
成人期における急性期や重症な状態、周術期にある患者の特徴を理解し、生命維持、身体的リスクの低減と症状緩和、安全と安楽の保持等のための看護実践を学ぶ。生命危機的な状況にある対象者の呼吸・循環管理、フィジカルアセスメントを用いた全身状態の観察に必要な看護の知識と技術を修得する。また回復期にある患者の心身の回復過程を理解し、個の特性に応じて生きることを支える看護実践を学ぶ。			
授業内容（到達目標を含む）			
急性・回復期、周手術期におけるアセスメント能力、必要な看護の知識と技術を学ぶ。到達目標は 1. 急性・回復期にある対象者の急激な変化について理解できる。 2. 急性・回復期における侵襲の大きい治療や検査を受ける対象者をアセスメントができる。 3. 急性・回復期における侵襲の大きい治療や検査を受ける対象者に必要な看護技術を理解できる。 4. 周手術期に必要な看護について理解できる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
成人看護学概論の単位を修得していること			
教材			
テキスト 写真でわかる臨床看護技術2アドバンス、本庄恵子監修、インターメディカ：3400円 臨床外科看護総論、矢永勝彦、高橋則子編集、医学書院：2800円 参考図書 ナーシンググラフィカ 健康の回復と看護⑦ 疾病と治療			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	オリエンテーション 急性期看護の特徴	成人看護援助論Ⅰのシラバスを確認して授業に参加する。急性期看護の特徴について事前に予習して授業に参加し、講義後内容をまとめる 予習：30分 復習：30分	可
第2回	周手術期看護1 術前の看護と麻酔の基礎	術前オリエンテーション、麻酔について事前に予習して授業に参加し、講義後内容をまとめる 予習：30分 復習：30分	可
第3回	周手術期看護2 術中の看護	手術室の環境、手術中の看護師の役割について事前に予習して授業に参加し、講義後内容をまとめる 予習：30分 復習：30分	可
第4回	周手術期看護3 術直後の看護 病室時のアセスメント	術直後の看護、病室直後に必要な観察項目を事前に予習して授業に参加し、講義後内容をまとめる 予習：30分 復習：30分	可

第5回	周手術期看護4 術後合併症予防の看護（呼吸・循環）	術後の呼吸器合併症、循環動態の変化について予習して授業に参加し、講義後内容をまとめる 予習：30分 復習：30分	可
第6回	気管吸引、体位ドレナージの基礎	呼吸状態を観察するのに必要な観察項目と気管吸引の手技を予習して授業に参加し、講義後内容をまとめる 予習：30分 復習：30分	可
第7回	心電図の基礎	四肢誘導、胸部誘導について予習して授業に参加し、講義後内容をまとめる 予習：30分 復習：30分	可
第8回	周手術期看護5 術後合併症予防の看護（疼痛、消化機能、術後せん妄）	疼痛のメカニズム、せん妄のメカニズム、消化器の機能について復習して授業に参加し、講義後内容をまとめる 予習：30分 復習：30分	可
第9回	周手術期看護6 術後合併症予防の看護（感染、離床、退院支援）	スタンダードプリコーション、感染症について復習して授業に参加し、講義後内容をまとめる 予習：30分 復習：30分	可
第10回	循環器疾患患者の看護（心筋梗塞、狭心症）	循環器の解剖生理、循環器疾病について復習をして授業に参加し、講義後内容をまとめる 予習：30分 復習：30分	可
第11回	消化器疾患患者の看護（胃がん）	消化器の解剖生理、消化器疾患について復習をして授業に参加し、講義後内容をまとめる 予習：30分 復習：30分	可
第12回	呼吸器疾患患者の看護（肺がん、急性呼吸不全）	呼吸器の解剖生理、呼吸器疾患について復習をして授業に参加し、講義後内容をまとめる 予習：30分 復習：30分	可
第13回	人工呼吸器装着患者の看護	呼吸のメカニズムの復習をして授業に参加し、講義後内容をまとめる 予習：30分 復習：30分	可
第14回	運動器疾患患者の看護（脊椎疾患、骨折）	運動器の解剖生理、運動器疾患の復習をしてから授業に参加し、講義後内容をまとめる 予習：30分 復習：30分	可
第15回	脳神経疾患患者の看護（脳卒中）	脳神経の解剖生理、脳卒中を復習してから授業に参加し、講義後内容をまとめる 予習：30分 復習：30分	可
評価方法			
筆記試験（80％）および、レポート課題（20％）の達成状況により評価する。			
オフィスアワー			
未定（講義開始時に提示する）			

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開				人間力	
授業コード	111066				ケア・スピリット	○
授業科目名	成人看護援助論Ⅱ（慢性期）				実践的理解	○
配当学年/ 学期	2年 後期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	永坂和子【実務該当教員】、就任予定者、榊原麻子				多職種連携	

講義概要			
慢性期にある患者の特徴・慢性期看護の基本的な考え方を学ぶ。慢性疾患および治療・変化している療養環境の特徴について疾病をもちながら生きる対象の思いや生活、治療過程を理解し、セルフケアを伴う社会生活を支える看護実践を学ぶ。			
授業内容（到達目標を含む）			
1. 慢性疾患の特徴、治療・変化している療養環境の特徴、看護の役割、チーム医療の重要性について理解する。 2. 慢性疾患を有する人とその家族を理解する。 3. 慢性疾患を有する人とその家族への援助・支援の基本を理解する。 4. 慢性疾患の主な治療法と治療を受ける患者の看護について理解する。 5. 慢性疾患の有する人と家族への看護を理解する。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
授業の疾患に関する解剖生理・病態生理・検査・診断基準、看護等については、必ず予習してくる。予習してくることで、慢性疾患の療養行動に関わる理論・概念がより理解でき、国家試験対策にもつながる。			
教材			
テキスト：鈴木久美：看護学テキストNiCE, 成人看護学, 慢性期看護, 病氣とともに生活する人を支える, 改定第3版, 南江堂, 2019 参考図書：安酸史子：ナースング・グラフィカ, 成人看護学①成人看護学概論, メディカ出版, 2019 鈴木志津枝：慢性期看護論, 第3版, NOUVELLE HIROKAWA, 2014			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	オリエンテーション 慢性期看護の特徴、治療・療養環境の特徴、看護の役割	予習：テキストP2～P39を読んで各200字程度でまとめる。復習：課題レポート 各200字程度で記述する。予習時間：60分、復習時間：60分	可
第2回	慢性期疾患を有する人の身体的・心理的・社会的特徴・意思決定支援・退院支援とその人を支える家族の特徴	予習：テキストP42～P69を読んで各200字程度でまとめる。復習：課題レポート 各200字程度で記述する。予習時間：60分、復習時間：60分	可
第3回	慢性疾患を有する人とその家族への援助・支援の基本、治療・療養行動に関わる理論・概念（セルフケア・セルフケアマネジメント・自己効力感）	予習：テキストP71～P81を読んで各200字程度でまとめる。復習：課題レポート 各200字程度で記述する。予習時間：60分、復習時間：60分	可
第4回	慢性疾患を有する人とその家族への援助・支援の基本、治療・療養行動に関わる理論・概念（トランスセオレティカル・アドヒアランス）	予習：テキストP82～P89を読んで各200字程度でまとめる。復習：課題レポート 各200字程度で記述する。予習時間：60分、復習時間：60分	可
第5回	慢性疾患を有する人とその家族への援助・支援の基本、治療・療養行動に関わる理論・概念（病みの軌跡）、治療・療養を促進する支援（セルフモニタリング・症状マネジメント・教育的アプローチ）・地域包括ケアシステム・社会資源の活用等	予習：テキストP89～P128を読んで各200字程度でまとめる。復習：課題レポート 各200字程度で記述する。予習時間：60分、復習時間：60分	可
第6回	呼吸器系の障害を有する人とその家族への援助（慢性呼吸不全）	予習：テキストP225～P232を読んで各200字程度でまとめる。復習：課題レポート 各200字程度で記述する。予習時間：60分、復習時間：60分	可
第7回	循環器系の障害を有する人とその家族への援助（慢性心不全）	予習：テキストP271～P280を読んで各200字程度でまとめる。復習：課題レポート 各200字程度で記述する。予習時間：60分、復習時間：60分	可

第8回	消化器系の障害を有する人とその家族への援助(胃・十二指腸潰瘍)	予習：テキストP281～P288)を読んで各200字程度でまとめる。復習：課題レポート 各200字程度で記述する。予習時間:60分、復習時間：60分	可
第9回	消化器系の障害を有する人とその家族への援助(肝硬変)	予習：テキストP296～P306を読んで各200字程度でまとめる。復習：課題レポート 各200字程度で記述する。予習時間:60分、復習時間：60分	可
第10回	代謝・内分泌系の障害を有する人とその家族への援助(糖尿病)	予習：テキストP328～P339を読んで各200字程度でまとめる。復習：課題レポート 各200字程度で記述する。予習時間:60分、復習時間：60分	可
第11回	腎・泌尿器系の障害を有する人とその家族への援助(慢性腎不全)	予習：テキストP357～P367)を読んで各200字程度でまとめる。復習：課題レポート 各200字程度で記述する。予習時間:60分、復習時間：60分	可
第12回	血液・免疫系の障害を有する人とその家族への援助(白血病)	予習：テキストP282～P389を読んで各200字程度でまとめる。復習：課題レポート 各200字程度で記述する。予習時間:60分、復習時間：60分	可
第13回	脳・神経系の障害を有する人とその家族への援助(脳梗塞)	予習：テキストP418～P425を読んで各200字程度でまとめる。復習：課題レポート 各200字程度で記述する。予習時間:60分、復習時間：60分	可
第14回	がんを有する人とその家族への援助(がん基本法、地域包括ケアシステム、がん治療、病状の進行に伴う身体症状・症状マネジメント・心理/社会的支援・家族への支援・意思決定支援・退院支援・社会資源の活用等)	予習：資料を配布します。読んで各200字程度でまとめる。復習：課題レポート 各200字程度で記述する。予習時間:60分、復習時間：60分	可
第15回	がんを有する人とその家族への援助(緩和ケア・化学療養・放射線治療等)	予習：資料を配布します。読んで各200字程度でまとめる。復習：課題レポート 各200字程度で記述する。予習時間:60分、復習時間：60分	可
評価方法			
定期試験80%、レポート20%により評価する。			
オフィスアワー			
各教員：月～木曜日(9:00～17:00) 事前にアポイントを取って下さい 永坂和子：k-nagasaka@gifuhooken.ac.jp 榊原麻子：a-sakakibara@gifuhooken.ac.jp			

講義科目				る た め に 必 要 な 能 力 を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開				人間力	
授業コード	111067				ケア・スピリット	○
授業科目名	成人看護援助論Ⅲ（急性期）				実践的理解	○
配当学年/ 学期	3年 前期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	梶原志保子、就任予定者				多職種連携	○

講義概要			
成人看護援助論Ⅰに引き続き、成人期における急性期や重症な状態、周術期にある患者の特徴を理解し、生命維持、身体的リスクの低減と症状緩和、安全と安楽の保持等のための看護実践を学ぶ。救急看護法やクリティカルケア実践に必要な看護の知識と技術を修得する。また、これらを踏まえ周術期にある患者の看護過程の展開を通し、個の特性に応じて生きることを支える看護実践を学ぶ。			
授業内容（到達目標を含む）			
急性・回復期、周手術期におけるアセスメント能力、必要な看護の知識と技術を講義と演習を連動させて学ぶ。到達目標は 1. 急性・回復期にある対象者の急激な変化について理解し説明できる。 2. 急性・回復期における侵襲の大きい治療や検査を受ける対象者をアセスメントし理解できる。 3. 急性・回復期における侵襲の大きい治療や検査を受ける対象者に必要な看護技術を理解し実施できる。 4. 周手術期に必要な看護について理解し実践できる。 5. クリティカルな状態にある対象者に対する具体的な看護方法について理解できる。 6. 急性・回復期、周手術期におけるチーム医療について理解できる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
成人看護学概論の単位を修得していること			
教材			
テキスト	写真でわかる臨床看護技術2アドバンス、本庄恵子監修、インターメディカ：3400円 臨床外科看護総論、矢永勝彦、高橋則子編集、医学書院：2800円 NANDA-I看護診断 定義と分類2018-2020、上鶴重美訳、医学書院：3000円		
参考図書	ザ・ロイ適応看護モデル、松木光子監訳、医学書院、4800円 クリティカルケア看護学、道又元裕、医学書院：2100円 救急看護学、山勢博彰、医学書院：2500円		
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	クリティカルケア看護	クリティカルケアについて予習をして授業に参加し、講義後内容をまとめる 予習：15分 復習：15分	可
第2回	救急看護	救急看護とクリティカルケア看護の違いを予習して授業に参加し、講義後内容をまとめる 予習：15分 復習：15分	可
第3回	急性期における特殊な治療と看護	特殊な治療機器について予習して授業に参加し、講義後内容をまとめる 予習：15分 復習：15分	可
第4回	ME機器の管理（シリンジポンプ、輸液ポンプ）	輸液ポンプ、シリンジポンプについて予習して授業に参加し、講義後内容をまとめる 予習：15分 復習：15分	可

第5回	急性期看護におけるチーム医療	チーム医療について復習して授業に参加し、 講義後内容をまとめる 予習：15分 復習：15分	可
第6回	ロイ看護理論	成人看護学概論で学んだ看護理論を復習して 授業に参加し、ロイ看護理論についてまとめる 予習：15分 復習：15分	
第7回	看護過程の展開1（情報収集）	情報収集、分類の方法について復習して授業 に参加し、講義後内容をまとめる 予習：60分 復習：60分	
第8回	看護過程の展開2（アセスメント）	アセスメントに必要な情報を整理して授業に 参加し、講義後内容をまとめる 予習：60分 復習：60分	
第9回	看護過程の展開3（アセスメント）	アセスメントした内容を修正して授業に参加 し、講義後内容をまとめる 予習：60分 復習：60分	
第10回	看護過程の展開4（関連図）	関連図の描き方について復習して授業に参加 し、講義後事例の関連図を完成する 予習：60分 復習：60分	
第11回	看護過程の展開5（看護診断）	アセスメントに関連したNANDA看護診断項目を 熟読して授業に参加し、講義後内容をまとめる 予習：60分 復習：60分	
第12回	看護過程の展開6（看護計画）	看護過程演習（看護計画の内容）を復習して 授業に参加し、講義後内容をまとめる 予習：60分 復習：60分	
第13回	術後看護ケア1（シミュレーション）	術後合併症予防のためのケアを復習して授業 に参加し、講義後内容をまとめる 予習：15分 復習：15分	
第14回	術後看護ケア2（シミュレーション）	計画した看護計画を実施するための準備をし て授業に参加し、講義後内容をまとめる 予習：15分 復習：15分	
第15回	看護過程の展開7（評価）	看護過程演習（評価の内容）を復習して授業 に参加し、講義後内容をまとめる 予習：30分 復習：30分	
評価方法			
筆記試験（40％）および、演習課題（60％）の達成状況により評価する。			
オフィスアワー			
未定（講義開始時に提示する）			

講義科目				
科目区分	専門教育科目 -看護の展開			人間力
授業コード	111068			ケア・スピリット ○
授業科目名	成人看護援助論 IV（慢性期）			実践的理解 ○
配当学年/ 学期	3年 前期 必修	単位数	1	プロフェッショナリズム
担当教員	永坂和子、就任予定者、榊原麻子			多職種連携

講義概要			
慢性期疾患を有する患者の事例を用いて、看護過程を展開する能力を修得する。慢性期疾患の代表的な治療法や援助方法について理解し、演習を通して知識と技術を習得する。			
授業内容（到達目標を含む）			
1. ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程を理解し、記録ができる。 2. 慢性疾患における代表的な治療法について理解する。 3. 治療を受ける患者に対する具体的な援助方法や慢性期疾患の特徴あるコミュニケーションスキルを学ぶ。 4. 演習を通して慢性期実習に活かす。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
授業の疾患に関する解剖生理・病態生理・検査・診断基準、看護等については、必ず予習してくる。予習してくることで、看護過程の演習が効果的となる。各自でノートを整理し、繰り返しが看護過程の展開力となり実習に役立つ。			
教材			
テキスト：鈴木久美：看護学テキストNICE, 成人看護学, 慢性期看護, 病気とともに生活する人を支える, 改定第3版, 南江堂, 2019 江川隆子：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断（最新版）, ヌーヴェルヒロカワ, 2018.			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	オリエンテーション ゴードンの機能的パターンに基づく看護過程（情報のアセスメント、情報の解釈と統合、看護問題の明確化、看護計画立案、実施、評価・修正）、関連図	予習：資料を配布します。読んで各200字程度でまとめる。復習：課題レポート、各200字程度で。予習時間：60分、復習時間：60分	可
第2回	患者の看護過程 事例：慢性呼吸不全	予習：事例を熟読し、患者の疾患・症状・治療・看護について学習する。 課題：演習する。で不十分な所は、次の演習までに加筆・修正してくる。	
第3回	患者の看護過程 事例：慢性呼吸不全	課題：演習で不十分な所は、次の演習までに加筆・修正してくる。	
第4回	患者の看護過程 事例：慢性心不全	予習：事例を熟読し、患者の疾患・症状・治療・看護について学習する。 課題：演習する。で不十分な所は、次の演習までに加筆・修正してくる。	
第5回	患者の看護過程 事例：慢性心不全	課題：演習で不十分な所は、次の演習までに加筆・修正してくる。	
第6回	患者の看護過程 事例：慢性腎不全	課題：演習で不十分な所は、次の演習までに加筆・修正してくる。	
第7回	人工透析・腹膜透析の看護	予習：テキストP130～P139、配布資料を読んで各200字程度でまとめる。復習：課題レポート 各200字程度で記述する。予習時間：60分、復習時間60分	
第8回	患者の看護過程 事例：糖尿病	予習：事例を熟読し、患者の疾患・症状・治療・看護について学習する。 課題：演習で不十分な所は、次の演習までに加筆・修正してくる。	

第9回	患者の看護過程 事例：糖尿病	課題：演習で不十分な所は、次の演習までに加筆・修正してくる。	
第10回	患者の看護過程 事例：糖尿病	課題：演習で不十分な所は、次の演習までに加筆・修正してくる。	
第11回	演習：インスリン、血糖測定	予習：テキストP130～P150、血糖測定の配布資料を読んで各200字程度でまとめる。復習：課題レポート 各200字程度で記述する。予習時間：60分、復習時間60分	
第12回	がんを有する人と家族の看護：がんサバイバーからの体験と看護師へのメッセージ	課題：講義を聞き、サバイバーとディスカッションし、がん看護を考える。	
第13回	患者の看護過程 事例：がん	予習：事例を熟読し、患者の疾患・症状・治療・看護について学習する。 課題：演習する。で不十分な所は、次の演習までに加筆・修正してくる。	
第14回	患者の看護過程 事例：がん バンニユースのロールプレイ等	予習：事例を熟読し、患者の疾患・症状・治療・看護について学習する。 課題：演習する。で不十分な所は、次の演習までに加筆・修正してくる。	
第15回	患者の看護過程 事例：がん 喪失・スピリチュアル等を考える	予習：事例を熟読し、患者の疾患・症状・治療・看護について学習する。 課題：演習する。で不十分な所は、次の演習までに加筆・修正してくる。	
評価方法			
定期試験70%、指導媒体10%、レポート20%により評価する。			
オフィスアワー			
永坂和子：月～木曜日（9:00～17:00） 事前にアポイントを取って下さい。連絡先 e-mail k-nagasaka@gifuuoken.ac.jp 伊佐治哲也 e-mail t-isaji@gifuuoken.ac.jp 榊原麻子：e-mail a-sakakibara@gifuuoken.ac.jp			

実習科目						る デ イ プ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開						人間力	
授業コード	111069						ケア・スピリット	
授業科目名	成人看護学実習Ⅰ（急性期）						実践的理解	○
配当学年/ 学期	3年 後期・4年 前期 必修			単位数	3		プロフェSSIONナリズム	
担当教員	梶原志保子、吉崎純夫						多職種連携	○

講義概要（実習目的）							
本臨地実習では、成人期における急性期や周手術期にある看護対象者の特徴をふまえ、健康レベルに応じた援助について実践を通して修得する。具体的には、周手術期の対象者を受け持ち、系統的な情報収集と収集した情報に基づいたデータベースや関連図の作成を行ない、看護問題を抽出し、対象の個別性に応じた健康回復に向けての援助計画の立案、実施、評価の一連の看護過程を展開する。講義・演習で修得した知識・技術を活用し、行動計画に基づいた看護実践を展開する。実践した看護への評価において、残された課題をフィードバックできる力も養う。							
授業内容（実習目標）							
1. 急性・回復期にある患者とその家族に対して、援助的人間関係を築くことができる 2. 身体の構造と機能や病態生理等の知識を活用し、急性・回復期にある患者の看護過程を展開することができる 3. クリティカルな状態にある患者とその家族への看護の特徴を理解できる 4. 患者にかかわる医療関係者との連携の重要性が理解できる 5. 患者の権利を擁護し、看護専門職者としての責任と倫理観を身につけることができる							
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）							
成人看護学概論、成人看護援助論Ⅰの単位を履修していること							
教材							
テキスト NANDA-I看護診断 定義と分類2018-2020、上鶴重美訳、医学書院：3000円 参考図書 ザ・ロイ適応看護モデル、松木光子監訳、医学書院、4800円							
授業計画及び学習課題（予習・復習）							
授業計画及び詳細は成人看護学実習Ⅰ実習要項に記載する							
評価方法							
実習記録（70％）、実習課題レポート（30％）により評価する							
オフィスアワー							
未定（講義開始時に提示する）							

実習科目						
科目区分	専門教育科目 -看護の展開			る デ イ め プ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す	人間力	
授業コード	111070				ケア・スピリット	
授業科目名	成人看護学実習Ⅱ（慢性期）				実践的理解	○
配当学年/ 学期	3年 後期・4年 前期 必修	単位数	2		プロフェッショナリズム	
担当教員	永坂和子、吉崎純夫、榊原麻子				多職種連携	○

講義概要（実習目的）

本臨地実習では、慢性期にある対象の健康障害と治療への反応が、発達段階および生活過程に及ぼす影響をふまえ、対象がより最適な健康状態となるように、セルフケアの修得などの援助について、実践を通して修得する。慢性期および終末期にある対象者を受け持ち、講義・演習で修得した知識・技術を活用し、コミュニケーションやフィジカルアセスメントにより系統的な情報収集を行い、アセスメント、看護診断、援助計画立案、実施、評価の一連の看護過程を展開する。

授業内容（実習目標）

1. 慢性的な経過を辿る成人期にある患者の身体的・心理的・社会的特徴と健康問題を理解し、生涯にわたり自己管理を支援する援助を説明することができる。
2. 慢性的な健康問題を有する患者と家族を理解し、問題解決への援助ができる。
3. 患者のセルフケア能力を把握し、自己管理をできるように援助する。
4. 医療チームの多職種の役割を理解し、看護の役割を理解および実践ができる。
5. 退院後の生活に向けて必要な退院支援、家族支援、社会資源活用の理解および実践ができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

講義や演習で学習したことを看護実践の場で活用しながら学修行動を進めていく。実習では、慢性期疾患を有する患者の病態生理を把握し、アセスメント、関連図、看護問題抽出、看護計画、看護実践、評価の流れで行う。尚、本科目は、成人看護概論、成人看護援助論Ⅱ（慢性期）の単位を取得していなければ履修することはできない。

教材

テキスト：ナーシンググラフィカ、成人看護①成人看護学概論、看護学テキストNICE、成人看護学、慢性期看護、2019。
 病気とともに生活する人を支える、2019。
 参考図書：ナーシング・グラフィカ、成人看護学③セルフマネジメント、メディカ出版、2019。

授業計画及び学習課題（予習・復習）

1. 実習場所
 - 1) 病棟実習：中濃厚生病院、岐北厚生病院、揖斐厚生病院、澤田病院、山内ホスピタル、増子記念病院、一宮西病院、大垣徳洲会病院
2. 対象学生：3学年次（後期）、4学年次（前期）
3. 実習期間および実習時間

実習期間：

実習時間：9時00分～16時00分（カンファレンス30分）
4. 実習メンバー：1病棟につき4名の学生配置
5. 実習スケジュール：原則として、第1週/第2週：月・火・木・金曜日、第3週：月・火・水曜日を病院実習。
 受け持ち患者の決定と事前学習：受け持ち患者の病態生理、疾患、検査、看護についてまとめる。
 帰学日：第1・第2水曜日、第3木・金曜日
 提出物：第3木 17:00までに要約を提出。第3金曜日17:00までに実習記録を提出。
 ケース発表会；要約を通して、看護過程を共有する。
 その他、詳細は「2021年度実習要項」を参照のこと。

評価方法
事前課題（10%）、実習記録（70%）、実習レポート(10%)、ケース発表（10%）
オフィスアワー
永坂和子：帰学日9:00～17:00。事前にアポイントを取って下さい。 連絡先 e-mail k-nagasaka@gifuhoken.ac.jp
榊原麻子：e-mail a-sakakibara@gifuhoken.ac.jp

講義科目				る た い プ ロ マ ポ リ シ ー を 達 成 す の た め に 必 要 な 能 力		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開				人間力	
授業コード	111071				ケア・スピリット	
授業科目名	成人看護学最新ケア論				実践的理解	
配当学年/ 学期	3年 前期 選択	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	永坂和子【実務該当教員】、吉崎純夫				多職種連携	

講義概要			
成人看護学の最新のケアの方法論について、実際の臨床現場の知見や研究成果を基に、実践的に学ぶ。特にがん看護や終末期看護については、医療技術や治療方法の高度化、複雑化、多岐化が近年著しく、また疾病と治療についての社会的な関心や要請も日々大きなものとなっている。本科目では、臨床現場の実際の事例を中心に、成人看護におけるケアの実際について、実際の事例を用いて理解を深める。			
授業内容（到達目標を含む）			
1. 臨床で行われている最新ケア方法に対するエビデンスを通して、知識・技術・考え方を深める。 2. 事例を通して、最新ケア方法の看護の視点について説明ができる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
最新ケアは、多くが教科書には記載されていないため、事前に資料を配布する。授業は、資料を読んで臨むことで、効果的な学びとなり、今後の実習に参考になる。			
教材			
(永坂) 参考図書：みんなで取り組む排尿管理, チーム作りから実践指導事例まで、日本医療企画, 2018、排泄ケアガイドブック, 照林社, 2017、下部尿路機能障害の治療とケア, メディカ出版, 2017、排泄リハビリテーション, 理論と臨床, 中山書店, 2007. 排便ケアガイドブック, 照林社, 2017. (伊佐治) 参考図書：がん看護、第25巻、第8号、南江堂、2020、がん看護、第25巻、第4号、南江堂、2020、がん看護、第23巻、第7号、南江堂、2018、がん看護実践ガイド 分子標的治療薬とケア、医学書院、2016。			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	臨床現場における疾患から見た排泄障害の特徴と最新ケア：排泄障害を有する疾患と症状、検査・治療、看護、尊厳、倫理の基本的な考え方	予習：資料を読んで各200字程度でまとめる。 復習：資料より課題レポートを各200字程度で記述する。 予習時間：60分、復習時間：60分	可
第2回	排泄障害のアセスメント(身体、心理、社会)、多職種の役割と連携、診療報酬、排尿チーム、実際の評価、演習（超音波を用いた残尿測定）	予習：資料を読んで各200字程度でまとめる。 復習：資料より課題レポートを各200字程度で記述する。 予習時間：60分、復習時間：60分	
第3回	事例：アセスメント、ケア計画、看護、評価	予習：資料を読んで各200字程度でまとめる。 復習：資料より課題レポートを各200字程度で記述する。 予習時間：60分、復習時間：60分	
第4回	がん免疫療法 治療の特徴と最新ケア：がん免疫療法のメカニズム、副作用、看護師の役割 多職種の役割と連携、診療報酬	予習：資料を読んで各200字程度でまとめる。 復習：資料より課題レポートを各200字程度で記述する。 予習時間：60分、復習時間：60分	
第5回	がんゲノム医療 がん遺伝子パネル検査の特徴と最新ケア：がん遺伝子パネル検査の流れ、看護、意思決定支援、倫理 多職種の役割と連携	予習：資料を読んで各200字程度でまとめる。 復習：資料より課題レポートを各200字程度で記述する。 予習時間：60分、復習時間：60分	
第6回	開講時に指定する。	講義時に指定する。	
第7回	開講時に指定する。	講義時に指定する。	
第8回	開講時に指定する。	講義時に指定する。	

評価方法
定期試験70%、指導媒体10%、レポート20%により評価する。
オフィスアワー
永坂和子：月～木曜日（9:00～17:00） 事前にアポイントを取って下さい。連絡先 e-mail k-nagasaka@gifuhoken.ac.jp

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開				人間力	
授業コード	111072				ケア・スピリット	○
授業科目名	老年看護学概論				実践的理解	○
配当学年/ 学期	2年 前期 必修	単位数	2		プロフェッショナリズム	
担当教員	就任予定者2名				多職種連携	

講義概要

老いと、老年看護の対象となる人々の特徴、及び老年看護の基本となる考え方について科学的根拠に基づき理解し、複数の疾患や障害を抱えつつ老年期を生きる高齢者の暮らしや、望みを知る。さらに高齢者の尊厳あるケアと看取りについて学修し、高齢者と家族の意向を理解して意思決定を支え、地域包括ケアの実現に向けての課題や、多職種協働の視点とストレングスを生かした地域づくりと老年看護学の課題を探究する。

授業内容（到達目標を含む）

1. 高齢期の発達課題と高齢者看護の理念及び各種理論について説明できる
2. 加齢現象とその受容過程について理解し、わが国の高齢化現象の特徴を説明できる
3. 高齢者のQOLの向上を志向した看護や高齢者の人権と看護の倫理的責務を理解できる
4. 高齢者虐待の予防と防止活動について理解できる
5. 介護保険サービス内容について説明できる
6. 高齢者の思いと、高齢者を介護する家族の思いを理解できる

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

1. 老年看護学の基礎となる科目であり、主体的な学修を期待します。
2. 毎回の講義の終わりに、講義内容に関する5分程度の小テストを毎回実施します。
3. この科目を失格した場合、「老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ」は履修できません。その自覚をもって、授業に臨んでください（20分以上の遅刻、早退は欠席となります）
2. 高齢者看護学の基礎となる科目であり、主体的な学修を求めます
3. この科目の単位を修得するにあたり、おおよそ60時間の授業外学修（学習課題に示されている内容の学修等）が必要です
4. 小テストや課題レポートのフィードバックは、その都度講義時間内に行います。

教材

テキスト 看護学テキストNice 老年看護学概論（改訂第3版）「老いを生きる」を支えることとは、正木治恵・真田弘美編、南江堂、3,080円（税込）ISBN 978-4-524-26062-1

参考図書 国民衛生星の動向2019/2020 Vol.66 (9) 厚生労働統計協会 2,646円（税込）
国民の福祉と介護の動向2019/2020 Vol.66 (10) 厚生労働統計協会 2,356円（税込）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	第Ⅰ章 老年看護を理解するための基盤 （老いの意味、老年期の理解、高齢者と社会制度）	予習：テキストの第Ⅰ章～第Ⅱ章（テキストp2～63）を読み、高齢者を取り巻く社会制度について200字程度にまとめて講義に参加する。 復習：配布資料と講義内容を復習し、テキスト内の課題を各200字程度にまとめる。	
第2回	第Ⅲ章 老年看護の対象となる人々の特徴 （対象特性・対象理解・からだ・こころ・かかわり暮らし・生きがい）	予習：第Ⅲ章（テキストp66～109 対象特性・対象理解・からだ・こころ・かかわり暮らし・生きがい）を読み、要点を200字程度にまとめて講義に参加する。 復習：配布資料と講義内容を復習し、テキスト内の課題を各200字程度にまとめる。	可

第3回	第Ⅲ章 老年看護の対象となる人々の特徴 (歳月の積み重ね、高齢者ケアにおける高齢者理解の発展)	予習：第Ⅲ章(テキストp110～122歳月の積み重ね、高齢者ケアにおける高齢者理解の発展)を読み、P111を参考にして関心のある事柄(ヒットした流行歌、ファッション等)の一覧表(A4用紙1枚程度)を作成する。 復習：配布資料と講義内容を復習し、テキスト内の課題を各200字程度にまとめる。	可
第4回	第Ⅳ章 老年看護に活用できる理論・アプローチ (1)	予習：第Ⅳ章(テキストp124～169)を読み、関心のある理論を取り上げて、その特徴を200字程度にまとめる。 復習：連休中の課題レポート ①:連休中に後期高齢者へのインタビューを行い、その内容に関するレポート(A4版用紙2枚程度)を作成する。	可
第5回	第Ⅳ章 老年看護に活用できる理論・アプローチ (2)	予習：後期高齢者へのインタビューレポートをもとにグループ別に情報交換を行うので発表の準備をして講義に参加する(レポートは提出、コピー1部を持参)。 復習：配布資料と講義内容を復習し、テキスト内の課題を各200字程度にまとめる。	
第6回	第Ⅵ章 高齢者の健康生活の支援	予習：第Ⅵ章(テキストp188～212)、巻末の付録：評価スケール・アセスメントツール(p381～392)の要点を200字程度にまとめる。 復習：配布資料と講義内容を復習し、テキスト内の課題を各200字程度にまとめる。	可
第7回	第Ⅶ章 高齢者の療養生活の支援 (薬物療法・手術療法を受ける高齢者への看護)	予習：第Ⅶ章(テキストp214～225 薬物療法・手術療法を受ける高齢者への看護の要点を200字程度にまとめる。 復習：配布資料と講義内容を復習し、テキスト内の課題を各200字程度にまとめる。	可
第8回	第Ⅶ章 高齢者の療養生活の支援 (高齢者のリハビリテーション看護、受療形態に応じた高齢者への看護、地域連携における退院時の看護)	予習：第Ⅶ章(テキストp226～241 高齢者のリハビリテーション看護、受療形態に応じた高齢者への看護、地域連携における退院時の看護)の要点を200字程度にまとめる。 復習：配布資料と講義内容を復習し、テキスト内の課題を各200字程度にまとめる。	可
第9回	第Ⅶ章 高齢者の療養生活の支援 (療養生活の場の特徴)	予習：第Ⅶ章(テキストp242～258 療養生活の場の特徴と看護)を読み、その要点を200字程度にまとめる。 復習：配布資料と講義内容を復習し、テキスト内の課題を各200字程度にまとめる。	可
第10回	第Ⅷ章 認知症高齢者の支援 (認知症と社会制度)	予習：第Ⅷ章(p260～266 認知症と社会制度)を読み、その要点を200字程度にまとめる。 復習：配布資料と講義内容を復習し、テキスト内の課題を各200字程度にまとめる。	可
第11回	第Ⅷ章 認知症高齢者の支援 (認知症の予防)	予習：Ⅷ章(テキストp267～271 認知症の予防)を読み、その要点を200字程度にまとめる。 復習：配布資料と講義内容を復習し、テキスト内の課題を各200字程度にまとめる。	可

第12回	第Ⅷ章 認知症高齢者の支援 (認知症高齢者への看護)	予習：第Ⅷ章(テキストp273～283 認知症の高齢者への看護)を読み、その要点を200字程度にまとめる。 復習：配布資料と講義内容を復習し、テキスト内の課題を各200字程度にまとめる。さらに認知症高齢者ケアに関する先駆的な取り組み(実践報告・国内外を問わない)を調べてA4用紙Ⅱ枚程度のレポートを作成する(課題レポート②)	可
第13回	第Ⅴ章「健やかに老い、安らかに永眠する」を支える看護 第Ⅸ 高齢者の尊厳を支える看護と看取り	予習：第Ⅴ章、第Ⅸ章(テキストp172～185、285～306)を読み、疑問点を200字程度にまとめて講義に参加する。 復習：配布資料と講義内容を復習し、テキスト内の課題を各200字程度にまとめる。	可
第14回	第Ⅸ章 3. 家族介護者の生活支援 4 終末期の家族支援	予習：第Ⅸ章(テキストp307～327)を読み、その要点を200字程度にまとめる。 復習：配布資料と講義内容を復習し、テキスト内の課題を各200字程度にまとめる。	可
第15回	第Ⅹ章 生かし生かされる地域づくり 第Ⅺ章 老年看護学の課題	予習：第Ⅹ～Ⅺ章(テキストp330～380)を読み、要点を200字程度にまとめる。さらに、これまでの講義内容で疑問等があれば書き出して講義時間内に質問すること。 復習：配布資料と講義内容を復習し、テキスト内の課題を各200字程度にまとめる。	
評価方法			
定期試験(50%)、小テスト(20%)、課題レポート(30%)により評価する。			
オフィスアワー			

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開				人間力	
授業コード	111073				ケア・スピリット	○
授業科目名	老年看護援助論Ⅰ				実践的理解	○
配当学年/ 学期	2年 後期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	鈴木岸子【実務該当教員】、原田英子				多職種連携	

講義概要
 高齢者とその家族を生活機能の視点から考え、高齢期特有の疾患や症状・機能障害の特徴とその要因・誘因を知り、生活機能の未充足を満たす具体的な看護について創造的・実践的に理解する。すなわち、それらの疾患や障害が、高齢者の生活にどのように影響するのかを理解し、高齢者のセルフケアの促進や予防を含めた看護について探求し、高齢者が“その人らしい生活”を実現できるための基本的な看護技術を学ぶことをこの科目の目的とする。

授業内容（到達目標を含む）
 本科目は、講義・演習を含む内容で展開する。
 1. 高齢者体験やおむつ装着体験を通じて、加齢に伴う、身体的・精神的・社会的機能の変化について説明できる。
 2. 高齢期特有な疾患や症状を踏まえた必要なアセスメント技術（問診・視診・触診・打診・聴診）が実施できる。
 3. 高齢者のセルフケアを促すためのコミュニケーション技術や清潔ケアが実施できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）
 本科目受講にあたり、老年看護学概論を受講済みが履修条件である。また、2/3以上の出席が無い場合は、定期試験を受けることができず、単位を取得することができない。
 講義演習で学習した内容は、老年看護学概論と密接に関わっているため、老年看護学概論の内容を復習しながら学習を進める必要がある。また、事前の体験学習や課題レポート作成を通して学び、講義に参加しないと講義受講の効果が減弱するため、必ず課題を行った上で受講すること。

教材
 テキスト ①泉キヨ子、小山幸代：看護実践のための根拠がわかる老年看護技術（第3版）、メヂカルフレンド社、3,960円（税込）ISBN 978-4-8392-1586-6
 ②山田律子：生活機能からみた老年看護過程（第4版） 医学書院 4,070円 ISBN ISBN-10 4260042742 ISBN-13 978-4260042741

授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	老年看護学援助論ガイダンス	復習：120分 老年看護学概論の復習 予習：120分 老年看護の目的を照らし合わせて、200字以内に「概論」と「援助論」との繋がりをまとめる。	可
第2回	高齢者の理解（高齢者体験）	予習：120分 身体的な老性変化をA4版用紙1枚にイラストと共にまとめてくる。 復習：120分 高齢者体験を課題レポート用紙に400字で記載し提出する。	
第3回	老年看護に必要なアセスメント技術1	予習：120分 高齢者のアセスメントの目的が口頭で説明ができる。 復習：120分 問診、視診、触診、打診、聴診の特徴を課題レポートにまとめ提出する。	
第4回	老年看護に必要なアセスメント技術2	予習：120分 老性変化を踏まえたバイタルサイン測定における留意事項を口頭で説明ができる。 復習：120分 バイタルサインの数値の異常・正常値を課題レポートにまとめ提出する。	
第5回	老年看護に必要なアセスメント技術3	予習：120分 循環器・呼吸器・消化器・運動器・泌尿器・感覚器・外皮機能に関して、バイタルサイン測定、各種尺度が活用できるようにレポートにまとめてくる。 復習：120分 高齢者の上記機能のアセスメントの方法を400字で記述する。	

第6回	高齢者総合機能評価、国際生活機能分類における評価尺度	予習：120分 CGAで用いられる項目・尺度の意味が理解できるようにまとめる。 復習：120分 高齢者の生活機能評価、国際生活機能分類、日常生活動作や精神・心理機能評価を行うためのツールを400字で記述する。	可
第7回	老年看護に必要なコミュニケーション技術（プロセスレコード）	予習：120分 プロセスレコードの概要に関して、事前学習をしてレポートにまとめる。 復習：120分 高齢者の自尊感情に配慮したコミュニケーション技術についてプロセスレコードで振り返ることができる。	
第8回	高齢者の口腔ケア	予習：120分 高齢者にとって食べる機能に関する加齢変化が説明できる。 復習：120分 口腔に付随する疾患を予防するためにどうすべきなのかに関する課題を400字でまとめる。	
第9回	高齢者の口腔ケア技術	予習：120分 義歯の種類について事前に学習を行い、特徴をまとめる。 復習：120分 義歯の取り扱いにおける禁忌事項をレポート200字にまとめる。	
第10回	加齢に伴う排尿・排便機能のアセスメント	予習：120分 配布されたパンツ型おむつを講義までに装着し、体験し感じたことや考えたことをレポートにまとめる。 復習：120分 加齢に伴う排泄機能の特徴と排尿アセスメントや適切な排泄方法の選択が理解できる。	可
第11回	加齢に伴う排尿・排便機能に伴う排泄ケア	予習：120分 排尿に関わる腎機能、泌尿器系の復習を行う。小テストで確認する。 復習：120分 最後まで自立・自立した排泄ケアの支援方法が理解できる。	可
第12回	活動と休息	予習：120分 高齢者にとって活動することや廃用性症候群についてレポートをまとめる。小テストで確認する。 復習：120分 活動の意義や心理・社会面に与える影響について理解し、活動に関するアセスメント項目や尺度を200字で記述する。	可
第13回	認知症高齢者を支えるコミュニケーション技術	予習：120分 認知症の中核症状とBPSDについて口頭で回答できる。また、認知症の人とのコミュニケーションに関する情報を取りあげてレポート課題として400字で考察する。 復習：120分 認知症に関するアセスメントや、治療に関する知識を活用することができる。	
第14回	認知症高齢者を支えるコミュニケーション技術	予習：120分 認知症の有無を測定する尺度を紹介し、点数によって疑いかどうか判断できる。 復習：120分 認知症高齢者のコミュニケーションの基本を理解し、実際に行うことができる。	
第15回	認知症ケアメソッド（パーソンセンタードケア・バリデーション・ユマニチュード）	予習：120分 認知症ケアメソッドとしてどのような非薬物療法があるのかレポートにまとめる。 復習：120分 認知症ケアメソッドに関する特徴を表にまとめることができる。	
評価方法			
定期試験（70％） 講義・演習参加態度・課題レポート（20％）、小テスト（10％）			
オフィスアワー			

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開				人間力	
授業コード	111074				ケア・スピリット	
授業科目名	老年看護援助論Ⅱ				実践的理解	○
配当学年/ 学期	3年 前期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	鈴木岸子【実務該当教員】、原田英子				多職種連携	○

講義概要			
高齢者が築いてきた生活史を知り、持てる力に着目して、豊かな人生の統合へと向かっていけるような支援方法を学ぶ。特に認知症高齢者の自己決定を支える看護や、権利擁護とその家族の支援について学びを深め、高齢者が望む生活や状態像を見据えた看護過程の展開ができることを科目の目的としており、高齢者とその家族のQOLを高める看護活動について考え、高齢者が人生の最期まで尊厳を持って生活するための支援について学修する。			
授業内容（到達目標を含む）			
本科目は、講義・演習を含む内容で展開する。 1. 高齢者の生活史やその方が大切にしてくられた生き方や生活をアセスメントすることの必要性が理解できる。 2. 認知症になられても、障害を持たれても最期までその人らしく尊厳を持った生活を支援することの重要性が理解できる。 3. 認知症の非薬物療法として、看護ケアとしての回想法やアクティビティケアの計画・立案ができる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
本科目受講にあたり、老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰを受講済み履修条件である。また、2/3以上の出席が無い場合は、定期試験を受けることができず、単位を取得することができない。 講義演習で学習した内容は、老年看護学概論と老年看護学援助論Ⅰに関わっているため、老年看護学概論の内容を復習しながら学習を進める必要がある。また、事前に体験学習や課題レポートで学び講義に参加しないと講義受講の効果が減弱するため、必ず課題を行った上で受講すること。			
教材			
テキスト ①泉キヨ子、小山幸代：看護実践のための根拠がわかる老年看護技術（第3版）、メヂカルフレンド社、3,960円（税込、2年時購入済）ISBN 978-4-8392-1586-6 ②高齢者の臨床検査値の見方・考え方 臨床病理レビュー 特集第156号 ラボ検査研究会編集、克誠堂出版、2750円（税込）ISBN（なし）			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	老年期におけるエンドオブライフケア	予習：120分 学生が考える「生きること」「死ぬこと」に関して課題レポート800字で記述する。 復習：120分 高齢者にとってより良く生きることに関しての学びをレポート800字で記述する。	可
第2回	高齢者の摂食嚥下	予習：120分 摂食嚥下障害や合併症についてまとめ、誤嚥のリスクに関して説明できるように200字でまとめる。 復習：120分 栄養のアセスメント方法が理解できる。経管栄養の管理方法や看護技術の実際を400字で記述する。	可
第3回	高齢者がからだを動かすことの意義	予習：120分 廃用性症候群による症状を200字で説明する。 復習：120分 適切な運動ができるようにするための看護援助として、運動習慣の支援や関節可動域訓練について400字で記述する。	可

第4回	睡眠と休息	予習：120分 高齢者の睡眠・覚醒のパターンやサーカディアンリズムについて200字で説明でまとめる。 復習：120分 睡眠・休息のアセスメント方法を理解し、適切な睡眠・休息がとれるような援助について400字で記述する。	可
第5回	高齢者の転倒の特徴と看護援助	予習：120分 高齢者の転倒の特徴や転倒の影響に関して400字でまとめる。 復習：120分 転倒のアセスメント方法や転倒リスクに応じた予防策について400字で記述する。	可
第6回	高齢者の褥瘡の特徴と看護援助	予習：120分 褥瘡の発生リスクが高まる要因について200字でまとめる。 復習：120分 褥瘡発生予測の意義を理解し、リスクアセスメントができる。褥瘡を予防するための看護技術や褥瘡予防ケアの評価に関して400字で記述する。	可
第7回	高齢者の術後管理	予習：120分 せん妄と認知症の違いの説明が200字でまとめる。 復習：120分 手術における侵襲を理解し、必要な看護ケアについて400字で記述する。	可
第8回	加齢に伴う薬物動態の変化	予習：120分 加齢に伴う薬物動態の変化について400字でまとめる。 復習：120分 薬物療法に伴う有害反応が起こりやすいことを理解し、適切な与薬方法を400字で記述する。	可
第9回	高齢者の活動の意義 (アクティビティケア) (回想法)	予習：120分 高齢者の心理を日常生活、対人交流、役割の側面から各200字でまとめる。 復習：120分 活動することのアセスメント方法を理解し活動のための看護計画書を作成する。	
第10回	アクティビティケア演習1 (個別)	予習：120分 アクティビティケアにはどのような内容があるのかを調べ、1つのケアの紹介ができるようにする。 復習：120分 個別アクティビティケアに適しているケアを2種類まとめる。	
第11回	アクティビティケア演習2 (集団)	予習：120分 課題の事例を読み込む、集団レクレーションをしてどのようなアクティビティをするか方法を計画書にまとめる。 復習：120分 集団アクティビティケア計画立案し、実際に展開できるように準備、提出する。	
第12回	高齢者の看護過程の展開1 (情報収集とアセスメント)	予習：120分 予め配布する事例(嚥下性肺炎・帰宅願望の強い事例・寝たきり・超高齢者等)を熟読し、看護課題について各200字程度でまとめる。 復習：120分 予習内容と講義での内容との違いについて考察し、各事例の看護計画に必要なアセスメント情報を記述する。	
第13回	高齢者の看護過程の展開2 (再度のアセスメント)	予習：120分 看護過程のアセスメントに必要な情報項目、特に成人等との相違について200字程度にまとめる。 復習：120分 各事例についてアセスメントの要点を400字程度で記述する。	
第14回	高齢者の看護過程の展開3 (看護計画)	予習：120分 各事例の長期看護目標・短期看護目標について200字程度でまとめる。 復習：120分 講義内容を踏まえて関心を持った1事例について看護計画を立案する(400字程度)。	

第15回	高齢者の看護過程の展開4（評価）	予習：120分 看護計画の評価の視点を200字でまとめる。 復習：120分 新たに提示された事例の看護計画を立案し、配布した記録様式に沿って記述し、1週間後に提出する。	
評価方法			
定期試験(50%) 課題レポート (40%) 、小テスト (10%)			
オフィスアワー			

実習科目						
科目区分	専門教育科目 -看護の展開			る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ ン シ ー を 達 成 す	人間力	
授業コード	111075				ケア・スピリット	
授業科目名	老年看護学実習Ⅰ				実践的理解	○
配当学年/ 学期	3年 前期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	鈴木岸子、原田英子				多職種連携	○
講義概要（実習目的）						
本臨地実習では、地域の医療施設、高齢者施設等を利用する在宅高齢者とその家族の思いや、サービスの現状を体験することで高齢者の保健・医療・福祉の課題を知り、その後の学びの動機づけを図る。また、福祉用具等の見学を通じて、地域で生活する高齢者を支える地域資源について実地に理解し、在宅高齢者への看護活動の場の理解と、加齢や疾病・障害によって損なわれた諸機能を維持・向上させる自立支援への知識を深める。						
実習内容（実習目標）						
目的 高齢者とかかわりを通して、加齢が及ぼす高齢者の身体・心理・社会的変化と日常生活状況、およびその生活を支えている人的・物的環境について理解し、高齢者を尊重したかかわり方の実際を学ぶ。 老年看護学実習Ⅰでは、地域の医療施設、高齢者施設等で生活する高齢者への看護を実践するために必要な、高齢者の身体的・心理的・社会的特徴と加齢との関連、日常生活状況を学ぶことを目的とする。						
到達目標 1. 加齢や疾病・障害によって心身機能が低下した在宅高齢者と、介護している家族の思いを知る。 2. 在宅高齢者の支援に必要な看護活動の場に参加し、各種サービス・制度や社会資源の実際と課題を知る。 3. 加齢や疾病・障害によって損なわれた心身の諸機能を維持・向上させる活動に参加し、高齢者の自立（自律）支援への知識・技術を高める。 4. 介護家族の介護負担軽減を目的としたサービスの実際と、サービス利用時の看護職としての留意点を知る。 5. 高齢者が生きてきた時代背景・地域の文化や価値観にふれ、高齢者への理解力を高める。						
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
この科目は老年看護学実習Ⅱの履修要件である。 老年看護学概論の復習をして実習に臨むこと。						
教材 老年看護学概論で使ったテキストおよび配付資料 その他別途紹介する。						
授業計画及び学習課題（予習・復習）						
※詳しい内容は実習要項を参照する。						
評価方法						
実習記録（60％）、課題レポート（20％）、カンファレンスへの参加状況（20％）						
オフィスアワー						
原田英子 ：連絡先 e-mail e-harada@gifuuoken.ac.jp						

実習科目						る デ イ た め に プ ロ マ ポ リ ン ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開						人間力	
授業コード	111076						ケア・スピリット	
授業科目名	老年看護学実習Ⅱ						実践的理解	○
配当学年/ 学期	3年 後期・4年 前期 必修			単位数	2		プロフェッショナリズム	○
担当教員	鈴木岸子、原田英子					多職種連携	○	
講義概要（実習目的）								
本臨地実習では、介護老人保健施設に入所している慢性疾患や健康障害を持った高齢者を受け持ち、疾患や障害を持ちながらも、その人らしく生活を営むことができるための目標志向型の看護過程の展開・評価を行い、高齢者のニーズに合った看護実践力の向上をめざす。さらに健康及びQOLの維持・向上のための援助方法について学ぶとともに、高齢者観を深め、多職種で協働することを通じて高齢者看護の専門性と独自性を探求する。								
授業内容（実習目標）								
実習目標 老年期特有の健康問題に由来する生活機能障害のある高齢者を受け持ち、療養生活の場で暮らす高齢者を深く理解することをとおして、高齢者のQOLの向上を目指す。								
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）								
老年看護学実習Ⅰを履修していること。 実習方法 学生は病院、介護老人保健施設等の1か所で実習を行う。 1. 各施設において、1名の高齢者を受け持って、看護過程を展開する。 2. 実習期間中に適宜、教員とカンファレンスを行う。 3. 実習1・2週目に、施設の指導者と実習カンファレンスを行う。								
教材								
適宜掲示								
授業計画及び学習課題（予習・復習）								
実習内容： 1. 実習施設の組織概要、および組織の目標等を理解できる。 2. 実習施設に入所する高齢者を受け持ち、高齢者の特徴を踏まえた上で、健康障害の病態を理解する。 3. 入院およびその環境が高齢者に与える影響について理解し、高齢者が生活不活発病を起こすことなく、早期に機能回復できる援助のあり方考えることができる。 4. 高齢者のあらゆる側面を統合しながら、QOL を踏まえた日常生活援助を実践することができる。 5. 高齢者の退院後の生活を支援する社会サービスシステムについて理解し、多職種と看護の連携について考えることができる。 6. 日々のカンファレンスおよび最終日の全体討議を通して、実習で得た事実をもとに高齢者への看護のあり方についての学びを深める。 ※詳しい内容は実習要項を参照する。								
評価方法								
実習記録（60%）、実践内容（30%）、課題レポート（10%）かつ積極的な実習参加を総合評価する								
オフィスアワー								
担当教員のメール								

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開				人間力	
授業コード	111077				ケア・スピリット	○
授業科目名	認知症ケア論				実践的理解	○
配当学年/ 学期	3年 前期 選択	単位数	1		プロフェッショナルリズム	
担当教員	鈴木岸子【実務該当教員】				多職種連携	

講義概要				
老年看護学概論や援助論などでの既習の認知症の看護の専門的知識に基づき、さらに多方面からケアのあり方を考察する。認知症高齢者のQOLの向上に向け、認知症の進行と日常生活・社会生活に適応するための生活環境の整え方や進行に伴う行動変化への看護を学ぶ。さらに、ゲストスピーカーの参加により、サポートのあり方やリスクマネジメントについても学び、認知症ケアの実践に向けその理解を深めていく。				
授業内容（到達目標を含む）				
1. 脳の仕組み、認知症の原因疾患の特性について理解し、説明することができる。 2. 認知症の特性と環境による影響も含めたアセスメントの意義を理解し、自身の関わり方や支援方法について他者に根拠をもって説明することができる。 3. 認知症の人や家族を支援する上で必要となる法制度や専門機関・職種について理解し、説明することができる。				
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）				
様々な健康課題を抱える対象が、住み慣れた地域での健康生活を営むことができるようなケアシステムについての専門能力を発揮できるか考えながら学んでいきましょう。				
教材				
これまでの教科書及び授業開始時及び講義進行に合わせて適宜紹介する。				
授業計画及び学習課題（予習・復習）				
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業	
第1回	オリエンテーション 認知症を取り巻く状況（認知症へのイメージ）	ガイダンス、認知症の制度、支援制度の変遷を調べる	○	
第2回	認知症高齢者に関わる社会的背景と歴史的変遷	自分の住んでいる認知症の状況を調べる	○	
第3回	認知症高齢者のアセスメント視点 パーソンセンタードケアの考え方	認知症ケアに取り組む施設・グループホーム、地域にある先駆的な取り組みに調べる	○	
第4回	認知症高齢者のアセスメントとケアの実際（講義・討議）	① 睡眠・覚醒リズム、せん妄への対応を調べる	○	
第5回	認知症高齢者のアセスメントとケアの実際（講義・討議）	② 健康状態の変化とその兆候への対応を調べる	○	
第6回	認知症高齢者のアセスメントとケアの実際（講義・討議）	③ 摂食・嚥下障害への対応を調べる	○	

第7回	認知症高齢者のアセスメントとケアの実際 (講義・討議)	④ 生活場面における感情・情動への対応を調べる	○
第8回	まとめ	アセスメントに基づき、生活行動・生活環境・家族関係 における看護課題	○
評価方法			
課題レポート（70%）、出席状況により、理論と現状との統合能力、思考方法や創造性等の評価を行う。			
オフィスアワー			

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す	人間力	
科目区分	専門教育科目 -看護の展開				ケア・スピリット	○
授業コード	111078				実践的理解	○
授業科目名	小児看護学概論				プロフェッショナリズム	
配当学年/ 学期	2年 前期 必修	単位数	2		多職種連携	
担当教員	野田みや子【実務該当教員】、平岡翠【実務該当教員】					

講義概要			
現在の小児と家族がおかれている状況について、諸統計や小児看護の変遷などから概観し、小児の権利擁護の視点から小児看護の目標や役割、課題について理解する。小児各期の成長・発達の特徴を理解し、あらゆる健康レベルや発達段階に応じた小児と家族への援助について学ぶ。また、小児がひとりの人間として尊重され、その子らしく生活できるような支援のあり方について理解し、小児看護の役割と看護上の倫理を学ぶ。			
授業内容（到達目標を含む）			
小児看護の対象者である子どもの成長発達上の特徴及び小児看護の基本となる理念、子どもの人権、現代の子どもと家族の概況や倫理的観点から子どもの健康問題、小児看護の役割と課題について講義する。 子どもの全体像をイメージするために、各期の子どもの成長・発達及び栄養の特徴、健康、家族、看護の特徴について説明する。小児と家族の諸統計から小児の健康問題の動向を知るとともに、小児に関連する保健医療福祉のシステム、および法規を知り具体的な施策について説明する。国内外の小児看護の変遷を学び包括的ケアへと発展してきている現代の小児看護の役割について倫理的観点を含み意見交換・発表する場を設ける。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
授業中に発表を求めます。分からないことがあれば積極的に質問すること。確認テストはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。			
教材			
テキスト 中野綾美：ナースিং・グラフィカ、小児の発達と看護、メディカ出版、2020年、4180円（税込） 参考図書 ドナ・C・アグレア他：危機療法の理論と実際、川島書店、1978年、2200円（税込）			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	小児看護の理念と目標、小児看護の変遷を理解する。	予習：指定された教科書に目を通す 復習：配布資料を読み返す ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	可
第2回	小児保健統計を理解する。	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート①を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	可
第3回	小児看護に必要な発達理論と、身体の特徴について理解する。	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート①を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	可
第4回	子どもの死の受け止め方について理解する。	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート①を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	可
第5回	乳乳幼児期の健康問題に必要な看護を説明できる。幼児期の健康問題に必要な看護について意見交換できる。①～④の重要な点の出題を解答し、解説を聞く。	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート②を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	可

第6回	学童思春期の健康問題に必要な看護を説明できる。	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート②を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	可
第7回	学童思春期の健康問題に必要な看護について意見交換できる。⑤の重要な点の出題を解答し、解説を聞く	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート②を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	可
第8回	小児および家族・同胞とのコミュニケーションについて理解する。	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート②を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	可
第9回	小児の疾病理解と発達障害の支援及び社会的なシステムについて意見交換できる。⑥、⑦、⑧の重要な点の出題を解答し、解説を聞く。	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート②を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	可
第10回	小児の疾病理解と発達障害の支援及び社会的なシステムについて意見交換できる。⑨の重要な点の出題を解答し、解説を聞く。	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート③を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	可
第11回	小児の疾病理解と発達障害の支援及び社会的なシステムについて意見交換できる。⑩の重要な点の出題を解答し、解説を聞く。	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート③を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	可
第12回	小児の疾病理解と発達障害の支援及び社会的なシステムについて意見交換できる。⑪の重要な点の出題を解答し、解説を聞く。	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート③を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	可
第13回	小児の疾病理解と発達障害の支援及び社会的なシステムについて意見交換できる。⑫の重要な点の出題を解答し、解説を聞く。	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート③を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	可
第14回	小児の疾病理解と発達障害の支援及び社会的なシステムについて意見交換できる。⑬の重要な点の出題を解答し、解説を聞く。	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート③を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	可
第15回	まとめ：①～⑭の授業内容について総括する	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート①②③をまとめる ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	可
評価方法			
授業態度10%、レポート10%、最終試験80%により評価する。			
オフィスアワー			
月・水・木・金曜の16：10分～17:00, 研究室 事前にメールでアポイントを取ってください：野田；m-noda@gifuuoken.ac.jp 平岡；s-hiraoka@gifuuoken.ac.jp			

第6回	呼吸器疾患児の把握とその対応について学習する。（喘息・肺炎・クループ）	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート②を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	可
第7回	小児救急の実際について学習する。 子どもの入院と家族の付き添いについて学習する。	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート②を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	可
第8回	抑制や固定が必要な子どもへの援助について学習する。（骨折・先天性股関節脱臼）	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート②を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	可
第9回	子どもへの声かけの仕方と点滴刺入部のシーネ固定法について学習する。 演習：子どもの点滴固定	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート②を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	
第10回	慢性的な疾患をもつ子どもの再発や悪化を防ぐ治療管理と在宅看護の援助について学習する。（ネフローゼ・急性糸球体腎炎・1型糖尿病）	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート③を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	可
第11回	子どもの内服について学習する。 演習：子どもの与薬方法	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート③を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	可
第12回	手術を受ける子どもの痛みについて学習する。（口唇口蓋裂・先天性心疾患・痛み・プレパレーション）	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート③を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	
第13回	障がい児をもつ子どもと家族との関わりについて学習する。（重心児・筋ジストロフィー・てんかん他）	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート③を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	可
第14回	障がい児をもつ子どもと家族との関わりについて学習する。（重心児・筋ジストロフィー・てんかん他）	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート③を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	可
第15回	まとめ①～⑭の学習の総括	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート①②③をまとめる ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	可
評価方法			
授業態度10%、レポート10%、最終試験80%により評価する。			
オフィスアワー			
月・水・木・金曜の16：10分～17:00, 研究室 事前にメールでアポイントを取ってください：野田；m-noda@gifuuoken.ac.jp 平岡；s-hiraoka@gifuuoken.ac.jp			

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開				人間力	
授業コード	111080				ケア・スピリット	
授業科目名	小児看護援助論Ⅱ				実践的理解	○
配当学年/ 学期	3年 前期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	野田みや子【実務該当教員】、平岡翠【実務該当教員】				多職種連携	○

講義概要

小児の健康問題が小児と家族に及ぼす影響を考え、小児の発達過程の特質をふまえた主要な理論に基づいて、健康状態を的確にアセスメントすることができることを目的とする。さらに、病気や入院中であっても、小児の成長・発達を促し、小児が主体的に治療・処置に取り組めるような看護方法を選択し、実践するための知識と基本的技術を修得する。小児期によくみられる代表的な疾患の事例を通して、看護過程の展開方法について学び、小児看護援助技術を演習を通して修得する。

授業内容（到達目標を含む）

子どもとその家族に向けた適切な看護援助のあり方について、「小児看護学援助論1」で実施した内容を踏まえて、さらに具体性を深めた実践能力を修得する。
小児期にある子どもの日常生活の援助及び健康を障害された子どもの看護支援をする方法論を身につける。
疾病が与える子どもとその家族の身体的・精神的・社会的及び成長発達への影響、家族への影響について意見交換し、グループワークと発表を通して、思考力・判断力・チーム力を養う。
臨床実習の準備として、小児への援助技術が一定水準以上に達していることを目標とする。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

授業中に発表を求めます。分からないことがあれば積極的に質問すること。確認テストはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。

教材

テキスト ・中野綾美：ナースンググラフィカ小児看護学2、メディカ出版、2020年、3200円（税込）
・中野綾美：ナースング・グラフィカ、小児の発達と看護、メディカ出版、2020年、3800円（税込）
参考図書 ・浅野みどり：根拠と事故防止からみた小児看護技術、医学書院、2020年、4400円（税込）
・浅野みどり：発達段階からみた小児看護過程、医学書院、2017年、4180円（税込）
・山元恵子：写真でわかる 小児看護技術、インターメディカ、2020年、3520円（税込）

授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	オリエンテーション 子どもを対象とした看護技術：検査や処置を受ける子どもと家族への看護	予習：指定された教科書に目を通す 復習：配布資料を読み返す ※授業開始時 5minutes test 予習時間30分、復習時間60分	可
第2回	急性期にある子どもと家族への看護の実際： 子どものフィジカルアセスメント（臨床推論）急性期事例	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート①を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間30分、復習時間60分	可
第3回	演習：抱っこの仕方・衣類交換・おむつ交換、正しい身体測定の方法について実習する。	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート①を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間30分、復習時間60分	可
第4回	子どもと家族への看護過程の展開：進め方と方法	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート①を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間30分、復習時間60分	可

第5回	紙上事例における看護過程の展開①	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート①を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間30分、復習時間60分	可
第6回	1 グループ：紙上事例における看護過程の展開② 2 グループ：小児の看護技術演習① 小児の輸液管理	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート②を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間30分、復習時間60分	
第7回	1 グループ：紙上事例における看護過程の展開③ 2 グループ：小児の看護技術演習②保育器内の低出生体重児のケア	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート②を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間30分、復習時間60分	
第8回	1 グループ：紙上事例における看護過程の展開④ 2 グループ：小児の看護技術演習③プレパレーション	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート②を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間30分、復習時間60分	
第9回	1 グループ：小児の看護技術演習②保育器内の低出生体重児のケア 2 グループ：紙上事例における看護過程の展開③	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート②を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間30分、復習時間60分	
第10回	1 グループ：小児の看護技術演習③プレパレーション 2 グループ：紙上事例における看護過程の展開④	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート③を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間30分、復習時間60分	
第11回	保育施設での実習に関するオリエンテーション（全体概要） 病院での実習に関するオリエンテーション（保健指導案、場面記録）	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート③を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間30分、復習時間60分	
第12回	保健指導案に関する教員からの指導（個別）	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート③を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間30分、復習時間60分	
第13回	小児看護技術チェック ・フィジカルアセスメント ・小児への看護援助	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート③を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間30分、復習時間60分	
第14回	小児看護技術チェック ・フィジカルアセスメント ・小児への看護援助	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート③を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間30分、復習時間60分	
第15回	小児看護技術チェック まとめ①～⑭の学習の総括	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート①②③をまとめる ※授業開始時 5minutes test 予習時間30分、復習時間60分	
評価方法			
授業態度10%、レポート10%、最終試験80%により評価する。			
オフィスアワー			
月・水・木・金曜の16：10分～17：00, 研究室 事前にメールでアポイントを取ってください：野田；m-noda@gifuuoken.ac.jp 平岡；s-hiraoka@gifuuoken.ac.jp			

実習科目						る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開						人間力	
授業コード	111081						ケア・スピリット	
授業科目名	小児看護学実習						実践的理解	○
配当学年/ 学期	3年 後期・4年 前期 必修			単位数	2		プロフェッショナリズム	
担当教員	野田みや子、平岡翠、						多職種連携	○

講義概要（実習目的）

本臨地実習では、健康な小児と健康障害をもつ小児の双方に関わる体験を通して、成長・発達過程にある小児の特性とその家族への関わりを理解する。小児の成長発達を促進し健康レベルに適した援助ができるよう、保育所・重症心身障がい児センター・総合病院等における2週間の臨地実習を通して、小児看護に必要な基本的な知識・技術・態度を修得する。

授業内容（実習目標）

1. 小児看護学の既習の知識・技術・経験などを基盤として小児と家族への看護を実施できる。
2. 保育所では小児の発達段階における特徴や個人差を考慮した日常生活への援助を実施し、保育の特徴とそのあり方を述べることができる。
3. 病院では健康障害のある小児の療養生活における看護上の問題に対して、看護過程の展開ができる。
4. 小児と家族への看護実習を通して専門職としての自己の課題を述べることができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

保育所実習では9施設に分かれて、各自3日間の実習を行う。前後して、9月からは総合病院と重症心身障がい児センターの2つの医療機関での実習を行う。健康な小児とのコミュニケーションをとり成長発達を理解する。また、健康障害のある小児とその家族への看護を実践する。なお、本科目は、小児看護概論、小児看護援助論Ⅰ・Ⅱの単位を取得していなければ履修することはできない。

教材

- テキスト ・中野綾美：ナースンググラフィカ小児看護学2、メディカ出版、2020年、3200円（税込）
 ・中野綾美：ナースング・グラフィカ、小児の発達と看護、メディカ出版、2020年、3800円（税込）
 参考図書 ・浅野みどり：根拠と事故防止からみた小児看護技術、医学書院、2020年、4400円（税込）
 ・浅野みどり：発達段階からみた小児看護過程、医学書院、2017年、4180円（税込）
 ・山元恵子：写真でわかる 小児看護技術、インターメディカ、2020年、3520円（税込）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

- 1 実習場所
 - 1) 保育施設実習 岐阜市の保育園、幼保園9か所
 - 2) 病院実習 長良医療センター 一宮西病院
- 2 対象学生

岐阜保健大学看護学部3年次生（後期）及び4年次生（前期）
- 3 実習期間及び実習時間

実習期間 後日提示

実習時間 原則として、9:00～16:00（15:30～16:00カンファレンス）
- 4 実習メンバー

1施設につき4名の学生配置
- 5 実習スケジュール

原則として、月曜日、火曜日（または、木曜日、金曜日）は病棟実習

実習最終日は、ケース発表を行う

その他、詳細は「年度実習要項」を参照の事

- ※・保育所実習では、配置された保育所で、小児の保育を実践する。年齢別の小児の成長発達を理解するため、できるだけ異年齢のクラスに入り保育を実践する。
- ・保育所実習では、3～3人で配置されるので、主体的に受け持つクラスで実習し、疑問などはタイムリーに自分から質問することが求められる。各グループで最終日に「手洗い法」等の健康指導を行う。
- ・病院実習：学生は、原則1人で患児1名を受け持ち、看護計画を立案し看護過程を実践する。受け持ち患児以外の小児に行われる検査・処置にも積極的に参加する。
- ・病院実習の外来実習では看護師についてシャドー実習をして指導を受ける。諸計測などは積極的に実施する。

評価方法

原則100%出席すること。

実習態度、実習内容、受け持ち患者の看護過程、ケース発表、ファイナルレポートで、総合的に評価する。

オフィスアワー

月・水・木・金曜の16：10分～17：00, 研究室

事前にメールでアポイントを取ってください：野田；m-noda@gifuhoken.ac.jp

平岡：s-hiraoka@gifuhoken.ac.jp

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開				人間力	
授業コード	111082				ケア・スピリット	○
授業科目名	母性看護学概論				実践的理解	○
配当学年/ 学期	2年 前期 必修	単位数	2		プロフェッショナリズム	
担当教員	内藤直子【実務該当教員】				多職種連携	

講義概要

学生は、リプロダクティブヘルス・ライツの視点から、周産期の女性の生理心理社会的変化を学び、それに伴う家族の変化や適応へのケアが必要である。その特性に適応した援助への理解を深めつつ、人間のライフサイクルで性科学を学び、生殖期の女性の健康問題をwell-beingに看護実践できる方法論と母性看護の基本的概念を修得する。また学生が内在化する母性観・父性観を確認し対象への共感的理解能力を高め、社会的変遷や国際化社会における看護を理解する。

授業内容（到達目標を含む）

学生は人間のライフサイクルで性科学を学び、学生自身の「母性と父性」概念を培うことで、母性看護学対象の基礎的な健康問題が認識できる。ロイ適応看護理論を理解し看護過程の意味を理解し、対象へwellness型思考で母性看護の実践ができる方法論と基本概念を修得する。更に女性の生涯を通じて家族の健康問題と社会的変遷や国際化社会で看護行動がとれる基礎知識を修得する。授業形態は書籍やPC視聴覚で一斉講義やクリティカルなPBL討議で展開し適時資料・ビデオ教材を活用する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

この科目の単位を修得するにあたり、約60時間の授業時間外の学修（予習・復習）が必要である。確認テストや課題のフィードバックはその都度、講義時間内に行う。出席回数が開講回数の3分の2以上が必要であり、学生便覧を熟読してください。オフィスアワーは、掲示しているので活用してください。特に講義後 30分～60分間は、研究室に在室するので質問など、気軽に利用してください。

教材

テキスト 1. 母性看護学概論 1、系統看護学講座、森恵美他、医学書院、2021、第14改訂、2640円
2. ロイとゴードンで母性小児看護過程一臨床推論につながるアセスメント力UP、内藤直子他、ふくろう出版、2022、3000円+税
参考図書 1. 他は適時に提示す

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	母性看護の概念：母性とは、父性とは、親性とは、母子関係と家族発達、	予習：50分・第1章、A、Bの1-19 pを読み、各自の母性性や父性性、親性を考える。 復習：50分学習し、母性について述べられる。	
第2回	母性看護の概念：セクシュアリティ（人間の性・性の多様性）	予習：第1章、Cの20-24 pを読み、人間の性と発達課題について理論的に調べる。 復習：セクシュアリティが述べる	
第3回	母性看護の概念：ヘルスプロモーション、	予習：第1章、D、Eの24-33 pを読み、母性の基盤となる概念を深く理論できるよう調べる。 復習：リプロダクティブヘルス／ライツとヘルスプロモーションを述べる	
第4回	母性看護の概念：母性看護のあり方、母性看護における倫理	予習：第1章、F、Gの34-53を読み、各自で考える。 復習：ヘルスプロモーション、母性看護のあり方、倫理について説明できる。	

第5回	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状：母性看護の歴史の変遷と現状 母性看護の歴史の変遷と現状 母子保健統計の動向・母性看護に関する組織と法律	予習：第2章、Aの54-85 pを読み、母性看護の歴史から関連法規や母子保健統計の意味を知る。 復習：母性の関連法規や母子保健統計を説明する。	可
第6回	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状： 母性看護の対象を取り巻く環境と施策 家族・地域社会・生物学的環境・社会文化的環境	予習：第2章、Bの86-95 pを読み、母性看護の対象を取り巻く施策と環境を理解する。 復習：母性の対象に関する施策と環境を説明する	可
第7回	母性看護の対象理解： 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化、 基礎体温測定について	予習：第3章、Aの94-123 pを読み、生殖器の形態機能と性ホルモンを調べる。 復習：生殖器と性ホルモンが述べられるホルモンを調べる。	
第8回	母性看護の対象理解： 女性のライフサイクルと家族、 母性の発達・成熟・継承	予習：第3章、B、Cの124-154 pを読み、母性、父性、親性、家族の意味を考え、母性の発達を理解する。 復習：母性、父性、家族が説明できる。 *PBLでGW後、課題レポートを提出する。	
第9回	母性看護に必要な看護技術： 母性看護における看護過程・ロイ適応看護モデルを用いた4様式で情報収集とアセスメント、自己概念 情報収集技術、②ヘルスアセスメントの方法	習：第4章、A、Bの146-159 p及び、教材2「ロイの看護過程11事例」の第1章を読み、看護過程でロイ適応看護モデルを用いた情報収集とアセスメント技法、自己概念を調べる。 復習：看護過程展開の要素を理解する。	可
第10回	母性看護で有用な理論と看護技術： 女性の意思決定を支える看護技術、②ヘルスプロモーション、③親になる過程・家族適応を促す看護技術、④カルガリー家族看護モデルのアセスメント法	予習：第4章、Cの160-172 pを読み自己決定、保健指導、妊娠の受容、親になる過程、家族適応を調べる。 復習：母性看護で有用な理論と看護技術を、理解する。	可
第11回	母性看護で有用な理論と看護技術： ストレス・不快症状・苦痛緩和の看護技術②次世代の育成・発達を促す看護技術③リプロダクティブヘルスの健康障害の対応④周産期の死への看護技術	予習：第4章、Cの172-179 pを読み、苦痛の緩和と次世代の成長を促す、看護技術を調べる。 復習：母性看護で有用な理論と看護技術	
第12回	各期における看護：1. 女性の健康と看護の必要性① 思春期の健康と看護②成熟期の健康と看護③ 更年期の健康と看護④老年期の健康と看護、 2. 産後ケアと育児支援、3. 多職種との連携と協働	予習：第5章、A、B、C、D、Eの180-245 pを読み、女性のライフステージ各期の看護を調べる。 復習：女性のライフステージ各期の看護を理解する。 *ミニテスト	
第13回	プロダクティブヘルスケア：①家族計画、②性感染症とその予防③HIVに感染した女性への看護④人工妊娠中絶と看護、⑤喫煙女性の健康と看護	予習：第6章、A、B、C、D、Eの250-290 pを読み、リプロダクティブヘルスケアに関する項目 復習：講義時に指定する。	
第14回	リプロダクティブヘルスケア： 性暴力を受けた女性に対する看護、②児童虐待と看護 ③国際化時代の多様なお産文化	予習：第6章、F、Gの291-306 pから性暴力や、国際社会でのグローバルなお産文化と生命倫理を考える。 復習：講義時に指定する。	
第15回	リプロダクティブヘルス：国際化社会と看護、①母子保健の国際化、②在日外国人の母子保健と妊産婦ケア *母性看護学の特徴・まとめ	予習：第6章、Hの308-316 pを読み、国際社会でのグローバルなお産文化と日本での生命倫理を考える。在日外国人の母子ケアを調べる 復習：母性看護学概論の基盤の概念をまとめる。	
評価方法			
課題レポート（10％）、ミニテスト（20％）、定期試験成績（70％）、により評価する			
オフィスアワー			
内藤：火・水・木・金の16:10から17:00、事前連絡は：n-naitoh@gifuuoken.ac.jp)			

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開				人間力	
授業コード	111083				ケア・スピリット	○
授業科目名	母性看護援助論Ⅰ				実践的理解	○
配当学年/ 学期	2年 後期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	内藤直子【実務該当教員】、石田美知【実務該当教員】、近藤邦代				多職種連携	

講義概要

周産期の女性及び新生児の心身の健康現象（生理的变化と病態生理・心理社会的変化）を理解し、対象の健康レベルをウェルネスな視点でアセスメントし、健康ニーズを充足する能力を身につける。対象の健康レベルのアセスメント能力と、看護実践を支える基本技術と日常生活への適応促進の援助技法、ハイリスク状況時の妊娠期・分べん期の女性に対するクリティカルな援助技法も修得し、母性看護の臨床看護実践に必要な基本的技術の修得を目指す。学生が内在化する母性観・父性観を確認し、対象を共感的に理解する視点も醸成する。

授業内容（到達目標を含む）

本講義では、妊娠期から分べん期の正常経過にある対象の看護について学修する。妊産婦の身体的特性や心理社会的特性、各期の看護に必要な情報やアセスメントの視点を理解し、母性看護を実践するための基礎的な知識を修得する。子育てをする母親・父親への親役割取得に必要な看護について理解し、新しい家族形成に向けて看護を実践できる具体的な援助方法を学修する。学生は、周産期の女性の生理的・心理的变化のアセスメントでは、正常と異常の違いの観察力と看護的判断力を培う。

＜到達目標＞

1. 妊産婦の身体的特性や心理社会的特性および看護に必要な情報、アセスメントについて説明できる。
2. 子育てをする母親・父親への親役割取得に必要な看護について説明できる。
3. 妊婦および産婦に必要な基本的な看護技術について修得できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

本科目の履修学生は、講義を積極的に受講することが条件である。予習・復習は60時間程度が必要で、資料や教科書の熟読を求める。課題へのフィードバックは講義時間内に行う。適時2回位事前連絡し補講があるので参加を求める。

教材

テキスト：1. 母性看護学各論②：系統看護学講座 森恵美他、医学書院、第13版、2021、3,000円+税
 2. ロイとゴードンで母性小児看護過程－臨床推論につながるアセスメント力UP、内藤直子他、ふくろう出版、2022、3000円
 3. 他は、適宜に提示する。

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	リプロダクティブヘルス概念と看護；①子どもを産み育てることと看護。②出生前からリプロダクティブヘルスケア・生殖補助医療、③不妊治療と看護、出生前診断と倫理的課題、④不妊治療の女性と家族看護（内藤）	予習：教材1の1章1-9p、2章12-56p熟読し受講。復習：リプロダクティブヘルス概念と看護が述べられる。不妊治療と看護、遺伝相談など倫理的課題が述べられる。予習：50分、復習：50分	
第2回	妊娠期の看護を学ぶ。 A・妊娠期の身体的特徴 B・妊娠期の心理と社会的特徴、①妊婦の心理、②妊婦と家族と社会（近藤）	予習：3章A・Bの58-86p 妊娠の生理、胎児の発育と生理、母体の生理的变化、妊娠期の不安や葛藤、親になることの準備、夫婦、兄弟、祖父母、地域社会、職場などを理解する。 復習：資料を再読す。予習：50分、復習：50分	可

第3回	C・妊婦と胎児のアセスメントについて学ぶ。 ①妊娠とその診断、②妊娠期の検査とその目的、③胎児の発育と健康状態の診断、④妊婦と胎児の経過の診断とアセスメント⑤日常生活のアセスメント (近藤)	予習：3章Cの87-126p、妊娠と診断、基礎体温、つわり、胎児の発育と評価法、胎児触知、胎位、胎向、レオポルド触診法、妊娠経過と基本的情報のアセスメントを理解する。 復習：妊婦と胎児アセスメントが述べられる。予習：50分、復習：50分	
第4回	妊婦と家族の看護について学ぶ。 ①妊婦が受ける母子保健サービス、 ②妊婦の保健相談の実際、 ③親になるための準備教育 (近藤)	予習：3章Dの126-174 p、妊娠届出と母子健康手帳、健康診査、保健指導、食生活、トラブル予防、嗜好品、排泄、清潔衣生活、マナー・トラベル、活動休息、勤労、親準備教育、家族役割を理解。 復習：妊婦の保健指導の実際を述べられる。予習：50分、復習：50分	可
第5回	妊娠の異常と看護について学ぶ。 G・ハイリスク妊婦の看護、①高年妊婦・若年妊婦の看護、ART後の妊婦、合併症の妊婦、流早産時ケア、妊娠高血圧症候群妊婦の看護、多胎妊婦の看護、異所妊娠、 (近藤)	予習：7章A～Fを読み返す。Gの393-400 p、①高年・若年妊婦、肥満、ART後の妊婦、合併症の妊婦、切迫流・早産妊婦、異所妊娠看護を理解。 復習：ハイリスク等異常経過妊婦看護を理解。予習50分、復習50分 *10分間ミニ確認テスト	
第6回	分娩期の看護について学ぶ。 A・分娩の要素、分娩の機序、B・分娩経過、進行と産婦の身体変化、産痛、分娩第1期2期3期4期の産婦の心理・行動 (石田)	予習：4章のA～Bの178-199p、分べんの3要素、分娩経過を理解する。 復習：分娩の要素と分娩経過を述べられる。予習：50分、復習：50分	
第7回	分娩期の看護について学ぶ。 ①産婦の心理・社会的変化、②産婦・胎児の健康のアセスメント、③産婦と家族の心理・社会面のアセスメント④分娩レビュー、産婦の自己概念、 (石田)	予習：4章のB～CのP199-219を予習して受講し、産婦の心理・社会的変化、産婦家族のアセスメントが理解できる。 復習：産婦の心理・社会的変化からアセスメント視点を述べられる。予習：50分、復習：50分	可
第8回	分娩期の看護について学ぶ。 産婦と家族の看護、①看護目標と産婦のニーズ、②安産分娩、安楽な分娩の看護、陣痛緩和のケア・無痛分娩③分娩が肯定的になる看護・自己概念・夫立ち合い分娩、④基本的ニーズの看護、⑤家族発達への看護 (石田)	予習：4章のDのP220-239を予習し、産婦と家族の看護、安全安楽な分娩への基本的ニーズへの看護、出産体験が肯定的になる看護を理解。 復習：安全安楽な分娩への看護ポイントを述べられる。予習：50分、復習：50分 *10分間ミニ確認テスト	
第9回	分娩期各期の看護の実際について学ぶ。 ①分娩第1期の活動期の看護、②分娩第1期活動期の終盤の看護、③分娩第2期の看護、④分娩第3期・4期の看護の実際 (石田)	予習：4章のEの240-253pを予習し分娩期各期の看護を理解する。 復習：産婦の身体的、心理・社会的特徴と看護の実際が述べられる。予習：50分、復習：50分 *10分ミニ確認テスト	
第10回	1. 演習オリエンテーション： ①資料の配布 ②紙上看護過程展開事例 ③NST紙上事例 (内藤・石田・近藤)	予習：今までの資料を読み知識の確認。 復習：正常な妊娠・分娩の経過を配布資料から確認しその看護を学習する。予習50分、復習50分	
第11回	1. 演習デモンストレーション (石田・近藤)	予習：演習デモンストレーション時の資料を理解しておく。分娩ラボ・シミュレーションセンターで実施、 *AグループとBグループ交代で参加* 分べんの (DVD) 視聴覚	

第12回	周産期の看護実践とスキル演習 (1) レオポルド触診法、胎児心音聴取、子宮底と 腹囲測定法、分娩べん台体験、母子健康手帳 の活用、 (内藤・石田・近藤)	(実践演習) ①援助技法の意義や方法・留意点の レポート作成。②妊娠後期のアセスメントと測定 法、③事例にて胎児心拍数モニタリング実施・判 読とケア、NFRS時ケアを理解する。 <u>Aグループ</u> <u>グループスキル演習とBグループロイ看護過程</u>	
	周産期の看護実践とスキル演習 (2) 胎児心拍数モニタリング・判読、妊娠歴 妊婦体験ジャケットと日常ケア(内藤, 石田, 近藤)	復習：課題レポートを作成する。 (演習はPBL形式で6-10人グループのアクティブ ラーニング) 予習：120分、復習：120分	
第13回	周産期の看護実践とスキル演習 (1) レオポルド触診法、胎児心音聴取、子宮底と 腹囲測定法、分娩べん台体験、母子健康手帳 の活用、 (内藤・石田・近藤)	(実践演習) ①援助技法の意義や方法・留意点の レポート作成。②妊娠後期のアセスメントと測定 法、③事例にて胎児心拍数モニタリング実施・判 読とケア、NFRS時ケアを理解する。 <u>Aグループ</u> <u>グループスキル演習とBグループロイ看護過程</u>	
	周産期の看護実践とスキル演習 (2) 胎児心拍数モニタリング・判読、妊娠歴 妊婦体験ジャケットと日常ケア、 (内藤, 石田, 近 藤)	復習：課題レポートを作成する。 (演習はPBL形式で6-10人グループのアクティブ ラーニング) 予習：120分、復習：120分	
第14回	周産期の看護実践とスキル演習 (1) レオポルド触診法、胎児心音聴取、子宮底と 腹囲測定法、分娩べん台体験、母子健康手帳 の活用、 (石田・近藤)	(実践演習) ①援助技法の意義や方法・留意点の レポート作成。②妊娠後期のアセスメントと測定 法、③事例にて胎児心拍数モニタリング実施・判 読とケア、NFRS時ケアを理解する。 <u>Aグループ</u> <u>グループスキル演習とBグループロイ看護過程</u>	
	周産期の看護実践とスキル演習 (2) 胎児心拍数モニタリング・判読、妊娠歴 妊婦体験ジャケットと日常ケア(石田, 近藤)	復習：課題レポートを作成する。 (演習はPBL形式で6-10人グループのアクティブ ラーニング) 予習：120分、復習：120分 *看護過程の展開を提出	
第15回	妊産婦ケアのまとめ、ロイ看護過程展開の個 別指導、確認テスト、評価 (内藤・石田・近藤)	妊娠期から分べん期までの確認テストを実施す る。理解不十分な学習を行う。課題レポートの見 直しをする。予習：120分、復習：120分	
評価方法			
1. 定期試験 (65%)、2. 課題レポート (10%)、3. 看護過程レポート (10%)、 4. 授業内ミニ確認テスト (15%) により評価する。			
オフィスアワー			
内藤：火・水・木・金の16:10から17:00、事前連絡は：n-naitoh@gifuhoken.ac.jp 石田：月・水・木・金の16:10分から17:00、事前連絡は：m-ishida@gifuhoken.ac.jp 近藤：月・火・水・金の16:10から17:00、事前連絡は：k-kondo@gifuhoken.ac.jp			

講義科目					る デ イ タ メ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す	人間力	
科目区分	専門教育科目 -看護の展開					ケア・スピリット	○
授業コード	111084					実践的理解	○
授業科目名	母性看護援助論Ⅱ					プロフェッショナリズム	○
配当学年/ 学期	3年 前期 必修		単位数	1		多職種連携	○
担当教員	内藤直子【実務該当教員】、石田美知【実務該当教員】、近藤邦代、就任予定者						

講義概要
 周産期の女性と新生児の心身の健康現象（生理的・心理社会面）を理解し、対象の健康レベルをウェルネスの視点からアセスメントし、健康ニーズを充足する能力を理解し、ロイ適応看護理論で看護過程を展開し、看護倫理を判断した基本的母性看護実践能力を修得する。授業では母性看護実践に必要な基本的技術の修得や看護過程の演習を重点化し、ビデオ教材、保健指導媒体を活用する。

授業内容（到達目標を含む）
 本講義では、産褥期及び新生児期の正常経過にある対象の看護について学修する。褥婦及び新生児の身体的特性や心理社会的特性を踏まえた、看護に必要な情報とアセスメントの視点を理解し、母性看護を実践するため基礎的な知識を修得する。子育て中の母親・父親への親役割取得に必要な看護を理解し、新しい家族形成に向け看護を実践できる具体的な援助方法を学修する。
 〔到達目標〕①褥婦及び新生児の身体的特性、心理社会的特性について説明できる。
 ②カリスタ・ロイの適応看護モデルの看護理論を用いて紙上事例での看護過程展開ができる。
 ③褥婦及び新生児に提供する看護ケアについての必要な基本的技術の修得ができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）
 本科目の履修では十分な予習と復習をする努力を期待している。特に、カリスタ・ロイの適応看護モデルの看護理論を導入した紙上事例で看護過程展開してレポート課題を作成する。その中で、看護理論に親しむ学習姿勢を望む。重要な専門用語が多いので、講義を積極的に受講することが条件である。各回の授業内容を自己学習で良く咀嚼して授業内容を理解しておく事が望ましい。この単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修が必要である。確認テストや課題のフィードバックはその都度講義時間内に行う。

教材
 必携：1. 母性看護学各論②：系統看護学講座 森恵美他、医学書院、第13版、2020、3,000円＋税
 2. ロイとゴードンで母性小児看護過程－臨床推論につながるアセスメント力UP、内藤直子他、ふくろう出版、2022
 参考文献：1. 母性看護学概論1：系統看護学講座 森恵美他、医学書院、第14版、2021、2,640円＋税
 他は、適宜に提示する

回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	ガイダンス： ロイ適応看護モデルを用いて紙上事例で、看護過程を展開する。ロイの4様式で情報収集、アセスメント、関連図、ウェルネス看護診断、看護目標、看護計画を学ぶ（1）	科目の目標を確認する。 予習：教材1の第1章を熟読する。既習の看護過程の構成要素を再度確認する。 復習：提示の紙上事例から1事例選択、ロイ適応看護モデルの4様式で情報収集、アセスメント、関連図まで理解する。予習：50分、復習：50分	
第2回	分娩期の異常と看護について学ぶ。 産道・娩出力の異常、胎児・付属物異常と分娩障害、胎児機能不全、分娩時損傷、分娩直後の異常、分娩時異常出血・産科ショック・DIC、産科処置と手術・会陰切開、帝王切開	予習：7章A・B・C・D・E・F・G・H・Iの401-432pを予習し既習講義から分娩期の異常を理解する。 復習：分娩期の異常について異常分娩と正常分娩の経過の違いその看護を学習する。 予習：50分、復習：50分	

第3回	異常のある産婦の看護 破水、分娩遅延、胎児機能不全リスクの産婦・術前・途中・術後看護、骨盤位分娩、急速遂分娩の看護、分娩時異常出血のある産婦の看護	母性看護援助論Ⅰの8回目～11回目の分娩期の看護（必携1.p178-250および講義資料）を復習し受講する。分娩期の正常と異常を理解する。ハイリスク産婦の看護を学ぶ。予習：50分、復習：50分 *10分間ミニ確認テスト	
第4回	産褥期の看護、身体的変化と適応・褥婦フィジカルアセスメント、退行性と進行性現象を学ぶ。授乳時ケア、乳房トラベル時の看護	6章A・Bの308-331 pを予習し受講する。産褥経過の身体的・心理・社会的変化と適応の促進、進行現象における看護ケアを学ぶ。 予習：50分、復習：50分	可
第5回	褥婦と家族の看護、 ①フィジカルアセスメント、②褥婦のセルフケア不足の看護、③家族関係最構築の看護、④施設退院後の看護、⑤職場復帰	6章C・Dの331-354 pを予習し受講する。前回の講義内容および講義資料を復習し受講する。子宮の復古現象とその異常を理解し、看護実践能力の基礎的演習の方法を学ぶ。 予習：50分、復習：50分	可
第6回	褥婦の異常と看護、 ①子宮復古不全、②産じょく期発熱、③産褥血栓症、④精神障害⑤異常のある褥婦の看護	7章の484-501 pを予習し受講する。褥婦と家族形成期の心理社会的側面を理解。児を亡くした褥婦・家族の看護を学ぶ。 *10分間ミニ確認テスト 予習：50分、復習：50分	
第7回	新生児期の看護 ①新生児の生理と新生児健康状態のアセスメント、②基礎的情報・バイタルシグナル測定、③宮外生活の適応アセスメント、新生児の看護・出生直後から退院・退院後（近藤）	関連の既習を確認。5章A・B・Cの254-305 p、新生児期の看護、哺乳状態、母子同質性、清潔・ドライテクニック/沐浴技術、新生児の栄養について理解できる。 <u>*10分間ミニテスト、</u> 予習：50分、復習：50分	可
第8回	新生児期の異常と看護 ①新生児仮死・分娩外傷、②低出生体重児の看護、③高ビリルビン血症児の看護、ビタミンK欠乏性出血症	7章の456-483 pの予習後に受講。新生児に起こりうる異常とその看護について理解する。特に新生児の生理的経過とアセスメント方法学び、正常と異常の違いが理解できる。看護、アセスメント方法、沐浴・ドライテクニックの技術を学び、セルフトレーニングする。*10分間ミニテスト、 予習：50分、復習：50分	可
第9回	新生児の異常と看護を学び、看護過程を理解する *演習の資料配布と説明 *講義後、3階演習室で、沐浴デモンストレーション	付章の535-540 pを予習後に受講する。新生児の生理的経過と異常の違いを理解し、新生児の看護過程を学びセルフトレーニングする。 *演習の資料配布 ※講義後に看護過程を提出。 沐浴デモンストレーションを受ける	
第10回	看護実践演習の説明・デモンストレーション演習 ① 産じょく・子宮復古、創部、乳房乳頭観察とケア、授乳法とラッチオン、衣類とおむつケア、清潔ケアとドライテクニック、間接受乳法、排気法など（内藤・石田・近藤・高木）	第5－6章（p254-354）を予習する。提示される演習前の自己学習に取り組む。産褥乳房のアセスメントを行い、授乳技術、介助方法のケア技術を実践する。演習前後における自己学習で演習②のケア技術を修得する。 予習：50分、復習：50分	
第11回	看護実践演習② 産じょく・子宮復古、創部、乳房乳頭観察とケア、授乳法とラッチオン、衣類とおむつケア、清潔ケアとドライテクニック、間接受乳法、排気法など	第5－6章（p254-354）を予習する。提示される演習前の自己学習に取り組む。産褥乳房のアセスメントを行い、授乳技術、介助方法のケア技術を実践する。演習前後における自己学習で演習②のケア技術を修得する。 予習：50分、復習：50分	

第12回	看護実践演習③ 産じょく・子宮復古、創部、乳房乳頭 観察とケア、授乳法とラッチオン、衣 類とおむつケア、清潔ケアとドライテ クニック、間接受乳法、排気法など	産褥子宮のアセスメントを行い、産褥復古のケア 技術を実践する。演習前後における自己学習で演 習③のケア技術を修得する。新生児のフィジカル アセスメントを行い、清潔ケア（沐浴）を実践す る。演習前後における自己学習で演習④のケア技 術を修得する。予習：50分、復習：50分	
第13回	事例によるロイ適応モデルの看護過程 の紙上展開（2） ・4様式情報収集とアセスメント ※講義後、看護過程提出②	ロイ適応モデルを用いた母性看護におけるウエル ネス看護診断を理解する。提出した課題のロイ適 応モデルの看護過程の展開における4様式（情報収 集とアセスメント）について展開する。 予習：120分、復習：120分	
第14回	事例によるロイ適応モデルの看護過程 の紙上展開（3） ・関連図・第1，第2アセスメント・ アセスメント&プランニング演習	予習：課題のロイ適応モデルの看護過程の展開で4 様式（情報収集とアセスメント&プランニン グ）、関連図まで担当教員に提出する。 復習：本時の指導内容を追加学習し、母性看護過 程展開を実施し、更に提出した課題の指導コメン トを追加修正し再度提出する。 予習：120分、復習120分	
第15回	事例によるロイ適応モデルの看護過程 の紙上展開（4） ・個別指導・まとめ・評価	予習：課題の看護診断、看護目標、看護計画まで をロイ適応モデル看護過程の展開で4様式（情報収 集とアセスメント）、関連図まで担当教員に提出 し、個別指導を受ける。 復習：本時の指導内容を追加学習する。 予習：120分、復習120分	
評価方法			
期末筆記試験 65%、看護過程と演習のレポート 20%、ミニテスト 15%			
オフィスアワー			
内藤：火・水・木・金の16:10から17:00、事前連絡は：n-naitoh@gifuuoken.ac.jp) 石田：月・水・木・金の16:10分から17:00、事前連絡は：ishida@gifuuoken.ac.jp) 近藤：月・火・水・金の16:10から17:00、事前連絡は：k-kondo@gifuuoken.ac.jp			

実習科目

科目区分	専門教育科目 -看護の展開				る た め に 必 要 な 能 力 シ ー を 達 成 す	人間力	○	
授業コード	111085					ケア・スピリット	○	
授業科目名	母性看護学実習					実践的理解	○	
配当学年/ 学期	3年 後期・4年 前期 必修			単位数		2	プロフェッショナルリズム	○
担当教員	内藤直子、石田美知、近藤邦代、就任予定者					多職種連携	○	

講義概要（実習目的）

本臨地実習は、地域の周産期医療の中核病院で周産期看護を実地に学び、妊娠期・分娩期・産褥期の母児の特徴と正常な経過を理解し、対象の社会生活を支える母性看護の基礎的実践能力を既修の科学的知識・技術・態度から修得する。妊産褥婦や早期新生児をロイ適応看護理論から母児や家族をアセスメントし看護過程を展開する。周産期の母子関係や家族への支援の重要性を理解し、切れ目のない包括的援助方法を修得する。実習を通し、生命の尊厳と生命を守り育てる大切さや、学生自身の母性や父性の理解を深める。

授業内容（実習目標）

1. 周産期にある母性及び新生児の生理的变化と病態生理を関連づけ、母と子の健康診査に参加できるようになる。
2. wellnessな視点から周産期にある母性および新生児の健康レベルを明確にし、健康維持および増進を促す看護介入ができるようになる。
3. 母子関係、及び家族関係の成立状況や心理的变化を観察し看護介入が実施できるようになる。
4. 母子保健医療チームの一員として母子保健の関連法規、多職種の役割、多職種と相互連携を理解できる。
5. 受け持ち対象をとおして、人格の尊重、人間としての尊厳、プライバシーの擁護、自己決定権の擁護など、倫理的観点に基づいて行動できるようになる。
6. 周産期にある女性と新生児のロイ適応看護理論を用い看護過程が展開できるようになる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

実習は、教科書だけでなく授業で紹介した参考図書などを読み自己学習を行う。本科目は、予習や復習を前提としており、自己学習をして授業に臨むこと。また、各自の理解度を確認するため小テストを適宜行う。授業では関係する実習指導者および教員と積極的に関わり学修する。詳細は、学生便覧の89-91頁及び「看護学実習の手引き－母性看護学実習」を参照。。尚、本科目は、母性看護援助論Ⅰ・Ⅱの単位を取得していなければ履修することはできない。

教材

テキスト 母性看護学各論 母性看護学② 森恵美他、第13版、2021、3,000円+税

参考書

1. 母性看護学概論1 系統看護学講座 森恵美他、医学書院 2021、第13改訂、2640円
2. ロイとゴードンで母性小児看護過程－臨床推論につながるアセスメント力UP－内藤直子他、ふくろう出版、2022、3,000円+税
3. マタニティ診断ガイドブック 第7版
4. 他は適宜時に提示する

授業展開

回	内容	学習課題	遠隔授業
1日目	実習オリエンテーション： プレテスト、技術確認演習・4名のPBL方法で実習2週間を展開	看護実践能力の基本的看護技術について実習前のプレテスト及び基本的知識のミニテストを学内で実施し評価する	
2日目	病棟オリエンテーション： 4名のPBL方法で実習2週間を展開 1) 妊婦の看護実践	① 妊娠期の生理的経過と健康レベルの変化（刺激）から、対象の適応状況をロイ適応看護理論で展開し看護介入を評価する ② 胎児期の生理的経過と健康レベルの変化（刺激）から、対象の適応状況を評価する	

3日目	受持ち対象にロイ適応理論で看護過程を展開	③妊婦の看護の必要性とその適応状態から必要な看護介入の方法を工夫し実施する	
4日目		④妊婦をととして関わった他職種の役割、相互依存について理解する	
5日目	2)産婦の看護：ロイ適応看護理論で看護過程を展開	①分娩期の生理的経過と健康レベルの変化（刺激）から、対象の適応状況を評価する	
6日目		②産婦の看護の必要性を見だし、適応状態に合致した看護介入の方法を理解する	
7日目		③産婦をととして関わった他職種の役割、相互依存について理解する	
8日目	3)褥婦の看護実践	①産褥期の生理的経過とそれに伴う健康レベルの変化（刺激）から、対象の適応状況を評価する	
9日目		②褥婦の看護の必要性、その適応状態から、必要な看護介入の方法を工夫し実施する	
10日目	受持ち対象にロイ適応理論で看護過程を展開	③褥婦の心理社会状況を理解し、褥婦と新生児との母子関係や母子相互作用、家族関係の現象を観察し、看護介入のあり方を評価する	
11日目		④褥婦をととして関わった他職種の役割、相互依存、継続看護の重要性を理解する	
12日目	4)新生児の看護実践	①新生児期の生理的経過とそれに伴う健康レベルの変化を理解する	
13日目	受持ち対象にロイ適応理論で看護過程を展開	②新生児の看護の必要性を見だし、看護介入の方法を理解する ③ロイ適応看護理論で看護過程レポートの個別指導	
14日目	事例レポート発表：カンファレンス資料作成	PBLグループワーク：まとめ	
15日目	まとめ：自己評価・指導教員評価・確認面接	個別面接指導と総合評価学生（便覧89-91頁、母性看護学実習要項を参照）	
評価方法			
母性看護学実習の評価基準表に基づく形成評価と絶対評価の総合評価（100%） <実習内容・実習記録の提出、事前学習レポート、学生自己評価・教員評価を含む>			
オフィスアワー			
内藤：火・水・木・金の16:10から17:00、事前連絡は：n-naitoh@gifuuoken.ac.jp 石田：月・水・木・金の16:10分から17:00、事前連絡は：ishida@gifuuoken.ac.jp 近藤：月・火・水・金の16:10から17:00、事前連絡は：k-kondo@gifuuoken.ac.jp			

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な 能 力 を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開				人間力	
授業コード	111086				ケア・スピリット	
授業科目名	妊娠出産子ども家族ネウボラ論				実践的理解	○
配当学年/ 学期	3年 前期 選択	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	内藤直子【実務該当教員】、石田美知【実務該当教員】				多職種連携	○

講義概要			
青年期や出産期、育児期の家族が健やかに生活する支援に必要な知識を学ぶ。子育て支援モデルのフィンランドのネウボラ概念を、学生がPBL法の主体的グループワークで文献学修する。日本の公助、共助、自助にみる妊産褥婦や子ども、家族への看護職者としての支援や役割を考える。地域や大学内での0歳児抱っこ体験や遊びの演習から、母性・父性・親性や子どもの発達、家族支援の実践を修得する。市区町村が中心の今の母子保健や、地域のソーシャルキャピタルから、将来的な切れ目のない子育て支援の日本版ネウボラを理解する。			
授業内容（到達目標を含む）			
1. ウイメンズヘルスケアをリプロダクティブヘルスの視座でライフステージ各期の女性の健康課題が説明できる。 2. 子育て支援モデルのフィンランドのネウボラ概念を地域や大学内での0歳児抱っこ体験や遊びの演習から、母性・父性・親性や子どもの発達、家族支援の実践を修得する。 3. 女性の生涯における健康の促進および向上につながる看護支援が説明できる。			
この科目の単位を修得するにあたり、約30時間の授業時間外の学修（予習・復習）が必要である。確認テストや課題のフィードバックはその都度、講義時間内に行う。出席回数が開講回数の3分の2以上が必要であり、学生便覧を熟読してください。オフィスアワーは、掲示しているので活用してください。特に講義後 30分～60分間は、研究室に在室するので質問など、気軽に利用してください。			
教材			
テキスト必携：ネウボラ フィンランドの出産・子育て支援 高橋睦子 かもがわ出版 1,400円+税			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	科目の導入、 ①親性とは ②ネウボラとは、④持続可能な子育て支援SDGs、 ③日本の健やか親子21（第2次） （内藤）	日本の健やか親子21（第2次）について既習科目の資料を読み返し講義に臨むこと 予習：50分、復習：50分	
第2回	世界の子育て支援システム ①フィンランドのネウボラの特徴、システム ②カナダのノーバディパフクト育児 （内藤）	①課題学習に取り組んで、講義に臨むこと ②よき聞かせの絵本を準備する ③手づくえいガラガラとコロコロ材料の準備 予習：50分、復習：50分	
第3回	1. ナラティブアプローチで子育て家族の苦悩や癒しケア、2. 家族看護の3分間セッション法 3. 妊娠出産子ども家族の支援：手づくりおもちゃと絵本読みで母子の会話 （内藤）	①課題学習として乳幼児の発達の知識をまとめて、講義に臨むこと ②手づくりおもちゃの折り紙とはさみを資料に基づき準備する 予習：50分、復習：50分	
第4回	妊娠出産子ども家族の支援法：手づくりおもちゃの演習・母親と子どもの会話促進効果の看護ケア （石田）	課題学習として乳幼児の発達を促す関わり方、刺激、育児についてまとめて、講義に臨むこと 予習：50分、復習：50分	

第5回	妊娠出産こども家族の支援法：アロママッサージで母親と子どものリラクゼーション ①アロマテラピーの効果②禁忌事項（石田）	課題学習としてアロマテラピーの効果を理解し妊産婦と乳幼児の関わり方を考えて講義に臨む 予習：50分、復習：50分	
第6回	妊娠出産こども家族の支援法：アロマテラピーを用いた母子のマッサージ実践（石田）	前回の講義資料を読み返し、実践をイメージして課題学習に取り組んで、講義に臨むこと 予習：50分、復習：50分	
第7回	妊娠出産こども家族の支援法演習の体験発表（内藤、石田）	課題学習に取り組んで、講義に臨むこと 予習：50分、復習：50分	
第8回	まとめ、評価（内藤）	まとめ、評価、課題レポート提出	
評価方法			
期末筆記試験50%、演習実践のレポート50%、			
オフィスアワー			
内藤：火・水・木・金の16:10から17:00、事前連絡は：n-naitoh@gifuhoken.ac.jp) 石田：月・水・木・金の16:10分から17:00、事前連絡は：m-ishida@gifuhoken.ac.jp)			

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開				人間力	○
授業コード	111087				ケア・スピリット	○
授業科目名	精神看護学概論				実践的理解	○
配当学年/ 学期	2年 前期 必修	単位数	2		プロフェッショナリズム	
担当教員	多喜田恵子【実務該当教員】				多職種連携	

講義概要

精神看護・精神保健の役割について、人が自己実現へと向かう過程を支えるために、心のしくみと発達、人間関係のダイナミクスなどの心の働きなどを前提に、人の精神的・身体的・社会的な援助の考え方を教授する。また、精神科で出会う人々の状態像や治療過程を学び、対象者の状況に対応した援助の根拠を学ぶ。最終講では、精神医療・保健福祉における今日的な課題を考察する。

授業内容（到達目標を含む）

精神の健康や健康障害について、心の働きや人間関係、文化、社会、歴史とのつながりから理解するとともに講義で紹介する文献や資料を通して各自の考え方を深める。学習の到達目標として以下を目指す。

1. 精神看護の基本概念や精神保健の意味を説明できる。
2. 人間の心のはたらきや関係におけるパーソナリティの発達を説明できる。
3. 精神看護の場で出会う人々や精神科での治療看護の特徴を説明できる。
4. 精神看護における身体ケアの意味や精神療法的アプローチを説明できる。
5. 社会における精神保健医療福祉の現状や精神医療における今日的課題を指摘できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

精神看護に幅広い視野をもつため、本科目では、予習や復習を前提としているため、教科書だけでなく授業で紹介する図書などを読み、自己学修をしてから授業に臨むこと。学修課題（予習・復習）レポートは毎回提出すること。毎回授業でミニッツノートを渡す。授業に対する意見や質問などあればそこに記入すること。ミニッツノート・小テストの内容は授業時間内に解説する。また、各自の理解度を確認するための小テストを行う。なお、本科目の単位を取得しなければ、精神看護学実習を履修することができない。

教材

テキスト「系統看護学講座専門科目Ⅱ精神看護学①精神看護の基礎」（第6版）、武井麻子編、医学書院、2,530円（税込）
参考図書「系統看護学講座別館 精神保健」（第3版）、末安民生編、医学書院、2,620円（税込）

授業計画及び学修課題（予習・復習）

回	内容	学修課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	精神看護学で学ぶこと：精神看護学とはなにか、精神障害をもつ人の病いの体験、精神看護の課題	予習：事前課題レポート①を行う 復習：学修振り返りレポート①を行う。 予習時間：60分、復習時間120分	可
第2回	精神の健康と健康障害：精神の健康とは、心身の健康に及ぼすストレス、精神障害、精神保健の予防概念	予習：事前課題レポート②を行う 復習：学修振り返りレポート②を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第3回	心的外傷（トラウマ）と回復：心的外傷体験とサバイバーの心理、トラウマ反応、レジリエンス	予習：事前課題レポート③を行う 復習：学修振り返りレポート③を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第4回	人間の心のはたらき：意識、認知機能、感情、学習と行動、知能、心の理論	予習：事前課題レポート④を行う 復習：学修振り返りレポート④を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第5回	心のしくみと人格の発達：人格と気質、意識と無意識、精神分析と精神力動理論、対象関係論、	予習：事前課題レポート⑤を行う 復習：学修振り返りレポート⑤を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可

第6回	ライフサイクルとアイデンティティ：エリクソンの漸成的発達、愛着と心の安全基地、自己愛、甘え	予習：事前課題レポート⑥を行う 復習：学修振り返りレポート⑥を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第7回	生活の場と精神的危機：家庭・学校・職場・地域における精神的危機の特徴と危機介入	予習：事前課題レポート⑦を行う。 復習：学修振り返りレポート⑦を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第8回	家族の精神の健康：多様化した家族と精神の健康、家族内コミュニケーション、システムとしての家族	予習：事前課題レポート⑧を行う。 復習：学修振り返りレポート⑧を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第9回	人間と集団：集団と個人、グループプロセス、全体としてのグループ、組織のダイナミクス	予習：事前課題レポート⑨を行う。 復習：学修振り返りレポート⑨を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第10回	精神科で出会う人々：精神を病むことと生きること、精神症状論と状態像、特異症状と非特異症状	予習：事前課題レポート⑩を行う。 復習：学修振り返りレポート⑩を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第11回	当事者に学ぶ病いの体験①：精神障害との出会い、生きにくさの意味	予習：事前課題レポート⑪を行う。 復習：学修振り返りレポート⑪を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第12回	当事者に学ぶ病いの体験②：精神障害とともに生きる意味	予習：事前課題レポート⑫を行う。 復習：学修振り返りレポート⑫を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第13回	精神障害と治療の歴史：西洋における精神障害と治療の歴史、日本における精神医療の流れ	予習：事前課題レポート⑬を行う。 復習：学修振り返りレポート⑬を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第14回	精神障害と文化：精神障害の多様性と普遍性、精神障害と社会	予習：事前課題レポート⑭を行う。 復習：学修振り返りレポート⑭を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第15回	精神障害と法制度：精神看護の基本となる法律、精神科領域に必要な法制度、精神保健医療福祉対策	予習：事前課題レポート⑮を行う。 復習：学修振り返りレポート⑮を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
評価方法			
期末試験（50％）、小テスト（30％）、レポート（20％）により評価する。			
オフィスアワー			
多喜田：月曜・火曜・水曜・金曜の12:30から17:00まで 事前にアポイントメントを取ってください。 連絡先 e-mail k-takita@gifuuoken.ac.jp			

講義科目					る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開					人間力	
授業コード	111088					ケア・スピリット	○
授業科目名	精神看護援助論Ⅰ					実践的理解	○
配当学年/ 学期	2年 後期 必修		単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	茅喜田恵子【実務該当教員】、小野悟【実務該当教員】					多職種連携	○

講義概要			
精神看護の基本的な援助の方法論を教授する。精神の状態像を理解する方法や対人関係論を基盤とした精神看護を通して、患者－看護師関係を形成する対人援助技術を演習する。さらに、グループダイナミクスを活用した援助技術の演習を通して、精神障害をもつ人や家族へのアプローチを理解する。これらの内容を通して、精神看護に必要な基本的なスキルやアプローチを学び、精神看護援助論Ⅱの具体的な精神看護の展開につなげる。			
授業内容（到達目標を含む）			
精神看護実践の基盤となる患者－看護師関係や看護の役割の理論・知識をもとに、演習で精神障害をもつ人や家族に対する援助の理解を深める。また、グループワークで当事者の立場になった地域生活支援のあり方を理解する。本科目の到達目標は以下を目指す。 1. 精神看護における援助の方法や場の特徴について説明できる。 2. 精神障害をもつ人のアセスメントの視点が説明できる。 3. 精神障害をもつ人の回復過程を踏まえた看護のアプローチを説明できる。 4. 精神障害をもつ人の地域生活支援の方法を説明できる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
精神看護実践を具体的に理解するため、教科書だけでなく授業で紹介する図書やVTRなどで自己学習を行う。本科目では予習や復習を前提としているため、自己学修してから授業に臨むこと。学修課題（予習・復習）については、毎回提出すること。毎回授業でミニツノートを渡す。授業に対する意見や質問などあればそこに記入すること。演習ではレポートでの学修の振り返りを行う。ミニツノートやレポート内容は授業時間内に解説する。また、各自の理解度を確認するための小テストを行う。なお、本科目の単位を取得しなければ、精神看護学実習を履修することができない。			
教材			
テキスト「系統看護学講座専門科目Ⅱ精神看護学②精神看護の展開」（第6版）、武井麻子編、医学書院2,530円（税込） 「系統看護学講座専門科目Ⅱ精神看護学①精神看護の基礎」（第6版）、武井麻子編、医学書院2,530円（税込） 参考図書「精神神経疾患ビジュアルブック」落合慈之監修、学研メディカル秀潤社、2015年、3,600円（税別）			
授業計画及び学修課題（予習・復習）			
回	内容	学修課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	精神看護学で学ぶこと：精神看護学とはなにか、精神障害をもつ人の病いの体験、精神看護の課題	予習：事前課題レポート①を行う 復習：学修振り返りレポート①を行う。 予習時間：60分、復習時間120分	可
第2回	精神の健康と健康障害：精神の健康とは、心身の健康に及ぼすストレス、精神障害、精神保健の予防概念	予習：事前課題レポート②を行う 復習：学修振り返りレポート②を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第3回	心的外傷（トラウマ）と回復：心的外傷体験とサバイバーの心理、トラウマ反応、レジリエンス	予習：事前課題レポート③を行う 復習：学修振り返りレポート③を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第4回	人間の心のはたらき：意識、認知機能、感情、学習と行動、知能、心の理論	予習：事前課題レポート④を行う 復習：学修振り返りレポート④を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第5回	心のしくみと人格の発達：人格と気質、意識と無意識、精神分析と精神力動理論、対象関係論、	予習：事前課題レポート⑤を行う 復習：学修振り返りレポート⑤を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可

第6回	ライフサイクルとアイデンティティ：エリクソンの漸成的発達、愛着と心の安全基地、自己愛、甘え	予習：事前課題レポート⑥を行う 復習：学修振り返りレポート⑥を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第7回	生活の場と精神的危機：家庭・学校・職場・地域における精神的危機の特徴と危機介入	予習：事前課題レポート⑦を行う。 復習：学修振り返りレポート⑦を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第8回	家族の精神の健康：多様化した家族と精神の健康、家族内コミュニケーション、システムとしての家族	予習：事前課題レポート⑧を行う。 復習：学修振り返りレポート⑧を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第9回	人間と集団：集団と個人、グループプロセス、全体としてのグループ、組織のダイナミクス	予習：事前課題レポート⑨を行う。 復習：学修振り返りレポート⑨を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第10回	精神科で出会う人々：精神を病むことと生きること、精神症状論と状態像、特異症状と非特異症状	予習：事前課題レポート⑩を行う。 復習：学修振り返りレポート⑩を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第11回	当事者に学ぶ病いの体験①：精神障害との出会い、生きにくさの意味	予習：事前課題レポート⑪を行う。 復習：学修振り返りレポート⑪を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第12回	当事者に学ぶ病いの体験②：精神障害とともに生きる意味	予習：事前課題レポート⑫を行う。 復習：学修振り返りレポート⑫を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	
第13回	精神障害と治療の歴史：西洋における精神障害と治療の歴史、日本における精神医療の流れ	予習：事前課題レポート⑬を行う。 復習：学修振り返りレポート⑬を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	
第14回	精神障害と文化：精神障害の多様性と普遍性、精神障害と社会	予習：事前課題レポート⑭を行う。 復習：学修振り返りレポート⑭を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第15回	精神障害と法制度：精神看護の基本となる法律、精神科領域で必要な法制度、精神保健医療福祉対策	予習：事前課題レポート⑮を行う。 復習：学修振り返りレポート⑮を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
評価方法			
小テスト（30％）、演習レポート（20％）、期末試験（50％）により評価する。			
オフィスアワー			
多喜田：月曜・火曜・水曜・金曜の12:30から17:00まで 事前にアポイントメントを取ってください。 連絡先 e-mail k-takita@gifuuoken.ac.jp 小野：月曜・火曜・水曜・金曜の12:30から17:00まで 事前にアポイントメントを取ってください。 連絡先 e-mail s-ono@gifuuoken.ac.jp			

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す	人間力	
科目区分	専門教育科目 -看護の展開				ケア・スピリット	
授業コード	111089				実践的理解	○
授業科目名	精神看護援助論Ⅱ				プロフェッショナリズム	
配当学年/ 学期	3年 前期 必修	単位数	1		多職種連携	○
担当教員	多喜田恵子【実務該当教員】、小野悟【実務該当教員】、 白石洋二					

講義概要			
「精神看護学概論」、「精神看護援助論Ⅰ」での学びを前提に、代表的な精神疾患や精神障害を持つ人の治療や看護を教授する。精神看護を実践するうえで基盤となる理論（ストレングスモデル）や精神状態の判断プロセスを用いて、事例の特徴に対応した看護展開の演習を行う。さらに、ロールプレイを通して治療的コミュニケーション技術を学ぶ。これらを通して、精神看護実践の基礎的な能力を養う。			
授業内容（到達目標を含む）			
精神看護実践の基盤となるアセスメントや患者－看護師の治療的関係をもとに、演習を通して精神障害をもつ人や家族への精神看護の展開方法の理解を深める。また、グループワークで当事者の立場になった地域生活支援のあり方を理解する。本科目の到達目標は以下を目指す。 1. 精神障害をもつ人の看護を展開するためのアセスメント・治療的関係を説明できる。 2. 精神障害をもつ人の回復過程を踏まえた看護のアプローチを説明できる。 3. 精神障害をもつ人の地域生活を支える制度や社会資源や方法を説明できる。 4. 精神科以外の精神看護と看護職者を支援する方法を説明できる			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
精神看護実践を具体的に理解するため、教科書だけでなく授業で紹介する図書やVTRなどで自己学習を行う。本科目では、予習や復習を前提としているため、自己学修をしてから授業に臨むこと。学修課題（予習・復習）については毎回提出すること。毎回授業でミニッツノートを渡す。授業に対する意見や質問などあればそこに記入すること。演習はレポートおよび演習評価表で学修の振り返りを行う。ミニッツノートやレポート内容は授業時間内に解説する。なお、本科目の単位を取得しなければ、精神看護学実習を履修することができない。			
教材			
テキスト「系統看護学講座専門科目Ⅱ精神看護学②精神看護の展開」（第6版）、武井麻子編、医学書院2,530円（税込） 「系統看護学講座専門科目Ⅱ精神看護学①精神看護の基礎」（第6版）、武井麻子編、医学書院2,530円（税込） 参考図書「精神神経疾患ビジュアルブック」落合慈之監修、学研メディカル秀潤社、2015年、3,600円（税別）			
授業計画及び学修課題（予習・復習）			
回	内容	学修課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	精神看護実践の基盤：ストレングスモデルの特徴（多喜田）	予習：事前課題レポート①を行う 復習：学修振り返りレポート①を行う。 予習時間：120分、復習時間120分	可
第2回	精神看護の看護展開の特徴：精神科・生活アセスメントの特徴と実際（小野）	予習：事前課題レポート②を行う 復習：学修振り返りレポート②を行う。 予習時間：120分、復習時間120分	可
第3回	治療的コミュニケーション技法の特徴：プロセスレコードの目的と活用方法（小野）	予習：事前課題レポート③を行う 復習：学修振り返りレポート③を行う。 予習時間：120分、復習時間120分	可
第4回	精神障害をもつ人への看護展開：発症から地域移行支援まで（白石）	予習：事前課題レポート④を行う 復習：学修振り返りレポート④を行う。 予習時間：120分、復習時間120分	可
第5回	精神障害をもつ人への看護展開の実際①：事例を通して看護展開を学ぶ【グループワーク】事例提示、患者の背景・環境（多喜田・小野）	予習：事前課題レポート⑤を行う 復習：グループワーク課題レポート①を行う。 予習時間：120分、復習時間120分	

第6回	精神障害をもつ人への看護展開の実際②：事例を通して看護展開を学ぶ【グループワーク】精神症状・診断・治療・入院の目的と意味（多喜田・小野）	予習：事前課題レポート⑥を行う 復習：グループワーク課題レポート②を行う。 予習時間：120分、復習時間120分	
第7回	精神障害をもつ人への看護展開の実際③：事例を通して看護展開を学ぶ【グループワーク】アセスメント（多喜田・小野）	予習：事前課題レポート⑦を行う。 復習：グループワーク課題レポート③を行う。 予習時間：120分、復習時間120分	
第8回	精神障害をもつ人への看護展開の実際④：事例を通して看護展開を学ぶ【グループワーク】精神障害の回復過程とストレングス（多喜田・小野）	予習：事前課題レポート⑧を行う。 復習：グループワーク課題レポート④を行う。 予習時間：120分、復習時間120分	
第9回	精神障害をもつ人への看護展開の実際⑤：事例を通して看護展開を学ぶ【グループワーク】統合アセスメント（多喜田・小野）	予習：事前課題レポート⑨を行う。 復習：グループワーク課題レポート⑤を行う。 予習時間：120分、復習時間120分	
第10回	精神障害をもつ人への看護展開の実際⑥：事例を通して看護展開を学ぶ【グループワーク発表①】全体像・援助の方向性（多喜田・小野）	予習：事前課題レポート⑩を行う。 復習：グループワーク課題レポート⑥を行う。 予習時間：120分、復習時間120分	
第11回	精神障害をもつ人への看護展開の実際⑦：事例を通して看護展開を学ぶ【グループワーク発表②】全体像・援助の方向性（多喜田・小野）	予習：事前課題レポート⑪を行う。 復習：グループワーク課題レポート⑦を行う。 予習時間：120分、復習時間120分	
第12回	精神障害をもつ人への看護展開の実際⑧：事例を通して看護展開を学ぶ【演習】再構成法の活用、シナリオ・ロールプレイによる体験学習（多喜田・小野）	予習：事前課題レポート⑫を行う。 復習：演習課題レポートを行う。 予習時間：120分、復習時間120分	
第13回	災害時のメンタルヘルス：災害時における心のケア、災害時の心理とケア、支援者のメンタルヘルス（多喜田）	予習：事前課題レポート⑬を行う。 復習：学修振り返りレポート⑬を行う。 予習時間：120分、復習時間120分	可
第14回	看護における感情労働：看護者のメンタルヘルス、感情労働、看護職者のエンパワメント（多喜田）	予習：事前課題レポート⑭を行う。 復習：学修振り返りレポート⑬を行う。 予習時間：120分、復習時間120分	可
第15回	精神科病院での看護の実際：実習病院の紹介（多喜田・小野）	予習：事前課題レポート⑮を行う。 復習：学修振り返りレポート⑮を行う。 予習時間：120分、復習時間120分	
評価方法			
課題レポート（45%）、期末試験（55%）により評価する。			
オフィスアワー			
多喜田：月曜・火曜・水曜・金曜の12:30から17:00まで 事前にアポイントメントを取ってください。 連絡先 e-mail k-takita@gifuuoken.ac.jp 小 野：火曜・水曜・金曜の12:30から17:00まで 事前にアポイントメントを取ってください。 連絡先 e-mail s-ono@gifuuoken.ac.jp			

講義科目						る デ イ ブ に 必 要 な 能 力 を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開						人間力	○
授業コード	111090						ケア・スピリット	○
授業科目名	精神看護学実習						実践的理解	○
配当学年/ 学期	3年 後期・4年 前期 必修		単位数	2			プロフェッショナリズム	○
担当教員	茅喜田恵子、小野悟						多職種連携	○

講義概要	
本臨地実習では、精神看護学実習の対象者の体験に添って、精神健康上の問題の陰にある生きにくさについて、その人の生活上の文脈において理解し、その人がその人らしく生きるための援助として、自らをケアの道具として最大限に活かし、患者－看護師関係を発展させていく能力を修得する。また、発達段階、状態像、回復過程の状況を統合的に判断し、ストレングスに焦点を当てた看護実践について実地に修得する。さらに、対象者が地域で生活するために必要な支援や多職種連携の実際を通して、精神科看護師の役割を実践的に修得する。	
授業内容（到達目標を含む）	
精神障害をもつ人が体験している生きにくさについて、その人の生活上の文脈において理解し、その人がその人らしく生きるための援助として、自らをケアの道具として最大限に活かし、対象と関わることを学ぶ。 1. 精神障害をもつ人が日常生活を送る上でどのような課題を抱えているのか、また、それはその人にとってどのような生きにくさの体験なのかを理解することができる。 2. 精神障害をもつ人が体験している生きにくさを、その人の生育史や生活背景から捉え、その人がもつレジリエンスに着目した援助の方向性を明らかにすることができる。 3. 精神障害をもつ人と関わる中で生じた自らの気持ちを言語化し、患者－看護者の治療的関係の視点からやりとりを解釈し、関わりの方向性を考察することができる。 4. 治療的環境が、精神障害をもつ人にどのような相互作用を生み出しているのかを捉え、そうした場を作り出す一員として、自らの役割を意識して行動することができる。 5. 精神障害をもつ人々を取り巻く状況において、その人がその人らしく生きるための支援について、その人の立場に考え、今後の課題を考察することができる。	
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）	
実習前学修として、テキスト及び精神看護学概論、精神看護援助論Ⅰ、精神看護援助論Ⅱの学修をもとに、実習目標及び学習内容について各自学習すること。精神障害をもつ人が利用する地域生活支援施設の機能と役割について事前に調べ、まとめておくこと。なお、精神看護学概論、精神看護援助論Ⅰ、精神看護援助論Ⅱの単位を取得していなければ、本科目を履修することができない。	
教材	
テキスト「系統看護学講座専門科目Ⅱ精神看護学②精神看護の展開」（第6版）、武井麻子編、医学書院2,530円（税込） 「系統看護学講座専門科目Ⅱ精神看護学①精神看護の基礎」（第6版）、武井麻子編、医学書院2,530円（税込） 参考図書「精神神経疾患ビジュアルブック」落合慈之監修、学研メディカル秀潤社、2015年、3,600円（税別）	
授業計画及び学修課題（予習・復習）	

1. 実習場所 公益社団法人 岐阜病院 （岐阜市日野東3丁目13番6号） 医療法人北林会 北林病院 （名古屋市中村区中村町7丁目58番地） 2. 対象学生 岐阜保健大学看護学部3学年次生 3. 実習期間及び実習時間 実習期間：後日揭示 実習時間：原則として9時00分～16時00分（15時30分～カンファレンス） 4. 実習メンバー 1病棟につき4名の学生配置 5. 実習スケジュール 実習1日～2日目は地域生活支援施設実習として精神科デイケアで実習を行い、実習3日目から病棟実習を行う。 病棟実習最終日に実習病院でケース発表を行う。 その他、詳細は「年度実習要項」を参照のこと。	
評価方法	
実習記録（50％）、実習レポート（30％）、ケース発表（20％）評価する。	
オフィスアワー	
多喜田：月曜・火曜・水曜・金曜の12:30から17:00まで 事前にアポイントメントを取ってください。 小野：月曜・火曜・水曜・金曜の12:30から17:00まで 事前にアポイントメントを取ってください。	連絡先 e-mail k-takita@gifuhoken.ac.jp 連絡先 e-mail s-ono@gifuhoken.ac.jp

講義科目				デジタル ために必 要な能力 を達成す	人間力	○
科目区分	専門教育科目 -看護の展開				ケア・スピリット	
授業コード	111091				実践的理解	
授業科目名	ストレスマネジメント論				プロフェッショナルリズム	○
配当学年/ 学期	3年 前期 選択	単位数	1		多職種連携	○
担当教員	多喜田恵子【実務該当教員】、井上真人					

講義概要

職場におけるストレスとその対処方法について学び、看護職が抱くストレスやそのサポートについて理解する。看護職となる上で、自身のストレスとその耐性、およびコーピングの方法を考え、ストレスマネジメント能力の向上を目指す。また、心身のストレスの予防に対応するための労働と生活のあり方や、職場におけるストレスマネジメントの方法について学び、その理解を深める。ストレスの心身の影響、職業性ストレスの概念について概観し、職業性ストレスによるメンタルヘルスや健康障害の状況を理解する。

授業内容（到達目標を含む）

ストレスマネジメントの理論や方法をもとに、看護職者の職業性ストレスへの対処法や自身のストレスマネジメントの理解を深める。授業の到達目標は以下を目指す。

1. 職業ストレスと精神身体的健康を説明できる。
2. ストレス特性とストレス対処を説明できる。
3. ストレスマネジメントの方法を説明できる。
4. 自己の特性にあったストレスマネジメントを説明できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

ストレスマネジメントを具体的に理解するため、教科書だけでなく授業で紹介する図書やVTRなどで自己学習を行う。本科目では、予習や復習を前提としているため、自己学修をしてから授業に臨むこと。学修課題（予習・復習）については毎回提出すること。毎回授業でミニツノートを渡す。授業に対する意見や質問などあればそこに記入すること。ミニツノートやレポート内容は授業時間内に解説する。

教材

テキスト 特に指定しない。
参考図書「ストレスマネジメント入門-自己診断と対処法を学ぶ」（第2版）中野恵子、金剛出版、2016年、2,800円（税別）その他、適宜紹介する。

授業計画及び学修課題（予習・復習）

回	内容	学修課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	職場の対人関係とストレス：ストレスとは、精神的ストレス反応、身体的ストレス反応（多喜田）	予習：事前課題レポート①を行う 復習：学修振り返りレポート①を行う。 予習時間：60分、復習時間：60分	可
第2回	看護という職業の特徴とストレス：看護という職業、看護師のメンタルヘルス（多喜田）	予習：事前課題レポート②を行う 復習：学修振り返りレポート②を行う。 予習時間：60分、復習時間：60分	可
第3回	ストレス特性とストレス対処：ストレス自己診断、自己効力感、問題解決能力（多喜田）	予習：事前課題レポート③を行う 復習：学修振り返りレポート③を行う。 予習時間：60分、復習時間：60分	可
第4回	ストレスマネジメント①アサーション：アサーションとは、アサーションの進め方と実際（多喜田）	予習：事前課題レポート④を行う 復習：学修振り返りレポート④を行う。 予習時間：60分、復習時間：60分	可

第5回	ストレスマネジメント②アンガーマネジメント：アンガーマネジメントとは、アンガーマネジメントの進め方と実際 (多喜田)	予習：事前課題レポート⑤を行う 復習：学修振り返りレポート⑤を行う。 予習時間：60分、復習時間：60分	可
第6回	ストレスマネジメント③認知行動療法：認知行動療法とは、認知行動療法の進め方と実際 (井上)	予習：事前課題レポート⑥を行う 復習：学修振り返りレポート⑥を行う。 予習時間：120分、復習時間120分	可
第7回	ストレスマネジメント④マインドフルネス：マインドフルネスとは、マインドフルネスの進め方と実際 (井上)	予習：事前課題レポート⑦を行う。 復習：学修振り返りレポート⑦を行う。 予習時間：60分、復習時間：60分	可
第8回	看護のためのポジティブ・マネジメント：ポジティブ・マネジメントとは、ポジティブ・マネジメント進め方と実際 (多喜田)	予習：事前課題レポート⑧を行う。 復習：学修振り返りレポート⑧を行う。 予習時間：60分、復習時間：60分	可
評価方法			
レポート（多喜田70%・井上30%）で評価する。			
オフィスアワー			
多喜田：月曜・火曜・水曜・金曜の12:30から17:00まで 事前にアポイントメントを取ってください。連絡先 e-mail k-takita@gifuhoken.ac.jp 井 上：講義時			

講義科目					ディ ブ ロ マ ポ リ シ ー を 達 成 す る た め に 必 要 な 能 力	人間力	○
科目区分	専門教育科目 -看護の展開					ケア・スピリット	
授業コード	111092					実践的理解	○
授業科目名	災害看護論					プロフェッショナリズム	○
配当学年/ 学期	4年 後期 必修	単位数	1			多職種連携	○
担当教員	船橋香緒里【実務該当教員】、野田みや子						

講義概要

災害が人々の健康と生活に及ぼす影響、災害の発生時から直後、中期、長期にわたって必要となる看護について学ぶ。災害の概念や災害サイクル、災害の疾病構造、救急医療と災害医療の異なり、災害看護の特殊性について説明する。次いで、防災の重要性とその実際、災害時における人々の生命や健康障害を支えるために必要な災害看護実践の基礎的知識・技術について理解を深め修得する。最後に、災害時の国際的な協力活動について考察を深める。

授業内容（到達目標を含む）

- ① 防災と減災、地域防災計画、災害の種類や災害サイクル、支援体制について理解できる。
- ② 健康危機管理と災害各期における看護支援活動をイメージできる。
- ③ 被災状況や放射線災害が及ぼす健康影響について把握する方法を理解できる。
- ④ 災害時の医療救護活動の基本である CSCATTT) について理解できる。
- ⑤ 災害時の医療と看護（災害拠点病院、災害派遣チームと看護の連携及び役割を理解する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

履修にあたり、各領域別看護学及び在宅看護学を十分に復習しておくこと。予習においてはテキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする。また、復習においてはテキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深める

教材

テキスト 酒井明子編ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践(3)『災害看護』 第4版 3,080円（税込み）
参考図書 小原真理子監修 南山堂 災害看護：心得ておきたい基本的な知識 改訂3版 3,080円（税込み）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	防災と減災、地域防災計画、災害関連法（船橋） 1) 災害看護とは 2) 災害医療に関する国の政策と法律 3) 地域防災計画（防災と減災）	予習：岐阜県の自然災害を調べる 復習：居住する自治体防災計画を調べる	可
第2回	災害の種類や災害サイクル、支援体制について（船橋） 1) 災害の定義と分類 2) 災害サイクルとその支援	予習：該当する教科書ページを読む 復習：災害の種類、定義を復讐する	可
第3回	健康危機管理（船橋） 1) 健康危機管理の概念と現状 2) 集団感染症対策 3) 健康被害：公害・薬害・食品被害・放射線	予習：健康危機管理とは何かを調べる 復習：災害以外の健康危機管理をまとめる	可
第4回	災害のレベルに応じた看護活動（1）（フェーズ0～1）（野田） 1) 災害時の医療救護活動の基本CSCATTT 2) DMATの活動	予習：DMATとは何かを調べる 復習：フェーズ0～1の、被災者への支援についてまとめる	可
第5回	災害のレベルに応じた看護活動（2）（フェーズ2～3）（船橋） 1) 救護所、避難所、福祉避難所、仮設住宅、被災した医療施設等）における生活支援 2) DHEATの活動	予習：該当する教科書ページを読んでおく 復習：発災後の居住環境による違いをまとめる	可

第6回	災害のレベルに応じた看護活動 (3) (フェーズ4～5) (船橋) 1) 多職種との連携・協働による看護の必要性 2) まちづくり支援	予習：該当する教科書ページを読んでおく 復習：個別の支援から集団への支援をまとめる	可
第7回	被災者、救護者のストレスと心のケア (野田) 1) 被災者の心理状態 2) DPATの活動	予習：自身の身近で被災した方の心の変化についてまとめる 復習：自身が救援者となった時のストレスについて考える	可
第8回	災害看護の意義 (船橋) 1) 二次災害の発生と危険について 2) 平常時の重要性	予習：1～7回までの講義で災害支援をまとめる 復習：平常時に必要なことをまとめておく	可
評価方法			
レポートにより評価する。			
オフィスアワー			
船橋香緒里 : 講義当日16:10～17:00(左記以外は事前に連絡を取って下さい) 連絡先e-mail:k-funahashi@gifuuoken.ac.jp 野田みや子 : 講義当日16:10～17:00(左記以外は事前に連絡を取って下さい) 連絡先e-mail:m-noda@gifuuoken.ac.jp			

講義科目				ディプロマポリシーを達成するために必要な能力	人間力	○
科目区分	専門教育科目－看護の展開				ケア・スピリット	
授業コード	111093				実践的理解	○
授業科目名	災害看護援助論				プロフェッショナリズム	○
配当学年/ 学期	4年 後期 選択	単位数	1		多職種連携	○
担当教員	船橋香緒里【実務該当教員】、野田みや子【実務該当教員】					

講義概要

災害時に適切な看護ケアを提供するために、災害が人々の健康や生活に及ぼす影響を理解し、人々の健康や生活のニーズに応じた看護の果たす役割について学修する。授業内容は災害の種類と疾病構造、災害サイクルにおけるフェーズの特徴、災害に関する社会の仕組みや個人の備え、災害が人々に及ぼす影響と災害サイクルにおける看護活動等とし、災害発生時の被災者に向けた安全なケア環境の提供を行うための能力を身につける。

授業内容（到達目標を含む）

被災者の生活の場の特性、被災者のニーズについて、教科書等を基にグループワークを行う。避難所の設営と運営の一環として、避難所に居住する被災者の時期別健康障害、生活上の課題について学ぶ。要配慮者の法制度、健康障害、災害関連死の予防対策等について学ぶ。避難所の設営と運営を実践的に行う。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

履修にあたり、災害看護論講義資料及びテキストを十分に復習しておくこと。復習においてはテキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深める。予習については必要時示す。

教材

テキスト	酒井明子編	ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践(3)『災害看護』	第4版	3,080円(税込み)
参考図書	小原真理子監修	南山堂 災害看護: 心得ておきたい基本的な知識	改訂3版	3,080円(税込み)

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	1) 本演習科目のオリエンテーションを行う。 2) 病院が被災した場合と被災者の生活の場となる避難所について考える。	予習：災害看護論を復習しておく 復習：病院で被災した場合と自宅で被災した場合の行動を考えておく	不可
第2回	グループワーク 1 病院が被災した場合どんな問題が起こるか考える。	予習：災害看護論を復習しておく 復習：病院で被災した場合と自宅で被災した場合の行動を考えておく	不可
第3回	グループワーク 2 入院中患者が被災した場合の課題とニーズについてグループワークを行う。	予習：病院で被災を想定して平常時何をすべきか考える 復習：平常時の入院患者指導をまとめる	不可
第4回	1・2についてプレゼンテーションと意見交換	予習：プレゼンテーション資料の作成 復習：平常時の看護職の役割をまとめる	不可
第5回	グループワーク 3 地域住民のバラバラなニーズに対応するために、平時どうしたらよいか考える。	予習：自分自身の防災をまとめておく 復習：避難所の問題を考える	不可
第6回	グループワーク 4 ハイリスク被災者をどうしたらよいか考える。	予習：ハイリスク被災者にあたる人はどんな人か考えておく 復習：地域住民が被災した場合をまとめる	不可
第7回	グループワーク 5 1 から 4 のグループワークを踏まえ、理想の避難所を検討する。また看護職としての支援計画を考える。	予習：災害時必要な看護を考えておく 復習：長期間にわたる支援をまとめる	不可

第8回	1 から5についてプレゼンテーションと意見交換	予習：プレゼンテーション資料の作成 復習：平常時必要な看護活動をまとめる	不可
評価方法			
課題レポート 30% 演習参加度 70%			
オフィスアワー			
船橋香緒里 ：講義当日16:10～17:00(左記以外は事前に連絡を取ってください) 連絡先e-mail:k-funahashi@gifuhoken.ac.jp 野田みや子 ：講義当日16:10～17:00(左記以外は事前に連絡を取ってください) 連絡先e-mail:m-noda@gifuhoken.ac.jp			

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開				人間力	
授業コード	111094				ケア・スピリット	
授業科目名	地域医療論				実践的理解	○
配当学年/ 学期	4年 後期 選択	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	三浦昌子【実務該当教員】				多職種連携	○

講義概要			
高齢化社会を迎え地域で支える医療体制が必要とされ、地域医療における看護職の役割は大きく変化している。本科目では、在宅医療において看護職がチームに参画し適切に支援できるように、在宅患者のケアと看護職の果たす役割に焦点を置き、必要な知識を修得し応用できる実践力を身に付ける。地域の保健、医療、福祉について、現状と課題を認識するとともに、その質を向上させるための看護職の役割とその意義について理解を深める。			
授業内容（到達目標を含む）			
1. 地域医療の概念や地域包括ケアシステムについて理解できる 2. わが国の医療提供体制と地域医療の現状を理解できる 3. 地域医療にかかわる看護専門職の役割が理解できる			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
参考書なども読み、自らの意見が述べられることを最良とする。予習や復習のための課題を提出する。			
教材			
・厚生省の指標 増刊 国民衛生の動向 2020 /2021 厚生労働統計協会			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	わが国の医療提供体制と地域医療について	「国民衛生の動向 2019 /2020」を読む。	可
第2回	地域医療の歴史	全国の地域医療の実態について調べる。「国民衛生の動向 2019 /2020」を読む。	可
第3回	地域医療の現状と課題	全国の地域医療の実態について調べる。「国民衛生の動向 2019 /2020」を読む。	可
第4回	地域医療の課題と地域包括ケアシステムの推進（医療の偏在と在宅医療）	県内の医療機関について調べる。 自分の住む医療圏の医療について考える。	可
第5回	地域医療構想	中山間地域、へき地、島嶼での実践事例を読む。 地域医療が直面する課題について整理する。	可
第6回	地域医療の資源と人材（地域医療における医師の役割、看護職の役割）	地域医療を支える多職種と看護とのかかわりについて復習する。	可
第7回	地域医療の資源と人材（地域医療における医師の役割、看護職の役割）	地域医療を支える多職種と看護とのかかわりについて復習する。	可
第8回	地域に生きる人々を支える医療の実践 講義のまとめ	地域医療の実践について調べる。	可
評価方法			
レポート提出			
オフィスアワー			

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開				人間力	
授業コード	111095				ケア・スピリット	
授業科目名	多職種連携活動論				実践的理解	
配当学年/ 学期	3年 前期 選択	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	永坂和子【実務該当教員】、小萱康徳				多職種連携	

講義概要			
質の高い医療の提供を目的にした他職種・多職種連携によるチーム医療を実践するための、背景の異なる専門職種間でのコミュニケーション能力を修得することを目的とする。多職種が連携して対象者の治療やケアにあたるチーム医療の意義や目的について理解し、多職種の職務内容や役割について事例を通して理解を深める。チーム医療において必要とされるコミュニケーション、情報の共有、チームマネジメントの重要性、また、多職種の中での看護職の役割や機能について理解する。			
授業内容（到達目標を含む）			
1. チーム医療の成り立ちおよび重要性が理解できる。 2. チーム医療の種類とそれぞれの目的が理解できる。 3. 臨床現場におけるチーム医療の実践が理解できる。 4. 効果的なチーム医療になるためのマネジメントが理解できる。 5. チームを高めていくためのケースメソッドを経験し、マネジメントの視点を考えることができる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
チーム医療は、多種多様な専門職が各々の高い専門性を前提に、目的と情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供することを目指している。厚生労働省はチーム医療を推進し、臨床では多くのチームが存在し、患者・家族への治療・ケア効果が図られている。臨床や実習にも役立つため、予習と復習が重要である。			
教材			
テキスト：「チーム医療」の理念と現実, 日本看護協会出版会, 2009. 参考図書：多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル, 医学書院、2011.			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	チーム医療とは：歴史、チーム医療の要素、チームの定義、チームマネジメントの基礎知識、厚生労働省が考えるチーム医療、チーム医療に関する用語	予習：テキストP8～P29を読んで各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート各200字程度で記述する。 予習時間：60分、復習時間：60分	可
第2回	チーム医療の要素：専門性志向、患者志向、職種構成志向、協働志向 臨床での実際のチーム医療事例	予習：テキストP32～P56を読んで各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート各200字程度で記述する。 予習時間：60分、復習時間：60分	可
第3回	チーム医療とは：困難、社会学の視点、チームの種類 チームの危機：コンフリクト	予習：テキストP58～P81を読んで各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート各200字程度で記述する。 予習時間：60分、復習時間：60分	可
第4回	チームマネジメントを高める技術：ゴール設定、フレームワーク、ファシリテーター、事例	予習：資料を読んで各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート各200字程度で記述する。 予習時間：60分、復習時間：60分	可
第5回	演習：事例よりチームの問題の抽出、改善策	予習：事例を読んで各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート各200字程度で記述する。 予習時間：60分、復習時間：60分	
第6回	カンファレンス：定義、基本技法、司会者の求められる技法、注意事項、高めるコツ 演習：事例よりカンファレンス(15分)	予習：事例を読んで各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート各200字程度で記述する。 予習時間：60分、復習時間：60分	可
第7回	ケースメソッド：ケースメソッドとは、目的、動画	予習：事例を読んで各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート各200字程度で記述する。 予習時間：60分、復習時間：60分	

第8回	ケースメソッド演習：多職種連携を高める ケースメソッドの実際	予習：事例を読んで、事例の問題、解決すべきことを読んで各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート各200字程度で記述する。 予習時間：60分、復習時間：60分	
評価方法			
定期試験70%、指導媒体10%、レポート20%により評価する。			
オフィスアワー			
永坂和子：月～木曜日（9:00～17:00） 事前にアポイントを取って下さい。連絡先 e-mail k-nagasaka@gifuhoken.ac.jp			

実習科目						る た め に 必 要 な 能 力 を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開						人間力	
授業コード	111096						ケア・スピリット	
授業科目名	統合実習						実践的理解	○
配当学年/ 学期	4年 前期 必修			単位数	4		プロフェッショナリズム	○
担当教員	看護教員全員						多職種連携	○

講義概要（実習目的）

本臨地実習では、既習の知識と技術を統合し、専門職業人としての自覚と倫理観に基づく看護の対象者への看護実践能力を習得することを目的とする。複数の看護の対象者に対し、限られた時間内で必要なケア提供や保健福祉医療チームの中で、安全かつ質の高い看護を効率的に提供していくための看護管理・多職種との連携・協働について理解し、専門職業人として必要なスキルを明確にする。

授業内容（実習目標）

1. 学生4名で1グループを編成し、2週間の集中実習を行う。
2. 看護の総合的実践能力を高めるために、組織における看護マネジメントの実際を理解することができる。
3. 組織の看護管理者（看護部長・副部長・師長・副師長等）や専門看護師/認定看護師/各分野の専門職の看護の役割を理解し、実践を学ぶことができる。
4. 医療安全・質の高い看護を提供するための仕組みを学ぶことができる。
5. 多職種との連携・協働の実際を学び、保健医療福祉チームの看護師の役割を理解することができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

1. 該当領域の単位を取得。
2. 実習要項に準ずる。

教材

なし

授業計画及び学習課題（予習・復習）

週	曜日	実習計画 例（各施設の方針や体制に合わせて日時・内容を決定する）
第1週目	月	・看護部長等の臨床講義(理念・方針・看護体制・組織の仕組み・病院経営・地域包括ケアシステム・ワークライフバランス・教育体制・看護方式等)
	火	・組織内の専門的看護（医療安全・感染対策・専門看護師・認定看護師・院内認定等）
	水	・病棟看護責任者の講義(方針・病棟の仕組み・勤務表作成・委員会・多職種連携・)
	木	・病棟看護責任者の勤務の実際の見学
	金	・病棟主任またはリーダーの勤務の実際の見学 ・受け持ち患者の決定、情報収集、計画立案 ・カンファレンスや委員会等の参加
第2週目	月	・病棟のケアプランに沿って見学実習
	火	・優先度を考慮した看護ケアの実践と評価（3日間）
	水	・他部門の見学 ・管理者または専門看護に携わる看護師にインタビュー
	木	・施設内実習成果報告会
	金	・学習成果発表会、記録整理・提出

講義概要（実習目的）		
統合実習Ⅱ（未来をつなぐ実習）では、岐阜県の医療構想の実現と地域包括ケアシステム等の推進のために、岐阜保健大学研究センターにおいて多職種との連携・協働の実現性をめざして行う未来をつなぐ演習・実習である。また、本実習は、領域横断に基づき実習方法を設定する。 「地域貢献実習」は、成育支援実習（母性看護学・小児看護学・老年看護学）、 「地域生活支援実習」（地域・在宅看護学・精神看護学・成人看護学）である。 「地域貢献実習」・「地域生活支援実習」はそれぞれ「（1単位 必修）」とする。		
授業内容（実習目標）		
1. 多職種の役割と責務について、多職種と共有することを理解できる。 2. 多職種間のコミュニケーション能力の必要性を理解する。 3. 対象者志向の倫理観をもつことを理解できる。 4. 多職種で対象者の目標を共有することを理解する。 5. 対象者の目標達成、ケアの質向上にむけてともに深く考えることができる。 6. 多職種協働・連携にむけての展望をともに語ることができる。 7. 地域包括ケアシステムにおける対象の健康課題に対する看護職の役割を述べることができる。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
①学生の人数はそれぞれの実習でグループを編成し、各1週間ずつの集中実習を行う。 ②看護の総合的実践能力を高めるために、多職種の学生同士が「ともに学び、ともに考える」場の設定をめざす。 ③1単位を30時間と設定した場合、残る15時間分は実習前後の自己学習や学内実習等にあてる。大学設置基準第21条第2項の規定の適用。 実習要項に準ずる。④		
教材		
適宜配布		
授業計画及び学習課題（予習・復習）		
週	曜日	実習計画
第1週目 地域貢献実習	月	母性看護学・小児看護学・老年看護学の健康支援者への薬物支援と理学療法支援と看護連携事例
	火	大学内の専門職から連携意義の専門知識を習得する（医師・薬剤師・理学療法士・看護職）
	水	グループごとに連携における関連図を作成する
	木	多職種カンファレンス
	金	グループごとの発表と評価
第2週目 地域生活支援実習	月	地域・在宅看護学・精神看護学・成人看護学の健康支援者への看護連携事例
	火	大学内の専門職から連携意義の専門知識を習得する（看護師・保健師・がん専門看護師・精神看護師など）
	水	グループごとに連携における関連図を作成する
	木	多職種カンファレンスと会議の設定方法
	金	グループごとの発表と評価
評価方法		
原則として目標達成行動尺度を実習担当者が評価する。		
オフィスアワー		
実習指導教員とのアポイントにより、時間調整をしてください。		

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す	人間力	
科目区分	専門教育科目 -看護の展開				ケア・スピリット	○
授業コード	111097				実践的理解	○
授業科目名	癒やしとタッチケア				プロフェッショナリズム	
配当学年/ 学期	3年 前期 選択	単位数	1		多職種連携	○
担当教員	内藤直子【実務該当教員】、野田みや子【実務該当教員】					

講義概要

看護現場において癒しをもたらすケアの方法とその実践について、実際の臨地施設での事例を用いて、科学的見地から学び、将来の看護実践に役立てる。看護の役割と癒しのケアとの関連や、近年その効果が広く注目されているタッチケアの概念やホルモン効果を基盤として、有用な基本手技を学び、看護の対象者に癒やしをもたらすためのタッチケアが実践でき、その効果が考察できる能力を修得する。本科目を通じて、看護職者がその対象者に癒やしをもたらす技法を、実践的に身につける。

授業内容（到達目標を含む）

癒しとタッチケアに関するテキストで該当する章や項目を読み解く。
履修学生は、講義で実施される演習時間を有効に学習し、臨床看護実践能力を獲得する基礎知識となるよう、積極的に参加する。
履修学生は、想像力・考察力を高めるために演習項目ごとに、課題レポートを作成して提出する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

臨床看護で癒しとタッチケアは、対象の心理的・身体的な理解による看護実践を行うために、本科目は重要である。履修学生は、本科目の基礎知識を理解するよう各回の授業テーマにあわせた課題の予習と復習を行うことが必要である。

教材

テキスト 母子の健康科学特・基礎助産学3、医学書院、2020、3800円(税別)
参考図書 ・森恵美他著、「系統看護学講座 母性看護学概論」、医学書院、2020、2640円(税込)
・奈良間美保他著、「系統看護学講座 小児看護学概論」、医学書院、2020、3190円(税込)
・北川公子他著、系統看護学講座 老年看護学」、医学書院、2020、2970円(税込)

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	癒しとは：タッチケアとは（内藤）	癒しとは、リラクセスとストレス、ナラティブケア効果、苦悩ケア、疼痛ケア 予習：テキストの補完代替医療を精読 復習：講義資料を読み返す 予習60分、復習60分	
第2回	補完代替医療：アロマセラピー、タッチケア、リフレクソロジー（内藤）	タッチケアとは、日本のタッチケア、マッサージセラピー効果①早産時②産後うつ③NICUタッチケア法④カンガルーケア⑤ベビーマッサージ 予習：テキストのタッチケア精読 復習：講義資料を読み返す・ 予習60分、復習60分	
第3回	ヨガの歴史と概念・理論、ヨガの実践（野田）	予習：指定された参考資料に目を通す 復習：配布資料を読み返す ※授業開始時 5minutes test 予習時間30分、復習時間60分	

第4回	小児領域で活用できるヨガ・呼吸法（野田）	予習：指定された参考資料に目を通す 復習：配布資料を読み返す ※授業開始時 5minutes test 予習時間30分、復習時間60分	可
第5回	母性領域で活用できるヨガ・呼吸法（野田）	予習：指定された参考資料に目を通す 復習：配布資料を読み返す ※授業開始時 5minutes test 予習時間30分、復習時間60分	可
第6回	成人・老年領域で活用のヨガ・呼吸法（野田）	予習：指定された参考資料に目を通す 復習：配布資料を読み返す ※授業開始時 5minutes test 予習時間30分、復習時間60分	可
第7回	タッチケア演習： *カンガルケアの歴史と効果、ケアの方法 *ベビーマッサージの方法（内藤）	予習：指定テキストに目を通す 復習：配布資料を読み返す ※演習室でモデル人形による実践・服装 予習時間50分、復習時間50分	
第8回	本科目の学びのレポート作成 まとめ、評価（内藤）	予習：講義で配布された資料を読み返し、PBL法 でレポート法について考える 予習時間50分・★課題レポート提出	
評価方法			
課題レポート60%、演習のミニテスト40%より評価する。 *課題レポート（60%）の配分については、内藤（30%）、野田（30%）とする。 *演習レポート（内藤20%）、演習ミニテスト（野田20%）とする。			
オフィスアワー			
内藤：火・水・木・金の16:10から17:00、事前連絡は：n-naitoh@gifuuoken.ac.jp) 野田：月・水・木・金の16:10分から17:00、研究室(事前のアポイント必要：m-noda@gifuuoken.ac.jp)			

講義科目						る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開						人間力	
授業コード	111098						ケア・スピリット	
授業科目名	緩和ケア論						実践的理解	○
配当学年/ 学期	3年 前期 選択			単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	永坂和子【実務該当教員】						多職種連携	○

講義概要			
多様化する個人の価値や社会制度の変化をふまえ、看護師個人、多職種チーム、組織、地域で提供できる緩和ケアについて考察する。その上で、緩和ケアにおける看護独自の役割についても、既修得科目で得た知識と経験を活かして探求する。主な内容は次のとおりである。緩和ケアの概要と取り巻く課題、緩和ケアで活用されるアセスメントツール、事例検討、緩和ケアと補完代替療法、臨死期における緩和ケア、エンゼルメイク演習、緩和ケアに関する文献クリティーク。また、授業にはグループディスカッションを取り入れ、能動的な学修により理解と考察を深める。			
授業内容（到達目標を含む）			
1) 緩和ケアとは何か、看護師の役割について述べることができる。 2) 身体症状のマネジメントの基本的な考え方について述べるができる。 3) がん患者の心の反応（不安、抑うつ、せん妄、不眠）、アセスメントと治療、看護について述べるができる。 4) 社会的苦痛、アセスメントと支援、社会資源について述べるができる。 5) スピリチュアルペインについて述べ、スピリチュアルケア実践の基盤となる考え方について述べるができる。 6) 患者の意思決定における看護師の役割について述べるができる。 7) 在宅緩和ケア、臨死期のケア、家族ケア、生命倫理について述べるができる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
緩和ケアは、一般病棟、外来、在宅などで幅広い領域でケアに関する知識をもって実践し、実習においても関わる人が多い。痛みやその他の身体問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を早期に同定し、適切な評価と治療によって、苦痛の予防と緩和を理解するためには、予習と復習が重要である。			
教材			
テキスト：ナースィング・グラフィカ、成人看護学, 緩和ケア, メディカ出版, 2019.			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	緩和ケアとは何か；全人的苦痛とQOL, 定義、患者・家族に提供する方法、歴史および海外と日本の現状、看護師の役割	予習：テキストp12～p44を読んで、各200字程度にまとめる。 復習：読んで各200字程度で記述する。 予習時間：60分、復習時間：60分	可
第2回	身体的症状；マネジメントの基本的な考え方、疼痛の治療と看護、全身倦怠感の治療と看護、消化器症状、事例	予習：テキストp46～p95を読んで各200字程度にまとめる。事例を読んで身体的症状を抽出する。 復習：読んで各200字程度で記述する。 予習時間：60分、復習時間：60分	可
第3回	身体的症状；呼吸困難・リンパ浮腫・泌尿器症状、がん治療に伴う苦痛の緩和、事例	予習：テキストp96～p142を読んで各200字程度にまとめる。 復習：読んで各200字程度で記述する。 予習時間：60分、復習時間：60分	可
第4回	精神症状とその治療、社会的ケア：精神症状、不安の治療・抑うつの治療・せん妄の医療・不眠の治療と看護、事例	予習：テキストp144～p197を読んで各200字程度にまとめる。 復習：読んで各200字程度で記述する。 予習時間：60分、復習時間：60分	可

第5回	社会的ケア、スピリチュアルケア：社会的苦痛、アセスメント、ソーシャルサポート、相談と利用できる社会資源、スピリチュアリティ、スピリチュアルペイン、スピリチュアルケア、事例	予習：テキストp12～p43を読んで、各200字にまとめる。事例を読みポイントをマーカーで引く。 復習：読んで各200字程度で記述する。 予習時間：60分、復習時間：60分	
第6回	意思決定とコミュニケーション、在宅緩和ケア：がん医療における意思決定、悪い知らせ、意思決定を支えるコミュニケーション、難しいコミュニケーション、在宅緩和ケアの現状と課題	予習：テキストp221～p43を読んで、各205字にまとめる。 復習：読んで各200字程度で記述する。 予習時間：60分、復習時間：60分	可
第7回	臨死期のケアと家族ケア：がん終末期の症状と全身状態、臨死期のケア・輸液療法、苦痛緩和のための鎮静、臨終後のケア、家族が体験する問題、家族ケアにおける看護師の役割、悲嘆と家族ケア、事例	予習：テキストp220～pを読んで、各206字にまとめる。 復習：読んで各200字程度で記述する。 予習時間：60分、復習時間：60分	可
第8回	緩和ケアと生命倫理・非がん疾患の緩和ケア：生命倫理とは、生命倫理の4原則、インフォームドコンセント、安楽死に関する倫理的問題、事例、非がん疾患の緩和ケア、神経疾患・慢性心不全・腎不全・全慢性閉塞性肺疾患・認知症の緩和ケア、事例	予習：テキストp271～p293を読んで各200字にまとめる。また、わが国で身近に起きた安楽死に関する倫理的問題の情報を1つ収集してくる。 復習：読んで各200字程度で記述する。 予習時間：60分、復習時間：60分	可
評価方法			
定期試験70%、指導媒体10%、レポート20%により評価する。			
オフィスアワー			
永坂和子：月～木曜日（9:00～17:00） 事前にアポイントを取って下さい。連絡先 e-mail k-nagasaka@gifuuoken.ac.jp			

講義科目					る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開					人間力	
授業コード	111099					ケア・スピリット	
授業科目名	終末期看護論					実践的理解	○
配当学年/ 学期	4年 後期 選択	単位数	1	プロフェッショナルリズム			
担当教員	就任予定者					多職種連携	○

講義概要				
人間の生命の捉え方、終末期にある人々を全人的に理解し、その人らしさを重視した看護援助方法について学ぶ。終末期にある人々の治療や症状緩和について理解し、緩和方法について学ぶ。また、看取りをする家族について理解し、その援助方法について学ぶ。終末期医療における倫理的課題についても考え、終生期を支える医療施設、福祉施設、地域でのケアについても理解を深める。				
授業内容（到達目標を含む）				
1. 終末期、緩和ケア、エンドオブライフケア、ホスピスケアについて述べることができる。 2. 終末期にある人々とその家族の総合的・全人的理解とその人らしさを重視した看護援助方法を述べることができる。 3. 終末期にある人々の疼痛管理や様々な症状における治療やケアについて理解することができる。 4. 終末期にある人々を支える家族へのケアおよび遺族のケアについて述べることができる。 5. 終末期にある人々とその家族の療養の場の違いを踏まえたケアについて述べるができる。 6. 臨死期にある人々とその家族のケアについて述べることができる。 7. 終末期医療における倫理的課題について理解することができる。				
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）				
人には必ず死が訪れる。限りある命についてどのように向き合うのか？本授業を通して学ぶことで、今後の臨床の場だけではなく、人生においても重要であるため、それぞれの授業テーマに沿った自己学習をすることで課題意識を持って能動的な態度で授業に臨むこと。				
教材				
テキスト：ナースィング・グラフィカ、成人看護学⑥、緩和ケア、メディカ出版、2022.				
授業計画及び学習課題（予習・復習）				
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業	
第1回	終末期、緩和ケア、エンドオブライフケアやホスピスケアの概念： 終末期、緩和ケア等の定義、海外や日本における現状、看護師の役割 終末期にある人々とその家族の総合的・全人的理解： 全人的苦痛、QOL、死への過程、望ましい死	予習：テキストp. 20-54を読んでおく 復習：配布資料を読み返しておく 予習時間：60分、復習時間：60分	可	
第2回	終末期にある人々とその家族の総合的・全人的理解： 文化的理解、喪失、悲嘆、死別	予習：テキストp. 20-54を読んでおく。文化、喪失、悲嘆、死別とは何か調べておく。 復習：配布資料を読み返しておく 予習時間：60分、復習時間：60分	可	

第3回	臨床で遭遇する主な症状に関する治療とケア： 疼痛、食欲不振、悪心・嘔吐、便秘、全身倦怠感、呼吸困難、浮腫	予習：テキストp. 58-164を読んでおく 復習：配布資料を読み返しておく 予習時間：60分、復習時間：60分	可
第4回	臨床で遭遇する主な症状に関する治療とケア： 不安、抑うつ、せん妄、不眠 スピリチュアルペインとスピリチュアルケア	予習：テキストp. 168-198、226-232を読んでおく 復習：配布資料を読み返しておく 予習時間：60分、復習時間：60分	可
第5回	家族ケア、遺族ケア： 家族の理解、家族が体験する課題、看護師の役割、遺族ケア、家族の悲嘆	予習：テキストp. 302-316を読んでおく 復習：配布資料を読み返しておく 予習時間：60分、復習時間：60分	可
第6回	療養の場の違いを踏まえたケア： 病院における緩和ケア、他職種連携、地域・在宅におけるケア、社会的ケア	予習：テキストp. 202-218、254-278を読んでおく 復習：配布資料を読み返しておく 予習時間：60分、復習時間：60分	可
第7回	臨死期にある人々とその家族に対するケア： がん終末期の症状と全身状態、臨死期のケア、臨死期における輸液、鎮静、臨終後のケア	予習：テキストp. 280-300を読んでおく 復習：配布資料を読み返しておく 予習時間：60分、復習時間：60分	可
第8回	終末期医療における倫理的課題： 生命倫理、生命倫理の4原則、がん医療における意思決定、安楽死に関する問題、安楽死と尊厳死、	予習：テキストp. 330-349を読んでおく 復習：配布資料を読み返しておく 予習時間：60分、復習時間：60分	可
評価方法			
定期試験70% レポート20% 授業態度10%により評価する。			
オフィスアワー			

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開				人間力	
授業コード	111100				ケア・スピリット	○
授業科目名	感染看護論				実践的理解	○
配当学年/ 学期	3年 前期 選択	単位数	1		プロフェッショナルリズム	○
担当教員	平岡 翠【実務該当教員】				多職種連携	

講義概要

感染上の問題を持つ感染症患者および易感染患者の看護について、看護上の必要や特徴に基づき、①感染症ならびに感染対策の歴史を踏まえた感染症患者や家族への看護のあり方、②地域および病院における感染症の発生要因と防止方法、③国際感染症と感染防止対策、④感染症患者のQOLの維持、向上のための看護と家族への支援を学ぶ。また、HIV感染者の生活について考えを深める。

授業内容（到達目標を含む）

1. 国内外での感染症の動向、日本における関連法規と地域及び病院における感染症発生状況を把握する
2. 感染成立のメカニズムと標準予防策、感染経路別予防策について説明できる
3. 適切な手指衛生と个人防护具の適正な着脱が実践できる
4. 医療関連感染を防止するための組織的な取り組みについて説明できる
5. 看護場面での感染防止ケアについて説明できる
6. 感染対策や感染症患者に生じやすい倫理的な問題を述べることができる

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

感染看護は、どんな場でも重要であり、基礎知識を理解するには各回の授業テーマに合わせた課題に対して自己学習を行う。授業内容の理解を促進するためには、自己学習をしてから、授業に臨むこと。毎回授業でミニッツノートを渡すので、授業に関する意見や質問があればそこに記入すること。ミニッツノートの内容は、授業時間内に解説する。2/3以上の出席がない場合は、定期試験を受けることができず、単位を取得することができない。

教材

テキスト：「ナースンググラフィカ疾病の成り立ち⑧臨床微生物・医動物」矢野久子、安田陽子編集、メディカ出版、2018、価格3,520円
参考図書：授業で適宜紹介する

授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	オリエンテーション、国内外での感染症の動向、日本における感染症関連法規と地域及び病院における感染症の発生状況を把握する、医療関連感染、標準予防策、と感染経路別予防策	予習：P183～P187を読んでおく 復習：配布した資料を読み返す 予習時間120分、復習時間120分	可
第2回	感染成立のメカニズムと看護の役割、アセスメント ※課題①を提示	予習：P188～P194を読んでおく 復習：配布した資料を読み返す、レポート課題①に取り組む 予習時間120分、復習時間120分	可
第3回	医療関連感染を防止するための組織的な取り組み①療養環境整備、職業感染予防、ワクチン接種	予習：P196～P212を読んでおく 復習：配布した資料を読み返す、レポート課題①に取り組む 予習時間120分、復習時間120分	可
第4回	演習：手指衛生、个人防护具の適正な着脱法 ※課題①を提出	予習：演習項目について、これまでに学んだ内容を復習しておく 復習：習得できるまで演習内容を自己反復する 予習時間120分、復習時間120分	

第5回	医療関連感染を防止するための組織的な取り組み②洗浄・消毒・滅菌、医療廃棄物の取り扱い	予習：P203～P212を読んでおく 復習：配布した資料を読み返す 予習時間120分、復習時間120分	可
第6回	看護場面での感染防止ケア①肺炎予防、尿路感染予防、手術部位感染予防 ※課題②提示	予習：P163～P177を読んでおく 復習：配布した資料を読み返す、レポート課題②に取り組む 予習時間120分、復習時間120分	可
第7回	看護場面での感染防止ケア②血流感染予防、感染症検査、薬物療法における看護ケア	予習：P214～P239を読んでおく 復習：配布した資料を読み返す、レポート課題②に取り組む 予習時間120分、復習時間120分	可
第8回	感染対策や感染症患者に生じやすい倫理的問題と看護の役割、HIV感染者等の事例によるグループ討議 授業全体を通してのまとめ ※課題②提出	予習：感染者の生活、倫理的問題について起こっていることに対して考えてくる 復習：配布した資料を読み返し、倫理的問題への看護者としての役割について自分の考えをまとめる 時間120分、復習時間120分	
評価方法			
授業態度10%、課題レポート30%、期末試験60%により評価する			
オフィスアワー			
平岡翠 : 授業後30分 連絡先s-hiraoka@gifuuoken.ac.jp ※これ以外は事前にアポイントを取ってください。			

講義科目						る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開						人間力	
授業コード	111101						ケア・スピリット	○
授業科目名	国際保健医療活動論						実践的理解	○
配当学年/ 学期	3年 前期 必修			単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	高久道子【実務該当教員】						多職種連携	○

講義概要

国や地域によって政治、経済、文化が異なり、それに伴い国民の生活や健康も違う。開発途上国では多くの乳幼児が感染症で死亡し、また妊産婦の健康問題、エイズ、結核、マラリアの3大感染症等が問題になっている。国際保健医療活動論では、途上国の健康問題に関連する要因をはじめ、WHOなど保健医療分野で支援を行う国際機関、日本の政府開発援助や国際協力機構、民間団体など、組織の役割や活動について学修する。

授業内容（到達目標を含む）

世界の健康課題とそれらに対する取り組みを、国際情勢と関連づけて理解する。国際保健の基本となる概念を理解し、国際保健活動の現状と課題について考察する。

到達目標：

- 1) 現代国際社会における健康課題の特徴とその背景を理解し、他の人に説明できる。
- 2) 現代国際社会における健康課題に対する国際的な取り組みを具体的に挙げ、その課題を分析することができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

この科目の単位修得には約30時間の授業時間以外の学修（学習課題：予習・復習に示されている内容の学修）が必要であり、シラバスを熟読して学習を進めること。2/3以上の出席がない場合は課題レポート提出の権利がなく、単位を取得することができない。20分以上の遅刻は欠席とみなす。

注意）JICAなどや地球ひろばの訪問日時については、決まり次第連絡します。

教材

教科書：「知って考えて実践する 国際看護」、近藤麻里、医学書院（1,800円+税）（1年時に購入済）
参考図書：外務省ホームページ、JAPAN SDGs Action Platform SDGs達成に向けた分野別取り組み 「平和と健康のための基本方針」<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/000099126.pdf>

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	国際保健とは？プライマリ・ヘルスケア、ヘルスプロモーション	予習：教科書第1章を熟読する。 復習：プライマリ・ヘルスケア、ヘルスプロモーションについて各200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第2回	グローバルヘルス・ガバナンス、人間の安全保障、持続可能な開発目標（SDGs）	予習：参考図書を熟読する。 復習：人間の安全保障、SDGsについて各200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第3回	国境を越える健康課題1：三大感染症、その他感染症	予習：参考図書を熟読する。 復習：講義内容をまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第4回	国境を越える健康課題2：HIV感染予防対策の取り組み	予習：教科書第2章を熟読する。 復習：講義内容をまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第5回	国境を越える健康課題3：紛争と難民	予習：第2章および参考図書を熟読する。 復習：講義内容をまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第6回	日本の中の国際保健1：日本で暮らす外国人の健康課題	予習：教科書第1章を熟読する。 復習：講義内容をまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第7回	日本の中の国際保健2：異文化看護の実践	予習：教科書第1、2、4章を熟読する。 復習：講義内容をまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可

第8回	国際保健を担う組織とその活動1： 国際機関、政府開発援助：JICAなごや地球ひろば訪問	予習：教科書第3章を熟読する。 復習：体験訪問についてまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
評価方法			
復習提出20%、小テスト20%、レポート60%により評価する。 S (100～90点)：到達目標をほぼ完全に達成している。 A (89～80点)：到達目標を相応に達成している。 B (79～70点)：到達目標を相応に達しているが、不十分な点がある。 C (69～60点)：到達目標の最低限は満たしている。 D (60点未満)：Cのレベルに達していない。			
オフィスアワー			
木曜（研究日）以外の平日。昼休み対応可。 できれば事前にメールで連絡ください。連絡先 m-takaku@gifuuoken.ac.jp			

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な 能 力 を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開				人間力	
授業コード	111102				ケア・スピリット	
授業科目名	看護の統合と実践				実践的理解	○
配当学年/ 学期	4年 後期 必修	単位数	2		プロフェッショナリズム	
担当教員	平岡 翠【実務該当教員】・教員全員				多職種連携	○

講義概要			
本学部で学修した看護の理論と実践の知識について、各看護領域のテーマを掘り下げて包括的かつ統合的に学ぶ科目である。看護領域の各テーマについて、具体的な事例を用いたケーススタディを通じて、看護実践の理解と考察を深める。担当教員は、看護職として必要となる実践的な知識や知見を教授し、看護職としての問題解決能力を養成する。原則として全ての専任教員が担当し、少人数での演習方式でクラス運営を行い、学生の能動的な学修を促す。			
授業内容（到達目標を含む）			
各看護領域のテーマを掘り下げて包括的かつ統合的に学び、看護領域の看護実践の理解と考察を深める。また、現代における看護職の活動やその多彩な場面を学び、社会の中で看護職が果たす役割やマネジメントの重要性を理解することができる。看護職としてのキャリアマネジメントをについて理解し、自己のキャリア形成を考察することができる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
基礎知識を理解するには各回の授業テーマに合わせた課題に対して自己学習を行う。授業内容の理解を促進するためには、自己学習をしてから、授業に臨むこと。毎回授業でミニッツノートを渡すので、授業に関する意見や質問があればそこに記入すること。ミニッツノートの内容は、授業時間内に解説する。2/3以上の出席がない場合は、定期試験を受けることができず、単位を取得することができない。			
教材			
テキスト：「ナースンググラフィカ看護の統合と実践①看護管理」吉田千文、志田京子他編、メディカ出版、2018、価格3,080			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	オリエンテーション：地域包括ケアにおける看護職の活動やその多彩な場面を学び、社会の中で看護職が果たす役割について（ゲストスピーカー―愛知県看護協会会長）	予習：指定された教科書に目を通す 復習：配布資料を読み返す 予習時間30分、復習時間60分	可
第2回	看護サービスのマネジメントと組織マネジメント（病院経営、ヒト、モノ、カネ、情報の管理等）について、看護提供システムについて	予習：指定された教科書に目を通す 復習：配布資料を読み返す 予習時間30分、復習時間60分	可
第3回	看護の質向上とリスク管理（医療安全と感染対策）について	予習：指定された教科書に目を通す 復習：配布資料を読み返す 予習時間30分、復習時間60分	可
第4回	医療現場における倫理的課題を考える―ジェンダーについて―（ゲストスピーカーによる講義）	予習：指定された教科書に目を通す 復習：配布資料を読み返す課題レポート①を記述する 予習時間30分、復習時間60分	可
第5回	看護の専門性（チーム医療における役割分担）、専門看護師、認定看護師、特定看護師について	予習：指定された教科書に目を通す 復習：配布資料を読み返す 予習時間30分、復習時間60分	可

第6回	看護職のキャリア形成について、看護の教育体系について	予習：指定された教科書に目を通す 復習：配布資料を読み返す 予習時間30分、復習時間60分	可
第7回	基礎医学領域の理解と考察を深める	予習：指定された教科書に目を通す 復習：配布資料を読み返す 予習時間30分、復習時間60分	可
第8回	看護の基本領域の看護実践の理解と考察を深める	予習：指定された教科書に目を通す 復習：配布資料を読み返す 予習時間30分、復習時間60分	可
第9回	成人看護学領域の看護実践の理解と考察を深める	予習：指定された教科書に目を通す 復習：配布資料を読み返す 予習時間30分、復習時間60分	可
第10回	老年看護学領域の看護実践の理解と考察を深める	予習：指定された教科書に目を通す 復習：配布資料を読み返す 予習時間30分、復習時間60分	可
第11回	精神看護学領域の看護実践の理解と考察を深める	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート①を記述する 予習時間30分、復習時間60分	可
第12回	母性看護学領域の看護実践の理解と考察を深める	予習：指定された教科書に目を通す 復習：配布資料を読み返す 予習時間30分、復習時間60分	不可
第13回	小児看護学領域の看護実践の理解と考察を深める	予習：指定された教科書に目を通す 復習：配布資料を読み返す 予習時間30分、復習時間60分	可
第14回	在宅看護学領域の看護実践の理解と考察を深める	予習：指定された教科書に目を通す 復習：配布資料を読み返す 予習時間30分、復習時間60分	可
第15回	まとめ	予習：指定された教科書に目を通す 復習：配布資料を読み返す 予習時間30分、復習時間60分	可
評価方法			
課題レポート30%、期末試験70%により評価する			
オフィスアワー			
平岡翠：授業後30分 連絡先s-hiraoka@gifuhoken.ac.jp ※これ以外は事前にアポイントを取ってください。			

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開				人間力	
授業コード	111103				ケア・スピリット	
授業科目名	公衆衛生看護学概論				実践的理解	○
配当学年/ 学期	2年 前期 必修	単位数	1		プロフェッショナルリズム	
担当教員	船橋香緒里【実務該当教員】、石井英子【実務該当教員】				多職種連携	○

講義概要			
公衆衛生看護の理念と目的、公衆衛生看護の原則、公衆衛生看護の対象について、地域保健法下における保健師の役割について教授する。また、公衆衛生看護活動のはじまりと歴史的な発展についての理解と住民との協同による地域づくり、ヘルスケアづくりについて教授する。さらには、地域保健、学校保健、産業保健の健康戦略とヘルスプロモーションの促進についても教授する。			
授業内容（到達目標を含む）			
1. 公衆衛生看護学の基本的な理念を理解できる。 2. 地域で生活する個人・家族・特定集団・コミュニティについて、対象者の特徴と支援の基本的な考え方を理解できる。 3. 多様な公衆衛生看護活動の対象と場への保健師の役割と活動内容を理解できる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
・配布資料した資料と講義の内容を教科書・参考書を使用してノートに整理し、復習しておくこと（想定復習時間は 60 分程度）。			
教材			
公衆衛生看護学・JP インターメディカル 「国民衛生の動向」（最新版）厚生統計協会			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	公衆衛生の概念 1) 公衆衛生の概念 2) 公衆衛生の定義 3) 公衆衛生看護の概念	予習：小学校から高等学校までの教科「保健」での学びを振り返る。 復習：公衆衛生の定義をまとめる	可
第2回	健康の概念 1) 健康とは何か 2) 健康の定義と意義 3) WHOの活動と国際生活機能分類	予習：健康の意味するところを考える。 復習：WHOと健康をまとめる	可
第3回	ヘルスプロモーションの理念 1) プライマリヘルスケア 2) ヘルスプロモーションの理念 3) ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ	予習：ヘルスプロモーションを教科書からまとめる 復習：ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチの図式化する	可
第4回	公衆衛生看護の概念 1) 公衆衛生看護の定義と役割 2) 公衆衛生看護活動とは	予習：疾病予防とリスク回避を考える 復習：公衆衛生看護活動の事例を教科書からまとめる	可
第5回	公衆衛生と公衆衛生看護活動の歴史 1) 近代公衆衛生と公衆衛生看護活動 2) 現代の健康課題 3) 社会環境の変化と格差社会	予習：歴史から学ぶことを考える。 復習：社会環境の変化と格差社会の課題を提示しまとめる	可

第6回	健康危機管理 1) 健康危機管理の定義 2) 災害の多い日本での看護活動 3) 感染症対策 4) 防災・減災と災害支援	予習：岐阜県での自然災害を調べる 復習：健康危機管理についてまとめる	可
第7回	地域の人々と健康問題 1) 健康政策と公衆衛生看護活動にかかわる法的根拠 2) 健康政策における看護職の役割 3) 地域包括ケアシステム	予習：健康政策とは、 中学・高等学校で学んだ社会「公民」での学びを振り返る。 復習：地域包括ケアシステムについて国民衛生の動向からまとめる	可
第8回	公衆衛生看護の対象と方法 1) 個人・家族とコミュニティ：アプローチ対象 2) 活動方法	予習：公衆衛生看護の対象を考える 復習：活動方法をまとめる	可
第9回	医療機関以外の看護活動① 1) 市町村保健師活動 2) 保健所保健師活動 3) その他行政機関での保健師活動	予習：施設外看護① 行政で活動する看護職について学ぶ。 復習：市町村と保健所との保健師活動を教科書からまとめる	可
第10回	医療機関以外の看護活動② 1) 産業保健 2) 労働衛生の3管理 3) 産業保健における健康診断と管理	予習：施設外看護② 産業分野で活動する看護職について学ぶ。 復習：自分の学校健診結果から保健指導をまとめる	可
第11回	医療機関以外の看護活動③ 1) 福祉分野：地域包括ケアの構築 2) 在宅ケア：地域連携 3) 教育分野：学校保健と養護教諭	予習：施設外看護③ 福祉分野で活動する看護職について学ぶ。 復習：地域包括ケアシステムについてまとめる	可
第12回	理論モデル 1) 活用できる理論モデル 2) どこでどう使うか	予習：今まで学んだ理論についてまとめる 復習：課題を完成させる。	可
第13回	保健指導 1) 保健指導とは 2) 保健行動と病気への対処行動 3) 保健関連行動理論	予習：保健行動変容をさせる患者指導（保険指導）について考える。 復習：保健指導と患者指導の違いをまとめる	可
第14回	国際的にみること 1) 諸外国の医療制度と保健師活動 2) 国際協力：世界の中の日本 WHOレポートから 3) 地球規模の今後の課題	予習：諸外国から見た日本の医療制度と看護を考える。 復習：国際協力：世界の中の日本について、インターネットから情報収集する	可
第15回	これからの公衆衛生看護 1) 最近のトピックス 2) まとめ	予習：1～14回の講義内容で疑問があればまとめておく 復習：看護師国家試験過去問題で復習をする	可
評価方法			
授業態度10%、レポート（課題）10%、最終試験80%により評価する。			
オフィスアワー			
船橋：連絡先 e-mail k-funahashi@gifuu.ac.jp			

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開				人間力	
授業コード	111104				ケア・スピリット	
授業科目名	健康教育指導論				実践的理解	○
配当学年/ 学期	3年 前期 選択	単位数	1		プロフェッショナルリズム	○
担当教員	栃本千鶴【実務該当教員】、石井英子【実務該当教員】				多職種連携	○

講義概要

公衆衛生看護の基本的な技術として、保健指導、家庭訪問、健康教育、グループ支援と組織化、地域ケアシステムの構築などの活動について、基本となる理論について学ぶ。健康教育は健康課題をテーマにし、集団を対象にした健康教育を立案し、教育媒体を用いて実施し、その健康教育の評価方法について学ぶ。また大学が立地する岐阜県の地域特性を踏まえた健康教育指導活動についても理解する。

授業内容（到達目標を含む）

1. 保健行動や健康教育に関わる理論について理解することができる。
2. 個人や集団の健康課題解決に向けた健康教育の展開過程として、対象の理解、アセスメント、課題の明確化、目的・目標の設定、計画立案、実施、評価の一連を理解することができる。
3. 保健行動や健康教育に関わる理論を用いて、健康教育を実施することができる。
4. 健康教育の目的や目標、評価指標をふまえて評価をすることができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

遠隔授業と対面授業の2場面となる。対面は、健康教育媒体作成となるために、日常的にわかりやすい看板、広告に関心をもつこと、健康と疾病との関連の教育媒体作成とする。

教材

参考図書：公衆衛生看護学JP 第5班（インターメディカル）
 参考図書：標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 第4版（医学書院）
 参考図書：厚生労働統計協会編『国民衛生の動向2021/2022』

授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	地域における健康教育の位置づけ 健康教育の定義・目的・目標（栃本）	予習：過去に受けた健康教育について考える 復習：健康教育の位置づけについてまとめる	可
第2回	健康教育の技術 健康教育の方法と特徴、技術（栃本）	予習：過去に受けた健康教育の技術を考える 復習：健康教育の技術についてまとめる	可
第3回	健康教育の媒体 健康教育における教材、教材の選定（栃本）	予習：過去に受けた健康教育の媒体を考える 復習：健康教育の媒体についてまとめる	可
第4回	健康教育の展開過程 企画書と指導案の作成、評価指標（栃本）	予習：過去に受けた健康教育の展開を考える 復習：健康教育の展開過程についてまとめる	可
第5回	健康教育の実際 健康教室を企画した背景、目的、目標 指導案の作成（栃本）	予習：健康教室の実際場面を考える 復習：健康教育の実際をまとめる	可
第6回	健康教育を企画した背景 グループワーク M市の地域診断、健康課題（石井、栃本）	予習：健康教育を企画した背景を考える 復習：M市の地域診断をまとめる	可
第7回	健康教室の目的・目標 グループワーク テーマの設定（石井、栃本）	予習：健康教育のテーマを考える 復習：健康教育のテーマを設定する	可
第8回	健康教育指導案の作成 グループワーク 指導案の提出と修正（石井、栃本）	予習：指導案作成を考える 復習：指導案作成の修正をする	
第9回	健康教育の媒体を作成する 教材の選定と予算（石井、栃本）	予習：健康教育の媒体を考える 復習：健康教育の媒体を選定と予算をまとめる	

第10回	グループ発表 1 グループ発表準備と評価（石井、栃本）	予習：グループ発表の準備をする 復習：グループ発表 1 の評価と修正	
第11回	グループ発表 2 グループ発表準備と評価（石井、栃本）	予習：グループ発表の準備をする 復習：グループ発表 2 の評価と修正	
第12回	グループ発表 3 グループ発表準備と評価（石井、栃本）	予習：グループ発表の準備をする 復習：グループ発表 3 の評価と修正	
第13回	グループ発表 4 グループ発表準備と評価（石井、栃本）	予習：グループ発表の準備をする 復習：グループ発表 4 の評価と修正	
第14回	グループ発表 5 グループ発表準備と評価（石井、栃本）	予習：グループ発表の準備をする 復習：グループ発表 5 の評価と修正	
第15回	健康教育発表の結果と改善点 終了後のフォロー（石井、栃本）	予習：各発表の結果評価と改善点を考える 復習：パラダイムの変化と健康教育をまとめる	
評価方法			
課題レポート25%、発表25%、試験50%			
オフィスアワー			
栃本千鶴：毎週月曜日 16:10～17:10 事前にアポイントメントを取ってください。連絡先 e-mail c-tochimoto@gifuuoken.ac.jp 石井英子：事前にアポイントメントを取ってください。連絡先 e-mail h-ishii@gifuuoken.ac.jp			

講義科目				る デ イ ブ た め に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開				人間力	
授業コード	111105				ケア・スピリット	
授業科目名	看護研究Ⅰ				実践的理解	○
配当学年/ 学期	3年 前期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	専任教員全員、野田みや子【実務該当教員】				多職種連携	○

講義概要			
「看護研究Ⅰ」では、大学における研究の定義、研究における基礎的手法、倫理的配慮、文献検索、研究方法の種類、質的研究・量的研究、文献クリティークなど、看護研究に関する基礎的知識を学ぶとともに、4年次の「看護研究Ⅱ」に向け、学生自身が選んだテーマについてそれぞれの探究を深め、授業はその発表や意見交換を中心に行う。少人数での演習形式で授業を行い、原則として全ての専任教員が担当する。			
授業内容（到達目標を含む）			
本科目では、看護職者の研究力を身につけるために、到達目標として以下を目指す。 1. 看護研究の目的と意義を説明できる。 2. 看護研究のプロセスを説明できる。 3. 文献検索の目的と方法を説明できる。 4. 文献のクリティークと文献レビューを実施できる。 5. 研究における倫理的配慮を説明できる。 6. 「看護研究Ⅱ」に向けて自身の研究課題をイメージできる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
本科目は、看護研究の進め方を実践的に学ぶために、講義を演習（ゼミナール）を組み合わせた授業を行う。また、課題に基づく予習や復習を前提とした授業を行うため、教科書だけでなく授業で紹介する文献などを読み、自己学修をしてから授業に臨むこと。 本科目の第1回から第7回までは、講義を中心に看護研究の基礎的プロセスを学修する。授業では毎回、学修課題（予習・復習）を提示する。学修課題はその都度提出すること。毎回授業でミニッツノートを渡す。授業に対する意見や質問などあればそこに記入すること。ミニッツノート・小テストの内容は授業時間内に解説する。また、各自の理解度を確認するための小テストを行う。 第8回から15回までは、自身の興味や関心のあるテーマごとに分かれて、担当教員の指導のもとで学修を進める。なお、本科目の単位を取得しなければ、4年次の「看護研究Ⅱ」を履修することができない。			
教材			
テキスト「系統看護学講座 別巻 看護研究」坂下玲子他著、医学書院、2016年、2,640円（税込） 参考図書 適宜、紹介する。			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	看護研究とは：看護研究の目的、意義、特徴、歴史	予習：事前課題レポート①を行う 復習：学修振り返りレポート①を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	
第2回	看護研究のデザインと種類：看護研究の問いの立て方、研究デザイン	予習：事前課題レポート②を行う 復習：学修振り返りレポート②を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	
第3回	研究プロセスの方法①：研究課題の明確化、文献検索と文献検討の目的と方法	予習：事前課題レポート③を行う 復習：学修振り返りレポート③を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	
第4回	研究プロセスの方法②：研究論文の批評（クリティーク）、文献レビューの記述	予習：事前課題レポート④を行う 復習：学修振り返りレポート④を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	
第5回	研究デザイン：研究の設定と方法の選択、量的研究の特徴、質的研究の特徴	予習：事前課題レポート⑤を行う 復習：学修振り返りレポート⑤を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	

第6回	看護研究における倫理的配慮：研究倫理とは、研究倫理ガイドライン	予習：事前課題レポート⑥を行う 復習：学修振り返りレポート⑥を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	
第7回	文献レビューの実際：医学中央雑誌Web・J-STAGE・OPACなどの和文献、Pub Med・MEDLINE・CINAHLなどの欧文献検索	予習：事前課題レポート⑦を行う 復習：学修振り返りレポート⑦を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	
第8回	関心のある研究課題の検討 (各教員)	予習：事前課題⑧を行う 復習：事後課題⑧を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	
第9回	文献検討①：指定論文（量的研究）のクリティック (各教員)	予習：事前課題⑨を行う 復習：事後課題⑨を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	
第10回	文献検討②：指定論文（量的研究）のクリティックの発表 (各教員)	予習：事前課題⑩を行う 復習：事後課題⑩を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	
第11回	文献検討③：指定論文（質的研究）のクリティック (各教員)	予習：事前課題⑪を行う 復習：事後課題⑪を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	
第12回	文献検討④：指定論文（質的研究）のクリティックの発表 (各教員)	予習：事前課題⑫を行う 復習：事後課題⑫を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	
第13回	文献検討⑤：各自が選出した量的研究のクリティック及び討議 (各教員)	予習：事前課題⑬を行う 復習：事後課題⑬を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	
第14回	文献検討⑥：各自が選出した質的研究のクリティック及び討議 (各教員)	予習：事前課題⑭を行う 復習：事後課題⑭を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	
第15回	文献レビューの発表および研究課題の設定 (各教員)	予習：事前課題⑮を行う 復習：事後課題⑮を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	
評価方法			
小テスト（50％）、レポート（30％）、プレゼンテーション（20％）			
オフィスアワー			
第1回から第7回まで：毎週月曜日16時10分から17時30分 事前にアポを取って下さい。 (連絡先) 第8回から第15回まで：それぞれの担当教員			

講義科目				る デ イ た め に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開				人間力	
授業コード	111106				ケア・スピリット	
授業科目名	看護研究Ⅱ				実践的理解	○
配当学年/ 学期	4年 通年 必修	単位数	2		プロフェッショナリズム	○
担当教員	専任教員全員、野田みや子【実務該当教員】				多職種連携	○
講義概要						
「看護研究Ⅱ」では、「看護研究Ⅰ」で修得した基礎的研究能力を踏まえて、学生一人ひとりが、臨地実習等を含めた4年間の看護の学びから関心のあるテーマを設定し、文献検索・データ収集・分析・考察を進め、研究成果としてまとめる。本科目での研究への取り組みを通じて、卒業後も生涯持続的に学び続ける姿勢も身につける。指導教員による少人数指導を演習形式で行い、原則として全ての専任教員が担当する。						
授業内容（到達目標を含む）						
Ⅰ．目的 看護研究Ⅰで学習した研究の原理と方法に基づいて、看護に関連するテーマを自ら設置すると共に、文献検索・文献検討したうえで、研究目的を達成するために実現可能な研究計画書を作成できる。 Ⅱ．目標 1. 看護に関連するテーマを設定できる。 2. 文献検索・クリティークを通して、批判的な思考力を修得できる。 3. 研究目的を達成するために実現可能な研究計画書を作成できる。 4. 看護研究活動を続けていく上での基本的態度を修得できる。						
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
・ 課せられた課題について、前向きに、積極的に取り組むこと 3年前期で学習した看護研究Ⅰについて各自で復習しておくこと ・ 授業形態は、ゼミナール方式						
教材						
指導教員より提示 文献検索セミナーでの資料 研究方法論で使用した資料、書籍 各看護学に関連する書籍						
授業計画及び学習課題（予習・復習）						
授業内容 1. 看護研究Ⅰにおける指導教員のもとで研究をすすめる。 2. 看護研究1における研究課題を絞り込むために文献検索を再度行い、抄読する。 3. 研究課題（テーマ）の決定と研究計画書の作成を主として研究をすすめる。 4. 原則は、文献検索からの研究計画とそこから得られた結果、意味を考察することを目標とする。さらに研究を進める上での倫理的な配慮について学ぶため、適時、倫理審査に必要な書類の準備、審査を受けることができる。。 5. 研究の実施・データ分析 6. 結果の解析と考察 7. 卒業論文の作成、抄録の作成・提出（11月中旬） 8. 卒業研究の発表（12月中旬）						
評価方法						
評価表に示す項目に沿って評価する（卒業研究要項参照）						
オフィスアワー						
各指導教員のメール						

教育課程と指定規則との対比表

(岐阜保健大学看護学部看護学科)

指定規則の教育内容 教育課程						別表3（看護師課程）																	計		
						基礎分野		専門基礎分野		専門分野							臨地実習								
						科学的思考の基盤	人間の生活・社会の理解	人体の構造と機能と回復の促進	健康支援と社会保健制度	基礎看護学	地域・在宅看護論	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践	基礎看護学	地域・在宅看護論	成人看護学	老年看護学	小児看護学		母性看護学	精神看護学
区 分	授業科目	配当毎次	単位数		履修方法及び卒業要件	14	16	6	11	6	6	4	4	4	4	4	3	2	4	2	2	2	2	102	
			必修	選択		14	22	43							23（17単位・独自設定6単位）										
基本教育科目	思考力の育成	基礎ゼミナール	1前	1	30	必修3単位	○																	23 （必修14＋ 選択9）	
		情報科学	1前	1	30		○																		
		基礎統計学	1前	1	30		○																		
		問題解決法	1後	1	30		○																		
		哲学	1前	1	30		○																		
	表現力の育成	英語Ⅰ	1前	1	30	必修3単位	○																		
		英語Ⅱ	1後	1	30		○																		
		英語Ⅲ	3前	1	30		○																		
		英語Ⅳ	4後	1	30		○																		
		日本語Ⅰ	1前	1	30		○																		
		日本語Ⅱ	2前	1	30		○																		
		手話	1後	1	30		○																		
		中国語Ⅰ	2前	1	30		○																		
		中国語Ⅱ	2後	1	30		○																		
	人間力の育成	自己管理と社会規範	1前	2	15	必修3単位	○																		
		チームワークとリーダーシップ	4後	1	15		○																		
		他者理解と信頼関係	4後	2	15		○																		
		健康と運動	1後	1	15		○																		
	人間の理解	地域活動と社会貢献	1後	2	15	必修4単位	○																		
		現代の倫理	1前	2	15		○																		
		心理と行動	1後	2	15		○																		
		学習と行動	1前	2	15		○																		
		健康と生活	1前	2	15		○																		
		岐阜県の歴史と文化	1後	2	15		○																		
		多文化と多様性の理解	1前	2	15	○																			
	小計				14	9																		23	
専門教育関連科目	健康と健康障害の理解	人体構造機能学Ⅰ	1前	2	15	必修17単位		○															25 （必修24＋ 選択1）		
		人体構造機能学Ⅱ	1後	2	15			○																	
		人体構造機能学Ⅲ	2前	2	15			○																	
		栄養代謝学	1前	1	15			○																	
		人間の生殖と発達	1後	1	15			○																	
		人間の健康と社会・心理的適応	2前	1	15			○																	
		生体防御学	2前	1	15			○																	
		栄養治療学	2前	1	15			○																	
		医療薬理学	2後	1	15			○																	
		病理学	2前	1	30			○																	
		疾病治療論Ⅰ（成人A）	1後	2	15			○																	
		疾病治療論Ⅱ（成人B）	1後	2	15			○																	
		疾病治療論Ⅲ（精神・高齢者）	2前	1	30			○																	
		疾病治療論Ⅳ（小児・母性）	2前	1	30			○																	
	社会と環境の理解	公衆衛生学	2後	1	15	必修7単位			○																
		疫学	2後	1	15				○																
		保健統計学	1後	1	15				○																
		社会保険論	2前	1	15				○																
		看護と関係法規	2後	1	15				○																
	保健医療福祉行政論	1後	2	15			○																		
	保健看護情報学	2前	1	15			○																		
小計				24	1																		25		

[illegible]

授業科目の概要			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
授業科目名	基礎ゼミナール	本科目は、本学での導入科目であり、大学における学修の基本的な技術や態度、学修方法を身につけることを目的とする。少人数クラスによる教員との直接対話を通じて学修意欲を啓発するとともに、学生同士の親睦と連帯意識を育み、大学生として必要な基礎的技能を修得する。医療・保健・看護のトピックスを用いたセミナー形式の授業で、文献検索、意見発表、意見交換、プレゼンテーション、レポート作成等を行い、大学で学ぶための必要なアカデミックスキルを修得し、看護学に対する学びの意欲を高める。	
授業科目名	情報科学	汎用ソフトウェアの基本機能を利用し、ソフトウェア相互のデータ変換ができるように情報リテラシーを向上させる。リスク管理や情報倫理を理解しつつ、インターネット環境でのデータ処理ができるようにする。講義と演習により、ワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの操作方法を修得し、汎用ソフトウェア間のデータの変換や移動、課題に即して必要となる情報を収集、整理、加工して結果を表現するための情報活用能力を身につける。	
授業科目名	基礎統計学	健康や疾病に関する統計を理解するための基礎として統計学の考え方、基本的な統計分析技術を修得する。具体的には健康や疾病に関連するデータ（血圧値や血液検査データ）を用いて、データの分布やバラツキ、平均値と標準偏差の関係、連続量と離散量データの取り扱い、統計学的推定や統計学的検定、相関関係などの基本的な分析技術を修得する。これらを学修することにより、保健統計学や疫学を理解、看護研究の基盤とする。	共同方式
授業科目名	問題解決法	現代社会はモデルのない時代であるといわれるが、そのような中において、自らの課題をどのように設定するのか、具体的なあるべき姿はどのようにして描いていけるのかなどが課題となる。問題解決法とはこれからの人生設計・自己実現のために何を人生の目的とするのか、その目的のために具体的な目標を立てそれに向かって具体的な計画を立てていくためのポイントなどを取り扱う。	
授業科目名	哲学	西洋哲学、東洋哲学についての基本的な概念を学び、日常的なテーマを使った発表や議論を通じて、哲学を実践的に学ぶ。看護は実践の科学であると共に、看護の対象となる人との相互関係においては、哲学的な思考が有用となる場合も多い。哲学と哲学的思考法を、演習形式を通じて身につけることを目的とする。	
授業科目名	英語Ⅰ	グローバルな現代社会において事実上の国際語となっている英語のコミュニケーション能力を養う。「読む・書く・聴く・話す」の4技能について、各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語Ⅰ」では、日常生活及び将来的に看護の現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用いる。医療英語（Medical Term）をはじめとして、専門的な語彙力を高めることを目標とする。具体的には医療の専門用語の覚え方やそれを用いた会話や文献の読み方を学ぶ。	
授業科目名	英語Ⅱ	グローバルな現代社会において事実上の国際語となっている英語のコミュニケーション能力を養う。「読む・書く・聴く・話す」の4技能について、各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語Ⅱ」では、「英語Ⅰ」の続編として、将来的に看護の現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用い、複雑な会話やコミュニケーションができる能力を養う。また保健医療に関する文献等を使い、その読解力を向上させる。保健医療の用語を英語で表現し、自らの意見も英語で表現できることを目指す。	

授業科目名	英語Ⅲ	グローバルな現代社会において事実上の国際語となっている英語のコミュニケーション能力を養う。「読む・書く・聴く・話す」の4技能について、各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語Ⅲ」では、将来的に看護の現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用いる。専門性の高い語彙や臨床ベッドサイドの英会話など、看護職に関連する高度な語彙力、コミュニケーション能力を向上させる。それまで学んだ英語の知識をもとに会話し、医療に関する課題について意見交換ができることを目指す。	
授業科目名	英語Ⅳ	グローバルな現代社会において事実上の国際語となっている英語のコミュニケーション能力を養う。「読む・書く・聴く・話す」の4技能について、各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語Ⅳ」では、保健医療や看護関係の英文の文献や記事を教材とし、それらの基本的な知識と基礎的な読解力を育む。専門性の高い英語文献に触れることで、将来の看護の研究にも役立てる。	
授業科目名	日本語Ⅰ	日頃は無意識に使っている日本語であるが、果たして正しい日本語を使って話していたのか、また、文書を作成していたのかを振り返り、正しい日本語の使い方について学ぶことがこの科目の目的である。その一連のプロセスを通して日本語を客観的に分析することができることを目指す。国際人になるためには、まず求められることは母国語である日本語を正しく話し、正しい文書を作成し、発表することができることである。その全過程を通して、正しい日本語の使い方ができることを目指す。	
授業科目名	日本語Ⅱ	コミュニケーション力の基礎として、自己の考えを論理的に明確に、相手に表現する能力が求められているが、それらの能力の育成のために、問題意識を持つこと、自分の意見を持ち、情報を選択し、整理する能力を高め、論理的にもの考えることが求められている。さらに、相手（他者）の立場に立って考えることができるためにはどのようにすることが必要なのか、幅の広いものの考え方、見方をするようにして、他者の発言を注意深く聞くようになり、ひいては協調性を養うことができることを目指す。	
授業科目名	手話	「コミュニケーション」は、情報の伝達、連絡、通信の意味だけでなく、意思の疎通、心の通い合いという側面もあり、互いに理解し合うことでもある。コミュニケーションの障害を持った人との意思の疎通のためにどのようにしたらよいのかを、本科目では手話を通して考える。すなわち、コミュニケーション行動の機能は、たんに情報の伝達にとどまらず、情動的な共感、さらには相手の行動の制御をも幅広く含んでいることを意識することが求められている。コミュニケーションの成立のために、何が必要であるのかを手話を通じて理解を深める。	
授業科目名	中国語Ⅰ	中国語の基礎について学修する。中国語で読む、書く、話すなどの総合コミュニケーションの能力の養成を目標とする。まず発音記号であるピンインを学び、その後、中国語の表現の仕組みを理解し、簡単な日常会話ができるようにする。中国語の基礎として、音節の構造、声調練習、母音、子音から始め、しっかり発音を練習する。挨拶や自己紹介から始め、簡単な会話ができるように、多くの会話練習ができるような講義を目指す。	
授業科目名	中国語Ⅱ	「中国語Ⅰ」の続編として、「中国語Ⅰ」で学んだ発音、会話、読み書きについて、より発展的に学修する。コミュニケーション能力養成では、中国を旅行する場合の会話、来日中国人観光客との会話について練習する。また、来日中国人観光客が、病気等で日本の医療機関に受診する際の会話についても学ぶ。語学の学修と同時に、中国語の基盤となっている中国の社会や文化についても理解を深める。	
授業科目名	自己管理と社会規範	自己管理とは、自らをどう律するか、自身の行動を自発的に管理、コントロールすることを言い、看護職には、自己管理能力と共に、看護の対象となる人の自己管理能力を高めるための能力をも期待されている。また、自己管理をするにあたって必要となる要素には、感情のコントロール、意欲やモチベーションを保つこと、目的意識を持つこと、時間管理、体調の管理などがあり、どのように保つのかを、社会規範との関連の中で具体的に学修する。	
授業科目名	チームワークとリーダーシップ	人はさまざまなチームの中で仕事をしており、最大限に効果的・効率的にチームが機能していくためには、チームワークとリーダーシップの問題を避けて通ることはできず、将来の看護の職務においても重要な概念である。チームの中で各メンバーはどうふるまうか、リーダーの行動が全体にどう影響するかなど、チームワークとリーダーシップの各機能を学修し、各個人の資質や持ち味を活かすアプローチになるのかを事例を交えて講義する。	

授業科目名	他者理解と信頼関係	人との信頼関係を構築するには自己理解と共に他者理解が必要となる。自己理解には自分自身を客観的に評価して、その自分を受け入れると共に、他者を知りたいという姿勢を持ち、自分とは違う考え方や見方をする他者という存在を認めること、世の中にはさまざまな価値観や性格、そして生き方もさまざまであることを認識し、それらを受け入れることが大切であること、他者理解を深める具体的な方法を学修する。	
授業科目名	健康と運動（体育）	体を動かすことは、人間にとって本能的欲求であり、心と体を快適・爽快にし、身体機能の維持向上や代謝、内分泌、自律神経などの恒常性ホメオスタシスを正常に保つために必要不可欠な機能維持方法である。超高齢社会にあつては、毎日無理なく、バランス良く正しい方法で運動を生活に取り入れることが重要であり、本科目では体育授業を通じてその方法を学ぶ。	
授業科目名	地域活動と社会貢献	社会貢献は、その活動が他者に強制されたものではなく、自発的・自主的な活動であること、中でも地域活動としての社会貢献活動は、その活動自体が公共的、社会的であり、自己実現欲求の充足等が活動の意義や要素と考えられる。社会貢献活動を通じて、住民の様々な意向やニーズを直接的に把握し、社会的な課題として顕在化させ、社会に反映させていく役割が期待されており、質の高い看護活動を更に深化させることにもつながることを理解する。	
授業科目名	現代の倫理	現代社会における様々な倫理の問題について、具体的なテーマを使って考察し理解を深める。現代社会のジレンマや難問に直面したとき、どのように考えるのがよいのか、その示唆を与えてくれる考え方を学修し、看護の対象となる人の理解につなげることが科目の目的である。	
授業科目名	心理と行動	心理学は人の心や行動のメカニズムを研究する学問であり、また、行動科学はその心理学の手法を応用して現代社会における人の行動を広く研究する学問である。この科目では社会の中で人がとる行動のメカニズムや対人関係、集団心理などの社会的行動などを心理的側面から分析し、人間の理解を深めることが目的である。	
授業科目名	学習と行動	学習と行動の関係について、今日までに蓄積されてきた様々な科学的な研究結果から体系的に学修する。学習として代表的なオペラント条件づけや観察学習、レスポナント条件付けなど、行動と学習は非常に密接に関連していることが分かっており、それらの関係について、人間の理解の方法として理解を深める。	
授業科目名	健康と生活	健康と生活との関係について学修する。基本的な生活習慣として、食生活、睡眠、嗜好、社会参加などがあげられるが、様々な生活習慣と健康の関係について学修する。これらの生活習慣は健康に直接大きく関連しているのみでなく、特に食生活を例にとると、楽しさといった生活の質にも大きく関係する要素である。また、高齢者では生きがいなども健康と密接な関係があることが明らかになっている。	
授業科目名	岐阜県の歴史と文化	学外のフィールド調査を通じて、岐阜県の郷土の歴史、祭りや受け継がれる伝統、自然環境や生活を理解することで、岐阜県の歴史と文化について学び、地域の特性、長所や課題についても理解する。江戸時代より蘭方医学として発展してきた岐阜県の保健医療の歴史や文化についても知見を深める。授業ではアクティブラーニング的手法を重視し、学生自身による調査、研究、発表等により授業を進める。	
授業科目名	多文化と多様性の理解	医療の場では、国籍や人種、文化、宗教、生活習慣、国際的な出産の文化と歴史、ジェンダー、セクシュアリティ等、個々の患者の多様性を看護職者として理解し、信頼関係を構築して看護ケアを実践することが求められる。この科目では、異文化理解や異文化コミュニケーションに関連する文献等を通じて異なる文化を理解し、多文化社会に触れる機会を持ち、実際に看護の現場で起こる課題に対応できる知識や非言語コミュニケーションスキル等を学修し、多様な文化背景を持つ人を受け入れる能力を養う。	共同方式

授業科目名	人体構造機能学Ⅰ	人体のしくみ・解剖学的構造を各器官のはたらき・生理学的機能と関係付けて学修し、機能形態学から生命現象の基本を理解する。前半は人体の構成と機能（骨格、関節、筋肉、感覚、脳・神経系、内分泌、循環、血液、呼吸）に関する肉眼的形態について学び、後半は多細胞生物の成り立ちを細胞レベルで理解するために細胞の構造と機能、細胞の増殖・分化、老化について細胞生物学的な理解を行う。	
授業科目名	人体構造機能学Ⅱ	人体の基本的な組織学的構成について学修する。骨系、筋肉系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器、内分泌系、血液造血器系、感覚器等の各臓器について、解剖学的、組織学的な構造を生理学的な機能と関連づけて理解する。呼吸器系、循環器系、筋肉系、神経系の各形態と機能の概略、神経の興奮と伝導・伝達、泌尿器系ではその形態や尿の生成とその排泄、生殖系では生殖細胞からの性の決定と妊娠から分娩までのプロセス、消化器系では口腔から直腸までの消化と吸収、栄養と代謝、他に内分泌、血液、感覚器の基本についても学修しその理解を深める。	
授業科目名	人体構造機能学Ⅲ	人体の各機能とその制御機構について学修する。生物が生存のために常に身体の内部環境を一定に保つために、生体の各臓器、各部分がどのように機能しているのか、またその機能を制御統合している機構について、感覚器、神経系の形態的特徴とともに理解する。人体の発生、基礎代謝と体温調節、内部環境（電解質、酸塩基平衡）、生体内情報伝達（神経系、ホルモン、各種伝達物質等）、各中枢神経の構造と機能、脳の統合機能について学ぶ。また感覚器、自律神経の構造と機能及びそれらの相互作用についても理解を深める。	
授業科目名	栄養代謝学	栄養とは生物がその生命を維持するために外界から必要な物質を取り込んで利用する働きであり、取り込んだ物質を利用するために分解したり、取り込んだ物質を材料に、生命が必要とする物質を合成したりする働きを代謝と呼ぶ。本講義では、ヒトの生存に必要な三大栄養素を中心に、どのような構造の物質か、生体内におけるその役割、どのように消化・吸収されるか、細胞内でどのように代謝されるか、疾病との関わり等、主として生化学的な観点から学ぶ。	
授業科目名	人間の生殖と発達	女性のみならず男性の身体と心の特徴もふまえながら、人間にとって健やかな「性と生殖（セクシャリティ）」について、理解を深めていく。また、女性および母性の健康に影響を与える文化的および社会的環境についても理解し、現代社会における問題や課題について、グローバルな視野で考えることをめざす。ライフサイクルの各期で生じる可能性のある健康上の問題について理解を深め、専門職者と協働した健康の保持増進のためのヘルスプロモーションについて学ぶ。	
授業科目名	人間の健康と社会・心理的適応	健康という切り口から人間や社会について理解を深めるとともに、社会や環境が人間の健康にどのように関わっているのかについて理解に努める。また、人間の健康を維持・増進するために社会や環境がどうあるべきかについても理解する。さらに、日本が取り組んでいる健康政策の変遷から、今後、我が国が取り組むべき健康に対する課題について学修する。	
授業科目名	生体防御学	免疫系による生体防御機構について学修する。免疫系は身体を外界の異物から守り、生体の恒常性を保つために必須な機能である。様々な感染症やアレルギー疾患、癌の問題など、現代の医学、医療において免疫系が関わる様々な問題は少なくない。本講義では、免疫系の仕組み、免疫細胞、免疫関連分子、自然免疫と獲得免疫等を中心に、生体防御機構について体系的に学ぶ。	共同方式
授業科目名	栄養治療学	食べ物に含まれる栄養素の働き、消化と吸収、生体内での代謝など、栄養学の基礎について学修するとともに、健康な生活を送るための生活習慣病予防やライフステージ別の栄養管理について学ぶ。また、病院における栄養管理の概要や、代表的な疾患別の食事療法、についても理解を深める。	
授業科目名	医療薬理学	薬理学および薬物治療学の基礎と臨床応用の知識について講義する。薬物は各種臓器別に使用される医薬品の薬理作用とその機序について学ぶ。疾患治療に使用される薬物の基本作用と機序を理解し、臨床で使用されている薬物について中枢神経、心臓血管系、消化器、抗感染剤、抗悪性腫瘍、薬物中毒などの各論につなげる。また代表的な医薬品についてその機能を理解する。病態との関連について臨床現場で役立つよう、臨床薬理に重点を置き講義する。	

授業科目名	病理学	さまざまな疾病の原因を科学的に理解し、疾病の機序を学びその結果として人体にどのような影響が現れるか、特に組織の構造や機能に現れる変化について学ぶ。授業では、病理学の概要、細胞、炎症、免疫とアレルギー、感染症、循環障害、代謝異常、内分泌臓器の分泌ホルモンと機能、新生児の病理と先天異常、血液と骨髄、肺、消化管、肝臓、膵臓、腎・泌尿器の病理について体系的に学修する。	
授業科目名	疾病治療論Ⅰ（成人A）	看護学を学ぶ上で必要な疾患・治療についての基礎的知識を修得することを目的とする。生体・臓器の形態や機能についての知識を深めながら、成人期の代表的な疾病と症状の関係について学修し、症状と関連した検査項目の重要性やデータの読み方、評価法、疾患に対する代表的な治療法について理解し、主要な疾患について症状、成因、検査、治療法の知識を修得する。本科目では、呼吸循環器、血液、内分泌、栄養代謝系、アレルギー免疫、腎泌尿器疾患の病態を理解する。	
授業科目名	疾病治療論Ⅱ（成人B）	（概要）看護の対象である人間についての疾患、治療についての基礎的知識を多面的かつ包括的に修得することを目的とする。本科目では、成人期にみられる消化器・肝胆膵の代表的な疾患に加え、脳神経外科学、乳腺疾患、皮膚科学、整形外科、眼科学、耳鼻咽喉科学、口腔外科学における代表的な疾患の病態を理解し、適切な検査、診断、治療、予防法および予後について学ぶ。それぞれの障害が日常生活とどのような関連があるかを考え、健康から疾患に至る変化のプロセスを理解する。 （オムニバス方式 全15回）	オムニバス方式
授業科目名	疾病治療論Ⅲ（精神・高齢者）	（概要）看護学を学ぶ上で必要な疾患・治療についての基礎的知識を修得することを目的とする。本科目では、前半は代表的な精神疾患の病因、症状、検査、治療について、後半は高齢者に特有な疾患の病因、症状、検査、治療について学ぶ。 （オムニバス方式 全15回）	オムニバス方式
授業科目名	疾病治療論Ⅳ（小児・母性）	（概要）看護学を学ぶ上で必要な疾患・治療についての基礎的知識を修得することを目的とする。本科目では、前半は周産期の異常と婦人科疾患について、その病因、症状、検査、治療について学ぶ。後半は小児期の疾患、障害の特徴について理解し、小児期の循環器系、呼吸器系、消化器系、染色体異常等の代表的な疾患と治療の概要について学ぶ。 （オムニバス方式 全15回）	オムニバス方式
授業科目名	公衆衛生学	公衆衛生の概念と歴史について学び、併せてプライマリ・ヘルスケア、ヘルスプロモーションの理念を踏まえて、集団を対象とした健康の保持、増進、疾病予防の全体像について理解を深める。公衆衛生の健康指標、保健医療福祉制度について理解し、地域、学校及び産業の場における公衆衛生と保健所の業務、食品衛生管理や労働衛生管理など、様々な公衆衛生活動と看護師・保健師の役割について学ぶ。	
授業科目名	疫学	疫学の基礎的な方法論を修得し、健康関連事象を科学的に観察する能力を養うために、1)疫学の方法論、2)集団の健康状態を把握する方法や指標の計算、3)疫学的方法、4)疾患の予防とスクリーニング、5)感染症、生活習慣病の疫学を学修する。初学生にとっては難解な言葉も多いが、具体例を示し、学生の身近な事例、地域、国際状況と照らし合わせながら、身近な問題を疫学的な視点で研究する基礎を養う。	
授業科目名	保健統計学	国民の健康、生活衛生の動向を把握するために、国レベルのデータの解説や、関連する健康指標について学修する。具体的には主として「国民衛生の動向」を用いてわが国の人口動態、国民生活基礎調査、患者調査などの主要統計、疾病構造の変化、生活習慣病の罹患状態を示す統計、感染症発生動向調査、食中毒統計等について系統的に学修し、国民の生活と健康の特徴を把握する。また、疫学・公衆衛生学との関連の理解を深める。	
授業科目名	社会保障論	社会保障は「生活の基本的必要の不充足による困難」を解決する方法として制度化されたものであり、具体的には医療保険、年金保険、介護保険といった社会保障制度、生活保護制度、社会福祉制度がある。本講義では、社会保障の基本的考え方、我が国における社会保障制度の歴史、現行の社会保障制度の現状およびその課題、社会保障に関する法律と制度、社会保障における行政の役割と財政上の問題等、社会保障制度の基本的知識を学修する。	

授業科目名	看護と関係法規	看護職者はその職務上、多くの法規に関連しており、保健・医療・福祉に関連した法規と制度についての基礎知識の修得が欠かせない。看護職の資格や業務が法でどのように定められているのか、看護職として適切に職務を遂行するための法的根拠や判断基準について、具体的な事例を用いて、看護職者の法的責任の理解を深める。また、人々の健康維持を図るためのサービス提供機関とそこに従事する職種・機能に関する基本的な規定について法律を通して理解する。看護実践に関連する予防衛生法や環境衛生法規についても学修する。	
授業科目名	保健医療福祉行政論	日本における社会保障・社会福祉の歴史および制度、それぞれの制度が果たしている役割について学修する。また、保健・医療・福祉行政の理念と法制度、社会資源について学修する。さらに、住民の基本的な権利としての権利「健康」をサポートするために、公衆衛生やヘルスプロモーションなどによる地域づくりとそれを行なうしくみについて理解を深める。特に近年進められている社会保障制度改革から、地域包括ケア、地域医療構想など保健・医療・福祉行政分野の喫緊の課題についても詳しく学ぶ。	
授業科目名	保健看護情報学	医療における情報科学の発達により、看護職者には情報通信技術(ICT)の活用能力が求められている。インターネットを活用した地域医療連携システム、電子カルテなどのICTの仕組み、データの収集と情報処理、個人情報を取り扱う上での倫理と法律、個人情報の管理と漏えい防止について学習する。看護職者の取り扱う医療情報について、患者の疾病管理や看護ケアを構するうえでの重要性を理解し、看護実践に活かす能力を養う。	
授業科目名	看護学概論	本学部で学ぶ看護学全ての導入科目である。「看護とは・看護の対象とは・看護師とは・専門職とは・看護ケアとは」何かを学ぶとともに、看護の目的や看護教育制度から看護学生に何が求められているかを理解し、専門科目の学修や臨地実習に取り組むことができるようにする。また、人間の生命・尊厳・生活に関わる権利を尊重するための倫理観を養う。さらに、看護の歴史的発展を踏まえて看護の代表的な理論や看護モデルを学び、自己の看護観の形成に役立てる。	
授業科目名	看護援助方法論Ⅰ	看護活動の場において、さまざまな健康段階・発達段階にある人々への看護の基盤となる、生活行動の援助としての看護技術について学修し修得する。本科目では、看護職として対人関係を築くために必要なコミュニケーション技法、看護の対象を生物心理社会モデルでとらえることができる面接技法を習得した後、有害なものに対する防御を支援するケア、身体機能を支援するケア、ヘルスケアシステムの有効な利用を支援するケア、心理機能を支援しライフスタイルの変容を促進するケアを実践するための基本的な看護介入の技術の方法を修得する。	
授業科目名	看護援助方法論Ⅱ	看護援助方法論Ⅰで学んだエビデンスに基づいた看護介入の方法の知識を活用し、看護活動の場において、さまざまな健康段階・発達段階にある人々への看護の基盤となる生活行動の援助としての看護技術について、学内の実習室にて演習を行う。具体的には、衛生手洗い、擦式アルコール手指消毒、感染性廃棄物取り扱い、防御用具装束ベッドメイキング、基本的体位・良好な体位、体位変換、車いすへの移乗・移送、ストレッチャーへの移乗・移送、療養上の環境調整、臥床患者のリネン交換、寝衣交換、摂食介助および口腔ケア、清拭、部分浴、洗髪、排泄ケアの技術を修得する。	
授業科目名	看護援助方法論Ⅲ	本科目では、看護活動の場において、さまざまな健康段階・発達段階にある人々の診療援助にかかわる看護技術とそのエビデンスについて演習を通じて学修する。具体的には、生命の兆候を観察する技術、感染予防の技術、検査に伴う看護技術、与薬の技術、創傷管理技術等を通じて、リスク管理、身体機能調節を支援するケア、ヘルスケアシステム、恒常性調節を支援するケアを実践するための基本的な看護介入の方法を修得する。	
授業科目名	看護過程演習	看護過程について理解し、実践に活用するための方法を学ぶ。看護過程に必要な知識と技術を活用し、正しい看護診断が導ける判断力を養成するため、模擬患者を使用した授業を行う。看護の対象に有効な看護介入と成果を選択し、実践可能な計画を立案し、看護の対象との関わりで得た情報を、客観的に言語化した記録として伝達できる能力を身につける。さらに、対象により異なる理論を用いて看護過程を展開する能力を修得する。	
授業科目名	フィジカルアセスメント	看護の対象の健康状態や病状、看護援助に関する情報を、系統的に収集しアセスメントする技術を身につける。看護におけるフィジカルアセスメントの位置づけ、頭部から爪先までの身体を系統的に診察する技術とそのアセスメントについて解説する。演習では、頭頸部、眼・耳・鼻・口・胸部(肺・胸郭/乳房・リンパ系/心臓・血管系)、腹部、直腸・肛門・外性器・鼠径部、四肢(筋・骨格筋系/末梢血管系、神経系)の系統別に診察を行い、その結果のアセスメントを行う。	

授業科目名	看護マネジメント	看護マネジメントの概念と機能、看護部門のマネジメント、医療・看護の質、看護政策などについて学び、看護マネジメントの必要性と重要性を理解する。具体的には、病院経営、看護政策、看護部門マネジメント、看護人材マネジメント、看護目標管理、医療・看護の質保証等について理解を深める。医療提供体制の中で、看護管理者の果たす役割と今日的課題についても考察する。	
授業科目名	看護理論	(概要) 看護理論家たちが「看護とは何か」を問い、探求し、その結果を著した看護の本質論である看護理論に接する。看護理論の発達、理論の発達過程、年代に沿って主たる理論家とその理論概要を紹介する。看護実践に必要な主な看護理論を取り上げ、その理論について考察する。成人看護学、母性看護学、小児看護学、老年看護学のそれぞれの領域における看護理論について学び、将来の看護実践につなげる。 (オムニバス方式 全8回)	オムニバス方式
授業科目名	看護倫理	看護を实践するうえで看護倫理は基盤となることを理解し、基礎的な知識として倫理の原理原則や看護者の倫理綱領、臨床倫理の諸問題、看護上の倫理概念(アドボカシー、責務と責任、ケアリング)などについて、事例を用いながら学ぶ。後半では、感受性を高めるためのセクション、最後に倫理的問題を解決するための方法を学び、事例を展開させながら検討・発表会を行う。学生は、本科目の過程で自身の倫理的価値観を省察する。	共同方式
授業科目名	感染看護論	感染上の問題を持つ感染症患者および易感染患者の看護について、看護上の必要や特徴に基づき、①感染症ならびに感染対策の歴史を踏まえた感染症患者や家族への看護のあり方、②地域および病院における感染症の発生要因と防止方法、③国際感染症と感染防止対策、④感染症患者のQOLの維持、向上のための看護と家族への支援を学ぶ。また、当事者参加講義を通してHIV感染者の生活について考えを深める。	
授業科目名	基礎看護学実習Ⅰ	本臨地実習では、医療・福祉施設において療養生活をおくる対象者を受け持ち、生活環境の整え方、療養生活の過ごし方、日常生活の援助方法を対象者の立場に立って理解し、看護学生として自己の課題を明確にする。実際面では、対象者の療養生活の過ごし方を、対象者の立場から観察し、療養生活をおくる対象者の生活環境や日常生活の援助方法について実地に学ぶ。対象者の立場や倫理的態度について理解し、看護の機能について学ぶ。さらに実習で関わる全ての人たちに、看護学生として他者を重んじる行動をとることで、看護職者に求められる基本的な態度を修得する。	共同方式
授業科目名	基礎看護学実習Ⅱ	本臨地実習では、医療機関において健康障害により入院生活を送っている対象者を受け持ち、看護過程を展開する基礎的な能力を修得する。看護に必要な情報を適切にアセスメントし、看護上の問題を明確化し、それを言語化する能力、また看護計画を立案し実践できる能力を身につける。これらの看護過程を通して、看護職として必要な態度を修得する。	共同方式
授業科目名	地域・在宅看護学概論	在宅療養者が、望む住まいでその人らしく健やかに療養生活が送れるよう、地域医療・ケアシステムの中で個別的看護を行うための基礎的な能力を養う。在宅看護ケアの基盤となる保健・医療・福祉制度について理解し、在宅看護の対象の疾患、療養状況、療養環境を踏まえた在宅ケアのありかたについて考察する。在宅のケアシステムにおける多職種連携や、地域の社会資源やネットワークについても理解を深める。	
授業科目名	地域・在宅看護援助論Ⅰ	在宅看護の対象である在宅療養者・要介護者とその家族への理解を深めるとともに、在宅看護で必要とされる基本的な生活援助技術について講義・演習を通して修得する。在宅看護で必要とされる基本的な能力として、在宅看護の展開能力、在宅における面接技術と観察技術、訪問看護の実際、訪問看護制度、在宅における面接技術、在宅におけるアセスメント能力を修得する。	共同方式
授業科目名	地域・在宅看護援助論Ⅱ	対象別の在宅看護の実際に基づき、在宅看護に必要な知識・技術について講義・演習を通して学修し、必要なケアプランと援助を見極める判断能力を養う。在宅看護における紙上事例を展開し、在宅療養者とその家族に対する看護につなげる思考過程と必要な援助方法について考察する。さまざまな障害のある人とその家族の看護の紙上事例に対する看護過程を展開し、実践的な援助能力を身につける。	共同方式

授業科目名	地域包括ケア論	高齢者が、住み慣れた地域で介護や医療、生活支援サポート及びサービスを受けられるよう市区町村が中心となり、住まい、医療、介護、生活支援・介護予防を包括的に整備していく「地域包括ケアシステム」を中心に、地域包括ケアの理論と政策について学び、在宅看護、高齢者看護の側面から、看護職として必要とされる基本的な知識と能力を身につける。地域包括ケアの中における看護職者の役割と機能について、理解を深める。	共同方式
授業科目名	地域・在宅看護学実習	本臨地実習では、地域で生活している在宅療養者・要介護者・その可能性のある者とその家族への理解を深め、在宅療養者の療養生活の継続を支援するために必要な看護の知識と技術、在宅看護過程の展開について実践的に学ぶ。地域の保健・医療・福祉サービス機関と連携しながら、対象に応じた看護を実践するための能力と態度を養う。訪問看護ステーションや地域包括支援センターでの実習を通じて、在宅療養者と家族の理解、対象特性に応じた援助方法、地域ケアシステムにおける保健・医療・福祉領域の社会資源の理解、関係機関・職種の連携協働の実践方法を修得する。	共同方式
授業科目名	岐阜県の地域医療	(概要) 岐阜県は、岐阜、西濃、中濃、東濃、飛騨の5地域に区分され、都市部から山間部に至る多様な地域が、広大な県域に含まれている。岐阜県の地域医療について、その特色と現状を、医療、保健、住民の健康、高齢者福祉、介護等の観点から、将来の保健医療構想も含めて包括的に学修する。岐阜県における地域包括ケアシステム、岐阜県保健医療計画等の行政施策についても学び、その保健医療の地域特性について深く理解する。本講義を通じ、岐阜県の地域の特性を実践的に理解し、医療専門職に求められるその活用方法を考察し、卒業後に地域に貢献する看護職として必要な知識を身につける。 (オムニバス方式 全8回)	オムニバス方式
授業科目名	終末期看護論	人間の生命の捉え方、終末期にある人々を全人的に理解し、その人らしさを重視した看護援助方法について学ぶ。終末期にある人々の治療や症状緩和について理解し、緩和の方法について学ぶ。また、看取りをする家族について理解し、その援助方法について学ぶ。終末期医療における倫理的課題についても考え、終生期を支える医療施設、福祉施設、地域でのケアについても理解を深める。	
授業科目名	成人看護学概論	成人期のライフサイクルに沿った健康課題について、そのセルフケアと療養を支える看護実践を学ぶ。成人各期の発達段階についてそれぞれの身体的特徴、心理・社会的特徴、家族・社会的役割について理解し、急性期にある患者とその家族の身体的および心理的特徴を基礎理論（生体侵襲理論、危機理論等）を用いて理解する。また、慢性的な病気を持つ人々の健康問題の特徴を踏まえた看護についても学ぶ。成人看護学の対象となる人々への援助に必要な理論と看護診断の概要を理解し、その健康課題について、身体的・精神心理的・社会的情報から、包括的にアセスメントし、支援できることを目標とする。	
授業科目名	成人看護援助論Ⅰ（急性期）	成人、老年といった各年代に応じた急性期や重症な状態、周術期にある患者の特徴を理解し、生命維持、身体的リスクの低減と症状緩和、安全と安楽の保持等のための看護実践を学ぶ。生命危機的な状況にある対象者の呼吸・循環管理、フィジカルアセスメントを用いた全身状態の観察法、救急看護法やクリティカルケア実践に必要な看護技術を修得する。また回復期にある患者の心身の回復過程を理解し、個の特性に応じて生きることを支える看護実践を学ぶ。	共同方式
授業科目名	成人看護援助論Ⅱ（慢性期）	疾病をもちながら生きる対象の思いや生活、治療過程を理解し、セルフケアを伴う社会生活を支える看護実践を学ぶ。慢性病を持つ対象者の健康障害・疾病の特徴とライフヒストリーを理解し、その人のQOLを尊重した自己管理に繋がる看護援助法を修得する。健康状態の変化によって引き起こされる患者の身体的、心理的变化を理解し、慢性病を受容し主体的に生きるための看護援助方法を学ぶ。がん患者の看護（手術、化学療法、放射線療法、緩和ケア等）、長期療養を必要とする慢性疾患の看護についても学ぶ。	
授業科目名	成人看護援助論Ⅲ（急性期）	成人期の健康問題が家族に及ぼす影響を考え、成人の特質をふまえた主要な理論に基づいて、健康状態を的確にアセスメントすることができるとを目的とする。さらに、病気や入院中であっても、成人が主体的に治療・処置に取り組めるような看護方法を選択し、実践するための知識と基本的技術を修得する。成人期によくみられる代表的な疾患の事例を通して、看護過程の展開方法について学び、成人期看護援助技術を演習を通して修得する。	共同方式

授業科目名	成人看護援助論Ⅳ（慢性期）	成人期の健康問題が成人期と家族に及ぼす影響を考え、成人の発達過程の特質をふまえた主要な理論に基づいて、健康状態を的確にアセスメントすることができることを目的とする。さらに、病気や入院中であっても、成人が主体的に治療・処置に取り組めるような看護方法を選択し、実践するための知識と基本的技術を修得する。成人期の代表的な疾患の事例を通して、看護過程の展開方法について学び、成人看護援助技術を演習を通して修得する。	共同方式
授業科目名	成人看護学実習Ⅰ（急性期）	本臨地実習では、成人期における急性期や周手術期にある看護対象者の特徴をふまえ、健康レベルに応じた援助について実践を通して修得する。具体的には、周手術期の対象者を受け持ち、系統的な情報収集と収集した情報に基づいたデータベースや関連図の作成を行ない、看護問題を抽出し、対象の個別性に応じた健康回復に向けての援助計画の立案、実施、評価の一連の看護過程を展開する。講義・演習で修得した知識・技術を活用し、行動計画に基づいた看護実践を展開する。実践した看護への評価において、残された課題をフィードバックできる力も養う。	共同方式
授業科目名	成人看護学実習Ⅱ（慢性期）	本臨地実習では、慢性期にある対象の健康障害と治療への反応が、発達段階および生活過程に及ぼす影響をふまえ、対象がより最適な健康状態となるように、セルフケアの修得などの援助について、実践を通して修得する。慢性期および終末期にある対象者を受け持ち、講義・演習で修得した知識・技術を活用し、コミュニケーションやフィジカルアセスメントにより系統的な情報収集を行い、アセスメント、看護診断、援助計画立案、実施、評価の一連の看護過程を展開する。	共同方式
授業科目名	成人看護学最新ケア論	成人看護学の最新のケアの方法論について、実際の臨床現場の知見や研究成果を基に、実践的に学ぶ。特にがん看護や終末期看護については、医療技術や治療方法の高度化、複雑化、多岐化が近年著しく、また疾病と治療についての社会的な関心や要請も日々大きなものとなっている。本科目では、臨床現場の実際の事例を中心に、成人看護におけるケアの実践について、実際の事例を用いて理解を深める。	共同方式
授業科目名	老年看護学概論	老いと、老年看護の対象となる人々の特徴、及び老年看護の基本となる考え方について科学的根拠に基づき理解し、複数の疾患や障害を抱えつつ老年期を生きる高齢者の暮らしや、望みを知る。さらに高齢者の尊厳あるケアと看取りについて学修し、高齢者と家族の意向を理解して意思決定を支え、地域包括ケアの実現に向けての課題や、多職種協働の視点とストレンスを生かした地域づくりと老年看護学の課題を探究する。	
授業科目名	老年看護援助論Ⅰ	高齢者とその家族を生活機能の視点から考え、高齢期特有の疾患や症状・機能障害の特徴とその要因・誘因を知り、生活機能の未充足を満たす具体的な看護について創造的・実践的に理解する。すなわち、それらの疾患や障害が、高齢者の生活にどのように影響するのかを理解し、高齢者のセルフケアの促進や予防を含めた看護について探求し、高齢者が“その人らしい生活”を実現できるための基本的な看護技術を学ぶことをこの科目の目的とする。	共同方式
授業科目名	老年看護援助論Ⅱ	高齢者が築いてきた生活史を知り、持てる力に着目して、豊かな人生の統合へと向かっていけるような支援方法を学ぶ。特に認知症高齢者の自己決定を支える看護や、権利擁護とその家族の支援について学びを深め、高齢者が望む生活や状態像を見据えた看護過程の展開ができることを目的としており、高齢者とその家族のQOLを高める看護活動について考え、高齢者が人生の最期まで尊厳を持って生活するための支援について学修する。	共同方式
授業科目名	老年看護学実習Ⅰ	本臨地実習では、デイケア・デイサービスを利用する在宅高齢者とその家族の思いや、サービスの現状を体験することで高齢者の保健・医療・福祉の課題を知り、その後の学びの動機づけを図る。また、福祉用具等の見学を通じて、地域で生活する高齢者を支える地域資源について実地に理解し、在宅高齢者への看護活動の場の理解と、加齢や疾病・障害によって損なわれた諸機能を維持・向上させる自立支援への知識を深める。	共同方式
授業科目名	老年看護学実習Ⅱ	本臨地実習では、介護老人保健施設に入所している慢性疾患や健康障害を持った高齢者を受け持ち、疾患や障害を持ちながらも、その人らしく生活を営むことができるための目標志向型の看護過程の展開・評価を行い、高齢者のニーズに合った看護実践力の向上をめざす。さらに健康及びQOLの維持・向上のための援助方法について学ぶとともに、高齢者観を深め、多職種で協働することを通じて高齢者看護の専門性と独自性を探究する。	共同方式

授業科目名	認知症ケア論	老年看護学概論や援助論などでの既習の認知症の看護の専門的知識に基づき、さらに多面からケアのあり方を考察する。認知症高齢者のQOLの向上に向け、認知症の進行と日常生活・社会生活に適應するための生活環境の整え方や進行に伴う行動変化への看護を学ぶ。さらに、ゲストスピーカーの参加により、サポートのあり方やリスクマネジメントについても学び、認知症ケアの実践に向けその理解を深めていく。	
授業科目名	小児看護学概論	現在の小児と家族がおかれている状況について、諸統計や小児看護の変遷などから概観し、小児の権利擁護の視点から小児看護の目標や役割、課題について理解する。小児各期の成長・発達の特性を理解し、あらゆる健康レベルや発達段階に応じた小児と家族への援助について学ぶ。また、小児がひとりの人間として尊重され、その子らしく生活できるような支援のあり方について理解し、小児看護の役割と看護上の倫理を学ぶ。	共同方式
授業科目名	小児看護援助論Ⅰ	小児の心身の健康問題が小児とその家族に与える影響について考え、健康問題をもつ小児とその家族のニーズを把握し、適切な看護の方法を身につける。具体的には、病気・障害や入院が小児や家族に与える影響を理解し、さまざまな療養環境や疾病の経過における小児と家族への看護について基礎的な知識と技術を修得する。さらに、小児が主体的に治療・処置・検査に取り組むことができるような看護師の関わり方について理解する。	共同方式
授業科目名	小児看護援助論Ⅱ	小児の健康問題が小児と家族に及ぼす影響を考え、小児の発達過程の特質をふまえた主要な理論に基づいて、健康状態を的確にアセスメントすることができることを目的とする。さらに、病気や入院中であっても、小児の成長・発達を促し、小児が主体的に治療・処置に取り組めるような看護方法を選択し、実践するための知識と基本的技術を修得する。小児期によくみられる代表的な疾患の事例を通して、看護過程の展開方法について学び、小児看護援助技術を演習を通して修得する。	共同方式
授業科目名	小児看護学実習	本臨地実習では、健康な小児と健康障害をもつ小児の双方に関わる体験を通して、成長・発達過程にある小児の特性とその家族への関わりを理解する。小児の成長発達を促進し健康レベルに適した援助ができるよう、保育所・重症心身障がい児センター・総合病院等における2週間の臨地実習を通して、小児看護に必要な基本的な知識・技術・態度を修得する。	共同方式
授業科目名	母性看護学概論	リプロダクティブヘルス・ライツの視点から、母性の健康を支えるための看護を学ぶ。周産期の人は生理心理社会的変化や家族の変化への適応が求められ、その特性に適応した援助への理解を深める。人間のライフサイクルで性科学を学び、生殖期の女性の健康問題をwell-beingに看護実践できる方法論と母性看護の基本的概念を修得し、学生が内在化する母性観・父性観を確認し、対象への共感的理解能力を高め、社会的変遷や国際化社会における看護を理解する。	
授業科目名	母性看護援助論Ⅰ	周産期の女性及び新生児の心身の健康現象（生理的変化と病態生理・心理社会的変化）を理解し、対象の健康レベルをウェルネスな視点でアセスメントし、健康ニーズを充足する能力を身につける。対象の健康レベルのアセスメント能力と、看護実践を支える基本技術と日常生活への適応促進の援助技法、ハイリスク状況時の妊娠期・分娩期の女性に対するクリティカルな援助技法も修得し、母性看護の臨床看護実践に必要な基本的技術の修得を目指す。学生が内在化する母性観・父性観を確認し、対象を共感的に理解する視点も醸成する。	共同方式
授業科目名	母性看護援助論Ⅱ	周産期の女性と新生児の心身の健康現象（生理的・心理社会面）を理解し、対象の健康レベルをウェルネスの視点からアセスメントし、健康ニーズを充足する能力を理解し、ロイ適応看護理論で看護過程を展開し、看護倫理を判断した基本的母性看護実践能力を修得する。授業では母性看護実践に必要な基本的技術の修得や看護過程の演習を重点化し、ビデオ教材、保健指導媒体を活用する。	共同方式
授業科目名	母性看護学実習	本臨地実習は、地域の周産期医療の中核病院で周産期看護を実地に学び、妊娠期・分娩期・産褥期の母児の特徴と正常な経過を理解し、対象の社会生活を支える母性看護の基礎的実践能力を既修の科学的知識・技術・態度から修得する。妊産婦や早期新生児をロイ適応看護理論から母児や家族をアセスメントし看護過程を展開する。周産期の母子関係や家族への支援の重要性を理解し、切れ目のない包括的援助方法を修得する。実習を通し、生命の尊厳と生命を守り育てる大切さや、学生自身の母性や父性の理解を深める。	共同方式
授業科目名	妊娠出産子ども家族ニューボラ論	青年期や出産期、育児期の家族が健やかに生活する支援に必要な知識を学ぶ。子育て支援モデルのフィンランドのニューボラ概念を、学生がPBL法の主体的グループワークで文献学修する。日本の公助、共助、自助にみる妊産婦や子ども、家族への看護職者としての支援や役割を考える。地域や大学内での0歳児抱っこ体験や遊びの演習から、母性・父性・親性や子どもの発達、家族支援の実践を修得する。市区町村が中心の今の母子保健や、地域のソーシャルキャピタルから、将来的な切れ目のない子育て支援の日本版ニューボラを理解する。	共同方式

授業科目名	精神看護学概論	精神看護・精神保健の役割について、人が自己実現へと向かう過程を支えるために、心のしくみと発達、人間関係のダイナミクスなどの心の働きなどを前提に、人の精神的・身体的・社会的な援助の考え方を教授する。また、精神科で出会う人々の状態像や治療過程を学び、対象者の状況に対応した援助の根拠を学ぶ。最終講では、精神医療・保健福祉における今日的な課題を考察する。	
授業科目名	精神看護援助論Ⅰ	精神看護の基本的な援助の方法論を教授する。精神の状態像をアセスメントするための面談方法や対人関係論を基盤とした精神看護を通して、患者－看護師関係を形成する対人援助技術を演習する。さらに、グループダイナミクスを活用した援助技術の演習を通して、精神障害をもつ人や家族へのアプローチを理解する。これらの内容を通して、精神看護に必要な基本的なスキルやアプローチを学び、精神看護援助論Ⅱの具体的な精神看護の展開につなげる。	共同方式
授業科目名	精神看護援助論Ⅱ	「精神看護学概論」、「精神看護援助論Ⅰ」での学びを前提に、代表的な精神疾患や精神障害を持つ人の治療や看護を教授する。精神看護を实践するうえで基盤となる理論（ストレングスモデル）や精神状態の判断プロセスを用いて、事例の特徴に対応した看護展開の演習を行う。さらに、ロールプレイを通して治療的コミュニケーション技術を学ぶ。これらを通して、精神看護実践の基礎的な能力を養う。	共同方式
授業科目名	精神看護学実習	本臨地実習では、精神看護学実習の対象者の体験に添って、精神健康上の問題の陰にある生きにくさについて、その人の生活上の文脈において理解し、その人がその人らしく生きるための援助として、自らをケアの道具として最大限に活かし、患者－看護師関係を発展させていく能力を修得する。また、発達段階、状態像、回復過程の状況を統合的に判断し、ストレングスに焦点を当てた看護実践について実地に修得する。さらに、対象者が地域で生活するために必要な支援や多職種連携の実践を通して、精神科看護師の役割を実践的に修得する。	共同方式
授業科目名	ストレスマネジメント論	職場におけるストレスとその対処方法について学び、看護職が抱くストレスやそのサポートについて理解する。看護職となる上で、自身のストレスとその耐性、およびコーピングの方法を考え、ストレスマネジメント能力の向上を目指す。また、心身のストレスの予防に対応するための労働と生活のあり方や、職場におけるストレスマネジメントの方法について学び、その理解を深める。ストレスの心身の影響、職業性ストレスの概念について概観し、職業性ストレスによるメンタルヘルスや健康障害の状況を理解する。	共同方式
授業科目名	災害看護論	災害が人々の健康と生活に及ぼす影響、災害の発生時から直後、中期、長期にわたって必要となる看護について学ぶ。災害の概念や災害サイクル、災害の疾病構造、救急医療と災害医療の異なり、災害看護の特殊性について説明する。次いで、防災の重要性とその実際、災害時における人々の生命や健康障害を支えるために必要な災害看護実践の基礎的知識・技術について理解を深め修得する。最後に、災害時の国際的な協力活動について考察を深める。	
授業科目名	災害看護援助論	災害時に適切な看護ケアを提供するために、災害が人々の健康や生活に及ぼす影響を理解し、人々の健康や生活のニーズに応じた看護の果たす役割について学修する。授業内容は災害の種類と疾病構造、災害サイクルにおけるフェーズの特徴、災害に関する社会の仕組みや個人の備え、災害が人々に及ぼす影響と災害サイクルにおける看護活動等とし、災害発生時の被災者に向けた安全なケア環境の提供を行うための能力を身につける。	共同方式
授業科目名	地域医療論	高齢化社会を迎え地域で支える医療体制が必要とされ、地域医療における看護職の役割は大きく変化している。本科目では、在宅医療において看護職がチームに参画し適切に支援できるように、在宅患者のケアと看護職の果たす役割に焦点を置き、必要な知識を修得し応用できる実践力を身につける。地域の保健、医療、福祉について、現状と課題を認識するとともに、その質を向上させるための看護職の役割とその意義について理解を深める。	
授業科目名	多職種連携活動論	質の高い医療の提供を目的とした他職種・多職種連携によるチーム医療を实践するための、背景の異なる専門職種間でのコミュニケーション能力を修得することを目的とする。多職種が連携して対象者の治療やケアにあたるチーム医療の意義や目的について理解し、多職種の職務内容や役割について事例を通して理解を深める。チーム医療において必要とされるコミュニケーション、情報の共有、チームマネジメントの重要性、また、多職種の中での看護職の役割や機能について理解する。	共同方式

授業科目名	統合実習	統合実習は総合実習Ⅰ、統合実習Ⅱとする。統合実習Ⅰは、これまでに学んだ知識と技術を統合し、看護職者として求められる専門的能力と倫理観に基づく、看護の対象者への看護実践能力を修得することを目的とする。本実習科目を通じて、知識・技術の統合、ケアの受け手との関係構築や、質の高いチーム医療の提供において必要なヒューマンスキルと態度を涵養するとともに、看護専門職としての自己の在り方を省察する能力を身に付ける。実習施設は病院とし、小児、母性、成人急性期、成人慢性期、高齢者、緩和ケア、認知症患者等を対象とする。統合実習Ⅱは「統合実習Ⅱ」（2単位 必修）は、統合実習Ⅰの終了後4年前期（9月初め）に開講する。統合実習Ⅱでは、岐阜県の医療構想の実現と地域包括ケアシステム等の推進のために、岐阜保健大学研究センターにおいて多職種との連携・協働の実現性をめざして行う実習である。〔地域貢献実習〕は、成育支援実習（「母性看護学・小児看護学」）、〔地域生活支援実習〕（「地域・在宅看護学」「精神看護学」）である。「地域貢献実習」（1単位 必修）は、成育支援実習（「母性看護学・小児看護学」）である。	共同方式
授業科目名	癒やしとタッチケア	看護現場において癒しをもたらすケアの方法とその実践について、実際の臨地施設での事例を用いて、科学的見地から学び、将来の看護実践に役立てる。看護の役割と癒しのケアとの関連や、近年その効果が広く注目されているタッチケアの概念やホルモン効果を基盤として、有用な基本手技を学び、看護の対象者に癒やしをもたらすためのタッチケアが実践でき、その効果が考察できる能力を修得する。本科目を通じて、看護職者がその対象者に癒やしをもたらす技法を、実践的に身につける。	共同方式
授業科目名	緩和ケア論	多様化する個人の価値や社会制度の変化をふまえ、看護師個人、多職種チーム、組織、地域で提供できる緩和ケアについて考察する。その上で、緩和ケアにおける看護独自の役割についても、既修得科目で得た知識と経験を活かして探求する。主な内容は次のとおりである。緩和ケアの概要と取り巻く課題、緩和ケアで活用されるアセスメントツール、事例検討、緩和ケアと補完代替療法、臨死期における緩和ケア、エンゼルメイク演習、緩和ケアに関する文献クリティック。また、授業にはグループディスカッションを取り入れ、能動的な学修により理解と考察を深める。	
授業科目名	国際保健医療活動論	国や地域によって政治、経済、文化が異なり、それに伴い国民の生活や健康も違う。開発途上国では多くの乳幼児が感染症で死亡し、また妊産婦の健康問題、エイズ、結核、マラリアの3大感染症等が問題になっている。国際保健医療活動論では、途上国の健康問題に関連する要因をはじめ、WHOなど保健医療分野で支援を行う国際機関、日本の政府開発援助や国際協力機構、民間団体など、組織の役割や活動について学修する。	
授業科目名	看護の統合と実践	本学部で学修した看護の理論と実践の知識について、各看護領域のテーマを掘り下げて包括的かつ統合的に学ぶ科目である。看護領域の各テーマについて、具体的な事例を用いたケーススタディを通じて、看護実践の理解と考察を深める。担当教員は、看護職として必要となる実践的な知識や知見を教授し、看護職としての問題解決能力を養成する。原則として全ての専任教員が担当し、少人数での演習方式でクラス運営を行い、学生の能動的な学修を促す。	共同方式
授業科目名	公衆衛生看護学概論	公衆衛生看護の理念と目的、公衆衛生看護の原則、公衆衛生看護の対象について、地域保健法下における保健師の役割について教授する。また、公衆衛生看護活動のはじまりと歴史的な発展についての理解と住民との協同による地域づくり、ヘルスケアづくりについて教授する。さらには、地域保健、学校保健、産業保健の健康戦略とヘルスプロモーションの促進についても教授する。	
授業科目名	健康教育指導論	公衆衛生看護の基本的な技術として、保健指導、家庭訪問、健康教育、グループ支援と組織化、地域ケアシステムの構築などの活動について、基本となる理論について学ぶ。健康教育は健康課題をテーマにし、集団を対象にした健康教育を立案し、教育媒体を用いて実施し、その健康教育の評価方法について学ぶ。また大学が立地する岐阜県の地域特性を踏まえた健康教育指導活動についても理解する。	共同方式
授業科目名	看護研究Ⅰ	「看護研究Ⅰ」では、大学における研究の定義、研究における基礎的手法、倫理的配慮、文献検索、研究方法の種類、質的研究・量的研究、文献クリティックなど、看護研究に関する基礎的知識を学ぶとともに、4年次の「看護研究Ⅱ」に向け、学生自身が選んだテーマについてそれぞれの探究を深め、授業はその発表や意見交換を中心に行う。少人数での演習形式で授業を行い、原則として全ての専任教員が担当する。	

授業科目名	看護研究Ⅱ	「看護研究Ⅱ」では、「看護研究Ⅰ」で修得した基礎的研究能力を踏まえて、学生一人ひとりが、臨地実習等を含めた4年間の看護の学びから関心のあるテーマを設定し、文献検索・データ収集・分析・考察を進め、研究成果としてまとめる。本科目での研究への取り組みを通じて、卒業後も生涯持続的に学び続ける姿勢も身につける。指導教員による少人数指導を演習形式で行い、原則として全ての専任教員が担当する。	
-------	-------	---	--